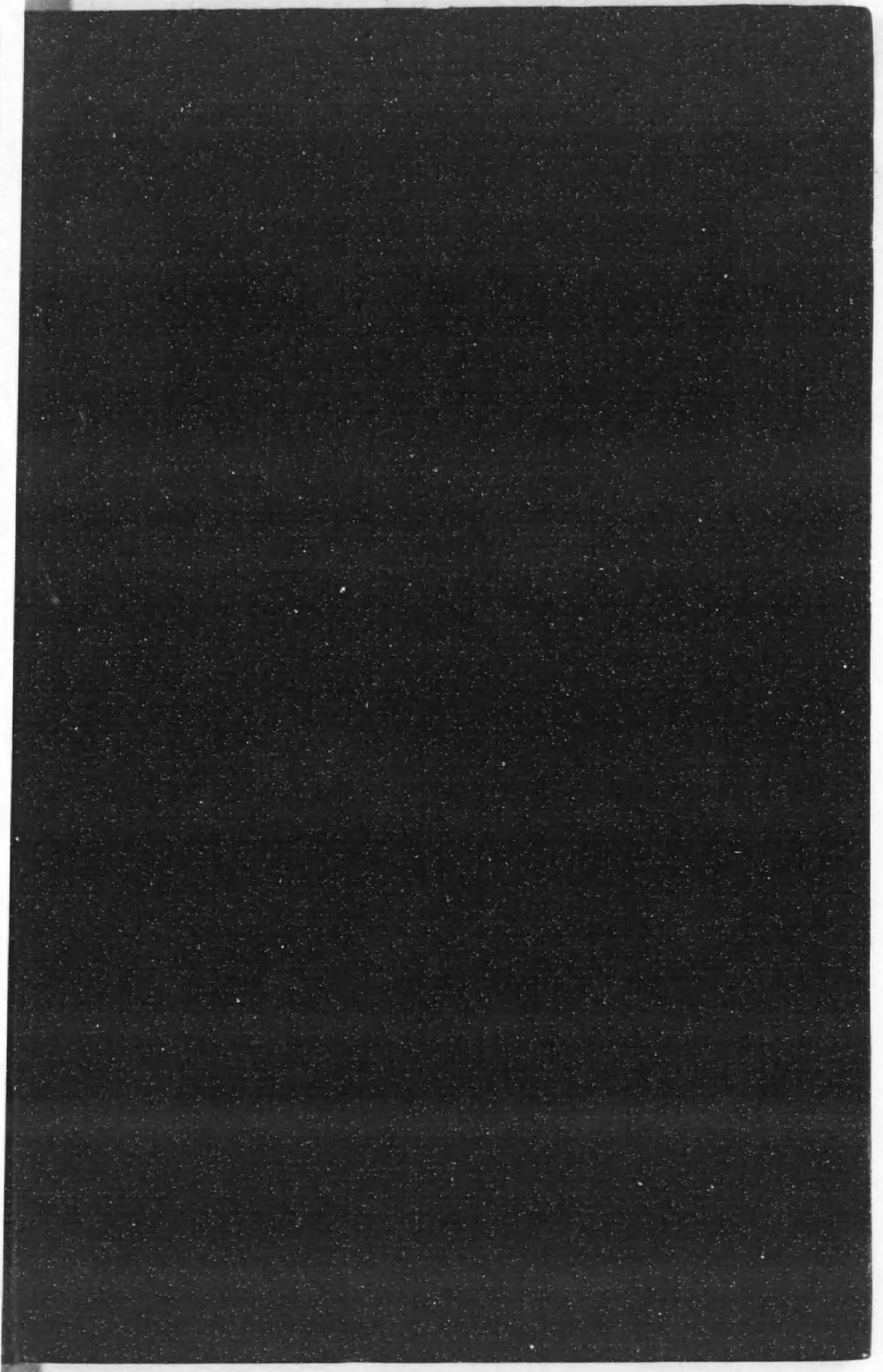
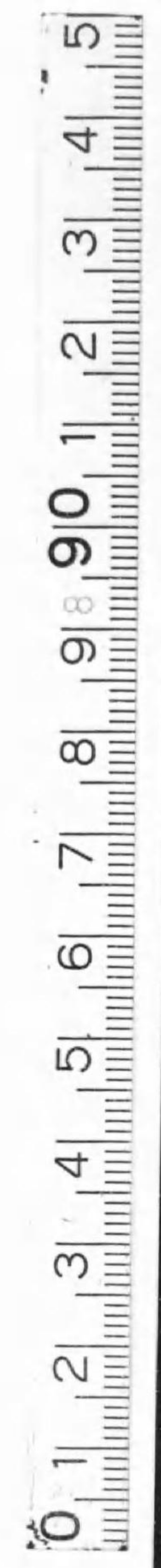




始



誰にも分かる
綴り英語の学の方

特219
189

誰にも分かる

獨習英語の學び方

東京
英語研究會



緒 言

英語は世界語と申されてゐる程、實際廣く使はれてゐます。日本でも英語を知らぬと申しながら、英語とは知らずに英語を使つてゐる人々が無數にあります。これからの社會に活躍される人々は、一通りの英語位は知つて置く必要があらうと思はれます。一通りやつた人々には新聞、雜誌、商品の名前位の英語は、假令一寸聞いただけでは解らぬにしても、辭書を引けばすぐ了解することが出来るし、英語を一通りやつた人には一度で記憶される言葉でも、全然英語と云ふものを習つたことのない人々には、何回聞いてもすぐ忘れてしまうのは事實に徴して明かの様であります。

~~~~~

本書は獨學で一通りの英語を學修しやうとする諸君の自修書として、先づこれなら確かに覺えられると云ふ自信の下に書いたことを著者自ら誇り得ると思つてゐます。而して一般讀者を先づ小學校卒業程度の人に見たてゝ、英語そのものゝ習慣なり、規則なりを、日本語を土臺にして、それに吾人の常識と聯想とを應用して、英語文法を容易に知り得るやう、出来るだけ懇切丁寧に説明を致しました。不遜かは知れませんが、本書を熟讀されたなら、如何なる初學者にも英語の知識が一通りつくことであらうとの信じてゐます。

大正十四年六月十八日

駒込の寓居に於て

著 者 識

## 學 修 の 仕 方

英語の熟達を期するの途は何度も何度も繰返して讀むことより外ありません。そして始めから聲を立て、發音し、耳からも、口からも、眼からも詰り三覺を働かせて覺える方がよい。初學者は發音が完全でないために兎角に眼の一覺だけを働かせて、眼からのみ記憶しやうと努めますが、甚だ不得策なことでありませぬ。遠慮は要りませぬから聲をたて、讀むこと、そして繰返し繰返し練習して、誦讀が出来るまでにならなければいけません。尙ほ解つた英語は英習字見本に眞似て書いて見ることも英語の速達に裨益すること甚大であります。

初學者の最も困難とする所は (1) 英文の構造 (2) 單語の記憶 (3) 發音の仕方、此三點である様に思はれます。英文の構造に就ては本書は最も解り易く、また記憶し易い様に説明してありますし、發音に関しては殆んど全部の單語に解り易い假名を附してあります。單語は一度に澤山記憶しやうとすると困難でありますから、先づ構造に重きを置いて、構造を了解し、卷末に單語表を附してありますから、兩者に始終親しんでゐたなら、記憶すること比較的容易であらうと思ひます。

一字一字解釋して、理屈的に覺えやうとしても到底了解の出来ないもの、例へば <sup>グッド</sup> Good <sup>モーニング</sup> morning. (お早やう)、<sup>ハウス</sup> House <sup>トゥレット</sup> to let (貸家) の如きは、其儘語記する方が得策です。

語學は推理や理屈からでも了解をされるが、大部分語記ですから、諸君各自の性能に適した語記方法を各自考案して學修した方がよい。

## 目 次

### 第 一 編

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| ◎第一章 英語の文字                  | 1  |
| ▲二十六文字                      | 1  |
| ▲二十六文字の印刷字體                 | 2  |
| ▲二十六文字の筆記字體                 | 4  |
| 大文字                         | 4  |
| 小文字                         | 5  |
| 大小文字の英習字                    | 6  |
| ◎第二章 二十六文字の讀み方              | 7  |
| ◎第三章 日本語の四十七文字<br>と英語の二十六文字 | 13 |
| ▲日本語の五十音                    | 14 |
| ◎第四章 羅馬綴り                   | 18 |
| ▲清音の五十音                     | 19 |
| ▲濁音及半濁音                     | 21 |
| ▲拗音                         | 22 |
| ▲撥ねた音                       | 23 |
| ▲促る音                        | 25 |
| ▲長音                         | 27 |
| ▲固有名詞                       | 27 |
| ▲羅馬字綴の文章                    | 29 |

◎第五章 母音と父音 ……31

▲發音符號 ……31

◎第六章 母音子音の發音 ……33

▲母音の發音法 ……33

▲父音の發音法 ……35

第二編 英文の構造 (一) ……42

◎第一章 [文の規則、名詞、冠詞]

「これは……である。」 ……42

「れそは……である。」 ……42

▲練習と應用 ……49

◎第二章 [名詞、動詞、形容詞]

「この……は——である。」 ……50

「その……は——である。」 ……50

▲練習と應用 ……55

◎第三章 [固有名詞、人代名詞]

「(私)は……である。」 ……63

「(あなた)は……である。」 ……63

▲練習と應用 ……68

◎第四章 [人代名詞、男性、女性]

「(彼)は……である。」 ……73

「(彼女)は……である。」 ……73

▲練習と應用 ……77

◎第五章 [所在、存在、存在と所在]

「(此處に)……がある。」 ……78

「(彼處に)……がある。」 ……78

▲練習と應用 ……84

◎第六章 [所有動詞、Have]

「……は——を有つて居る。」 ……88

▲練習と應用 ……88

◎第七章 [人代名詞の所有格]

「……は——の——である。」 ……97

▲練習と應用 ……104

◎第八章 [名詞の複數]

單數と複數 ……105

▲練習と應用 ……111

◎第九章 [複數文と Be Have 動詞]

單數と複數及び其應用 ……109

◎第十章

人代名詞の複數 ……114

◎第十一章 [Be, Have 以外の動詞]

「……は——を——する。」 ……124

◎第十二章 [Be, Have 動詞の否定文]

「……でない。」 ……130

「……を持たない。」 ……130

▲練習と應用 ……133

- ◎第十三章 [問の文 (一)]
  - 問と答 (Be 動詞)..... 136
- ◎第十四章 [問の文 (二)]
  - 問と答 (Have 動詞)..... 145
  - ▲練習と應用..... 147
  - ▲答の簡潔..... 153
- ◎第十五章 [色、形、性質形容詞]
  - 形容詞に就いて(その一)..... 155
- ◎第十六章 [數詞、不定數詞]
  - 形容詞に就て(數詞、不定數量の形容詞)..... 160
- ◎第十七章 [動詞の種類]
  - 動詞に就て(自動詞、他動詞)..... 168
- ◎第十八章 [復習と練習]
  - 初等會話..... 178

### 第三編 英文の構造 (二)

- ◎第一章 [Be, Have動詞以外の問]
  - 「.....しますか」..... 194
  - 「.....します」..... 194
  - 「.....しませんか」..... 194
  - ▲練習と應用..... 200

- ◎第二章 [May, Can, Must]
  - 「.....出来る」(可能).....206
  - 「.....出来ない」(不可能).....206
  - 「.....してよろしい」(許可).....206
  - 「.....していけない」(禁止).....206
  - 「.....せねばならぬ」(心要)..... 206
  - 「.....するに及ばぬ」(不要).....206
  - ▲練習と應用 .....209
- ◎第三章 [Will と Shall]
  - 「.....であらう」.....214
  - 「.....しませう」.....214
  - ▲練習と應用 .....223
- ◎第四章 [動詞の現在、過去]
  - 「.....であつた」.....227
  - 「.....した」.....227
  - 規則動詞——不規則動詞 .....230
  - 動詞の現在と過去 .....230
- ◎第五章 [指圖、依頼、命令]
  - 「.....せよ」.....238
  - 「.....して下さい」.....238
  - 「.....するな」.....238

「……して下さるな」……………238

▲練習と應用……………244

◎第六章 [不定詞、進行形動詞、過去分詞]

「……すること」……………249

「……してゐる」……………249

「……されたる」……………249

▲練習と應用……………260

◎第七章 [What, How, Which 其他]

疑問詞を用いた問ひ方……………264

▲練習と應用……………271

◎第八章 [もつと；最も]

比較の文……………293

原級、比較級、最上級……………297

◎第九章 [私(君、彼)のもの]

所有代名詞に就て……………306

感歎文……………312

第 四 編 日 常 會 話

◎第一章 朝夕の挨拶……………313

◎第二章 初對面の挨拶……………314

◎第三章 食卓にて……………317

◎第四章 呼び掛け方……………320

◎第五章 禮の言ひ方……………322

◎第六章 謝罪の仕方……………324

◎第七章 依頼の仕方……………325

◎第八章 諸種の問答……………326

◎第九章 時刻と時計……………332

◎第十章 日常の動作……………337

◎第十一章 何日——何曜……………341

◎第十二章 四季(春夏秋冬)……………344

◎第十三章 寒暑——冷暖……………348

◎第十四章 天氣のこと……………351

◎第十五章 英文名刺……………355

◎第十六章 手紙の認め方……………358

◎第十七章 端書文の實例

▲端書文の實例……………362

▲端書の書き方見本……………364

▲繪葉書の書き方見本……………367



▲署名の見本 .....369  
◎第十八章 手紙文の實例 .....369  
◎第十九章 揭示文、看板、請取書、其他 ...370

◇附 録

◎單 語 集 .....379

—[目次完]—

誰にも分かる  
獨習英語の學び方



第 一 編

第 一 章

英 語 の 文 字

[二十六文字]

英語を覚えやうとなさる方は、まづ第一番に英語の文字を知らなければなりません。日本の文字にはいろは四十八字の他に、漢字と云ふものがあり、其漢字の数は何千あるのか何萬あるのか私は知りませんが、兎も角大した数があるので、最近に至つてあんまり数が多くなつたので、文部省でこれを制限しよう云ふ事になりまして、制限はしてゐるやうなものです、實際には制限されてゐるやうな、ゐないやうな譯であります。どうしても或程度迄制限しませんが、第一印刷屋が活字を鑄造するのに困つてゐるやうです。殊に迅速を尊ぶ新聞社が最も困難を感じてゐるやうでした。震災の際は一流新聞でも漢字を假名で當てゝゐるものが可なり多いやうです。それは兎も角と致しまして英語を書くには文字が幾つあるかと申しますと、驚く程少數で僅かに二十六文字しかあり

ません。然し此 a(エー)、b(ビー)、c(シー)以下二十六個文字の文字が種々に組合せられて、矢張數萬程の言葉が出来てゐます。

共二十六文字の名稱と読み方とは、以下掲げて置きますが、羅馬字、伊太利字共に印刷字體で、日本語の楷書のやうなものです。四頁に掲げた筆記體は日本語の草書見たやうなものです。印刷體は印刷の際、筆記體は書く時に用ひるものであります。然し印刷體は邦語の楷書のやうなものであると云つたところで、丁寧に書く時には楷書で書くから英語も楷書、即ち印刷體で書くものと思つたら笑はれます。書く時には筆記體を丁寧に書けばよい。

### 二十六文字の印刷體

| 羅馬字 | 伊太利字 | 名稱   |
|-----|------|------|
| a A | a A  | エー   |
| b B | b B  | ビー   |
| c C | c C  | シー   |
| d D | d D  | ディー  |
| e E | e E  | イー   |
| f F | f F  | エフ   |
| g G | g G  | ジー   |
| h H | h H  | エーイチ |

|     |     |       |
|-----|-----|-------|
| i I | i I | アイ    |
| j J | j J | ヂェー   |
| k K | k K | ケー    |
| l L | l L | エル    |
| m M | m M | エム    |
| n N | n N | エヌ    |
| o O | o O | オー    |
| p P | p P | ピー    |
| q Q | q Q | キュー   |
| r R | r R | アール   |
| s S | s S | エス    |
| t T | t T | ティー   |
| u U | u U | ユー    |
| v V | v V | ヴィー   |
| w W | w W | ダブルユー |
| x X | x X | エックス  |
| y Y | y Y | ワイ    |
| z Z | z Z | ゼット   |

印刷體の羅馬字伊太利字共に向つて左が小文字で、右

が大文字又は頭(かしら)文字、或は花文字と申します。

### 二十六文字の筆記字體

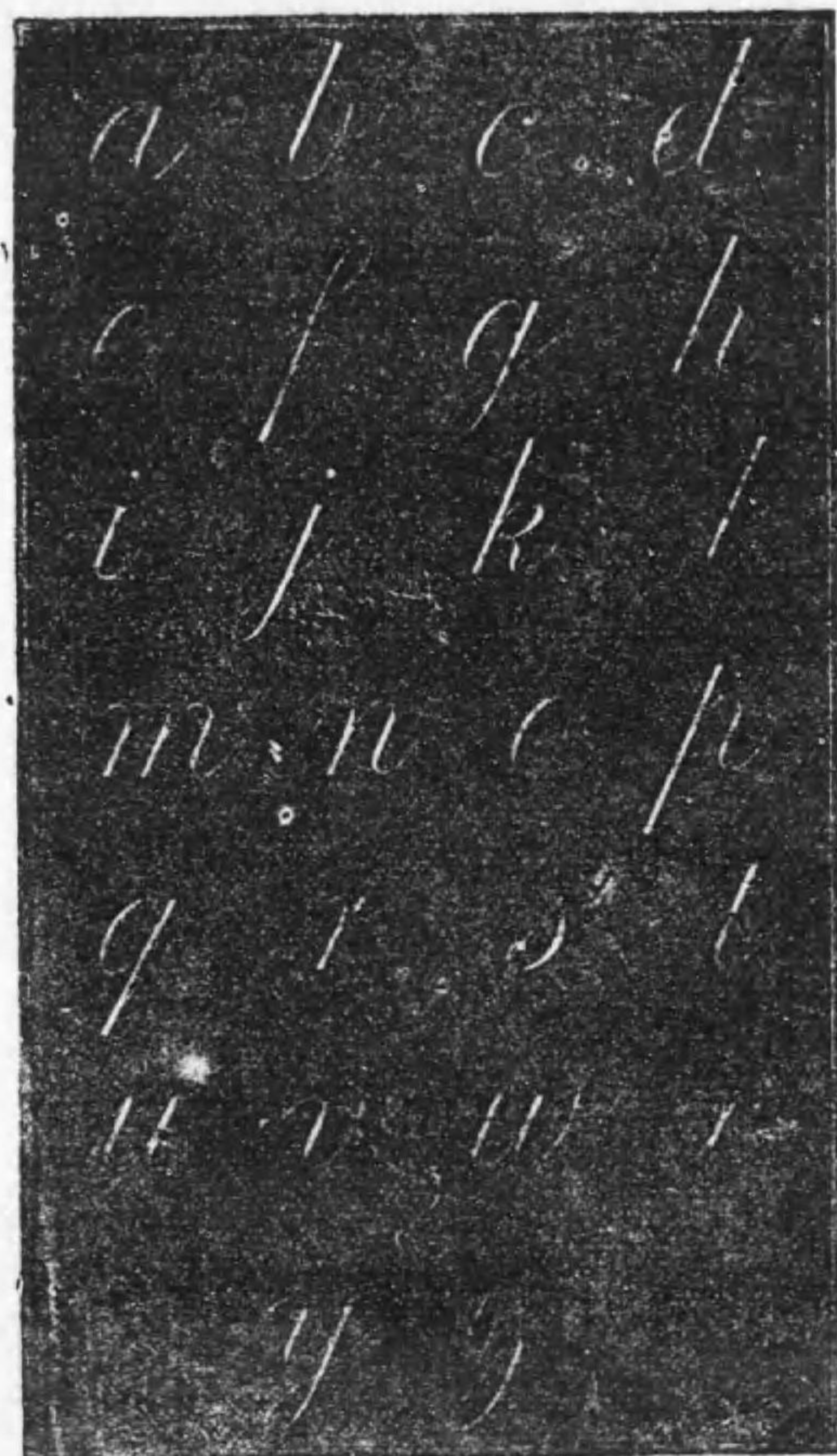
[筆記字體の、大文字並に小文字を寫眞版にしてお目に掛けま  
す。此寫眞はペンで書いたものを寫眞にしたものでありますか  
ら、讀者もこれを手本にして練習した方がよい]

#### [大 文 字]

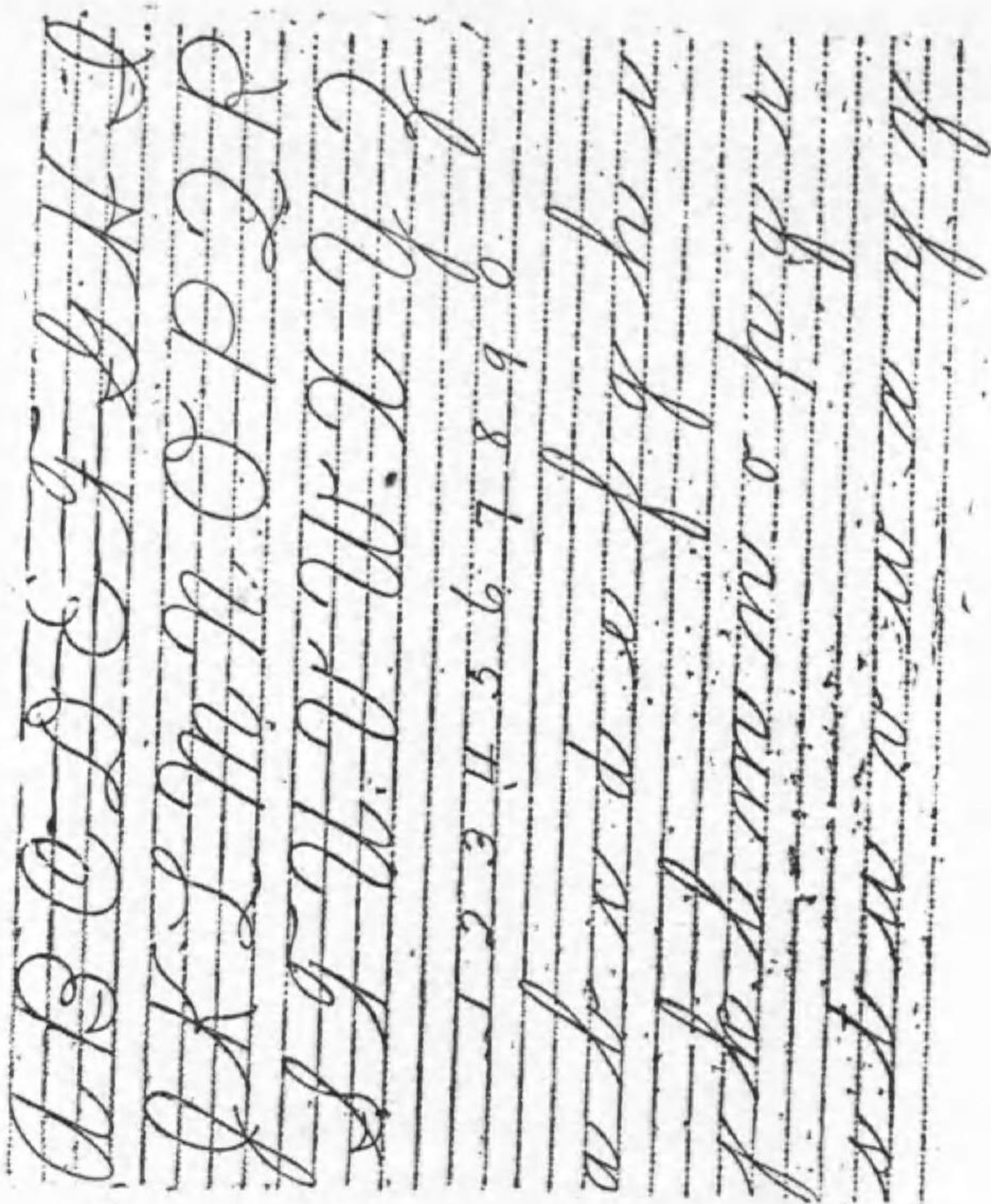


#### [小 文 字]

□前に掲げたものは大文字であります。これは小文字であり  
ます。初學者は初め此寫眞の上に薄い紙をのせて下寫をして書き  
練習されたらよからう。



[英習字練習の見本]



◎[注意]——前の二つも筆記字體でありますから、英習字の練習の見本になるわけですが、初學者は兎角に何でもお手本通りで分違はずに書かねばならぬものと思つて筆記字體の練習を非常に苦しまれる様でありますから、前の二つより稍ぞんざいに書いた見本を重複してお目に掛ける次第であります。英語の習ひ始めに先づ、英習字の練習をなさることをおすゝめ致します

す。兎角に字が書けるやうになりますと自然英語の二十六文字も早く記憶され、また英語なるものに興味が出て参ります。

二十六文字の覚え方

日本語には四十七文字ありますが、英語には二十六文字しかありません。此二十六しかない文字の名前が初學者にはなかゝ覚えられないので、遂に英語の學修を斷める人さへあるのですが、實際誰方にも一寸覚え難いものです、a, b, c, d……此順序に置かれた時には解つたやうでも、順序を更へて、c, a, r, h, z……と云ふやうにされるとさあ解らなくなるものであるが、一時に記憶しようと思ふと骨が折れるが、やつてみるうちには自然と解るものです。然しおでんの煮込みのやうに汁がしみ込むのを待つてゐるやうでも語學の學修は駄目ですから、或程度迄の努力が肝要でせう。それには何よりも先づ筆記體をまねて書いて見る事が上策のやうに思はれます。尤も英習字帳(價一冊十二三錢)を買ひ求めて、それによつて練習するのもよからう。兎も角語學の上達は反復練習が上々の策である事を忘れてはなりません。

第二章

二十六文字の読み方

前の章に二十六文字を掲げまして、其名稱、即ち A はエーイ、B はビーと云ふ様にしてありましたが、本章では其読み方を述べて見ませう。

日本語の假名を振つて置けば何でもないやうに思ひますが、此二十六文字の音の中には日本語のいろは四十八文字で當てるのは一寸困難なものもありますから、其發

音機關の口形とか舌の使ひ方や、舌の置き方等を詳細に述べて見ませう。

**A a** は「エー」と引張つて終りが軽く「イ」になるやう、即ち「エイ」といふやうな風に讀む。只眞直に「エー」と引張つたばかりではいけない。併し又「エ・イ」と、はつきり二音にわけては尙いけない。知らず知らずイがつく様でなければいけないのである。

**B b** は「ビー」と眞直でよろしい。

**C c** はよく「シー」と書くが本當は「シー」ではいけない。「ス」を長く引張るとしまひが「ウー」となるが、「ス」といひかけてしまひが「ウー」にならずに「イー」になるやう、即ち「スイー」といふやうにいへば此文字の讀み方になる。これも「ス・イー」と二音にならぬやう、「スイー」と一音にいへばならぬ。

**D d** は「デ」といひかけて、しまひが「エー」にならないで「イー」になるやうにいふ。即ち「ディー」である。「デー」や「ヂー」にならぬやうデとドの間の音を出す様にしなければいけない。

**E e** は「イー」と引張ればよい。

**F f** は「エフ」に似た讀み方であるが、日本の「フ」とは大に違ふ、日本の「フ」は上下の唇をすばめて其間から出すのだが、英語の F の「フ」は上の前齒で下の唇を抑へ、無理に息を吹き出すやうにする。蠟燭に火は點けて口の前に置いて練習して見るといふ。日本の「フ」を強くいへば火は消えるが、F の「フ」即ち上齒で唇を抑へた音では火は消えぬ。此音を「フ」で表はすとしても日本の「フ」になり易いから、特に「フ」の上に「へ」を冠せて「フヘ」といふ記號を用ゐる事にする。「ウ」フ、ハツと笑を嚙み殺す時の音は此「フ」に近い。即ち F は「エフ」に似て居るが其實それと全く違ふ「エフヘ」といふ特別な讀み方で、即ち「フ」の次のウの音が入らぬ様に注意すればよい。

**G g** は口を尖らして「ヂー」と強くいへばよい。「お爺さん」の「ヂー」では少し弱い。「此爺め」などいふ場合の「ヂー」の様に強くすべきだ。之を「ジー」と書く人もあるが、本書では「ヂー」を用ひる。

**H h** は A の讀み方即ち「エイ」の後へ「チ」をつけて「エイチ」と讀む。但し「エー」と「イ」を別々に「英一」の如く讀んではいけない。「寧ろ「叡知」に近い。それから「チ」を強くしてはいけない、「エイ」を強く、「チ」は軽く添へる。「エーチ」と眞直にしたり、「エッチ」と云つたりしてはいけない。

**I i** は「アイ」「ア」と「イ」をはつきり二音にしてはわるい、つどけて「愛」の様によむ。

**J j** は(ヂー)の「ヂ」に A の読み方「エーイ」をつけたも即ち、「ヂエーイ」と讀む。但し「自衛」の様に二音にならぬ様。「ヂエーイ」を一音にいふのである。G はしまいを「イー」を引張るが、J は「エーイ」と引張るだけの違ひで、頭の方は全く同じである。だから J を表はすにも「ジ」文字を用ひず、「ヂエー」と記すことにする。

**K k** は「ケー」と引張つて終ひを軽く「イ」にする、即ち「ケーイ」である。

**L l** は「エル」に似た読み方だが日本の「ル」とは大に違ふ。此音は F「エフ」の「フ」と同じく、日本にないからむづかしいやうに思はれて居るが、其實極めてわけがない。舌の尖端を上の前歯の裏の齦の所に押しつけた儘動かさずに、舌の両側から息を出すと「ル」とも「ウ」ともつかぬ音が出る、それが「ル」である、即ち L は「エ」といつて直ぐに舌を前歯の裏へ押しつけて「ル」といふ心持に息を出せばよいのである。邦音の「ル」と區別する爲に「ル」といふ記號で表はす。即ち L = エル。此音も「ル」の次にウ音が入らぬ様注意しなければいけない。

**M m** は「エ」といつて、直ぐ唇を閉ちて「ム」といふ心持で鼻から息を抜く、假りに「エム」

と記すが、日本の「ム」はしまひが「ウ」になるが M の「ム」は日本の「ム」の尾から「ウ」を除いたもの、即ち「ム」の頭半分だけの音であることに注意して發音し「ム」の次に「ウ」音が入らぬ様に注意しなければいけない。

**N n** は「エン」或に「エヌ」に似て居るが終りが「ン」でも「ヌ」でもない、「ヌ」の頭の方だけを「エ」につけたやうな読み方と思へばよい。例へば「炎熱」(エンネツ)の「炎」から「熱」へ移りかけて急に止まつてしまつた時の「炎」の音と思へばよい。

**O o** は「オー」と引張つて終ひが軽く「ウ」になる。即ち「オーウ」である。「オー」と眞直に引張つただけではいけない。併し「奥羽」の如くはつきり二音にならぬ様に注意を要する。

**P p** は「ピー」でよろしい。

**Q q** は「九州」の「カ」や「研究」の「究」と同音、即ち「キュー」である。

**R r** は充分口を大きく開いて「アー」といへばよい。米國の人は終ひに軽く「ル」をつけて「アール」といふ。

**S s** は假りて「エス」と記すが、「ス」を引張ると「ウ」になる所だけを取つてしまつたもの、即ち「エ」を強くいつて「ス」は尻ツ切れに軽くつけるものと思ふがよい。此音も「ス」の次に「ウ」の音

が入らぬ様に注意する。

**T t** 「テ」を引張るとしまひが「エー」になるが、「エー」を「イー」にする、即ち「テ」といひかけて「イー」をつけるのである。「ティー」であつて、「テー」や「チー」ではない。

**U u** は唇に力を入れて「ユー」といへはよろしい。

**V v** は F (エフ) の「フ」の濁音に「イー」をつけたものである。「フ」の濁音を「ヴ」で表はせば V は「ヴィー」である。即ち F の時と同じく上の前歯で唇を抑へ「ヴ」といふ心持で息を吹き出し、直後へ「イー」をつけるのである。

**W w** は「ダブルユー」の「ダ」強くいつて、「ブルユー」は軽くつける。さうして「ダ」を特に強く發音する事を示す爲め黒字を用ひ「ダブルユー」と記す事にした。

**X x** は「エックス」と記す事にするが、此「ス」は S の所で述べた「ス」の様に日本の「ス」の尾から「ウ」を除いたものであるから、「エ」を充分強く云つて「クス」は軽く尻ツ切につければ X の読み方になる。此音も「ス」の次に「ウ」の音が入らぬやう。

**Y y** は「ウアイ」の心持で「ワイ」といへばよい。

**Z z** は「ゼツド」と記すが此「ド」は「ド」を引張つて「オ」になる所だけ除いたものであるから、「ゼツ」と強くいつて、「ド」を軽く尻ツ切れにつければ此文字の読み方となる。米人は此文字を「ズイー」と讀む。

**&** は廿六文字の中にはない、一種の代用文字で、「エアンド」と讀む。併し「ド」の音尾の「オ」が響かぬやう。

### 第 三 章

## 日本語の四十七文字 と 英語の二十六文字

前章で二十六文字の名稱の發音の仕方を述べたから、諸君は a, b, c, 二十六文字の發音丈には何不自由がない譯だと思ひます。二十六文字の音を覺えたから、英語二十六文字を組合せて出來た言葉、例へば d, と o, と g を組合せて作つた dog と云ふ言葉の發音も出來るものと思つて dog (ディー、オーウ、ヂー) と發音したならよささうなものだが、これでは一つ々々の文字の名稱の音を表した丈で、言葉としての音ではないのである。即ち英語は文字の名と文字の音とは全く別である。

日本語のいろはは四十七文字は「い」は何處迄行つても「い」「ろ」は何所迄行つても「ろ」である。だから「い」と「ろ」とを組合せた「いろ、色」は飽迄此文字通りの發音であるから、一字一字を發音すれば意味が通ずる。而して「色」の「い」も「いし、石」の「い」も「いわ、岩」の「い」も皆同じ音の「い」である。即ち日本の言葉の読み方は、言葉の成立つて居る文字の読み方と全く同一である。

以上述べた様に日本語の四十七文字は名前も音も同じであるが、英語の二十六文字は名前と音とが異なる譯である。そして音も一字一音かと云ふに、一字で數音を出すものさへある。二十六文字中：—

b d f h j k l

m p q t v z

の十三字は一字一音宛だが、

c g n r s w x y

の八字は一字で二通り音を出すのです。また：—

a e i o u

の五字は二字で三通乃至五通りの音を出す事があります。そこで英語の音を研究せねば言葉の發音が出来ないのでから、それを説明するのが順序ですが、日本語の四十七文字の音と羅馬綴とを述べてからにしませう。

### 日本語の五十音

日本語の アイウエオ から ワキウエヲ 迄の五十音字

の音は、日本語でこそ單純の一音の様にみなされて居る様ですが、實は、アイウエオの五音丈が單純な音で、餘の四十五音は單純の一音ではないのです。其譯はアを何處まで長く引張つてもアであると同様、イを何處まで長く引張つてもイの音である。これと同様ウエオも單純の一音であるが、其他の四十五音は一字二音から成立つて居ます。二音から成立て居ると云ふのは變だと仰しやるかも知れないが、それなら、カサタナハマヤラワの音を長く引張つて御覽なさい、仕舞にはアの音になつてしまふ。同様にキシチニヒミイリキを長く引張つて御覽仕舞にはイの音になつてしまふ。斯様な譯で、アイウエオ五音を除いた他の四十五音は一字二音、即ち頭と尻とに一音宛の音がある譯です。此五音即ちアイウエオは他の四十五音の基をなすから、之を母音と名づけ、他の四十五字の頭につく音を假に父音と名づけるのです。而して母音と父音とが合して出來た音を熟音と名づけます。日本語には、此頭丈の音がないから書き表はす事が出来ませんが、英字にはある。こゝで一々附記して置くが、斯様に英字には頭丈の音があり、日本語にはないから、英語の發音を日本語の假名で表はすのには根本に於て不可能、また假りに附けたりしても不合理になるのです、此缺陥を補ふために萬國音標文字と云ふのが考案され、一字一音主義の音標文字を使用して、發音を表はす事になつたのであります。



英語で其頭丈の音と云ふのは、例へば K と云ふ文字の名前は先程も申した通り「ケーイ」でめるが、その表はす音は カキクケコ の頭丈の音、即ち カ 行の父音であります。カ の尻から ア の韻を取除き、キ の尻から イ を除き、同様にク、ケ、コ から ウ、エ、オの韻を取除いた音です。今五十音の カ 音から ア の韻を取除いた音を表はす文字を假りに カ の下に (。) を附けて カとしたならば：—

$$K = \underset{\cdot}{カ}$$

である譯であります。これを逆に：—

$$カ = \underset{\cdot}{カ} + \underset{\cdot}{ア}$$

であります。而して カ が K ですから：—

$$K (= \underset{\cdot}{カ}) + \underset{\cdot}{ア} = \underset{\cdot}{カ}$$

$$K (= \underset{\cdot}{カ}) + \underset{\cdot}{イ} = \underset{\cdot}{キ}$$

$$K (= \underset{\cdot}{カ}) + \underset{\cdot}{ウ} = \underset{\cdot}{ク}$$

$$K (= \underset{\cdot}{カ}) + \underset{\cdot}{エ} = \underset{\cdot}{ケ}$$

$$K (= \underset{\cdot}{カ}) + \underset{\cdot}{オ} = \underset{\cdot}{コ}$$

で表はす事が出来る。而して英字の a は幾通りもの音を出す事は前に述べ、又、其音は後章に於て詳しく説明しますが、日本語の ア は英字で表はす時には a で表はし イ は i, ウは u, エは e, オは o で表はすのが約束の様に普通見做されて居るのであります。然し斯う云ふ約束だからと云つて a, i, u, e, o を直ちに ア、イ、ウ、エ、オ と發音する事はいけない。日本語を英

字で表はす時に限つて定められた約束であります。そこで前の五音を書き換へて見ますと：—

$$K + a = \underset{\cdot}{カ} = \underset{\cdot}{カ}$$

$$K + i = \underset{\cdot}{キ} = \underset{\cdot}{キ}$$

$$K + u = \underset{\cdot}{ク} = \underset{\cdot}{ク}$$

$$K + e = \underset{\cdot}{ケ} = \underset{\cdot}{ケ}$$

$$K + o = \underset{\cdot}{コ} = \underset{\cdot}{コ}$$

と斯うなるのである。これが羅馬綴の基礎となり、英語の發音の根本となるのであるから、熟讀して呑み込んで貰ひ度い。

之と同様に濁音の場合を g の文字の名前はゲーだが其表はす音は ガ行父音、即ち ガギグゲゴの尻から アイウエオ の韻を取り除いた頭だけの音を表はすものであります。今其頭丈の音を假りに ガ とすれば：—

$$ガ = \underset{\cdot}{ガ} + \underset{\cdot}{ア}$$

$$\underset{\cdot}{ガ} = g$$

而して ア を a であてる約束とすれば：—

$$ガ = \underset{\cdot}{ガ} + \underset{\cdot}{ア} = g + a = ga$$

$$ギ = \underset{\cdot}{ガ} + \underset{\cdot}{イ} = g + i = gi$$

$$グ = \underset{\cdot}{ガ} + \underset{\cdot}{ウ} = g + u = gu$$

$$ゲ = \underset{\cdot}{ガ} + \underset{\cdot}{エ} = g + e = ge$$

$$ゴ = \underset{\cdot}{ガ} + \underset{\cdot}{オ} = g + o = go$$

これと同様に S と云ふ文字は サ行父音(サシスセソ)の頭だけの音を表はし、t, n, h, m, y, r, w がそれぞ

れタ、ナ、ハ、マ、ヤ、ラ、ワ 各行の父音、即ち頭丈の音を表はすのであります。

以上の説明によつて羅馬綴の基礎となるものが解つた事と思ひますから、今此約束に従つて邦語の ア、イ、ウ、エ、オ五十音を表にして見ると次章の様になります。

#### 第 四 章

### 羅 馬 綴 り

前章で述べた通り、英語の音を知るには羅馬綴を一通り研究して置く必要があります。羅馬綴とはどんな綴りかと云ふに、諸君は小學校で多少教はつた事と思ふが例へば「山田太郎」と云ふ名なら“Yamada Taro”と綴る様に日本語の五十音字を先に述べた二十六文字で綴つたものであてはめるのであります。羅馬綴と云ふ事の起りは此二十六文字を最初羅馬の國で使用し、其後英國でも佛國でも此字を使用する様になつたが、矢張文字の起りは羅馬であつたために、羅馬綴りと云ふ事になつてゐます。日本も此世界共通とも云ふ程に廣く使はれてゐる羅馬字を使用しようと思ふ運動が可なり盛んな事は諸君も十分御承知の事と思ふ。急速にはさうする事は到底不能の事だらうが、追つては此綴字を使用して吾人の思想を發表する迄に至らなくとも、可なり廣く使はれるであ

らうと思ふし、また邦字の下に羅馬字を使用する習慣が流行して居ますから一通り習熟してゐた方が便利であらう。それはさて置き羅馬綴りの事を以下述べて見ませう。

本書に述べる羅馬綴は、現在文部省で出してゐる小學英語讀本に採用してゐました流義を採用ませう。〔因に羅馬綴の流義は大同小異ではあるが幾分違つた流義がある事を豫め御承知置きを願ひ度い〕

### 清 音 の 五 十 音

| 母<br>父 | ア a  | イ i          | ウ u          | エ e    | オ o    |
|--------|------|--------------|--------------|--------|--------|
| k      | カ ka | キ ki         | ク ku         | ケ ke   | コ ko   |
| s      | サ sa | シ <u>shi</u> | ス su         | セ se   | ソ so   |
| t      | タ ta | チ <u>chi</u> | ツ <u>tsu</u> | テ te   | ト to   |
| n      | ナ na | ニ ni         | ヌ nu         | ネ ne   | ノ no   |
| h      | ハ ha | ヒ hi         | フ <u>fu</u>  | ヘ he   | ホ ho   |
| m      | マ ma | ミ mi         | ム mu         | メ me   | モ mo   |
| y      | ヤ ya | イ (yi)       | ユ yu         | エ (ye) | ヨ yo   |
| r      | ラ ra | リ ri         | ル ru         | レ re   | ロ ro   |
| w      | ワ wa | ヰ (wi)       | ウ (wu)       | ヱ (we) | ヲ (wo) |

【注意】 以上のシは si を用ひずに shi を用ふる。その譯は si は スイ となつて シ とならぬからです。これと同様に チ、ツ は ti, tu を用ひずに chi, tsu を

用ひる。ti は ティ となり、tu は トウ となるからであります。

また フ は hu とするのだが、fu の方が日本語の フ に近いと云ふのでこれを用ひる事になつてゐます。

括弧を附してある yi, wi, wo, we は普通使はぬ綴りである。其譯は yi は ア 行の i に、ye は ア 行の e に同じ發音だから、各其文字を當てる事になつて居り、また wi, wu, we は本來 ヴィ、ウエの如く發音すべきだが、通例 イ、エ、と同じ發音をするから i, e, o を以つて當てることにしてあります。

### 實地練習

以上五十音綴の字で、清音の羅馬綴りが出来るのであるから、少し練習して見よう。其前に一寸注意して置きたい事は羅馬綴では文字で綴るのでなく、音で綴るのである。例へば、「家」の「いへ」は文字本意で綴れば ihe であるが、音で綴れば ie となり、邦語「家」の音合致するのである。繰返して云ふが 羅馬綴りは音で綴るのである事を忘れ給ふな。

|                            |             |
|----------------------------|-------------|
| 米 kome                     | 栗 awa       |
| 魚(うを) uo                   | 家(いへ) ie    |
| 朝日 asahi                   | 川上 kawakami |
| 樹下道 konoshita michi        |             |
| 木下芳太郎 Kinoshita Yoshitaro. |             |

遙か彼方の波の上に舟を浮かしてゐる。

Haruka kanata no nami no ue ni fune-o ukashite iru.

〔以上は日本文として不完全なのは、濁音を使ふまいとしたからであります。寛容されたし〕

### 濁音及半濁音

| 母<br>父 | a    | i    | u    | e    | o    |
|--------|------|------|------|------|------|
| g      | ガ ga | ギ gi | グ gu | ゲ ge | ゴ go |
| z      | ザ za | ジ ji | ズ zu | ゼ ze | ゾ zo |
| d      | ダ da | ヂ ji | ヅ zu | デ de | ド do |
| b      | バ ba | ビ bi | ブ bu | ベ be | ボ bo |
| p      | パ pa | ピ pi | プ pu | ペ pe | ポ po |

【注意】 以上の濁音の中 ジ、ヅ は普通 チ、ズ と區別なしに發音されるから、チ、ズ と同じ ji, zu で表はす事になつてゐる。前章でも申した通り、半濁音と云ふのは英語の音では無意味な區別であるが、羅馬綴の場合矢張區別して使用されて居る様であるから、便宜上半濁音を掲げて置くことにしました。

### 實地練習

以上の濁音と半濁音とで實地練習して見よう。

|             |         |
|-------------|---------|
| 大佛 daibutsu | 義理 giri |
| 學士 gakushi  | 詐欺 sagi |

|             |            |
|-------------|------------|
| 葉書 hagaki   | 愚痴 guchi   |
| 火箸 hibashi  | 家具 kagu    |
| 字引 jibiki   | 劇 geki     |
| 地圖 chizu    | 蔭 gage     |
| 脱税 datsuzei | 午後 gogo    |
| 駄馬 daba     | 侮蔑 bubetsu |

【注意】 日本語で hagaki (ハガキ) のガと gakushi (ガクシ) のガ とでは音が違ふが、羅馬字では同じ ga で綴る。同様に「義理」即ち「ギリ」のギと「詐欺」サギのギとで音が違ふが羅馬綴では同一であります。其他 グ、ゲ、ゴ 皆音で綴ります。

### 拗 音

拗音とは以下示す様に キュ、シヨ、チュ、の様な音の稱である。

| 母<br>父 | a                  | i     | u                  | e                  | o                  |
|--------|--------------------|-------|--------------------|--------------------|--------------------|
| ky     | キ <sub>+</sub> kya |       | キ <sub>ユ</sub> kyu |                    | キ <sub>。</sub> kyo |
| gy     | ギ <sub>+</sub> gya |       | ギ <sub>ユ</sub> gyu |                    | ギ <sub>。</sub> gyo |
| sh     | シ <sub>+</sub> sha | シ shi | シ <sub>ユ</sub> shu | シ <sub>エ</sub> she | シ <sub>。</sub> sho |
| j      | ジ <sub>+</sub> ja  | ジ ji  | ジ <sub>ユ</sub> ju  | ジ <sub>エ</sub> je  | ジ <sub>。</sub> jo  |
| ch     | チ <sub>+</sub> cha | チ chi | チ <sub>ユ</sub> chu | チ <sub>エ</sub> che | チ <sub>。</sub> cho |
| ny     | ニ <sub>+</sub> nya |       | ニ <sub>ユ</sub> nyu |                    | ニ <sub>。</sub> nyo |

|    |                    |                    |                    |
|----|--------------------|--------------------|--------------------|
| hy | ヒ <sub>+</sub> hya | ヒ <sub>ユ</sub> hyu | ヒ <sub>。</sub> hyo |
| by | ビ <sub>+</sub> bya | ビ <sub>ユ</sub> byu | ビ <sub>。</sub> byo |
| py | ピ <sub>+</sub> pya | ピ <sub>ユ</sub> pyu | ピ <sub>。</sub> pyo |
| my | ミ <sub>+</sub> mya | ミ <sub>ユ</sub> myu | ミ <sub>。</sub> myo |
| ry | リ <sub>+</sub> rya | リ <sub>ユ</sub> ryu | リ <sub>。</sub> ryo |
| kw | ク <sub>+</sub> kwa |                    |                    |
| gw | グ <sub>+</sub> gwa |                    |                    |

【注意】 チヤ、チュ、チヨ は ジュ、ジヨ に同じ。

### 實 地 練 習

|             |               |
|-------------|---------------|
| 急須 kyusu    | 入隊 nyutai     |
| 強雨 kyou     | 良好 ryoko      |
| 行列 gyoretsu | 流義 ryugi      |
| 牛肉 gyuniku  | 略式 ryakushiki |
| 漂流 hyoryu   | 飛客 hikyaku    |
| 電車 densha   | 英詩 eishi      |
| 五百 gohyaku  | 脈 myaku       |
| 茶目 chame    | 病氣 byoki      |

羅馬綴を早く記憶しようと思ふなら、一通りの綴り方を覚えたら、矢鱈に綴つて見るがよい。尙ほ羅馬綴りなら誰にも出来ると思ふのは間違である。殊に羅馬綴の文章を書く事などは容易でない。

### 撥 ね た 音

撥ねた音とは例へば直ぐ前の拗音の實地練習で擧げた

例の 電車=densha=デンシヤのシンの様なものである。この撥ねた音を表すには n を以てする。然し若し其撥ねた音が m, p, b の前に限つて n を m にすることになつてゐる。例へば：—

- 賛成 は sansei [でよいが]
- 散歩 は sampo [p の前だから]
- 按摩 は amma [m の前だから]
- 門番 は momban [b の前だから]

撥ねた n の次に a, i, u, o, e 或は y で始まる文字が来た時は、何等かの符號を附けて置かねば飛んでもない間違をする事がある。今其實例を擧げて見よう。東京府下の院線の停留場に「新大久保、シンオークボ」と云ふのがある。此驛名の下に shinokubo と書いてある。東京附近の人々は此羅馬綴を誰一人「シンオークボ」と發音せぬ人はないが、或る外國人が此羅馬綴りを見て、「シノクボ、死の窪」と發音して車掌君に頻りに「死の窪々々」と尋ねてゐるが車掌君「そんな停留場はありません」と云ふてゐた。外人不審顔をしてゐました。私が英字新聞を手にしてゐたのに早速眼をつけて質問して來ました。よく聞いて見ますと「新大久保」のことであつた。成程 shinokubo では「新大久保」ともなり「死の窪」ともなるのである。此事を當局者に注意してやつた所、其後書換へて今では Sin-okubo となつて居る。斯うした間違を避けるために shin-okubo と シンの次にハイフ

ン(-) を 入るのであります。このハイフン(-) を入れなければ誤文であると云ふのではないが、混同を避けるためには入れた方がよい場合が往々あるのです。

例：—

- { 新案 shin-an
- { 指南 shinan
- { 新大久保 Shin-okubo
- { 死の窪 sainokubo
- { 金員 kin-en
- { 記念 kinen

但し n の前に a, i, u, e, o があると云ふのはすぐ前に撥ねた音がある場合のことで、同じ n や m でも撥ねないの場合にはハイフン(-) を入れる必要はない。

例：—

- { 婚約 kon-yaku
- { 蒟蒻 konnyaku
- { 檢印 ken-in
- { 兼任 kennin
- { 金圓 kin-en
- { 近年 kinnen

### 促 る 音

促まると云ふのは邦語の學校(がっこう)とか喫茶(きつちや)と云ふ様に つ を小さくして表はす音の事であ

ります。この音を羅馬字で表はす場合には四通りの規則があります。

(1) k の前で促まる場合には k を添へる。

例：—

學校 g**k**ko

日記 ni**k**ki

節儉 se**k**ken

(2) s, sh の前で促まる場合には s を添へる。

例：—

合戦 k**s**sen

達する ta**s**suru

骨子 ko**s**shi

雑誌 za**s**shi

(3) t, ch の前で促る場合には t を添へる。

例：—

以て mo**t**te

勝手 ka**t**te

發展 la**t**ten

坊ち**t**ん botchan

喫茶 ki**t**cha

(4) p の前で促る場合には p を添へる。

例：—

日本 Ni**p**pon

札幌 sa**p**pro

喇叭 raypa

### 長 音

長音とは引張る音で、例へば同窓(ドーソー)と云ふ様に「おー；うー」と引張る音です。これを羅馬字で表はす場合には o u の頭の上に (-) の線を引くのが普通であります。(但し附けないでも誤りでない) 例：—

同窓 dōsō

日中 nitshū

太郎 Tarō

龍宮 ruyō

### 固 有 名 詞

固有名詞とは、地名、人名、家號、其他物固有の名前で、例へば 山田太郎 とか、上野公園、東京、大阪、紀の國屋、三井物産株式會社と云つた様な物固有の名を云ふのであります。斯かる固有名詞を綴る場合には最初の一字だけを大文字で書くのです。

例：—

神田 Kanda

日本橋 Nihonbashi

錦町 Nishikiacho

東榮堂 Tsei-do

人名を羅馬綴りで表はす場合は通例名を先にして姓を後にします。例へば：—

澁谷謙祐 Kensuke Shibuya.

石川綾子 Ayako Ishikawa.

人名の名の方を略して頭字一字丈にする場合もある。

例へば：—

内海義一 G. Uchimi.

澁谷佐和子 S. Shibuya.

澁谷新一 S. Shibuya.

澁谷新一も澁谷佐和子も共に S. Shibuya では羅馬字の名刺では男女の區別がない。此混同を避けるため〔正式の場合に使ふ名刺には必ず〕男の名に Mr. (ミス) 女の名には未婚婦人なら Miss (ミス)、既婚婦人なら Mrs. (ミセス) と云ふ語を冠するのであります。

例：—

Miss A. Ishikawa.

Mr. K. Shibuya.

Mrs. S. Shibuya.

而して、これは後から説明するが、Mr. や Mrs. は、共に略字であるからピリオット (.) と云ふ點を打つて略した印につけて置く。これと同様に、Kensuke を略した K. に、Sawa を略した S. に、Ayako を略した A. にした時にも矢張ピリオットをつけて置くのです。

地名も羅馬字で表はす場合には日本語の逆にするのである。而して其區切々々にコンマ (,) を打つて行き最後にピリオット (.) を打つのです。

例：—

東京市日本橋區數寄屋町

Sukiyacho, Nihombashi-ku, Tokyo.

所が「神田區錦町一丁目十九番地」など云ふ場合の一丁目をどう綴るかに迷ふ人が澤山ある様ですが、これは英國流に綴れば：—

19, Nishikicho 1st-chome, Kandaku, Tokyo.

と綴るのである。即ち錦町一丁目を一つの區切にするのです。・米國流にすれば十九番地を No. 19 として comma を入れません。

### 羅馬字綴の文章

以上羅馬字で單語の綴り方の一通りを述べ、また諸君も十分了解になつた事と思ふから、以下少しく文章を羅馬字で綴る場合の諸注意を述べ、合せて羅馬字綴の文章の實例を擧げて置かう。

(1) 日本文を書く場合には文字と文字との間隔を置かなくてもよいが羅馬綴りの文章では必ず一語一語の間に間隔をあけて置かねばなりせまん。

(2) 文の初めの一文字は必ず大文字で書き、日本文の句讀點 (、) の代りにコンマ (,) を打ち、文の結尾に日本文は (。) を打つが羅馬字文にあつてはピリオットを打つ。日本文では句讀點がよしなくとも意味が解るが、羅馬字綴りの文章では (,) や (.) は打たねばならぬ。

例:—

{ 花より團子  
 { Hana yori dango.  
 { 大日本帝國萬歲!  
 { Dai Nippon Teikoku Eanzai!  
 { 古池や蛙飛込む水の音。  
 { Furuike ya kawazu tobikomū mizu no oto.  
 { 奈良の春七堂伽藍八重櫻。  
 { Nara no haru shichido garan yae-zakura

雲もなき鏡と見えてすむ月を  
 ももたび磨く沖津白波。

Kumo mo naki  
 kagami to miyete  
 sumu tsuki wo  
 momotabi migaku  
 okitsu shiranani.

### 要 旨

A, B, C, 以下に二十六文字一つ一つを Letter (レタ) といふのです。これを總括して Alphabets (アルファベツ) と云ふのであります。

| (日 語)                             | (英 語)                               |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| ▲アイウエオは母音を表す。カ行以下此母音の一つを含まれざるはなし。 | ▲a e i o u は母音を表す如何なる語も母音を含まざるものなし。 |

|                                   |                                                |
|-----------------------------------|------------------------------------------------|
| ▲カ行以下の假名は皆熟音を表す。一つの假名が一語を成すこと屢あり。 | ▲Letter (文字) は何れも素音を表す。一つの letter が一語を成すこと稀なり。 |
| ▲片假名は其名稱と音と常に相同じ。                 | ▲Letter は其名稱と音と異なる事多し。                         |

## 第 五 章

### 母 音 と 父 音

前の章で a e i o u を邦語の アイウエオ と読んで羅馬綴を作りましたが、これは羅馬綴の便宜のために作った謂はゞ約束でありまして、羅馬綴の a e i o u 英語の文字となつて用ゆる a e i o u の表はす音とは別である事を忘はれてはいけません。兎角初學者此羅馬綴りの約束と英語とを混用して money (マニー)「錢」の事を (モネー) など發音したがるのであります。

日本語の母音は アイウエオの五つしかない。英語の母音の文字は a e i o u の五個しかないが、音の上からは此五個の a e i o u は二十以上の音を表はすのです。一語が數音を出すので符號をつけて區別させます。

### 發 音 符 號

- 1 「一」.....長音符
- 2 「ゝ」.....短音符
- 4 「ハ」.....抑揚符



- 4 「…」……………二重點
- 5 「・」……………短 點
- 6 「～」……………波動線

以上六通りの符號をつけて：—

- ā (エーイ)      ǎ (エフ)
- â (エア)        ä (アー)
- à (ア)            ã (オー)
- ą (オ)

と云ふ様に a 丈で七通りの音を表してゐます。初めから斯座事を細かに説明してゐると、英語と云ふものは七面倒臭くて到底覚えられない様に思はれて來ますから、省略して、其時々發音の仕方を講義して行く事に致します。實際、假令詳細に講義しても、一度には到底記憶の出来るものではない。吾々が英語を學んだ實際の経験からしても明瞭であります。

兎もあれ a e i o u の五字は母音を表はすからして母音字と稱してゐます。而して他の二十一文字、即ち b c d f g h j k l m n p q r s t v w x y z は羅馬綴りの章で述べた通り、カサタナハマヤラワ各行の頭丈の音、即 [カ=カ+ア=k+a] であるからこれを父音と稱してゐます。尤も此中 g z d b p は ガザダバパ行の頭丈の音 即 [ガ=ガ+ア=g+a] であるから此行の父音と稱してゐるのです。

### 第 六 章

## 母音・子音の發音

[注意：一初學者は、若しこの章の講義が解らなかつたら、飛ばして次の章をお読み下されて、發音の解らなくなつた時、又は或程迄進んでから何回も繰返してお読みになれば會得される事と思ひます。兎もあれ一通りの講義丈はして置ませう]

### 母 音 の 發 音 法

ē = i 齒を嚙み合せないで、出来るだけ口腔を扁平にして口角を左右に引く様にして、強く「イー」と發音すればよい。詰り“E”の文字の讀み方と同一である。例：—hē (ヒー)「彼」。

î = y は「イ」である。「イー」と發音せぬ様。詰り“E”の短音である。例：—pin (ピン)「針」。

ā = e 「エーイ」で“a”の讀み方と同一です。「エーイ」と發音せぬ様御注意。例：—cāke (ケイク)「菓子」。

ě 「エ」である。だから ā の發音を短く云へばよい譯。例：—nēt (ネット)「網」。

â = ê 此二つは r の伴ふ文字で、即ち hāre (ヘア)「兎」の如し。此字の發音は ě の次

に軽く「ア」を付けて「ユア」と發音すればよい。

$\ddot{a}$  この發音は日本人には少々困難である。この音は、舌の端を下顎に密着し稍後方へ引く様にして、下顎は全體を少し後ろの方へ引きつけ、口角を左右に緊張して發音しなければ出ない音である。強いて日本語を當てれば「エ」の軽いのに「ア」を付けた様な即ち「エッ」に近い音である。例：—hät (ヘアット)「帽子」。(ハツト)

$\dot{a}$  これは甚だ樂で口を大きく開て、「アー」と發音すればよい。例：—cārd (カード)「カード」。

$\acute{a}$  これも口を大きく開けて a (アー) と發音する最初の音 (ア) と發音すればよい。例：—māsk (マスク)「假面」。

$\underset{a}{a} = \acute{o}$  これを指を一本齒で嚙まぬ位に入れ置き舌を引込め「オー」と發音すればよい。例：—ball (ボール)「球」。l を「る」として「ポーる」

$\underset{a}{a} = \ddot{o}$  これは  $\underset{a}{a} = \acute{o}$  の單音で、「オ」で、即ち a や  $\acute{o}$  の最初に出る音である。例：—bōx (ボックス)「箱」。

$\ddot{o} = ow$  これは  $\ddot{o}$  の次に「ウ」を加へた音での読み方と全く同一と心得て居ればよい。例：—rōse (ローズ)「ばら」。

$\ddot{e} = \acute{i} = \acute{u}$  これを指一本漸く齒の間に入る位に口を開け「ア〜」と發音すればよい。であるから次に r の附く發音である。例：—hēr (ハー)「彼女の」。

$\ddot{u} = \acute{o}$   $\acute{u}$  の短音と見てよい。「ア」に極く似よつた音であるが、少し違ふ。この音を出すには指一本入る位に口を開けて出す音である。例：—cup (カップ)「茶碗」。

$\underset{u}{u} = \acute{o} = \ddot{oo}$  口を著しく突らして「ウー」と發音すればよい。例：—fōod (フード)「食物」。

$\underset{u}{u} = \acute{o} = \ddot{oo}$   $\acute{u}$  の短音で「ウ」に略ほ相當す。例：—fōot (フット)「足」。

$\ddot{u}$  は u の文字の読み方と同一である。これは母音でないが、便宜上こゝに掲げて置く。

$\acute{i}$  は「アイ」と「ア」を強く、「イ」を弱く發音すればよい。例：—kit (カイト)「凧」。

$oi$  は「オイ」と「オ」を強く、「イ」を弱く發音すればよい。例—boil. (ボイル)「煮える」

$ou = ow$  は「アウ」と「ア」を強く、「ウ」を弱く、發音すればよい。例：—out, how.

### 父音の發音

次の二十五個を父音と稱して居る。

p b t d k g f v th th s s̄ sh  
ʃh m n ng l r y wk w h ck j

〔有聲音とは聲を發する音で、無聲音とは息丈の音、例へば下齒で下唇を軽く押へて「フー」と出した音は無聲音であります〕。

**tとd** 舌の先を前齒の根本に押しあてゝ置き、そして喉から息を強く出し、舌を齒の根本から離すと同時に無聲音が t の音で、同じ様にして聲を出せば d の音である。詰り t の濁音が d である。要は t は日本語の「ト」から「オ」を矢つた音で、d は日本語の「ド」から「オ」を去つた音である。綠々も「トオ」「ドオ」と發音しない様に。

例：—

{ bat (ベ<sup>ッ</sup>ト) (バット)      { bad (ベ<sup>ッ</sup>ド) (バッド)  
  pot (ポ<sup>ッ</sup>ト)                    pad (パ<sup>ッ</sup>ド) (パッド)

**pとb** 始めに上下兩唇をしつかり閉ち置き、次に急に唇を離すと同時に、單に呼吸のみ出した無聲音が p で、發聲機關を同じ状態にして置いて、聲を出せば、即ち有聲音が b の音である。詰り p の濁音が b である。此の音が日本語の「プ」や「ブ」にならぬ様、語尾に「ウ」を付けぬのが肝心である。

例：—

{ dip (ディ<sup>ッ</sup>プ)                    { tub (タ<sup>ッ</sup>プ)  
  tip (ティ<sup>ッ</sup>プ)                    bob (ボ<sup>ッ</sup>プ)

**kとg** k と g とは同質音で、k は無聲音、g は有聲音である。舌の根本を上顎の後に押し

あてゝ息の通らぬ様にして置き、後強く息を出して舌の根を顎から離して出た無聲音が k で、有聲音が g である。k g は「ク」「グ」となり勝ちだから間違ぬ様。詰り「ク」「グ」から「ウ」を引き去つた残りの音である。

例：—

{ kick (キ<sup>ッ</sup>ク)                    { dig (ディ<sup>ッ</sup>グ)  
  dock (ド<sup>ッ</sup>ク)                    dog (ド<sup>ッ</sup>グ)

**fとv** 上齒で下唇を噛み其間から息を洩らして出た無聲音が f で、同じ口附きで聲を出した有聲音が v である。v は f の有聲音濁音である。日本語の「フ」は兩唇から出る音であるが、f は齒と唇に妨げられ、僅かに齒の間から若くは前齒の兩端から出る音である。この f と v の音は日本語にはない音で、本書では「フ、ヴ」として置くが、f はフの尾からウを抜き去り、v はヴの尾からウを引き去つた音である。

例：—

{ fat (ファ<sup>ッ</sup>ト)                    { five (ファイ<sup>ヴ</sup>)  
  tough (=tuf) (タ<sup>フ</sup>)            cave (ケイ<sup>ヴ</sup>)

**sとzとʒ** 此三つの中 z と ʒ は全く同音と承知して貰ひ度い。だから s と z とを研究すればよい譯である。上下の前齒をキチンと合せて平にして息を其齒にきしらして出た音が s で、聲を出した音が z である。だから之を齒音と稱する。此場合上下の前齒が キチンと合ふ様にしなければ、正しい音が出ない。母

音の「ウ」を加へた日本語の「ス」や「ズ」にならぬ様注意。

例:—

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| { sat (セツト)         | { zest (ゼスト) (アズ) |
| { kiss (キス)         | { buzz (バズ)       |
| { cap (キャップ) (キアップ) | { as (エズ)         |

sh と sh

直ぐ前に歯音と云ふ事を申したが、狭い意味に於て、これも歯音である。これは

s の音を出す様に上下の歯の前面を合はす事なく當り前に歯を嚙んで唇を著しく突き出し圓形にして、舌を上顎に付けぬ様にして息を出した音が sh の音で、聲を出せば sh の音となる。sh の音を出す時に舌を上顎に付け易いから特に注意するが肝心である。例:—

|                |                              |
|----------------|------------------------------|
| { shine (シャイン) | { sugar (=shuger) (シュガ)      |
| { dash (ダッシュ)  | { pleasure (=plezher) (プレジャ) |

th と th

歯と歯との間に舌を挟んで、其間から息を出せば th の音で、聲を出せば th の

音である。此音は誰にでも出る音の様だが、多くの人には「ス、ズ」に發音し易いから注意せねばならぬ。どちらかと云へば「ツ、ヅ」に近い。

例:—

|                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| { thank (ツァング) (サンク) | { that (ツァット) (ザット) |
| { think (ツィク) (シンク)  | { bathe (ベイヅ) (ベイサ) |

m と n と n と gn = n

此三つは共に有聲音で、無聲音はない。そして此

三つは鼻から出る音であるから、俗に鼻音と稱して居る。發音機關の状態から云へば m は p b の音を出す口附きで、息を唇の間から出さないで鼻から出した音で、n は t d の音を發する様に舌を附けた儘で息を鼻から出した有聲音である。また ng は k g の音を出す口附きで、其儘息を鼻から脱かして出した聲である。

ng は (n+g) の合併した音でなく、單一なる一音である。英語の二十六文字が不足なために、二字を合して一音の符號とした迄である。日本の假名で「ング」と書いても、日本の「んぐ」とは同じでない。尤も n の一字で ng の音を出す事がある。その時は n を以て表はすが、是は g, k の前に來る。邦人は終りの n を兎角 ng の様に發音する傾向があるが、その際には「ンヌ」と發音しなければならぬ。「ンヌ」と「ン」とをハツきリ發音しては間違である。

例:—

|                  |               |
|------------------|---------------|
| { mum (マム)       | { pen (ペン)    |
| { sample (サーンプル) | { sang (サング)  |
| { ten (テン)       | { sing (スィング) |

l と r

此二つも無聲音がなく有聲音のみである。l

の發音は甚だ大事な音聲であるから會話修得者は正確に會得し置くべきである。舌の先を上齒の根本に力を入れて押しあてゝ置き、始終舌を少しも動かさぬ様にして、舌の兩端から音聲を外へ出せば、l の音

聲である。此通りして音聲を外へ出せば、必ず l の音が出る譯で他の音は出ない。l の次に母音がある場合には r の音になり勝ちであるから、注意せねばならぬ。舌の先を上顎に附けないで、少し後の方に曲げ、烈しく息を出して、聲を出せば r の音が出るのである。l を發言するは口角を左右に緊張する様にするが、r は口を尖らす様にして發音するのである。例：—

|              |             |               |
|--------------|-------------|---------------|
| { lak (れイク)  | { lot (ろット) | { glass (グラス) |
| { rake (レイク) | { rot (ロット) | { grass (グラス) |

**h** h の音は同質音のない唯一の無聲音、即ち呼吸音である。この音は咽喉の奥から出る音で、

殆んど齒や唇の妨害を受けぬ音である。此發音機關に妨げられない所を見ると、母音の様にも思へるが、母音は此有聲音なるに反し、これは無聲音である。其點に於て父音として取扱はれる。この音を出すには上下の唇を豚の口の如く充分にそらして後、咽喉の奥から氣息を吹き出せばよい。此際に「ツ」音を入れたら hu になる。日本の假名は強いて當てれば「ふ」である。詰り「フ」から「ウ」を抜き去つた音である。

例：—

|              |                      |
|--------------|----------------------|
| { hill (ヒル)  | { who (フー)           |
| { hoof (フーフ) | { whom (=hoom) (フーム) |

**w と wh** この二つが同質音であるかないかに就て議論があるが、こゝでは同質音として

置く。これは上下の唇を自然に丸く前の方に出し管の如き形にして、音聲を出せば w の音で、單に呼吸丈をすれば wh の音である。日本の假名を當てる場合に「ウ」とする。例へば we (ウィー) とするが、これでは u と同じ發音になつてしまう。寧ろ we を「ウィー」とした方がよい。だから諸君假令「ウィー」とあつても「ウィー」の心持で發音せねばならぬ。又 wh は 明かに「ホ」と發音してはならぬ。極く軽く言つた方がよい。

例：—

|               |                 |
|---------------|-----------------|
| { want (ウァント) | why (hwy) (ホワイ) |
| { wait (ウェイト) | what (ホワット)     |

**x** は何の事もない ks 又は gz の音である。

例：—

|                            |
|----------------------------|
| { axe (=aks) (=ァックス) (アクス) |
| { fox (フックス) (フォクス)        |

**y** 此音は e を發音する時舌を少しく上方に向け舌面を上顎に押し當てず、押しあてる様な心持ちで、空氣の通路を壓する時に出る音である。y の次 e の來た時に「え」になり易く、殊に i の來た時には「い」と混じり易いから餘程の注意を要する。

例：—

|                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| { yet (イェット)      | { yoke (ヨウク)    |
| { yes (=et) (イェス) | { you (=u) (ユー) |

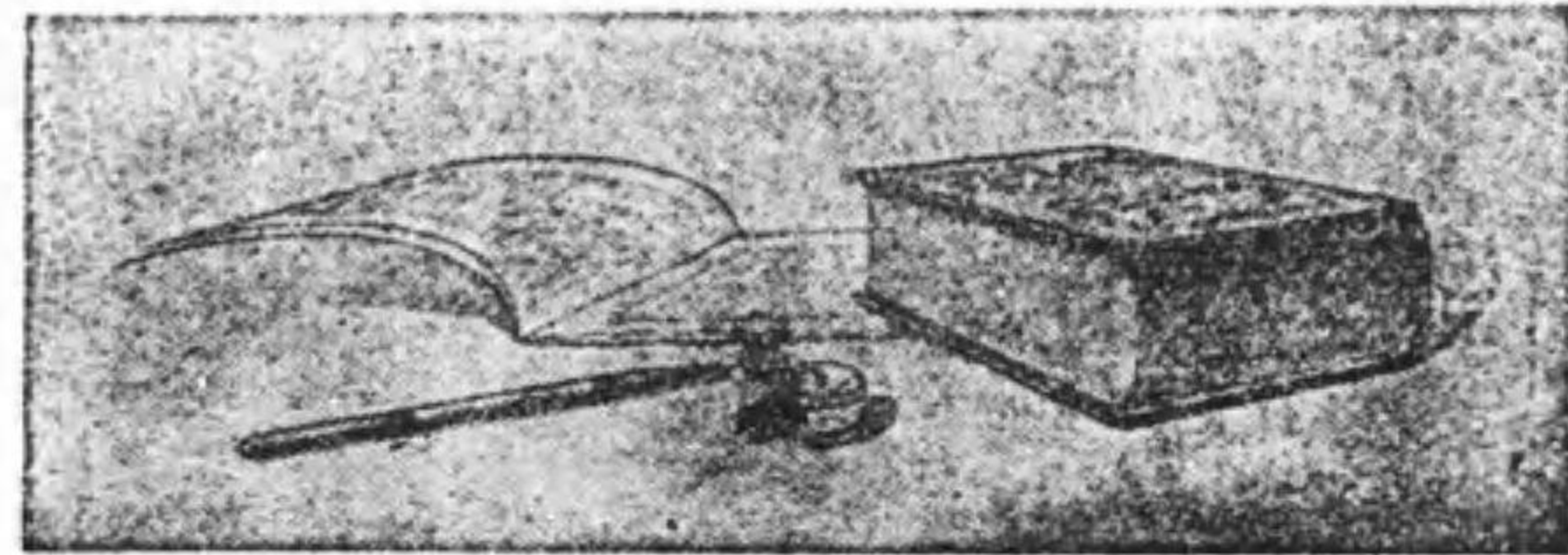
## 第二編

### 第一章

「これは.....である」

「それは.....である」

覚え易い様に日本語を基礎にして英文の構造を説明して見ませう。



[a] これはペンである

[b] それはインキ瓶である

- (1) これは を英語では <sup>ジス</sup> this と云ひます。
- (2) ペン を英語では <sup>ペン</sup> pen と云ひます。
- (3) である を英語では <sup>イズ</sup> is と云ひます。

〔発音〕 this は t(ティ-) h(エーイ) i(アイ) s(エス) の四文字が合して出来た単語で発音は本書では〔ジス〕として置く事にした。日本語の ズ や ス 語尾に ウ 音の入れぬ音であります。尙ほ假名は出来るだけ解り易くして置く。

is は i(アイ) s(エス) の二文字合して出た単語で(イズ)と発音し イ を強く し ズ を軽くつける。

これで日本語の「これはペンである」の一通りは揃つた譯ですから、並べて見ませう。

(イ) <sup>ジス</sup> this    <sup>ペン</sup> pen    <sup>イズ</sup> is  
      これは    ペン        である

是で英語の文章になるかと申しますと、文章にはなりません。單に英語の言葉を並べたに過ぎません。然らばどうしたら英文になるかと申しますと、日本文には日本語の規則があると同じ様に、英文には英語の規則があります。第一其配別の順序があります。英文では：—

これは—である—ペン

と云ふ様に致します。(イ)の言葉をこの配列の順序に更へますと：—

(ロ) <sup>ジス</sup> this    <sup>イズ</sup> is        <sup>ペン</sup> pen

と云ふ事になりました。これで正しい英文であるかと申しますと、まだ正しい英文ではありません。と云ふのは “pen” の前に “a” と云ふ言葉を入れなければなりません。此 “a pen” と云ふのは「一つ〔一本〕の

・a は單獨に發音する時には エーイ だが、他の語に冠した場合には ア と エ との合の子 見た様に軽く發音せよ。

▲pen は p(ヒー) e(イー) n(エヌ) の三文字が結合して出来た言葉で〔ペン〕と云ふ様に <sup>ア</sup>ペ を強く〔ン〕は軽く、寧ろ <sup>ア</sup>ペンの尾から <sup>ア</sup>ウ 音を取去つた音を出せばよい。

本書の發音假名は成るべく解り易くすることを心掛けましたから、時に正確でないものもあります、止むを得ません。

ペン」と云ふ意味でありまして、英語では必ず一つ二つと数へられる名詞〔物の名前〕の前には必ず入れる事になつてゐます。尤も二本以上とか、数が判明しない場合は別であります。その事は後から申します。假令“<sup>ア</sup>a pen”と書きました所で、必ずしも「これは一本のペンである」と譯さなくともよいのです。〔譯さねばならぬ場合もありますが、それは後から申します。〕斯様な譯で“<sup>ペン</sup>pen”の前に a を附けて (ロ) の文を書き更へますと：—

(ハ) <sup>ジス</sup>this <sup>イズ</sup>is <sup>ア</sup>a <sup>ペン</sup>pen

となりました。これで正しい文であるかと申しますと、まだ正しい英文とは申されません。然らば何處がいけないかと申しますと、英語の文の規則に當てはまらない所があります。其規則と申しますのは：—

英語の文の始めの文字の初めの一字は大文字を用ひ、文の終りには必ず終止符 (.) を用ひます。

と云ふ事になつてゐます。この規則にあてはめますと：—

This is.....

を盛んに練習して口癖になる迄やつて御覽、而して其次に何でも知つてゐる名前、例へば <sup>ボーイ</sup>boy (少年) なり、<sup>ブック</sup>book (本) なり。何なり知つてゐる語に a を冠して、<sup>ジス イズ ア ボイ</sup>This is a boy (これは小年です)、<sup>ジス イズ ア ブック</sup>This is a book (これは本です)と綴り、また發音して見るがよい。

(=) <sup>ジス</sup>This <sup>イズ</sup>is <sup>ア</sup>a <sup>ペン</sup>pen.  
これは である [一本の] ペン

=これはペンである

斯様に a b c 二十六文字様々に組合せて“<sup>ジス</sup>this”とか“<sup>イズ</sup>is”とか“<sup>ア</sup>a <sup>ペン</sup>pen”か云ふ様な言葉が出来るので、其言葉を順序よく (英語の規則にあてはめて) 並べたものを文と云ふのです。

英文を書く時、また英文を日本語に譯す時に此順序を誤らずに譯さなければなりません。但し a だけは先づ大概の場合譯さなくともよろしいのです。a と云ふのは“<sup>ペン</sup>pen”に附くのですからして讀む時も“<sup>ジス</sup>This <sup>イズ</sup>is <sup>ア</sup>a <sup>ペン</sup>pen”と“a”と“pen”とを離してはいけません。必ず“a pen”と附けて發音しなければなりません。

次に“is”「である」は日本語に譯せば「なり」「です」「である」「で御座います」更らに「だよ」「だ」等色々の譯し方がありますからして、譯文は諸君の方で融通をきかせて譯し或は譯さなければならぬのは勿論の事です。次に [b] の文を説明します。

- ▲文を書く時は一番初めの文字の初めの一字を大文字で書く。
- ▲文の終りに終止符(.)英語では「ピーリアド」の符號を附ける事。
- ▲日本では「これは……である」と云ふのを、英語では「これはである……」と綴る事。

以上三つを堅く記憶せよ。

- [6] それはインキ瓶である。
- (1) それは は <sup>ざット</sup> that と云ひます。
- (2) インキ は <sup>インク</sup> ink と云ひます、日本語では インキと云ふのですが、英語では インクと申します。
- (3) インキ瓶 は <sup>インクホトル</sup> ink-bottle と申します。bottle は瓶の事で、ink と bottle と結合して出来た合成語ですから、ink と bottle との間に (-) [ハイフン] を入れて用ゐてゐます。
- (4) である は前で習つて通り、<sup>イズ</sup> is と申します。

以上 (1) 乃至 (4) を前で習つた:—

これはペンである。  
 { <sup>ジス</sup> This <sup>イズ</sup> is <sup>ア</sup> a <sup>ペン</sup> pen.

と云ふ様に、先づ配列の順序を

### 母音字 + 父音字

と云ふ様に、例へば a i e o の如き母音に s や t と云ふ父音字がつくと:—

<sup>ās</sup>    <sup>īz</sup>    <sup>īt</sup>    <sup>āt</sup>  
 アズ    イズ    イット    エット

となり、母音字の a や i を強く發音して s や t を軽く發音する。但し s や t は假りに ス、ト と記して置くが ス の尾から ウ音、トの尾から オの音をひき去つた音が正しいのである。羅馬綴りの所で説明した様に日本語の s は (s+t) であるし t は (t+o) であるからである。斯様な譯で this は ジスとなり

これは である [一本の] ペン

と云ふ様にし、尙ほ始めの文字の始めの一字を大文字を使用し、<sup>インクホトル</sup> “ink-bottle” に <sup>ア</sup> a を冠して “a ink-bottle” とし、文の終りに終止符(.)を付けて見ますと:—

(イ) <sup>ざット</sup> That <sup>イズ</sup> is <sup>ア</sup> a <sup>インクホトル</sup> ink-bottle.

となります。これで正しい英文である様に思ひませうが、まだ正しい文ではありません。それと云ふのは <sup>インク</sup> “ink bottle” の前に <sup>ア</sup> a と云ふのを冠した所に誤りがあります。これは <sup>アン</sup> “an” と云ふ語を冠しなければなりません。それと云ふのはこの “an” は “a” と全く同じ意味で矢張「一つの; 一本の; 一個の」と云ふ意味であります。が “a” の次に來る <sup>ペン</sup> “pen” の “p” 様に、父音文字で父音の音を表はすものであれば <sup>ア</sup> “a” でよいの

that は ざット になり、is は イズとしたのである。

an も [母音+父音] だから、a を強く發音し、n を軽く發音するのである、an は本來 an エン が正しいのであるが、斯くては諸君が發音練習に困難だらうと思つて邦語の アンにして置く事にしたのである。

<sup>エン</sup>    <sup>イン</sup>    <sup>オン</sup>  
 an    in    on

### 父音字 + 母音字 + 父音字

と結合、例へば <sup>ペン</sup> pen と云ふ様に結合した場合の發音は矢張中間の母音は短音即ち <sup>ペン</sup> pen となつてしまふのである。



ですが、若し <sup>インク</sup>“ink” の “i” の様に母音文字で母音の音を出す文字が来れば <sup>ア インク</sup>“a ink” では “a” と “ink” との間の發音が曖昧になりますから、その曖昧を避けるために “a” を <sup>ア</sup> “an” にして <sup>アン インク</sup> “an ink-bottle” と致します。

此規則に (イ) の文を直して見ますと：—

(ロ) <sup>ギット</sup> That <sup>イズ</sup> is <sup>アン</sup> an <sup>インク</sup> ink-bottle. <sup>インク</sup> bottle.  
それは である [一本の] インキ瓶

此 (ロ) の文は正しい英文であります。尙 “a” とか “an” とか云ふのは前でも申した様に「一つの；一本の；一個の」と云ふ極めて軽い意味で物の數の單一を表はすもので、邦語に譯す場合には英語の様に：—

(問) これは何んですか

(答) それはインキ瓶です

と云ふ様に申しまして、決して「一本の瓶」とか、「一本のペン」とか鹿爪らしく申しません。

母音字+父音字+父音字

と結合した場合、例へば <sup>インク</sup> ink と云ふ語の發音は i の母音が單音の i になり、而して i を強くし、n, k を軽く發音して ink とするので、日本語では インキと云ふから、此儘羅馬綴にすれば inki となります。英語では此の k を ク と軽くするので、若し ク を日本語流にすれば ku となつて ウ 音が伴ひますからウを入れぬ様極めて軽くしなければなりません。

練習と應用

以上の説明によつて：—

- (1) {これは.....である。  
      <sup>ジス</sup> This <sup>イズ</sup> is.....
- (2) {それは.....である。  
      <sup>ギット</sup> That <sup>イズ</sup> is.....

と云ふ二つの云ひ表し方を覺えた譯であります。そこで “This is.....”, “That is.....” の次に何なりと入れればよいと云ふ譯であります。

此 “This is.....” “That is.....” の兩方を兼ねさせて、「これは」とか「あれは」とか云ふ様に特に強く指示せずに、例へば二人の對話者の前に置いてある物は指して、甲の人は、「君これは何であるか」と問ふ様な場合に、これに答ふる乙の人は何も特に「それは」とか「これは」とか云はずも、軽く「.....です」と云つた丈で意味が通ずるばかりでなしに、その方が極めて自然である譯です。此場合の “this” “that” を兼ねさせて軽く云ふ時には <sup>イット</sup> “it” と云ふ語を用ひます：—

|     |     |       |             |
|-----|-----|-------|-------------|
| イット | イズ  | ア     | ペン          |
| It  | is  | a     | pen.        |
| それは | である | [一本の] | ペン          |
| (1) | (4) | (2)   | (3)         |
|     |     |       |             |
| イット | イズ  | アン    | インク         |
| It  | is  | an    | ink-bottle. |
| それは | である | [一本の] | インキ瓶        |
| (1) | (4) | (2)   | (3)         |

“it” は “that” と同じ意味で、まあ “that” の軽い意味だと記憶して下さい。

### 英 習 字

次の筆記字體を眞倣して練習して御覽なさい。

*This is an ink-bottle.*

*That is a pen.*

### 第 二 章

「この.....は.....である」

「その.....は.....である」

本章に於てはこの二つの構造から英語を覚える事にしませう。

[a] この犬は大きい。

[b] その猫は黒い。

先づ (a) から始めませう。

(1) この は前章も習つた通り、<sup>ビス</sup> this であります。

(2) 犬 は <sup>ドック</sup> dog と申します。

(3) 大きい は一寸難しいが、日本語でもう一つ別な意味にしますと、「大なり」となりまして「大きな」は <sup>ビッグ</sup> big と申します。

(4) なり 即ち「大きな、犬である」で、前章にもありました通「である」に相当しますからして <sup>イズ</sup> is であります。

今日本語の順序に配列して見ますと：—

この 犬は 大きい [大きくある]

<sup>ビス</sup> This    <sup>ドック</sup> dog    <sup>ビッグ</sup> big    <sup>イズ</sup> is

となります、前章で：—

これはペンである。

を：—

<sup>ビス</sup> This    <sup>イズ</sup> is    <sup>ア</sup> a    <sup>ペン</sup> pen.

とした様に、初めの一字を大文字で書き、文の終りに終正符 (.) を用ひて、英語流の順序—「これは.....である—ペン」と云ふ様にすれば、「この犬は大きい」は：—

<sup>ビス</sup> This    <sup>ドック</sup> dog    <sup>イズ</sup> is    <sup>ビッグ</sup> big.  
この 犬は ある 大きく  
(1)    (2)    (4)    (3)

[發音] こゝで覚えなければならぬ新語の發音は <sup>ドック</sup> dog と <sup>ビッグ</sup> big との發音であります。前章の發音の部で：—

となります。前章の「これは……である」の式にあてはめて：—

これは犬である。

と云ふ文を譯して見ると：—

|     |      |     |       |      |
|-----|------|-----|-------|------|
|     | ジス   | イズ  | ア     | ドック  |
| (a) | This | is  | a     | dog. |
|     | これは  | である | 〔一疋の〕 | 犬    |
|     | (1)  | (4) | (2)   | (3)  |

となる。即ち <sup>“ドック”</sup> dog (犬) の前に <sup>“ア”</sup> a [一疋の] と云ふ文字を冠したのに、「この犬は大きい」と云ふ時に <sup>ジス</sup> “This <sup>ドック</sup> dog <sup>イズ</sup> is <sup>ビッグ</sup> big. となつて <sup>ドック</sup> “dog” の前に “a” が無いのはどうした譯である。と不審を起す方もあるかも知れませんが、それは尤もな疑問であります。是には文法上の理由があるのですが、<sup>ジス</sup> “This” や <sup>ギット</sup> “That” の直ぐ次に物の名前、即ちこの場合「犬」と云ふ名前、〔文法上これを各詞と申します〕が來ました時には <sup>ア</sup> “a” を冠しません事になつてゐます。だから：—

これはペンである。

|  |      |    |   |      |
|--|------|----|---|------|
|  | ジス   | イズ | ア | ペン   |
|  | This | is | a | pen. |

父音文字 + 母音文字 + 父音文字

の時は中間の母音文字は短音になり pen と云ふ様になると申しましたから、この dog も dóg (ドック)、big (ビッグ) となるのです。而しこの *ク* は日本語の五十音の *ク* とは違ひます。日本語の *ク* は [g+k] で此語尾にウ音が伴ひます。其證據にはク

と “pen” の前に “a” を冠しますが：—

|  |      |     |      |     |
|--|------|-----|------|-----|
|  | この   | ペン  | は……  | である |
|  | ジス   | ペン  | イズ   |     |
|  | This | pen | is…… |     |

の時には “pen” の前に “a” を冠しません。

今度は (b) の：—

その猫は黒い。

を譯して見ませう。「猫」だの「黒」だのと云ふ、初めての言葉が入つてゐるから面倒だが、これを (a) の「この犬は大きい」の「この」を「その」に直したものだと思つて譯して見るとわけのないものではありません。「この」は <sup>ジス</sup> “this” だが「その」は前の章で覺えた筈の <sup>ギット</sup> “that” を入れ更へればよいのですからして：—

その犬は大きい。

|  |      |     |    |      |
|--|------|-----|----|------|
|  | ギット  | ドック | イズ | ビッグ  |
|  | That | dog | is | big. |

で立派に出來上つた譯になります。然し同じ言葉ばかり使ふのもあんまり氣のきかない事であるから、「その猫は黒い」を譯して見ませう。

を強く發音して見ると、ウ音丈になつてしまひます。だから *ク* に *ウ* 音の入りぬ様發音しなければなりません。それはわけのない事で、pen (ペン) の時に *ペ* を強く發音した様に dog (ドック) は *ド* を強く發音し、*ク* を軽くし、big (ビッグ) は *ビ* を強く發音し、*ク* を軽くつければ自然と眞個の發音が出て來ます。

- (1) その は <sup>ざット</sup> that でよろしい。
- (2) 猫 は <sup>キャット</sup> cat と申します。
- (3) 黒い は 前題「大きい」と同様、「黒くある；黒なり」と云ふ事だから、「黒い」と「である；なり」との二つの言葉であります。「黒」は <sup>ブラック</sup> black と申します。
- (4) である は <sup>イズ</sup> is でよろしい。

これを文法上の規則の初めの文字を大文字にし、文の終りに終止符(.)を付けて、また(a)の所で説明した配列の順序にすれば：—

|     |                        |                        |                     |                           |
|-----|------------------------|------------------------|---------------------|---------------------------|
| (b) | <sup>ざット</sup><br>That | <sup>キャット</sup><br>cat | <sup>イズ</sup><br>is | <sup>ブラック</sup><br>black. |
|     | (その)                   | 猫は                     | (ある)                | 黒い                        |
|     | (1)                    | (2)                    | (4)                 | (3)                       |

これでよろしい。

一寸注意して置き度い事は、“this”は手近にあるものを指して云ふ時で、「これは；この；これ」等の意味があり。“that”は稍離れて居るものを指して「それは；その；あれ；あの」等の意味であります。

〔発音〕新語の cat; black の発音は cat は矢張〔父音文字+母音文字+父音文字〕だから、中間の母音文字なる a が単音になり căt (キャット) となります。而して t の t は矢張語尾にウ音の伴はぬ様に cat (キャット) を強く發音して、t を軽く發音

## 練習と應用

第一章第二章及び第一章の練習と應用の説明によつて  
讀者諸君は：—

- (1) { これは ペン である。  
This is a pen.  
これは である [一本の] ペン
- (2) { それは インキ瓶 である。  
That is an ink-bottle.  
それは である [一本の] インキ瓶
- (3) { イット イズ ア ペン  
It is a pen.  
それは である [一本の] ペン

この(1)(2)の“this”“that”の「これ；それ」と強く指示せず、軽く指示する時には it を使用すると第一章の練習に於て説明しました。上の文の(1)(2)“this”“that”の代りに“it”を入れ更へれば：—

すればよい。cat は羅馬綴りからゆけば カット となるのだが、此 c は クの語尾から ウ音を抜いた音を出すのである。次に black は稍發音し難いかも知れぬが、前編第六章で b は プ〔但し日本語のプは bu で ウ音が伴ふが プの語尾から ウ音を抜き取つた音〕 l は ル〔但し語尾から ウ音を抜いた音〕であるし、ck は単に k の音 ク〔但し語尾に ウ音の伴はぬ音〕となるのです。而して black の a は 恰度〔父音+母音+父音〕と同様短音の ă になり blăck となるからして發音は ブラック となる譯です。

- (4) 

|               |    |    |             |
|---------------|----|----|-------------|
| イット           | イズ | アン | インクボトル      |
| It            | is | an | ink-bott'e. |
| それは である [一本の] |    |    | インキ瓶        |

となつて来る。第二章の講義で:-

- (5) 

|      |     |      |         |
|------|-----|------|---------|
| この   | 犬は  | 大きい  | [大きくある] |
| ジス   | ドック | イズ   | ビッグ     |
| This | dog | is   | big.    |
| この   | 犬は  | (ある) | 大きい     |
| (1)  | (2) | (4)  | (3)     |

- (6) 

|      |      |      |        |
|------|------|------|--------|
| その   | 猫は   | 黒い   | [黒くある] |
| ザット  | キャット | イズ   | ブラック   |
| That | cat  | is   | black. |
| その   | 猫は   | (ある) | 黒い     |
| (1)  | (2)  | (4)  | (3)    |

と云ふ構文を説明したから要するに六通の英文を習つた譯であります。諸君は此六通の英文を六通丈に使ふ様では英語を速かに覚える事はむづかしからう。此六通りの英文構造と僅か十個ばかりの言葉(單語)に過ぎないがこれを十二三通りに應用をきかせなければ駄目であります。今其應用方法を参考のために述べて見ませう。

諸君は次の和文を英文に譯せる筈であります。

[應用]

- (1) これは犬である。
- (2) これは猫である。
- (3) それは犬である。
- (4) それは猫である。
- (5) このペンは大きい。

- (6) そのペンは黒い。
- (7) そのインキ瓶は大きい。
- (8) この猫は大きい。
- (9) あの犬は黒い。
- (10) この猫は黒い。

其他幾通りもあるが、先づ十題の變つたものが出來た譯だから、もとの六通りと合せて十六通りの言ひ表し方が覺えられた譯であります。

[應用の譯文]

- (1) 

|      |     |       |      |
|------|-----|-------|------|
| ジス   | イズ  | ア     | ドック  |
| This | is  | a     | dog. |
| これは  | である | [一疋の] | 犬    |
- (2) 

|      |    |   |      |
|------|----|---|------|
| ジス   | イズ | ア | キャット |
| This | is | a | cat. |
|      |    |   | 猫    |
- (3) 

|      |     |       |      |
|------|-----|-------|------|
| ザット  | イズ  | ア     | ドック  |
| That | is  | a     | dog. |
| それは  | である | [一疋の] | 犬    |
- (4) 

|      |    |   |      |
|------|----|---|------|
| ザット  | イズ | ア | キャット |
| That | is | a | cat. |
|      |    |   | 猫    |

また "this," "that" の代りに <sup>イット</sup> it を使つて:-

- |     |     |       |      |
|-----|-----|-------|------|
| イット | イズ  | ア     | ドック  |
| It  | is  | a     | dog. |
| それは | である | [一疋の] | 犬    |
- |     |     |       |      |
|-----|-----|-------|------|
| イット | イズ  | ア     | キャット |
| It  | is  | a     | cat  |
| それは | である | [一疋の] | 猫    |

- |      |                   |                               |                |                      |
|------|-------------------|-------------------------------|----------------|----------------------|
| (5)  | ビス<br>This<br>この  | ペン<br>pen<br>ペン               | イズ<br>is<br>ある | ビック<br>big.<br>大きく   |
| (6)  | ザット<br>That<br>その | ペン<br>pen<br>ペン               | イズ<br>is<br>ある | ブラック<br>black.<br>黒く |
| (7)  | ザット<br>That<br>その | インクボトル<br>ink-bottle<br>インキ瓶は | イズ<br>is<br>ある | ビック<br>big.<br>大きく   |
| (8)  | ビス<br>This<br>この  | キャット<br>cat<br>猫は             | イズ<br>is<br>ある | ビック<br>big.<br>大きく   |
| (9)  | ザット<br>That<br>その | ドッグ<br>dog<br>犬は              | イズ<br>is<br>ある | ブラック<br>black.<br>黒く |
| (10) | ビス<br>This<br>この  | キャット<br>cat<br>猫は             | イズ<br>is<br>ある | ブラック<br>black.<br>黒く |

尙ほ以上説明した講造には文法の説明を省略してあるが、これに文法の説明を少しくすれば尙ほ應用の範圍が廣くなる譯であります。今少しく説明して見やう。

- |     |                   |                 |                 |                  |
|-----|-------------------|-----------------|-----------------|------------------|
| (1) | ビス<br>This<br>これば | イズ<br>is<br>である | ア<br>a<br>[一本の] | ペン<br>pen.<br>ペン |
|-----|-------------------|-----------------|-----------------|------------------|

この文を文法的に解剖して見ると、“this”は物を指し示す所の代用の言葉であるからして指示代名詞と云ふのであります。“that”も同様指示代名詞と云ふのであります。“is”と云ふのは「である」と云ふ物の動きを示す

ものであるから動詞と云ふのである。“a”は“pen”と云ふ物の名前を表はす、即ち名詞の頭に冠したのだから冠詞と云ふのである。而して斯様に言葉が集つて一つのまとまつた思想を表はしたものを文と云ふのである。文の中で最も大切な主になつてゐる言葉、日本語で「は」や「か」の附く言葉、上例で“this”(これは)の付く言葉を文の主語と云ふのであります。其主語の動作状態を表はす言葉、上例で“is”(である)を動詞と云ふのである。冠詞は前にも説明した通り「一個の；一本の；一疋の」とか云ふ物の單數を表はすものである。前にも説明した通り、其次に来る名詞が、若し初めの文字が母音文字であつて母音の音を出す字であつたら“a”はアン“an”になるものである事を忘れぬ様にしなさい。

- |     |                  |                  |                  |                    |
|-----|------------------|------------------|------------------|--------------------|
| (2) | ビス<br>This<br>この | ドッグ<br>dog<br>犬は | イズ<br>is<br>(ある) | ビック<br>big.<br>大きい |
|-----|------------------|------------------|------------------|--------------------|

この文を文法的に解剖して見ませう。先づこの文の“this”は前の文“this”とは違ふ事を心付かぬばいけません。前の“this”は「これは」でありましたが、この“this”は「この」であります。前の“this”は「これは」であつて、文の主語でありましたが、この文では單に「この」であるから主語ではない。然らば何であるかと云ふに“dog”と云ふ名詞を形容してゐるからして、斯様な「この」の意味の“this”は指示形

容詞と云ふのであります。主語は“dog”である。

次に“is”は“dog”と云ふ主語の働きを表はしてゐるから矢張動詞であります。“big”は何であるかと申しますと、「大きい」と云ふ意味で、物の色や形を表はす言葉でありますからして形容詞と云ふのです。本来形容詞は名詞の前に附けて、「美しい花」、「赤い紙」とか云ふ様にするのですが、“is”と云ふ様な動詞の次に置いて、名詞を形容する事もあるのです。詰り“This dog is big.”:-

|        |      |     |      |
|--------|------|-----|------|
| この大きな犬 |      |     |      |
| {      | ビス   | ビッグ | ドック  |
|        | This | big | dog. |
|        | この   | 大きな | 犬    |

と云ふのを：—

|   |         |     |    |      |
|---|---------|-----|----|------|
| { | ビス      | ドック | イズ | ビッグ  |
|   | This    | dog | is | big. |
|   | この犬は大きい |     |    |      |

としたのであります。こゝで注意しなければならない事は「この」の意味で用ひた“this”は指示形容詞であるからして名詞“dog”の前に置いた場合には、その前に冠詞は不要であります。だから前の文で“This is a pen”と云ふ様に“pen”と云ふ名詞の前に“a”と云ふ冠詞を附けましたが、“This dog is big”の場合は“dog”の前に冠詞を附けて“This a dog.....”とは致しません。

今既に習つた文を茲に掲げて其下に名詞、動詞、冠詞、指示代名詞、指示形容詞、形容詞を区分して見せませう。

|     |         |      |       |      |
|-----|---------|------|-------|------|
| (1) | ビス      | イズ   | ア     | ペン   |
|     | This    | is   | a     | pen. |
|     | これは     | である  | [一本の] | ペン   |
|     | (指示代名詞) | (動詞) | (冠詞)  | (名詞) |

|     |         |      |       |            |
|-----|---------|------|-------|------------|
| (2) | ザット     | イズ   | ア     | インクホトル     |
|     | That    | is   | an    | ink-bottle |
|     | それは     | である  | [一本の] | インキ瓶       |
|     | (指示代名詞) | (動詞) | (冠詞)  | (名詞)       |

|     |         |      |       |      |
|-----|---------|------|-------|------|
| (3) | イット     | イズ   | ア     | ペン   |
|     | It      | is   | a     | pen. |
|     | それは     | である  | [一本の] | ペン   |
|     | (指示代名詞) | (動詞) | (冠詞)  | (名詞) |

|     |         |      |      |       |
|-----|---------|------|------|-------|
| (4) | ビス      | ドック  | イズ   | ビッグ   |
|     | This    | dog  | is   | big.  |
|     | この      | 犬は   | (ある) | 大きく   |
|     | (指示形容詞) | (名詞) | (動詞) | (形容詞) |

|     |         |      |      |        |
|-----|---------|------|------|--------|
| (5) | ザット     | キャット | イズ   | ブラック   |
|     | That    | cat  | is   | black. |
|     | その      | 猫は   | (ある) | 黒い     |
|     | (指示形容詞) | (名詞) | (動詞) | (形容詞)  |

以上の英文構造をまた應用してまた次の英文は會得される筈であります。

|     |      |     |       |     |      |
|-----|------|-----|-------|-----|------|
| (4) | ビス   | イズ  | ア     | ビッグ | ドック  |
|     | This | is  | a     | big | dog. |
|     | これは  | である | [一疋の] | 大きな | 犬    |
|     | (1)  | (5) | (2)   | (3) | (4)  |

此文の中にある言葉は諸君の知らぬものは一つもあり

ませんが、構造は：—

|   |          |     |     |      |
|---|----------|-----|-----|------|
| { | ジス       | ドッグ | イズ  | ビッグ  |
|   | This     | dog | is  | big. |
|   | この       | 犬は  | である | 大    |
|   | この犬は大きい。 |     |     |      |

を「これは大きな犬である」としたのです。“This” dog……” や “That cat……” とした時の “this” や “that” は指示形容詞だから其次に来る名詞 (dog, cat) の前に冠詞 “a” をつけないと述べたが、This is a big cat.” の時は “big” (大きい) と云ふ形容詞の前に冠詞 “a” を附けたのはどうした譯であるかと不審を抱かれる方もおありだらうと思ふが、それは尤も千萬で、指示形容詞の場合には指示形容詞と冠詞とを併用しないが、形容詞と冠詞とは二つ併用されます。そこで既に習つた五通りの英文から形容詞の “black” と “big” とを知り、而して其形容詞を名詞の前に附けた時には必要に応じて冠詞を附けるものであると云ふ事を知つたばかりに、次の應用文が譯せる筈であります。

|   |            |     |       |       |      |
|---|------------|-----|-------|-------|------|
| { | ジス         | イズ  | ア     | ブラック  | ドッグ  |
|   | This       | is  | a     | black | dog, |
|   | これは        | である | 〔一匹の〕 | 黒い    | 犬    |
|   | これは黒い犬である。 |     |       |       |      |

|   |            |     |       |       |      |
|---|------------|-----|-------|-------|------|
| { | ジス         | イズ  | ア     | ブラック  | キャット |
|   | This       | is  | a     | black | cat. |
|   | これは        | である | 〔一匹の〕 | 黒い    | 猫    |
|   | これは黒い猫である。 |     |       |       |      |

|   |             |     |       |     |      |
|---|-------------|-----|-------|-----|------|
| { | ジス          | イズ  | ア     | ビッグ | ドッグ  |
|   | This        | is  | a     | big | dog. |
|   | それは         | である | 〔一匹の〕 | 大きな | 犬    |
|   | それは大きな犬である。 |     |       |     |      |

|   |             |     |       |     |      |
|---|-------------|-----|-------|-----|------|
| { | ザット         | イズ  | ア     | ビッグ | キャット |
|   | That        | is  | a     | big | cat. |
|   | それは         | である | 〔一匹の〕 | 大きな | 猫    |
|   | それは大きな猫である。 |     |       |     |      |

まだ々々應用が出来ますが、先づ此位にして、今度は別な英文の構造を稽古しませう。

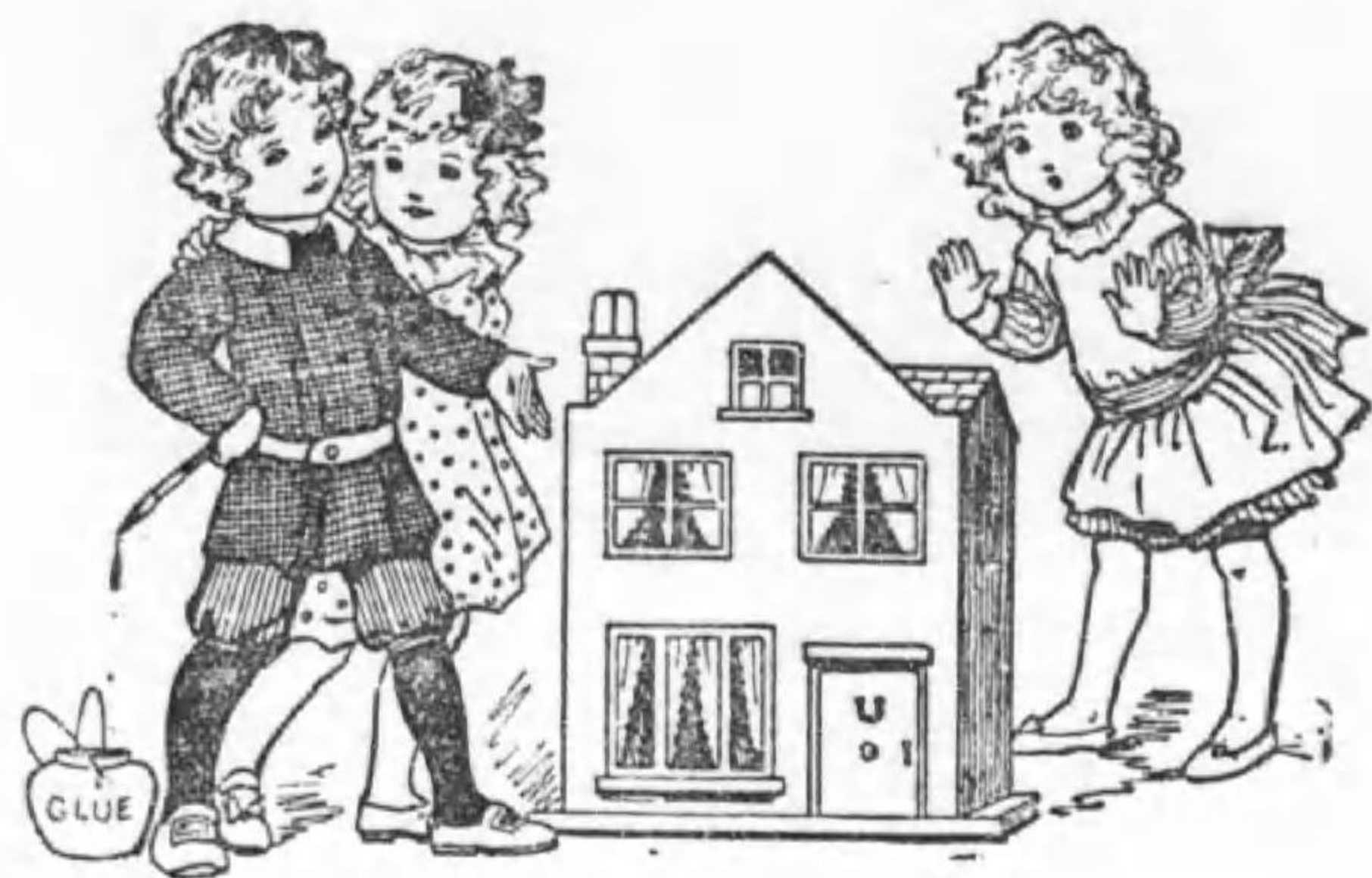
### 第 三 章

「(私) は .....である」

「(あなた) は .....である」

この二つを覚えることにしませう。詰り第一章で、「これは.....である」、「それは.....である」第二章で「この.....は——である」、「その.....は——である」を習つたから、今度は「私は.....である」、「あなたは.....である」の二つを覚えるのが順序でせう。





[a] 私は少年です。

[b] あなたは少女です。

説明する迄ありませんが、「……です」は「……である」と同じである位の事はお解りでせう。先づ (a) から始めませう。

(1) 私は <sup>アイ</sup> I と云ひます。そして此文字の小文字は i ですが、「私」の意味に使はれた時は何時も大文字で I と書きます。

(2) 少年は <sup>ボーイ</sup> boy です。日本語の方ではボーイと申

[發音] こゝで覚えなければ發音は、“I” “am” “boy” “you” “are” “girl” の六語であります。

▲“I” の發音は文字の名前と同一で アイでよろしい。“am” の發音は “ám” だから「エム」となる譯ですが、それでは諸君は發音しにくいだらうと思ふから本書では「アム」として置きました。“boy” はよく「ボーイ」と發音したが、英語では

してゐますが英語ではボーイであります。

(3) です 即ち「である」は第一章では is でありましたが、人間の「である」は <sup>アム</sup> am と云ひます。

以上を日本語の順序に並べて見れば：—

{ 私は 少年 です。  
I boy am

となります。第一章で：—

{ これは である ペン  
This is a pen.

とした様に、これも：—

{ 私は 少年 です。  
[a] { アイ アム ア ボイ  
I am a boy.  
私は 少年 [一人の] 少年

とします。これで (a) の文は覺えた譯であります。「私は」の代りに「我は、吾輩は、僕は、わしわ、おれは」何でも <sup>アイ</sup> I であります。

次に (b) の：—

あなたは 少女 です。

[ボーイ] が正式の發音である。

▲“You” は “you” であるからして「ユー」を發音すればよいのです。“are” は口を大きく開いて「アー」と云へば此發音が出来ます。詰り “R” の發音と同一であります。

▲“girl” の發音は初學者は兎角まどつく様ですが、中の ir は前の “are” の發音より口を小さく開いて曖昧に「アー」とすれ

を譯して見ませう。

- (1) あなた は <sup>ユー</sup>you と云ひます。
- (2) 少女 は <sup>ガー</sup>girl と申します。
- (3) です は (a) の文では <sup>アム</sup>am 第一章では <sup>イズ</sup>is と申しましたが、此場合には <sup>アー</sup>are と申します。

この (1) (2) (3) を (a) の順序に配列すれば、立派な英文になるのです。

|               |               |              |               |
|---------------|---------------|--------------|---------------|
| <sup>ユー</sup> | <sup>アー</sup> | <sup>ア</sup> | <sup>ガー</sup> |
| (b) You       | are           | a            | girl.         |
| あなたは          | です            | 〔一人の〕        | 少女            |
| (1)           | (4)           | (2)          | (3)           |

これで (a) (b) の英譯文が出来た譯であります。この言ひ表し方を覚えた以上、次の英文も譯せなければならぬ筈であります。

- (1) 私は 少女 です。
  - (2) あなたは 少年 です。
  - (3) 私は 戸田三郎 です。
  - (4) あなたは 山田花子 です。
- (a) (b) の兩文をよく解つた人なら直ちに：—

ばよいのだから “g” は「カ」だし、“l” は「ル」であるからして “girl” は「ガー」<sup>ル</sup>として置きます。

次に人名を書く場合は名を先に書き姓を後に書くのです。此點日本と反對です。

本書では、成るべく、同じ單語から先づ英文の構造を會得させやうと心掛けて居りますが、進むに従つて、新らし單語が出て

|               |               |              |               |
|---------------|---------------|--------------|---------------|
| <sup>アイ</sup> | <sup>アム</sup> | <sup>ア</sup> | <sup>ガー</sup> |
| (1) I         | am            | a            | girl.         |
| 私は            | です            | 〔一人の〕        | 少女            |
| (1)           | (4)           | (2)          | (3)           |

|               |               |              |               |
|---------------|---------------|--------------|---------------|
| <sup>ユー</sup> | <sup>アー</sup> | <sup>ア</sup> | <sup>ボー</sup> |
| (2) You       | are           | a            | boy.          |
| あなたは          | です            | 〔一人の〕        | 少年            |
| (1)           | (4)           | (2)          | (3)           |

(3) (4) とは羅馬綴〔前編羅馬綴の部参照〕を應用して譯せる筈であります。

|               |               |                 |               |
|---------------|---------------|-----------------|---------------|
| <sup>アイ</sup> | <sup>アム</sup> | <sup>サブロー</sup> | <sup>トダ</sup> |
| (3) I         | am            | Saburo          | Toda.         |
| 私は            | です            | 三郎              | 戸田            |
| (1)           | (4)           | (3)             | (2)           |

|               |               |                |                |
|---------------|---------------|----------------|----------------|
| <sup>ユー</sup> | <sup>アー</sup> | <sup>ハナコ</sup> | <sup>ヤマダ</sup> |
| (4) You       | are           | Hanako         | Yamada.        |
| あなたは          | です            | 花子             | 山田             |
| (1)           | (4)           | (3)            | (2)            |

私は の次が若し人の名前、即ち固有の名前〔文法上これを 固有名詞 と申す〕が入つた時は “a” と云ふ冠詞を用ひません。次に Saburo や Hanako を單に頭字丈にして S. H. と云ふ様にすることもあります。この時

來ます。諸君はこれらの單語を記憶しなければなりません。其單語を記憶する方法は、先づ <sup>ビー</sup> b—<sup>オー</sup> o—<sup>ワイ</sup> y. <sup>ボー</sup> boy. <sup>アイ</sup> g—<sup>イー</sup> i—<sup>アー</sup> r—<sup>エル</sup> l. <sup>ガー</sup> girl. と云ふ様に覚えて御覽なさい。“inkbottle” の様に <sup>ティー</sup> t が二つ重つたものは <sup>ティー</sup> t—<sup>ティー</sup> t と云つても差支ありませんが、double (ダブる) 即ち「二重の」と云ふ言葉を使つて「ダブるティー」と云ふのが普通であります。

は略したと云ふ證據が判然と解るやうに、其次に終止符の(.)を打つことになつてゐます。

|     |     |      |         |
|-----|-----|------|---------|
| アイ  | アム  | エス   | ドダ      |
| I   | am  | S.   | Toda.   |
| ユ-  | ア-  | エ-イテ | ヤマダ     |
| You | are | H.   | Yamada. |

### 練習と應用

第一章では：-

(a)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ジス} \quad \text{イズ} \quad \text{ア} \quad \text{ペン} \\ \text{This} \quad \text{is} \quad \text{a} \quad \text{pen.} \\ \text{これは ペン である。} \end{array} \right.$

(b)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ざット} \quad \text{イズ} \quad \text{ア} \quad \text{インクボトル} \\ \text{That} \quad \text{is} \quad \text{a} \quad \text{ink-bottle.} \\ \text{それは インキ瓶 である。} \end{array} \right.$

今此 (a) (b) の兩文に第三章で習つた “boy”<sup>ボーイ</sup> “girl”<sup>ガール</sup> を應用しますと：-

(1)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ジス} \quad \text{イズ} \quad \text{ア} \quad \text{ボーイ} \\ \text{This} \quad \text{is} \quad \text{a} \quad \text{boy.} \\ \text{それは 少年で あります。} \end{array} \right.$

(2)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ざット} \quad \text{イズ} \quad \text{ア} \quad \text{ガール} \\ \text{That} \quad \text{is} \quad \text{a} \quad \text{girl.} \\ \text{それは 少女で あります。} \end{array} \right.$

と云ふ文が出来ます。“that” の代り “it”<sup>イット</sup> を用ひ

られると申しましたが、“that” は人にも物にも用ゐられますが、“it” は物や動物を指示するに用ひられて、人には用ひられません。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{イット} \quad \text{イズ} \quad \text{ア} \quad \text{ドッグ} \\ \text{It} \quad \text{is} \quad \text{a} \quad \text{dog.} \\ \text{それは 犬 である。} \end{array} \right.$

と云ふ事は出来ますが：-

It is a boy.

とは申されません。そこが “that” と “it” の用法の違ふ所であります。

次に第二章で習つた：-

(c)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ジス} \quad \text{ドッグ} \quad \text{イズ} \quad \text{ビッグ} \\ \text{This} \quad \text{dog} \quad \text{is} \quad \text{big.} \\ \text{この 犬は 大きい。} \end{array} \right.$

(d)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ざット} \quad \text{キャット} \quad \text{イズ} \quad \text{ブラック} \\ \text{That} \quad \text{cat} \quad \text{is} \quad \text{black.} \\ \text{あの 猫は 黒い。} \end{array} \right.$

と云ふ二つの構文に “boy” と girl とを應用しますと：-

(3)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ジス} \quad \text{ボーイ} \quad \text{イズ} \quad \text{ヤマダ} \\ \text{That} \quad \text{boy} \quad \text{is} \quad \text{Yamada.} \\ \text{この 少年は 山田 です。} \end{array} \right.$

(4)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ざット} \quad \text{ガール} \quad \text{イズ} \quad \text{ハナコ} \\ \text{That} \quad \text{girl} \quad \text{is} \quad \text{Hanako.} \\ \text{あの 少女は 花子です。} \end{array} \right.$

と斯う云へませう。

次に五つ六つの新らしい単語を覚えて、更らに廣く應用してゆきませう。

ジャパニーズ  
Japanese 「日本人」

イングリッシュマン  
Englishman 「英國人」

アメリカン  
American 「亞米利加人」

スクーラーボーイ  
School-boy 「男生徒」

スクーラーガール  
School-girl 「女生徒」

ジェントルマン  
Gentleman 「紳士」

レイディ  
Lady 「貴婦人；淑女」

次上の七語を第一章、第二章第三章に應用したなら、また面白い英文が幾つも出来て来る事だせう。例へば：—

“Japanese” 次下の發音に附けた假名の中黒字で太くしてある部分に此部文を力を入れて、高く、長く、強く、明確に發音せよと云ふ事でありませう。このことをアクセントと云ふのでありますが、アクセントの事を講義するとやゝこしくなりますから大略説明する事に致します。アクセントを付けて發音する時には、此太い假名にしてある部分を發音する時に頭を上にあげて發音し、ない部分の時に頭を下げて發音すれば自然にアクセントが獨りでに附きます。外人が談話する時に頭を上下させるのは此習慣からであります。

{ アイ アム ア ジャパニーズ  
I am a Japanese.  
私は である [一人の] 日本人  
(1) (4) (2) (3)

私は 日本人 で あります。

と同様に：—

{ アイ アム アン イングリッシュマン  
I am an Englishman.  
私は 英國人 で あります。

{ ユー アー アン アメリカン  
You are an American.  
あなたは である [一人の] 亞米利加人  
(1) (4) (2) (3)  
あなたは 亞米利加人 です。

と斯様にして “Japanese” や “American” の所に “lady” でも入れたら色々な英文が出来ませう。また第二章で習つた：—

{ ジス ドッグ イズ ビック  
This dog is big.  
この 犬は である 大きい  
この 犬は 大きい。

この構造に上の七語を入れて應用して見ると、更らに面白い英文が出来ませう。

{ ジス スクーラーボーイ イズ アン アメリカン  
This school-boy is an American.  
この 男生徒は である [一人の] 亞米利加人  
(1) (2) (5) (3) (4)  
この 男生徒は 亞米利加人 であります。

ざット    れイディ    イズ    ア    ジャパニーズ  
 { That    lady    is    a    Japan sc.  
 この    婦人は    である[一人の]    日本人  
 (1)    (2)    (5)    (3)    (4)  
 あの 婦人は 日本人 で あります。

ざット    ジャントるマン    イズ    アン    イングリッシュマン  
 { That    gentleman    is    an    Englishman.  
 あの    紳士は    である[一人の]    英國人  
 (1)    (2)    (5)    (3)    (4)  
 あの 紳士は 英國人で あります。

また第一章の:-

じす    イズ    ア    ペン  
 { This    is    a    pen.  
 これは ペン    で ある。

の“pen”の所に以上の七語を入れたらまた七通りの英文が出来て、第一章から第三章迄には可なり澤山な英文が覚えられた筈であります。

英語は斯様にして覚えてゆけば、さして苦痛もなく、英語の基礎と云ふものが頭の中に入つて参ります。何度も繰返して復習し練習して見るのが、英語熟達の秘訣であることを忘れずに練習下さい。

アクセントは“pen”とか、“dog”と云ふ一綴りの語にはありませんが、二綴り以上の語には必ずあります。それを記憶するのは初學者は困難であります。字引に(1)の附號のついてあるのは其しるしであります。大抵の字引は(1)のしるしのある前にある母音字を強く發音せよと云ふ事があります。例へば、la'dy, Eng'lishman, Amer'i'can, Gen'tleman とあります。本書の假名と對照して下さい。

### 英 習 字

〔國名や國民は大文字で書きます〕。

*I am a Japanese.*

*You are an Englishman.*

*He is an American.*

### 第 四 章

「(彼)は.....である」

「(彼女)は.....である」

この二つは謂ば前章の續きとも云ふべきもので、章を新たにして説明する迄もないのですが、一章の中に餘り澤山入れると諸君に食傷する虞れありますから、此章で説明し、尙ほ新語を入れて諸君の英語を益發達せしめてゆく事にしませう。



(a) あの 男は 少年です。

(b) あの 女は 少女です。

此 (a) (b) 二つの文を譯して見ませう。

(1) あの男は を <sup>ヒー</sup> he と云ひます。

(2) です は前章の <sup>アイ</sup> I の時は <sup>アム</sup> am になり、<sup>ユー</sup> you の時は <sup>アー</sup> are になりました。あの男、あの女の時の「です」は共に <sup>イズ</sup> is でよろしいのである。つまり第一章の「これはペンである」即ち「ペンです」の「です」と全く同一になりました。

(3) あの女は <sup>シー</sup> she と云ひます。

【發音】“he” や “she” の發音は一向にむづかしくない。「ヒー; シー」と云へばよいのです。“son” と “daughter” の發音は “sɒn” で “ɒ” は「ア」に極く似通つた音であるからそれに s 即ち スの尾から ウ音を抜き通つた スが加るから「サン」に近い音が出て来るのをある。“daughter” の音は “ɑ”

これ丈の事が解れば (a) (b) の兩文は譯せる筈でありませう。即ち:—

{これは ペン です。  
 {jis is a pen.  
 This is a pen.

{私は 少年 です。  
 {ai am a boy.  
 I am a boy.

も共に動詞〔こゝでは is と are, am〕が名詞〔こゝでは pen と boy〕の前に来て、日本文と比較しますと「これは——である——ペン」及び「私は——です——少年」と云ふ様になつてゐますからして、此場合も「彼は——です——少年」、「彼女は——です——少女」と云ふ様に配列しますと英語になります。始めの語の初めの一字を大文字にし、終りに終止符 (.) をつけまして:—

|     |               |               |              |                |
|-----|---------------|---------------|--------------|----------------|
|     | <sup>ヒー</sup> | <sup>イズ</sup> | <sup>ア</sup> | <sup>ホイ</sup>  |
| [a] | He            | is            | a            | boy.           |
|     | 彼は            | です            | 〔一人の〕        | 少年             |
|     | (1)           | (4)           | (2)          | (3)            |
|     |               |               |              |                |
|     | <sup>シー</sup> | <sup>イズ</sup> | <sup>ア</sup> | <sup>ガール</sup> |
| [b] | She           | is            | a            | girl.          |
|     | 彼女は           | です            | 〔一人の〕        | 少女             |
|     | (1)           | (4)           | (2)          | (3)            |

は オーに近い音であるから、“gh” は發音されない綴字と思つて結局 “dau’ter” を發音する積りで發音すればよい。英語には綴字があつて發音されない、黙音になるものが可なり澤山あります。第一章の所にあつた “inkbottle” の “tt” の中一つの丈が發音され、一つは黙音となるのである。此他これから出て來

次に：—

[c] それは 鼠 です。

を譯して見ませう。此文は第一章で既に習つて事で、「それは——である」の構文と全く同一である。即ち：—

|     |     |       |      |
|-----|-----|-------|------|
| イット | イズ  | ア     | ラット  |
| It  | is  | a     | rat. |
| それは | です  | 【一匹の】 | 鼠    |
| (1) | (4) | (2)   | (3)  |

こゝで注意したいのは、“I am……” “You are……” と「私は……」と「あなたは……」この動詞が相違してゐたが、「彼は……」、「彼女は……」の時、及び「それは……」の時、動詞は皆 “is” であることす。

二人の對話者の中自分、即ち「私は」が “I” であるし、話の相手の人、即「あなたは」が “you” である。而して「此二人の對話者以外の「あの人は」と云ふのは男なら “he” であるし、女なら “she” である。また對話者以外の、物や、動物は “it” と云ふのであります。但し、英語ではやさしい動物、例へば猫とか羊、または牝牛 兎、牝雞を指す時には “she” と云ふ女性な用ひ、犬とか、又は獅子の類の動物には男性の “he”

る “l” の次の “e” などはよく黙音となることがあります。“daughter” の “er” では音は「ドーター」と引張つて長音にしたものであつたが、近頃その發音では引張らないので、日本語の「タ」を軽く發音したものが此 “ter” の音であります。

を用ふることもあります。

日本語の「あの人は」と云ふ場合には或は男のこともあり、女のこともあるが、若し後へ續く名詞が女であれば、“she” を用ひるし、男であれば “he” を用ふるのが當然であります。例へば：—

|            |    |       |           |
|------------|----|-------|-----------|
| あの人は 息子です。 |    |       |           |
| ヒ—         | イズ | ア     | サン        |
| He         | is | a     | son.      |
| あの人は       | です | 【一人の】 | 息子        |
| あの人は 娘 です。 |    |       |           |
| シ—         | イズ | ア     | ド—タ       |
| She        | is | a     | daughter. |
| あの人は       | です | 【一人の】 | 娘         |

### 練習と應用

前章の應用欄新語の所で習つた單語がお解りになれば、次の英文の意味が解る筈であります。

- |     |     |    |    |             |
|-----|-----|----|----|-------------|
| (1) | ヒ—  | イズ | ア  | ジャパニーズ      |
|     | He  | is | a  | Japanese.   |
| (1) | ヒ—  | イズ | アン | イングリッシュマン   |
|     | He  | is | an | Englishman. |
| (3) | シ—  | イズ | アン | アメリカン       |
|     | She | is | an | American.   |
| (4) | ヒ—  | イズ | ア  | スク—るボーイ     |
|     | He  | is | a  | school-boy. |

- |     |     |    |   |              |
|-----|-----|----|---|--------------|
| (5) | シー  | イズ | ア | スクー-るガ-る     |
|     | She | is | a | school-girl. |
| (6) | ヒー  | イズ | ア | ヂェントるマン      |
|     | He  | is | a | gentleman.   |
| (7) | シー  | イズ | ア | れイディ         |
|     | She | is | a | lady.        |

[譯文]

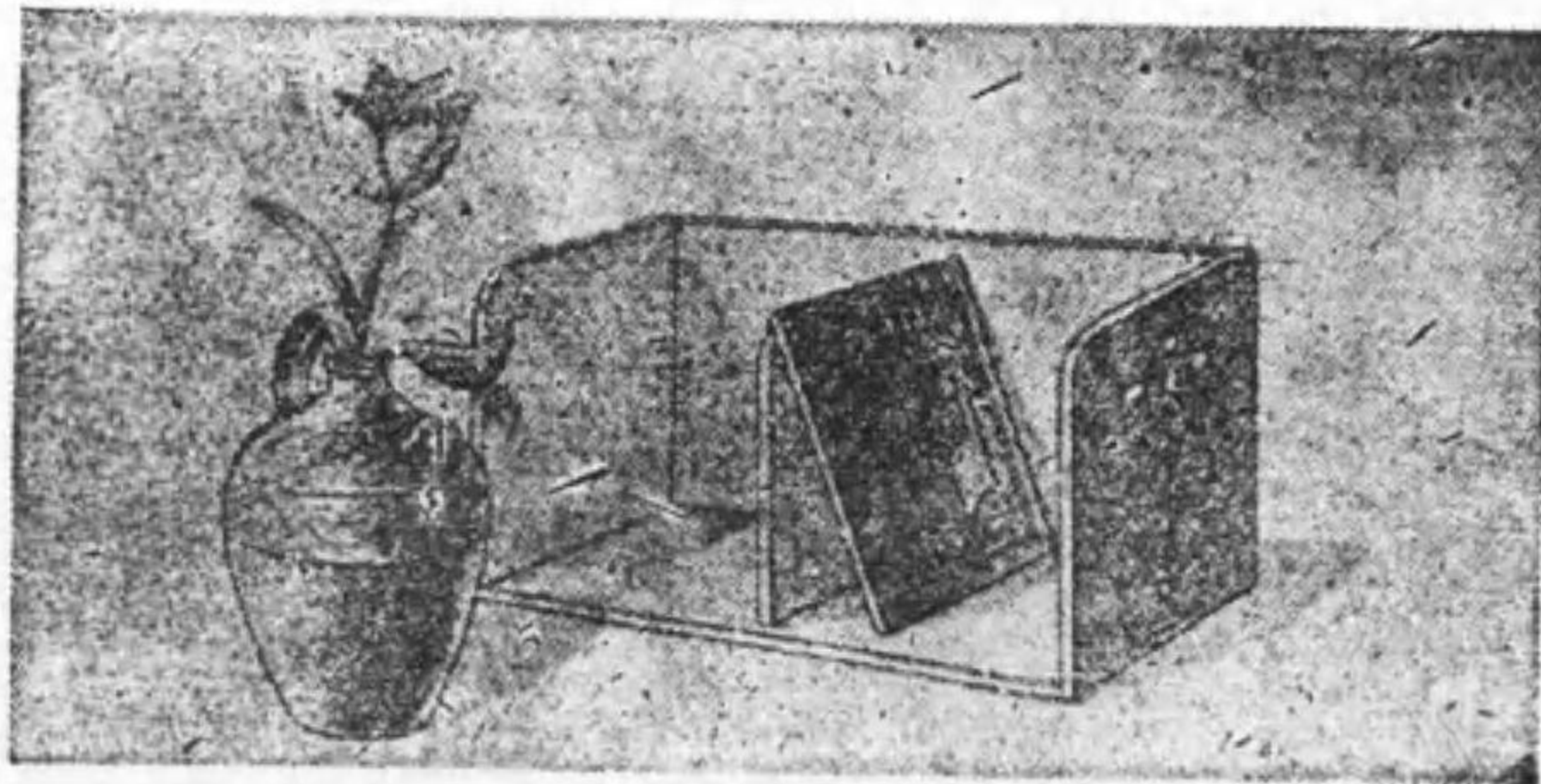
- (1) 彼は 日本人 です。
- (2) 彼は 英國人 です。
- (3) 彼女は 亞米利加人 です。
- (4) 彼は 男生徒 です。
- (5) 彼女は 女生徒 です。
- (6) 彼は 紳士 です。
- (7) 彼女は 淑女 です。

### 第 五 章

「此處に」.....がある」

「彼處に」.....がある」

の二つの構文を研究して見ませう。



[a] 「此處に」 本がある。

[b] その 本は 教科書 である。

[c] 「彼處に」 花がある。

[d] その 花は 花瓶 にある。

少し多過ぎるかも知れないが、だんだん馬力をかけて進むやうにしなければ、速達を期する事は出来ないであります。

(1) 此處に は <sup>ヒア</sup> here と云ひます。

(2) 本 は <sup>ブック</sup> book と云ひます。

(3) がある 即ち物の存在を示す動詞は <sup>イズ</sup> is である。即ち第一章の「である」と同一の語を使用するのであります。

これで (a) は出来たのである。其配列は矢張「此處に—ある—が」と云ふ様にする。詰り第一章の「これは—ある—で」と同一である。而して始めの文字の初めの一字を大文字にし、終りに終止符を用ふること及び名詞の前に冠詞を用ふることは同じであります。

【發音】 “here” “there” “book” “reader” “vase” の “in” “the” とこれ丈の新語の發音を研究しなければならぬ。▲here の e は長音だから「ヒア」と he- に力を入れて終りの e は黙音になる形である。而して “Here is—” と續いた時には “here is” とつゞけて「ヒアリズ」と讀んでよい。▲there は セィア でなく、ゼア である。而して “there is



|     |      |     |       |       |
|-----|------|-----|-------|-------|
|     | ヒア   | イズ  | ア     | ブック   |
| [a] | Here | is  | a     | book. |
|     | 此處に  | がある | 〔一冊の〕 | 本     |
|     | (1)  | (4) | (2)   | (3)   |

次に (b) の文を譯して見やう。第一章に於て「これはペンである」“This is a pen” を、第二章に於て「その……は——である」、即ち「その猫は黒い」<sup>ギット キャット イズ ブラック</sup>“That cat is black.” と云ふのを習つた筈である。今此 (b) の文を見るに此第二章で習つたものと同一構造である。以下少し違ふ所を一寸説明しやう。

(4) その本は第二章の通り“<sup>ギット</sup>That” でよいのでありますが、英語では一度擧げた「あの」「その」の後に同一物を指して「その……」と云ふ時は“<sup>ぎ</sup>the” と云ふ語をその前につけ、“<sup>ぎ</sup>the book” とします。此“the” は冠詞と申します。前に“a” “an” は冠詞であると申しましたが、“a” “an” は初めて擧げる名詞の前につけますから不定冠詞と申します。“the” は既に擧げ

…………” とあた時は「ゼア イズ」でもよいが、「ゼア リズ」と發音してよい。

▲book の oo であるから、第一編 母音の發音の所で説明した様に「ウ」に相當するから、それに“b” の プ〔但し、尾からウを抜いた音〕が入り“k” の「ク」が入つて發音は「ブック」となる〕但し「ク」の尾から「ウ」音を取去つたものであります。

て噂に出た名詞の前につけますからして 定冠詞 と申します。

(5) 教科書 は <sup>リーダ</sup>reader と申します。

(6) である は矢張 <sup>イズ</sup>is でよろしい。

以上説明した通り「その本」は“the book” と申しますが、「教科書」の reader と云ふのは初めて噂に出る言葉であるからして、不定冠詞の“a” を使用しまして“a reader” としなければなりません。而して其配列の順序は、矢張「この本は——である——教科書」と致します。

|     |     |      |     |       |         |
|-----|-----|------|-----|-------|---------|
|     | ぎ   | ブック  | イズ  | ア     | リーダ     |
| [d] | The | book | is  | a     | reader. |
|     | この  | 本は   | である | 〔一冊の〕 | 教科書     |
|     | (1) | (2)  | (5) | (3)   | (4)     |

今度 (c) を譯して見ませう。

(7) 彼處に は <sup>ゼア</sup>there と申します。自分に近い處を

▲reader の er は「ダー」に近い音で、“r” は「ル」音、der は「ダ」であるから「リーダ」となるのです。而して“rea”の所を強く發音して「リーダ」とするのです。

▲flower は「フラウア」と假名をあてゝある。これは「フラワ〜」としてもよいのだが、「ワ」と發音しやうとして獨りで「ワ〜」になるから特に「ワ〜」としなかつたのです。

▲vase の “a” が長音で「エー」となり“e” は黙音になる

指して <sup>ヒア</sup> here と云ひ、離れてある場所にあるものを指して there と云ふのです。

- (8) 花は <sup>フラウア</sup> flower と云ひます。
- (9) ある は物の所在でありますから、「である」と同様 <sup>イズ</sup> is と申します。

例により「彼所に——ある——花が」と配列すれば：—

|     |               |               |              |                 |
|-----|---------------|---------------|--------------|-----------------|
|     | <sup>ゼア</sup> | <sup>イズ</sup> | <sup>ア</sup> | <sup>フラウア</sup> |
| [c] | There         | is            | a            | flower.         |
|     | 彼所に           | ある            | 〔一本の〕        | 花(が)            |
|     | (1)           | (4)           | (2)          | (3)             |

断つて置くが “There is” と云ふのは真調は全然意味はないので、單に物の存在を示すに止るのであります。何れ後から詳しく説明します。

今度は (d) の「その花は花瓶にある」を譯して見ませう。これは今迄のものより稍むづかしいところがあるから、少し詳しく説明して見ませう。

- (10) その花は (b) の「その本」と同じく “flower”

形で「ヴァーズ」となるのです。「v」の發音のし方は上歯で下唇を軽く押へて息丈の音は f の「フ」音だが、聲を出せば「ヴ」の音が出ます。

- ▲in の i が ī であるから「イン」でよろしい。
- ▲the は 舌端を上下の前歯で軽く噛み其間から無理に息を出す様にして「ズィー」或は「ツィー」と云へば the の音になる。「ジー」となり易いから充分注意しなさい。

に “the” と云ふ定冠詞をつけて <sup>ぎ フラウア</sup> the flower と云へばよろしい。

- (11) 花瓶 は <sup>フラウア</sup> flower 「花」と「<sup>ヴァーズ</sup> vase」と云ふ <sup>フラウアヴァーズ</sup> flower-vase とくつけたとすればよい。
- (12) に は「……の中に」の意味でありますから、此場合の「に」は <sup>イン</sup> in と譯します。
- (13) ある は矢張物の所在であるからして <sup>イズ</sup> is と譯します。

此文の配列で “in” 「中」と云ふ語を何所に置けばよいか、まだ習はない事であるが、これは：—

その花は——ある——(の中)に——花瓶  
と云ふ配列にするのであります。即ち：—

|     |              |                 |               |               |              |                     |
|-----|--------------|-----------------|---------------|---------------|--------------|---------------------|
|     | <sup>ざ</sup> | <sup>フラウア</sup> | <sup>イズ</sup> | <sup>イン</sup> | <sup>ざ</sup> | <sup>フラウアヴァーズ</sup> |
| [d] | The          | flower          | is            | in            | the          | flower-vase.        |
|     | その           | 花は              | ある            | の中に           | その           | 花瓶                  |
|     | (1)          | (2)             | (6)           | (5)           | (3)          | (4)                 |

この文で “flower-vase の前に何故定冠詞を使用したかと云ふに「その花瓶」と云ふ意味で、對話者間にはどの花瓶であるかが分つてゐるからであります。

本書では “the” を單獨で發音する時には「ズィー」として置くが、文中にあつて他の語に附く場合には軽く「ざ」と發音した方がよいから、本書でも文中にある “the” に對しては「ざ」と振假名する事にしました。但し此次に来た語が母音で初つて居る場合には「ざ」とせず、「ずィ」と發音すべきであります。此例は後から機會あつた時に述べます。

### 練習と應用

本章では「……がある」と云ふ物の存在を示すには：—

ヒア イズ ア  
Here is a.....—

ゼア イズ ア  
There is a.....—

を用ひ、已に擧げた物の種類等を述ぶるには：—

ざ イズ  
The ..... is —

の形用を用ふ。又 已に擧げた物の所在を示す場合には：—

ざ イズ イン  
The ..... is in .....

の形を用ふ。此四通りの構文を説明した譯ではありますが、然らば諸君は 物の存在と所在とを併せて示す場合の構文はお氣付かれます筈だと思ひます。その形は：—

ゼア イズ ア イン  
[a] There is a.....in.....

の形を用ふるのである。即ち：—

花瓶の中に花がある。

と云ふ所在と存在とを表は共にするには：—

ゼア イズ ア フラウア イン  
There is a flower in  
彼處に ある 一本の 花が 中に

ざ フラウアヴァーズ  
the flower-vase.  
あの 花瓶

と云ふのである。此“the “flower-vase” の“the”、如きは「その花瓶」とか、此繪の中にある花瓶とか云ふ或る定まつた物を指して居るのであるから一々「あの」「この」と云ふ語を使用して日本語に譯さなくともよい。即ち [a] の様な邦文にすればよいのである。

イン アト オン バイ  
in の代りに at (の處に)、on (の上に)、by (の側に)

とか色々の語が代つて色々の意味を表はす事があります。例へば、第五章の繪の所に「本が本立の中にある」のを：—

本立の中に本がある。

ゼア イズ ア ブック イン ざ  
There is a book in the  
彼處に ある [一冊の] 本が の中に [その]

ブックスタンド  
book-stand.  
本立

「本立」のことを“book-stand”と云ふのです。

壁に地圖がある。

ゼア イズ ア マップ オン ざ  
There is a map on the  
そこに ある [一枚の] 地圖が の上に [その]

ウォール  
wall.  
壁

と云ふのです。<sup>マップ</sup>“map”は「地圖」のことで、<sup>ウォール</sup>“wall”は「壁」のことです。諸君はナショナルと云ふ英語讀本を御存知でせうが、あの本の第四課に次の文があります。

ざ      ヘン      イズ      オン      ざ      ネスト  
The    hen    is    on    the    nest.  
この 牝鶏(は) 居る の上に [この] 巢  
(1)    (2)    (6)    (5)    (3)    (4)

〔譯〕 牝鶏は巢の上に居る。

ざ      ネスト      イズ      オン      ア      ホクス  
The    nest    is    on    a    box.  
[この] 巢は ある の中に [一つの] 箱  
(1)    (2)    (6)    (5)    (3)    (4)

〔譯〕 巢は箱の中にある。

また同書第五課には：—

ざ      ビッグ      キャット      イズ      アト      ざ      ネスト  
The    big    cat    is    at    the    nest.  
この 大きな 猫(は) 居る の處に [この] 巢  
(1)    (2)    (3)    (7)    (6)    (4)    (5)

〔譯〕 大きな猫は巢の處に居る。

以上の説明によつて諸君の次の新語を知つた譯であります。

ヘン                      ネスト  
hen (牝鶏)              nest (巢)  
オン                      ホクス  
on (の上に)              box (箱)  
アト                      イズ  
at (の處に)              is (居る)

マップ                      ウォール  
map (地圖)                  wall (壁)

以上の 新語の中で、諸君は“is”の新語「居る」の意味が不思議であらうと思ひます。第一章の：—

ジス      イズ      ア      ヘン  
This    is    a    pen.  
これは    である    一本の    ペン

〔譯〕 これはペンである。

の“is”は「である」であつたのが：—

ヒア      イズ      ア      ブック  
Here    is    a    book.  
此處に    ある [一冊の]    本

〔譯〕 此處に本がある。

の“is”は「ある」即ち所在を示すことになり、また、すぐ前の所で：—

ざ      ヘン      イズ      オン      ざ      ネスト  
The    hen    is    on    the    nest.  
この 牝鶏は 居る の上に [この] 巢

〔譯〕 牝鶏は巢の上に居る。

と“is”は「居る」と物の場所を示すことになりました。斯様に一つの“is”でも日本文に譯す場合には色々に變化してゆくものである事を忘れてはなりません。

英 習 字

*There is a map on  
the wall.*

*There is a flower  
in the vase.*

第 六 章

「……………は——を有つて居る」。  
の構文を究めませう。



- [a] 私は お父様が あります。
- [b] あなたは お母様が あります。
- [c] あの<sup>(男)</sup>人は 御兄弟が あります。
- [d] あの<sup>(女)</sup>人は 御姉妹が あります。
- [e] 田中には 叔父さんが あります。
- [f] 馬には 一つの尾が あります。
- [g] それには 一本の足が あります。

以上の七つは要するに「……は——を有す」と云ふ文に過ぎませんから、一つにまとめて説明を致します。先づ「あります」即ち「有す」と云ふ説明は後廻しにして、英文に出て来る新語から説明を致しませう。

- (1) お父様 即ち「父」のことを英語では <sup>ファーざ</sup> father と申します。
- (2) お母様 即ち「母」を、<sup>マざ</sup> mother と申します。
- (3) 御兄弟 即ち「兄」か「弟」何れでもかまはず英語では <sup>ブラざ</sup> brother と申します。
- (4) 御姉妹 即ち「姉」か「妹」何れでもかまはず英

【發音】 本章には七つの新單語がありますから、此發音で注意すべきことを申し上げます。

▲father (父) であるからして「**ファー**」を強く「**ざ**」を軽くして「**ファーざ**」とする。「**フээрザー**」と發音せぬ様。前にも申した通り、-er は長く引張らぬがよい。

▲mother (母) 前の father と同一要領で「**マざ**」としなさい。

語では <sup>スイスタ</sup> sister と申します。

(5) 叔父さん、英語では 叔父、伯父 の區別なく

<sup>アックル</sup> uncle と申します。

(6) 馬 は <sup>ホース</sup> horse と申します。

(7) 尾 は <sup>テイル</sup> tail と申します。

(8) 足 ; 脚 共に <sup>レグ</sup> leg と申します。

第三章で：—

{ 私は少年です。  
アイ アム ア ホイ  
I am a boy.

{ あなたは少女です。  
ユー アー ア ガー  
You are a girl.

即ち “I” の時には “am”, “you” の時には “are” を用ひました。また第四章で：—

- ▲brother (兄弟)「ブラダ」であります。
- ▲sister (姉妹)「スイスタ」であります。これも “-er” を「ター」と引張らずに、軽く「タ」と附ければよろしい。
- ▲uncle (叔父)は「アックル」即ち「アン」を強くして「クル」を軽く附ける。“-cle” の所の發音は前編父音の發音 “l” の所を参照せられ度い。

{ 彼 男 は 紳士 です。  
ヒー イズ ア ジェントルマン  
He is a gentleman.

{ 彼女は 淑女 です。  
シー イズ ア レイディ  
She is a lady.

{ それは 犬 である。  
イット イズ ア ドッグ  
It is a dog.

即ち “he” “she” “it” 共に “is” を用ひました。今これを表にして見ますと：—

|     |           |       |
|-----|-----------|-------|
| アイ  | アム        |       |
| I   | am.....   |       |
| ユー  | アー        |       |
| You | are ..... |       |
| ヒー  | イズ        | ..... |
| He  |           |       |
| シー  |           |       |
| She | is.....   |       |
| イット |           |       |
| It  |           |       |

でありましたが、本章の「有つ」を手つとり早く表にして見ます：—

- ▲horse (馬)は「ホース」、「ホールズ」と發音せずに「ホー」を強く發音して「ス」を軽く附ける。
  - ▲tail (尾)は「テイル」で「タイ」を強くして「ル」を軽くつける。「ター」にしても悪いさは申しぬが、あんまり引張らぬ方がよからう。
- 以上の七語の様な對語を覚える方法は兩語づゝ對語にし吾人

|           |   |           |
|-----------|---|-----------|
| アイ<br>I   | } | have..... |
| ユー<br>You |   |           |
| ヒー<br>He  | } | has.....  |
| シー<br>she |   |           |
| イット<br>It |   |           |

と云ふのであります。さて今度配列をどうするかと申しますと、漢文の配列と全く同一でありまして：—

|    |   |    |
|----|---|----|
| 吾  | 有 | 父  |
| 君  | 有 | 母  |
| 彼  | 有 | 兄弟 |
| 彼女 | 有 | 姉妹 |
| 田中 | 有 | 叔父 |
| 馬  | 有 | 尾  |
| それ | 有 | 足  |

と云ふ配列でありますから、此通り前の六文を配列すれば立派な英文になるのであります。即ち：—

連想を應用して記覚えれば早い。例へば：—

|                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| ファーザ<br>father (父).....   | マザ<br>mother (母)    |
| ブラザー<br>brother (兄弟)..... | シスター<br>sister (姉妹) |
| アックル<br>uncle (叔父).....   | アアント<br>aunt (叔母)   |

- [a]     アイ        ハヴ        ア        ファーザ  
      I        have      a        father.  
      私は     があります [一人の]     父  
      (1)        (4)        (2)        (3)
- [b]     ユー        ハヴ        ア        マザ  
      You      have      a        mother.  
      あなたは があります [一人の]     母
- [c]     ヒー        ハズ        ア        ブラザ  
      He        has      a        brother.  
      彼は     があります [一人の]     兄弟  
      (1)        (4)        (2)        (3)
- [d]     シー        ハズ        ア        シスター  
      She      has      a        sister.  
      彼女は   があります [一人の]     姉妹  
      (1)        (4)        (2)        (3)
- [e]     タナカ      ハズ        ア        アックル  
      Tanaka    has      a        uncle.  
      田中は   があります [一人の]     叔父  
      (1)        (4)        (2)        (3)
- [f]     ア        ホース      ハズ      ア        テイル  
      A        horse    has      a        tail.  
      馬(には) があります [一本の]     尾  
      (1)        (4)        (2)        (3)
- [g]     イット      ハズ        ア        レッグ  
      It        has      a        leg.  
      それには がある [一本の]     足  
      (1)        (4)        (2)        (3)

こゝで (f) に出て来た “A horse has a tail.” に “A” と云ふ冠詞をつけると「馬といふ動物は」の意味で、馬一般を示すこととなります。

の様にして口ぐせに發音して居ると何時とはなしに記憶されるものである。

### 練習と應用

こゝで一才文法のことを述べさせて頂く事にしませう。第二章で、“this” “that” は代名詞で、物を指示する代名詞だから指示代名詞であると述べましたが：—

|    |     |    |      |
|----|-----|----|------|
| アイ | ユー  | ヒー | シー   |
| I  | you | he | she. |

の四つは主として人を指し示す代名詞であるから、これらを人代名詞と申します。而して I を一人稱、you を二人稱、he, she, it を三人稱、と申します。

前にも文の主となるものが主語であつて、日本語の「は、が」のつくものであると申しましたが、前の I, you, he she, it は皆主語となるものであります。其主語の動作状態を表はすものが動詞であると述べましたが、am や are, have 等は皆動詞であります。日本文法もさうであります。主語と動詞とは調和をさせて：—

|     |          |            |
|-----|----------|------------|
| アイ  | アム       | } .....である |
| I   | am       |            |
| ユー  | アー       |            |
| You | are..... |            |
| ヒー  | イズ       | } .....である |
| He  | is       |            |
| シー  | イズ       |            |
| She | is       |            |
| イット | イズ       | } .....である |
| It  | is       |            |

|     |           |            |
|-----|-----------|------------|
| アイ  | ハヴ        | } .....を有す |
| I   | have..... |            |
| ユー  | ハヴ        |            |
| You | have..... |            |
| ヒー  | ハズ        | } .....を有す |
| He  | has.....  |            |
| シー  | ハズ        |            |
| She | has.....  |            |
| イット | ハズ        | } .....を有す |
| It  | has.....  |            |

と云ふ様に主語と動詞とは同じ「.....を有す」と云ふのでも違ひますから、常に I am.....; You are.....; He (She, It) is.....; I have.....; You have.....; He has.....; She has..... と口ぐせに聲を出して、發音して、嫌でも間違はぬ様にして置くべきであります。

第一章乃至第六章の説明がお解りになれば諸君は次の英文が譯せる筈であります。〔新語は括弧の中に入れて假名を振つて置ませう〕

(1) There is a book on

the table.  
(卓)

(2) The book is a note-book.  
(雜記帳)

(3) Here is a flower in the flower-vase.



- (4) The <sup>ぎ</sup> flower <sup>イズ</sup> is <sup>イエラウ</sup> yellow. (黄色)
- (5) <sup>アイ</sup> I <sup>ハヴ</sup> have <sup>ア</sup> a <sup>ハット</sup> hat. (帽子)
- (6) <sup>ユー</sup> You <sup>ハヴ</sup> have <sup>ア</sup> a <sup>ナイフ</sup> knife. (小刀)
- (7) <sup>ヒー</sup> He <sup>ハズ</sup> has <sup>ア</sup> a <sup>ペンスル</sup> pencil. (鉛筆)
- (8) <sup>シー</sup> She <sup>ハズ</sup> has <sup>ア</sup> a <sup>デスク</sup> desk. (机)
- (9) <sup>ギ</sup> The <sup>ボーイ</sup> boy <sup>ハズ</sup> has <sup>ア</sup> a <sup>ドッグ</sup> dog.
- (10) <sup>ガール</sup> The <sup>ガール</sup> girl <sup>ハズ</sup> has <sup>ア</sup> a <sup>キャット</sup> cat.

[譯]

- (1) 卓の上に本があります。
- (2) その本は雑記帳です。
- (3) 此花瓶に花があります。
- (4) その花は黄色 (yellow) であります。
- (5) 私は帽子 (hat) をもつてゐます。
- (6) あなたは小刀 (knife) を持つてます。
- (7) 彼は鉛筆 (pencil) を持つてゐます。
- (8) 彼女は机 (desk) を有つてゐます。
- (9) 少年は犬を有つてゐます。
- (10) 少女は猫をもつてゐます。

英 習 字

*I have three brothers.*  
*You have two sisters.*  
*He has five daughters.*  
*She has six sons.*

サリー トゥー ファイヴ  
 [three (三つ、三人)、 two (二つ、二人)、 five (五つ、  
 五人)、 <sup>シックス</sup> six (六つ、六人)]

第 七 章

「.....は ~ の — である」

と云ふ構文を説明ませう。

- [a] 私 は あなた の 叔父 である。
- [b] あなたは 私の 甥 である。
- [c] 彼は 彼女の 兄 である。
- [d] 彼女は 彼の 妹 である。
- [e] 太郎は 山田の 息子 である。
- [f] 國子は 君子の 娘 である。

以上六通の邦文は何れも、「……は～の——である」と云ふ構造で、諸君は第三章、第四章をもう一度読んで頂き度い。

第三章で：—

{ 私は……………である。  
 { アイ アム  
 { I am……………  
 { あなたは……………である。  
 { ユー アー  
 { You are……………

第四章で：—

{ 彼は……………である。  
 { ヒー イズ  
 { He is……………  
 { 彼女は……………である。  
 { シー イズ  
 { She is……………

と云ふのを習つた筈であります。本章では此第三章、第四章の真中に「～の」と云ふ言葉が入つた丈のことであるからして、この「～の」と云ふ言葉を研究すれば事足りる譯であります。

- (1) 私の は <sup>マイ</sup> my と申します。
- (2) あなたの は <sup>ユア</sup> your と申します。
- (3) 彼の は <sup>ヒズ</sup> his と申します。
- (4) 彼女の は <sup>ハー</sup> her と申します。

次に固有名詞〔即ち 固有の名前〕の場合には：—

(5) 山田の と云ふ時には Yamada's とする〔この即ち Yamada (山田) の次に (') を入れてこの、を アホストロフエーと云ふ〕其次に “s” をつけて「～の」と云ふのは所有の意味を表はすのです。同様に：—

(6) 君子の と云ふのを Kimiko's と云ふのです。

(7) 甥 は <sup>ネグイユ</sup> nephew と申します。

以上の準備が出来れば譯せる筈であります。第三章第四章の形をここに掲げて對照しながら譯して見ませう。

第二章で：—

|       |     |       |      |
|-------|-----|-------|------|
| { アイ  | アム  | ア     | ボーイ  |
| { I   | am  | a     | boy. |
| { 私は  | である | 〔一人の〕 | 少年   |
| { (1) | (4) | (2)   | (3)  |

〔譯〕 私は少年である。

そこで本章の (a) の：—

|    |      |       |     |
|----|------|-------|-----|
| 私は | あなたの | 叔父    | である |
| ∴  | ∴    | ∴     | ∴   |
| I  | your | uncle | am  |

これを英文の配列の順序に直せば、正しい (a) の譯文になるのです。

|         |     |      |        |
|---------|-----|------|--------|
| { アイ    | アム  | ユア   | アックル   |
| { [a] I | am  | your | uncle. |
| { 私は    | である | あなたの | 叔父     |
| { (1)   | (4) | (2)  | (3)    |

[a] と同様にして (b) 以下を譯せば：—

|      |    |        |     |
|------|----|--------|-----|
| あなたは | 私の | 甥で     | ある  |
| ∴    | ∴  | ∴      | ∴   |
| ユー   | マイ | ネグイユ   | アー  |
| You  | my | nephew | are |

|        |     |     |         |
|--------|-----|-----|---------|
| [b] ユー | アー  | マイ  | ネグイユ    |
| You    | are | my  | nephew. |
| あなたは   | である | 私の  | 甥       |
| (1)    | (4) | (2) | (3)     |

|    |     |         |      |
|----|-----|---------|------|
| 彼は | 彼女の | 兄       | である。 |
| ∴  | ∴   | ∴       | ∴    |
| ヒー | ハー  | ブラギ     | イズ   |
| He | her | brother | is   |

|        |     |     |          |
|--------|-----|-----|----------|
| [c] ヒー | イズ  | ハー  | ブラギ      |
| He     | is  | her | brother. |
| 彼は     | である | 彼女の | 兄        |
| (1)    | (4) | (2) | (3)      |

|     |     |        |     |
|-----|-----|--------|-----|
| 彼女は | 彼の  | 妹      | である |
| ∴   | ∴   | ∴      | ∴   |
| シー  | ヒズ  | スイスタ   | イズ  |
| She | his | sister | is  |

|        |     |     |         |
|--------|-----|-----|---------|
| [d] シー | イズ  | ヒズ  | スイスタ    |
| She    | is  | his | sister. |
| 彼女は    | である | 彼の  | 妹       |
| (1)    | (4) | (2) | (3)     |

|      |          |     |     |
|------|----------|-----|-----|
| 太郎は  | 山田の      | 息子  | である |
| ∴    | ∴        | ∴   | ∴   |
| タロー  | ヤマダス     | サン  | イズ  |
| Taro | Yamada's | son | is  |
| [e]  |          |     |     |

|         |     |          |      |
|---------|-----|----------|------|
| [e] タロー | イズ  | ヤマダス     | サン   |
| Taro    | is  | Yamada's | son. |
| 太郎は     | である | 山田の      | 息子   |
| (1)     | (4) | (2)      | (3)  |

|        |          |          |     |
|--------|----------|----------|-----|
| 國子は    | 君子の      | 娘        | である |
| ∴      | ∴        | ∴        | ∴   |
| クニコ    | キミコズ     | ドータ      | イズ  |
| Kuniko | Kimiko's | daughter | is  |
| クニコ    | イズ       | キミコズ     | ドータ |
| 國子は    | である      | 君子の      | 娘   |
| (1)    | (4)      | (2)      | (3) |

以上で、所有のことは、お解りになりましたらうが、  
 “my” “your” “his” “her” “its” 等は皆代名詞  
 の所有格でありまして、Kimiko's” “Toro's” 等  
 名詞の所有格と云ふのです。其わけは “Toro” とか、  
 は “Kimiko” と云ふのは前編羅馬字の所で説明し  
 た通り固有名詞と云ふのであります。固有名詞でなくも  
 普通の名詞列へば “boy” とか “son” とか云ふのも  
 所有格になります。そしてその場合にもアホストロフ  
 エー (') を入れて、“s” をつけるのです。即ち：—

|     |        |       |   |
|-----|--------|-------|---|
| {   | その少年の本 |       |   |
| ぎ   | ホイズ    | ブック   |   |
| The | boy's  | book. |   |
| {   | その     | 少年の   | 本 |

|         |       |      |
|---------|-------|------|
| } その犬の箱 |       |      |
| ぎ       | ドックス  | ボックス |
| The     | dog's | box. |

と云ふのです。然し名詞の所有格を作るのは元來が物を所有されるものでなければなりません、従つて生物だけが所有格になられますが、無生物の名詞に此('s)をつけて所有格を作る事が出来ません。

|        |       |       |
|--------|-------|-------|
| マイ     | サンズ   | ネイム   |
| (A) My | son's | name. |
| 私の     | 息子の   | 名     |

|         |       |       |
|---------|-------|-------|
| ぎ       | バード   | ネスト   |
| (B) The | birds | nest. |
| その      | 鳥の    | 巢     |

は“son” “bird” 共に生物だから差支ありませんが:—

|      |            |       |
|------|------------|-------|
| ぎット  | マウンティンズ    | ネイム   |
| That | mountain's | name. |
| その   | 山の         | 名     |

はいけません。然らば斯う云ふ場合にはどうするかと申しますと、日本語の「山の名」の「の」に相當すると“of”と云ふ言葉を使ひまして:—

|      |      |     |      |           |
|------|------|-----|------|-----------|
| ぎ    | ネイム  | オヴ  | ぎット  | マウンティン    |
| The  | name | of  | that | mountain. |
| [その] | 名    | の   | その   | 山         |
|      | (4)  | (3) | (1)  | (2)       |

と云ふ様に申します。この「の」と云ふ“of”を使つて(A)(B)を書き換へることも出来ます。實は此“of”を使ふ方が進んだ英語であるのです。

(A) の文を書き換へれば:—

|      |      |     |     |      |
|------|------|-----|-----|------|
| ぎ    | ネイム  | オヴ  | マイ  | サン   |
| The  | name | of  | my  | son. |
| [その] | 名    | の   | 私の  | 息子   |
|      | (4)  | (3) | (1) | (2)  |

(B) の文を書き換へれば:—

|      |      |     |      |       |
|------|------|-----|------|-------|
| ぎ    | ネスト  | オヴ  | ぎット  | バード   |
| The  | nest | of  | that | bird. |
| [その] | 巢    | の   | その   | 鳥     |
|      | (4)  | (3) | (1)  | (2)   |

と斯うなります。此形を覚えて下さい。

[發音] 本章で研究しなければならぬ新語の發音は; “your.” “my,” “his,” “her” 及び “s” をつけた “Yamada's” とか “Kimiko's” と云ふのと, “sci's” と云ふ六語である。

▲my (私の) は “m” は「ム」であるし “y” は “i” と等しく「アイ」であるから「ムアイ」即ち「マイ」となるのである。

▲your (あなたの) は “you” (あなた) に “r” をつけたものであるから「ユア」だが、「ユ」に力を入れて、其後に軽く「ア」をつければよろしい。

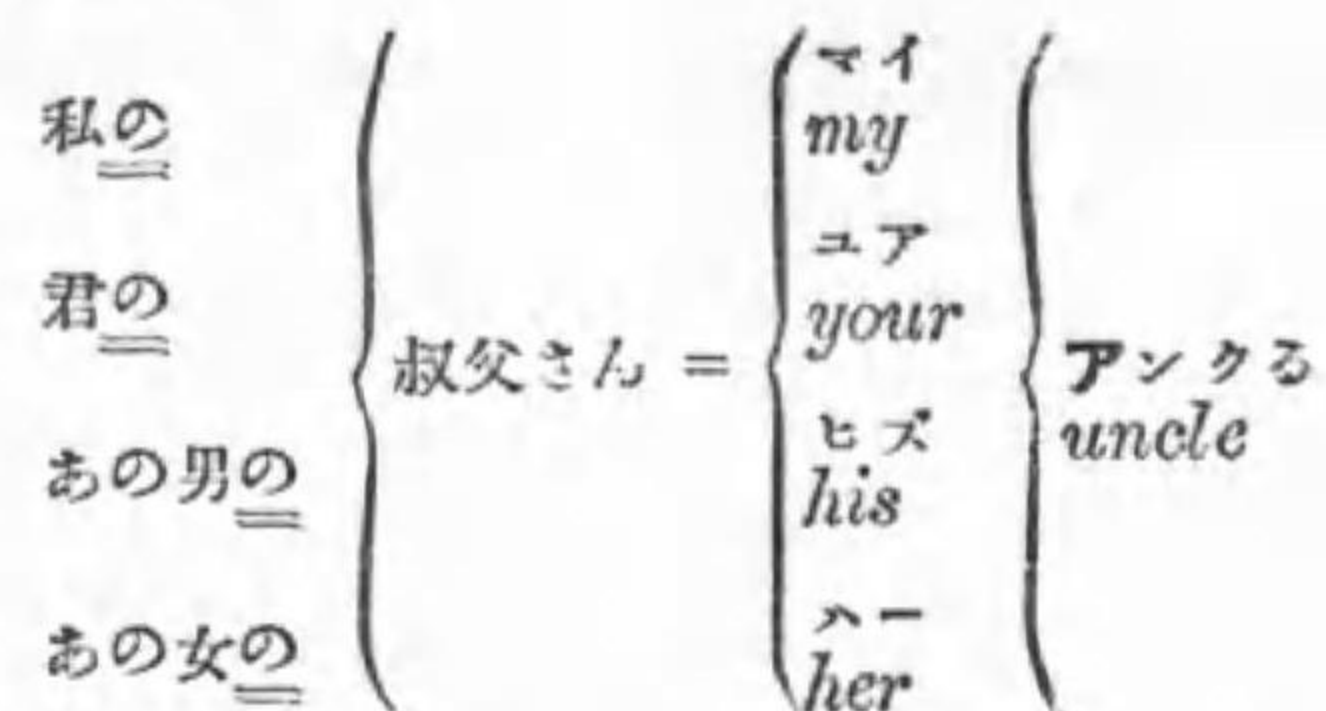
▲his (彼の) は “i” がつまつて “i” だか「ヒズ」但し「ズ」は邦語の「ズ」の語尾から「ウ」音をつけてはならぬ。軽く「ズ」とせねばなりません。

▲her (彼女の) は “e” は「ア〜」であるし、“h” は「フ」であるから「ハ〜」に近い音が出て来るのである。

▲Yamada's (山田の) は「ヤマダズ」と “s” を「ズ」とつければよろしい。son's は “s” を「ズ」として「サンズ」と發音する其理由は後から説明致します。

### 練習と應用

諸君は口僻の様に “my; your; his; her” を繰返して記憶し:—



の如くして練習すべきであります。前にも申した通り英語では叔父伯父の區別なしに “uncle” と申します。前章にありました叔母伯母の區別なしに “aunt” と申します。“brother” (兄弟) も「兄」も「弟」も共に “brother” と云ふし、“sister” (姉妹) も「姉」も「娘」も共に “sister” と云ふのです。然し、特に必要があつて兄と弟とを區別し、姉と妹とを區別する場合の使ひ方もあるが、それは後から申し上げます。

“I” “you” “he” “she” は人代名詞の主語とな

▲son (息子の) の “o” は “u” と同一で「ア」に近い音であるし。“s” は「ス」の軽い音である、又 “n” は「ン」に近い音だから「スン」即ち「サン」の發音になるのである。

諸君は (初學者) 先づ假名のついた英語の字引を買求めて一つことの發音を記憶しなければなりません。

ると述べたが、其主語たる人代名詞を人代名詞の主格と云ふのである。而して本章に述べた “my” (私の)、“your” (君の)、“his” (彼の)、“her” (彼女の) の如き總て「の」のつく物の所有の意味を表はすものを人代名詞の所有格と云ふのです。今表にして見ると:—

|     | 主 格                                                 | 所 有 格                                                |
|-----|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 一人稱 | アイ<br>I (私は)                                        | マイ<br>my (私の)                                        |
| 二人稱 | ユー<br>you (君は)                                      | ユア<br>your (君の)                                      |
| 三人稱 | ヒー<br>he (彼は)<br>シー<br>she (彼女は)<br>イット<br>it (それは) | ヒズ<br>his (彼の)<br>ハー<br>her (彼女の)<br>イツ<br>its (それの) |

上の表の中で “its” と云ふのは未だ説明せぬが、これは「動物」とか「物體」の所有格を表はすのです。

### 第 八 章

#### 單 數 と 複 數

本編の第一章から第七章迄の講義は物の單一なる場合のみを説明して來ました。例へば「一冊の本」とか「一人の兄」とか「一本の花」とか云ふ場合のみでありましたが、本章では單一なる場合でなしに複數 [一つ以上] の場合はどうすればよいかと云ふことを詳しく説明して

見ませう。

日本語は此単数と複数と云ふ事を 八釜敷申しません。一冊しかない場合でも、また数冊ある場合でも「本があります」と申します。尤も「澤山ある」とか「少ししかない」と云ふ事もありますが、大抵の場合は単複の感念を明瞭に申しませんが、英語では此単数複数と云ふ事を非常に八釜敷申します。西洋人は勘定高いなど云ふ事を申してはいけません。要する所文法が日本文より正しいのであります。

英語では一人一物を表はす時には名詞の前へ不定冠詞

の “a” を附けまして例へば：—

一冊の本      <sup>ア</sup>ブック  
                 a book

一本のインキ瓶      アン インクボトル  
                         an ink-bottle.

と申しますが、二人二物以上の場合、即ち複数の場合は冠詞をつけませんで、名詞の語尾に “s” と云ふ文字を附けて複数であることを表示します。例へば：—

(二冊以上)の本      ブックス  
                         books

と申します。

### (1) 複数にした時の発音

複数にした時の発音は本来「ス」の語尾から「ウ」をとり去つた：—

ブックス  
books (本二冊以上)

の様に發音するのが普通であります。次の場合には「ズ」と濁つて發音します。

(1) 母音にて終れる名詞に “s” を附けた場合。 <sup>ホイズ</sup>boys (少年)

(2) 濁發音例へば、“d” “g” にて終れる語に “s” をつけた場合。 <sup>ドッグズ</sup>dogs (犬)

(3) “l” “m” “n” “r” にて終れる語に “s” を附けた場合。 <sup>ペンズ</sup>pens (ペン) <sup>ガールズ</sup>girls (少女) <sup>ブラザーズ</sup>brothers (兄弟) 其他：—

“t” にて終れる語に “s” をつけた場合には「ツ」と發音す <sup>キャッツ</sup>cats (猫) “d” にて終る語に “s” を附けた場合には「ヅ」と發音す。 <sup>ハンズ</sup>hands (手)

“se” “ce” “ze” “ge” にて終る名詞に “s” を添へた場合には語尾にある “e” と一緒に「イズ」と發音す。 <sup>ホースイズ</sup>horses (馬)

### (2) 複数の作り方

複数名詞を作るには “s” を語尾に添へればよいと申しましたが、或語の複数形を作るには此規則ではゆかぬものがあります。

(1) “es” を添へて複数形を作るものに：—

(a) “ss” “she” “ch” “x” で終る名詞には “es” を

添へます。例：—

|         |        |
|---------|--------|
| 單 數     | 複 數    |
| ボックス    | ボックスイズ |
| box (箱) | boxes  |

|            |         |
|------------|---------|
| ガラス        | ガラスイズ   |
| glass (硝子) | glasses |

(b) 父音+y にて終るイ詞を複数にする場合には “y” を “i” 變じて同様に “es” を添へます。

|                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| 單數                  | 複數              |
| レイディ<br>lady (淑女)   | レイディズ<br>ladies |
| 「比較」<br>ボイ boy (少年) | ボイズ<br>boys     |

[boy の y は父音でなく母音であるから “s” 丈を付けるのです]

(c) “f” 或は “fe” にて終れる名詞を複數にする場合には “f” 或は “fe” を “v” に變じて “es” を付けます。而して “es” を「ズ」と發音す。

|                   |                |
|-------------------|----------------|
| 單數                | 複數             |
| ナイフ<br>knife (小刀) | ナイヴズ<br>knives |

(d) 父音+o にて終れる名詞の大部を複數にする場合には “es” をつけ、此場合の發音も「ズ」とする。

|                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 單數                | 複數              |
| ヒアロウ<br>hero (英雄) | ヒアロウズ<br>heroes |

以上のものは規則的であります、次の名詞は不規則的に複數形を作ります。

|                           |                      |
|---------------------------|----------------------|
| 單數                        | 複數                   |
| マン<br>man (男; 大人)         | メン<br>men            |
| ウマン<br>woman (女)          | ウミン<br>women         |
| チェントルマン<br>gentleman (紳士) | チェントルメン<br>gentlemen |
| フット<br>foot (足)           | フィート<br>feet         |
| トゥース<br>tooth (齒)         | ティーズ<br>teeth        |
| マウス<br>mouse (廿日鼠)        | マウス<br>mice          |
| チャイルド<br>child (子供)       | チルドラン<br>children    |
| オクス<br>ox (牡牛)            | オクスン<br>oxen         |

### 第九章

#### 單數と複數及び其應用

前章で述べた通り名詞が複數になると、文を作る場合には他の部分にも影響して来る。第一章の：—

|     |                   |                 |               |                  |
|-----|-------------------|-----------------|---------------|------------------|
| [a] | ジス<br>This<br>これは | イズ<br>is<br>である | ア<br>a<br>一本の | ペン<br>pen.<br>ペン |
|-----|-------------------|-----------------|---------------|------------------|

の “pen” が複數になり、“pens” となると “this” と云ふ指示代名詞も “these” となり、「である」の “is” が “are” となるのであります。而して “a” と云ふ冠詞は「一つ」と云ふ意味であるからして複數の場合には當然なくなります。そこで、上の文は：—

|                     |                  |                   |
|---------------------|------------------|-------------------|
| ジーズ<br>These<br>これは | アー<br>are<br>である | ペンズ<br>pens<br>ペン |
|---------------------|------------------|-------------------|

となつてしまいます。前章で述べた通り日本文では單數複數の區別なしに單に「これはペンである」と云つても一本の事であるか、數本のペンであるかは見なければ分ぬ譯だか、英語では文の上に立派に表はして申します。

“this” が “these” となると同様 “that” は “those” に代ります

|                    |                 |               |                   |
|--------------------|-----------------|---------------|-------------------|
| ギット<br>That<br>それは | イズ<br>is<br>である | ア<br>a<br>一疋の | キャット<br>cat.<br>猫 |
|--------------------|-----------------|---------------|-------------------|

が複數になると：—

|     |                     |                  |                    |
|-----|---------------------|------------------|--------------------|
| [b] | ゾウズ<br>Those<br>それは | アー<br>are<br>である | キャッツ<br>cats.<br>猫 |
|-----|---------------------|------------------|--------------------|

となるのである。尙ほ [a] [b] 兩文の “this”

“that” は共に指示代名詞であると 共に 文の主語をなしてゐる指示代名詞の主格である。主語が複数になれば其主語の働きを表はす動詞 [上文の場合 is] もそれにつれて複数になるのであります。

指示代名詞が主語である場合「である」の動詞は “is” で:—

|      |          |     |
|------|----------|-----|
| ジス   | イズ       |     |
| This | is ..... | である |
| ギット  | イズ       |     |
| That | is ..... |     |

が、複数になると「である」動詞は當然 “are” になつて:—

|       |           |     |
|-------|-----------|-----|
| ジーズ   | アー        |     |
| These | are ..... | である |
| ゾウズ   | アー        |     |
| Those | are ..... |     |

であります。次に「持つ」意味の場合の動詞は “has” で:—

|      |     |           |     |
|------|-----|-----------|-----|
| ジス   | ホイ  | ハズ        |     |
| This | hoy | has ..... | を持つ |
| ギット  | ホイ  | ハズ        |     |
| That | boy | has ..... |     |

であるが、この「持つ」が複数になると動詞は “have” に代ります。

|       |      |            |     |
|-------|------|------------|-----|
| ジーズ   | ホイズ  | ハヴ         |     |
| These | boys | have ..... | を持つ |
| ゾウズ   | ホイズ  | ハヴ         |     |
| Those | boys | have ..... |     |

となります。斯様に単数名詞の主格に伴ふ「である」

“is” が複数ときは “are” に代り、「持つ」動詞の “has” は “have” に代ることを忘れぬやう解りよい様に表にしてお目に掛けませう。

|       |                             | 数    | 用法           | 意味  |
|-------|-----------------------------|------|--------------|-----|
| ジス    | イズ                          | } 単数 | 近いものを指し示す    | これは |
| This  | is (である)<br>boy has (持つ)    |      |              |     |
| ジーズ   | アー                          | } 複数 |              |     |
| These | are (である)<br>boys have (持つ) |      |              |     |
| ギット   | イズ                          | } 単数 | 離れた遠いものを指し示す | それは |
| That  | is (である)<br>boys has        |      |              |     |
| ゾウズ   | アー                          | } 複数 |              |     |
| Those | are (である)<br>boys have (持つ) |      |              |     |

### 練習と應用

第一章第二章に習つた英文と (単数形) と其複数形とをこゝに掲げて練習して見ませう。

第一章:—

|       |     |           |          |
|-------|-----|-----------|----------|
| ジス    | イズ  | ア         | ペン       |
| This  | is  | a         | pen. (單) |
| ジーズ   | アー  | ペンズ       |          |
| These | are | pens. (複) |          |

[譯] これはペンである。



That is an ink-bottle. (單)  
 Those are ink-bottles. (複)

【譯】これはインキ瓶である。

第二章：—

This dog is big. (單)  
 These dogs are big. (複)

【譯】この犬大きい。

【注意】“big” (大きい) と云ふ語は形容詞でありますからして、複數にする必要はありません。次の“black”も同様であります。

That cat is black. (單)  
 Those cats are black. (複)

【譯】その猫は黒い。

第二章應用のところにある英文の單複兩形を掲げて見ませう。

This is a black cat. (單)  
 These are black cats. (複)

【譯】これは黒い猫である。

That is a big dog. (單)  
 Those are big dogs. (複)

【譯】それは大きな犬である。

因に第一章の「練習と應用」欄に於て、“That” (それは) の代りに軽く “it” を用ひると申しました。

即ち：—

That is an ink-bottle.

の代りに：—

It is an ink-bottle.

とも云ふと申しましたが、此 “it” の複數は “its” とは申しませんで、“That” の複數形の “Those” を用ひます。

次に第五章で習つた、物の所在を表す文の複數はどうするかと申しますと：—

Here is a book.  
 Here are books.

此處に本がある。

と云ふ様に “here” は複數にせず動詞と名詞を複數にするのであります。

The book is a reader.  
 The books are readers.

その本は教科書である。

ゼア イズ ア フラウア  
{ There is a flower.

ゼア アー フラウアズ  
{ There are flowers.

(其處に) 花がある。

ぎ フラウア イズ イン ぎ フラウアヴァーズ  
{ The flower is in the flower-vase.

ぎ フラウアズ アー イン ぎ フラウアヴァーズ  
{ The flowers are in the flower vase.

その花は花瓶にある。

“flower vase” を複数にしないわけは、一本の花瓶に数本の花を挿してあるものと思へばよい。

英 習 字

*These boots are black.*  
*These shoes are white.*

第 十 章

人 代 名 詞 の 複 数

前章で指示代名詞の複数形を述べましたが、此単複の區別は人代名詞にもあります。

(單 數) (複 數)

第一人稱 <sup>アイ</sup>I (私) <sup>ウィー</sup>we (私達)

(單數) (複數)

第二人稱 <sup>ユー</sup>you (君) <sup>ユー</sup>you (君達)

第三人稱 <sup>ヒー</sup>he (彼) (彼等)

<sup>シー</sup>she (彼女) <sup>ゼイ</sup>they 彼女等

<sup>イット</sup>It (それ) それら

斯様に“<sup>アイ</sup>I”の複数は“<sup>ウィー</sup>we”であるが、“<sup>ユー</sup>you”の複数は依然とし“<sup>ユー</sup>you”である。三人稱の複数は三つ共“<sup>ゼイ</sup>they”である。“<sup>ユー</sup>you”を使用する場合にはそれが果して複数であるかどうかは其後に來る動詞や名詞が複数であれば複数の感念になり、單數であれば單數の感念になるのである。また“<sup>ゼイ</sup>they”も男か女か動物類であるかは矢張前後から判斷するより外途がない。

複数人代名詞を主語に用ひた場合はこれに伴ふ動詞は「である」動詞のときは一樣に“<sup>アー</sup>are”である。「持つ」動詞の時は矢張一樣に“<sup>ハヴ</sup>have”である。今表にして見ると：—

[1] 「である」動詞の變化

| 人 稱 | 單 數                          | 複 數                          |
|-----|------------------------------|------------------------------|
| 一人稱 | <sup>アイ</sup> I <u>am</u>    | <sup>ウィー</sup> we <u>are</u> |
| 二人稱 | <sup>ユー</sup> you <u>are</u> | <sup>ユー</sup> you <u>are</u> |

| 人 稱 | 單 數                                | 複 數                           |
|-----|------------------------------------|-------------------------------|
| 三人稱 | ヒー<br>he<br>シー<br>she<br>イット<br>it | イズ<br>is<br>ゼイ アー<br>they are |

(2) 「持つ」動詞の變化

| 人 稱 | 單 數                                | 複 數                |
|-----|------------------------------------|--------------------|
| 一人稱 | アイ ハヴ<br>I have                    | ウィー ハヴ<br>we have  |
| 二人稱 | ユー ハヴ<br>you have                  | ユー ハヴ<br>you have  |
| 三人稱 | ヒー<br>he<br>シー<br>she<br>イット<br>it | ゼイ ハヴ<br>they have |

前章と同様に複数形の文は冠詞を附けないのは勿論である。即ち:—

{ アイ アム ア ガー  
I am a girl.  
 私女は少女です。

を複数にすれば “I” が “<sup>ウィー</sup>we” なり “am” が “<sup>アー</sup>are” に變り “<sup>ガー</sup>girl” を複数にして “<sup>ガーズ</sup>girls” にして、意味も「私は」は「私共は」に變ります。

即ち:—

{ <sup>ウィー</sup>アー <sup>ガーズ</sup>  
We are girls.  
 私共は少女です。

二人稱が複数になりますと、“you” と云ふ主語も、其主語の働きを表はす動詞 “are” も變りません名詞だけが複数形になりまして、冠詞の “a; an” はなくなります。即ち:—

{ <sup>ユー</sup>アー ア <sup>ステューダント</sup>  
You are a student.  
 君は學生であります。

を複数に致しますと:—

{ <sup>ユー</sup>アー <sup>ステューダツツ</sup>  
You are students.  
 君達は學生であります。

今度第六章の複数形を作つて見ませう。

第六章には:—

{ アイ ハヴ ア <sup>ファーザ</sup>  
I have a father.  
 私は父があります。

と云ふのでありますが、此 “<sup>アイ</sup>I” (私は) を複数に致しまして「私共」と云ふ “<sup>ウィー</sup>We” に致します。すると “a father” 即「一人の父」も複数にして “<sup>ファーザズ</sup>fathers” になるものと思ふかも知れませんが、必ずしもさうではありません。なぜなら私共と云ふ意味が兄弟五人でも兄弟姉妹合計して十人であつても矢張二人以上の場合で

したら「私共」と申されませう。例外は別と致しまして  
假令兄弟姉妹が幾人あらうと其父や母は一人である筈で  
すからして、“I” が “We” となりましても “a  
father” と申される筈であります。だから、——

ウイー ハヴ ア ファーザー  
{ We have a father.  
私共は あります 一人の 父(が)  
私達は父があります。

同様の理屈からして「兄弟がある」と云ふ事を申すに  
しても、一人の場合もあれば二人以上の場合もあります  
からして：——

ウイー ハヴ { brothers  
                  { a brother  
{ We have  
私共は兄弟があります。

で兩文成立する譯であります。前に述べました“am”  
とか“is”とか“are”など云ふ動詞〔これを文法で  
は Be 動詞と申します〕は謂ば數學の公式の様に等號  
(=) の様な意味がありまして、“is” “am” の前後  
が等しいのでありますから、主語の名詞が單數なら動詞  
も單數になります。例へば：——

{ アイ アム ア ボイ  
{ I am a boy.  
私は少年です。

{ ユー アー ア ガール  
{ You are a girl.  
あなたは少女であります。

{ ヒー イズ ア マン  
{ He is a man.  
彼は男であります。

{ ジス イズ ア ペン  
{ This is a pen.  
これはペンである。

と云ふ様に「私=少年」「君=少女」「彼=男」「これ  
=ペン」と云ふ風になりますからして、複數にすれば動  
詞も名詞も複數形になるのが定則です。即ち：——

{ ウイー アー ボイズ  
{ We are boys.  
私共は少年である。

{ ジーズ アー ペンズ  
{ These are pens.  
これはペンである。

これに反し「持つ」と云ふ“have”動詞は數人で一  
個を持つ場合もあるし、一人で數個を所有することもあ  
るからして、必ずしも複數動詞の次に複數名詞が伴ふも  
のとは限らないのであります。由來動詞と云ふものは主  
語に従ふものでありますからして、主語が單數なら動詞  
も單數、主語が複數なら動詞も複數であります。此事を  
間違はぬ様にされ度いものであります。

次に今まで説明しなかつたが、<sup>アンド</sup>“and” (……と；及  
び) と云ふ接續の言葉〔文法上接續詞と申します〕で名  
詞と名詞とを接續して、例へば「兄と妹とが……した」

など云ふ二つの名詞が主語をなしてゐる場合にはその主語の動きを表はす動詞は複数形を用ひます。

太郎は少年である。

であれば：—

タロー イズ ア ホイ  
Taro is a boy.

でよろしいが、若し「太郎と次郎は……」と云ふ様に主語が二つになれば動詞は複数になると云ふのであります。

太郎と次郎とは少年である。

の「と」は “and” と云ふので結ぶから：—

タロー アンド ジロー アー ホイズ  
Taro and Jiro are boys.  
太郎 と 次郎 である 少年

と云ふのであります。但し断つて置くが、主語が複数であれば動詞が複数形であると云ふのでありまして、假令 “and” で接続されても、主語が単数であれば動詞は単数でありますから此點も誤らぬ様に注意して下さい。

例へば：—

彼女は一人の息子と一人の嬢とを持つてゐる。

と云ふ文を譯すには、息子 son「嬢 daughter」とを “and” で接続しても、主語なる「彼女」が単数であるからして、動詞は単数でよろしいのです。即ち；—

シー ハズ ア サン アンド ア ドータ  
She has a son and a daughter.

これと反對に：—

息子と嬢とが一冊の本を持つ。

と云ふ場合には主語が、「息子、嬢」の二人になり複数になるからして動詞も複数になります。

ギ サン アンド ドータ ハヴ ア ブック  
The son and daughter have a book.

尤も「本を数冊持つ」と云ふ様に本が複数になると勿論 “a book” が “books” と複数になるのは當然であります。

少年と少女は本（数冊）を持つ

ギ ホイ アンド ガール ハヴ ブックス  
The boy and girl have books.

理屈的に此理由を申しますと、Be 動詞 [am is are] は前にも申した通り、此動詞の左右は等数 (=) であるから “have” と云ふ動詞は必ずしも一致するものでない。数人で一つのものを持つこともあるが、数人で数個を持つこともあることを繰返して申上げて置きます。

終りに第七章で習つた：—

マイ ブック  
私 の 本—my book

ヒズ ブック  
彼 の 本—his book

ハー キャット  
彼女の猫—her cat

が複数になり：—

私共の本

彼達（あの人達）の本

彼女達（あの女達）の猫

になつた場合を研究しなければなりません。

私の本—<sup>マイ ブック</sup>my book  
私共の本—<sup>アウア ブック</sup>our book

であります。若し「本」も複数であれば勿論：—

私共の本(数冊) <sup>アウア ブックス</sup>our books

同様に：—

彼達の犬—<sup>ゼア ドッグ</sup>their dog  
彼女達の猫—<sup>ゼア キャット</sup>their cat  
それらの馬—<sup>ゼア ホース</sup>their horse

となるので、詰り、“his” “her” “its” も複数になると同しく “their” となります。今これを表に  
して見ますと：—

|     | 単 数                                                     | 複 数 *                          |
|-----|---------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 一人稱 | マイ<br>my (私の)                                           | アウア<br>our (私共の)               |
| 二人稱 | ユア<br>your (君の)                                         | ユア<br>your (君達の)               |
| 三人稱 | ヒズ<br>his (あの男の)<br>ハー<br>her (あの女の)<br>イツ<br>its (それの) | <sup>ゼア</sup><br>their (あの人達の) |

斯様になるのでありますから、第七章に掲げた文の單

複兩形を擧げて見せませう。

私はあなたの叔父です  
(單) <sup>アイ アム ユア アンクル</sup>  
( I am your uncle.

私共はあなた方の叔父です  
(複) <sup>ウー アー ユア アンクルズ</sup>  
( We are your uncles.

あなたは私の甥です  
(單) <sup>ユー アー マイ ネヴュー</sup>  
( You are my nephew.

あなたは私共の甥です  
(複) <sup>ユー アー アウア ネヴューズ</sup>  
( You are our nephews.

彼は彼女の兄弟である  
(單) <sup>ヒー イズ ハー ブラダ</sup>  
( He is her brother.

● 彼等は彼女達の兄弟である  
(複) <sup>ゼイ アー ハー ブラダズ</sup>  
( They are her brothers.

彼女は彼の妹である  
(單) <sup>シー イズ ヒズ スイスタ</sup>  
( She is his sister.

彼女達は彼(男)の妹である  
(複) <sup>ゼイ アー ヒズ スイスタズ</sup>  
( They are his sisters.

以上の文の中、日本文の下線を引いてある部分に注意  
され度し。

*I have many class  
mates  
They are good schol-*

*ars.*

メニ クラスメイツ グッド  
[many (澤山の)、classmates (同級生)、good (良い)、  
ズコラズ  
scholars (學生)]

第 十 一 章

「……………は～～を——する」  
と云ふ構文を研究して見ませう。

- [a] 私は (私の) 父を愛す。
- [b] 私の父は私を愛す。
- [c] 君は (君の) 父を愛す。
- [d] 君の父は君を愛す。
- [e] 彼は (彼の) 弟を愛す。
- [f] 彼の弟は彼を愛す。
- [g] 彼女は (彼女の) 妹を愛す。
- [h] 彼女の妹は彼女を愛す。

以上六通りの日本文の中一つ置きに「私を」「彼を」

「彼女を」と人代名詞の入つたものを入れてあります。

- (1) 私はは前の表にありました通り I<sup>アイ</sup> でよろしい。
- (2) (私の) 父は「私の」は my<sup>マイ</sup> である「父」は  
ファーさ<sup>マイ</sup> father であるから、「私の父」は my father<sup>マイ ファーさ</sup>  
である筈です。
- (3) 愛す<sup>らヴ</sup> は初めて出て来る語ですが love と申し  
ます。

而して英文としての配列は漢文流に：—

吾 愛 (吾)父  
(1) (3) (2)

の様になりました：—

[a] アイ らヴ マイ ファーさ  
I love my father.  
私は 愛す 私の 父を  
(1) (4) (2) (3)

と云ふ英文になりましたが、これで正しい英文であり  
ます。(b) の日本文を見ますと、(a) の文の反対に  
「私の父は私を愛す」と云ふ様になつてゐます。

- (4) 私の父は (a) の文にある通り my father<sup>マイ ファーさ</sup>  
であります。
- (5) 私を<sup>ミー</sup> と云ふのが初めて習ふ言葉で英語では  
me と申します。
- (6) 愛す<sup>らヴ</sup> は love と申します。

配列は矢張り漢文式に：—

吾父(は) 愛(す) 吾(を)

と云ふ様になりまして：—

マイ ファーザ ラヴ ミー  
My father love me.

でよさうに思はれますが、英語では三人稱〔“she” “it”〕が單數が文の主語をなしてゐる時は動詞は語尾に“s”を添へまして〔便宜上動詞の複數形と申して置きます〕“love”が“loves”と變るのであります。尙ほ此動詞のことに就きましては第十七章に於て詳しく申上げますから、こゝではさうするものであると記憶して置いて頂きたい。〔my father は三人の單數であると云ふことは話をしてゐる自分が一人稱で、話の相手方が二人稱、それ外の者は三人稱である事は前に説明しましたから既に御解りでせう。“My father”——私の父〕を「彼、彼女」としても同じでせう〕だから (b) の譯文は：—

マイ ファーザ ラヴズ ミー  
〔b〕 My father loves me.  
私の 父(は) 愛す 私を  
(1) (2) (4) (3)

となります。

(c) の文は、諸君は今迄習はなかつた言葉は一つもないから直ちに：—

ユー ラヴ ユア ファーザ  
〔c〕 You love your father.  
君は 愛す 君の 父を  
(1) (4) (2) (3)

と譯せる譯であります。 (d) の「君を」と云ふ「を」のつくものは未だ習はぬが、これは矢張“you”と申

します。尙ほ (d) は (b) 同様主語の“Your father”は三人稱の單數でありますから動詞“love”に“s”を添へまして“loves”とします。

ユア ファーザ ラヴズ ユー  
〔d〕 Your father loves you.  
君の 父は 愛す 君を  
(1) (2) (4) (3)

〔注意〕「君の父」と云ふのは二人稱になりさうに思ふかも知れませんが、「話の相手」以外の人を指してゐるのですから三人稱であります。

(e) 以下 (h) 迄は全部三人稱の單數になるのでありますからして、其主語の働きを表はす動詞は“s”をつけまして“loves”になる譯であります。

ヒー ラヴズ ヒズ ブラザ  
〔e〕 He loves his brother.  
彼は 愛す 彼の 弟を  
(1) (4) (2) (3)

“his brother”の代りに「彼を」と云ふ言葉にしますと、未だ習はぬ言葉であります。これは“him”と云ふのであります。そこで (f) の文を譯して見ますと：—

ヒズ ブラザ ラヴズ ヒム  
〔f〕 His brother loves him.  
彼の 弟は 愛す 彼を  
(1) (2) (4) (3)

と云ふ事になります。

同様に：—

シー ラヴズハー スィスタ  
〔g〕 She loves her sister.  
彼女は 愛す 彼女の 妹(を)  
(1) (4) (2) (3)



“her sister” の代りに「彼女を」と云ふ言葉に更へますと、「彼女を」は彼女のと云ふ同じ形の “her” になりますから：—

|     |               |                 |                |               |
|-----|---------------|-----------------|----------------|---------------|
|     | <sup>ハー</sup> | <sup>スイスタ</sup> | <sup>ラヴズ</sup> | <sup>ハー</sup> |
| [h] | Her           | sister          | loves          | her.          |
|     | 彼女の           | 妹は              | 愛す             | 彼女を           |
|     | (1)           | (2)             | (4)            | (3)           |

以上の説明で：—

|             |   |                      |
|-------------|---|----------------------|
| <u>私を</u>   | は | <sup>ミー</sup><br>me  |
| <u>あなたを</u> | は | <sup>ユー</sup><br>you |
| <u>彼を</u>   | は | <sup>ヒム</sup><br>him |
| <u>彼女を</u>  | は | <sup>ハー</sup><br>her |

である事か解つた筈であります。此中「あなたを」は主格となる「あなたは」の形と同一で“you”であります。「彼女を」は「彼女の」と云ふ所有格と同一の形の“her”であります。

今度これらの「……を」のつく “me” “you” “him” “her” か複数は次の如く云ひます。

|             |                |                       |
|-------------|----------------|-----------------------|
| <u>吾々を</u>  | は              | <sup>アス</sup><br>us   |
| <u>貴君方は</u> | は              | <sup>ユー</sup><br>you  |
| <u>彼男達を</u> | } <u>彼等を</u> は | <sup>ゼム</sup><br>them |
| <u>彼女達を</u> |                |                       |

と申します。今「……を」の単数形と複数形とを表にして掲げませう。

|     | 単 数                                                                                    | 複 数                                |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 一人稱 | <sup>ミー</sup><br>me (私を)                                                               | <sup>アス</sup><br>us (私共を)          |
| 二人稱 | <sup>ユー</sup><br>you (貴君を)                                                             | <sup>ユー</sup><br>you (君達方を)        |
| 三人稱 | <sup>ヒム</sup><br>him (彼男を)<br><sup>ハー</sup><br>her (彼女を)<br><sup>イット</sup><br>it (それを) | <sup>ゼム</sup><br>them (彼等;<br>それら) |

終りに文法上の説明を一寸して置きたいと思ひます。前に「は」や「が」つくものは主格であると申した。次に「の」のつく、例へば「私の」とか「太郎の」とか云ふのが所有格であると申したが、今度「……を」とか「……と」または「……に」のつく、例へば「私を」とか「私と」、「私に」とかつくものを目的格と云ふのであります。而して人代名詞の「……に」のつくものを人代名詞の目的格と云ふのであります。従来習つた代名詞の、主格、所有格、目的格の一人稱、二人稱、三人稱を表にすれば次の通りであります。

| 數格<br>人稱 | 單           |              |             | 複            |              |              | 數格<br>人稱     |      |
|----------|-------------|--------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------|
|          | 主           | 所有           | 目的          | 主            | 所有           | 目的           |              |      |
|          | …ハガ         | …ノ           | ヲトニ         | …ハガ          | …ノ           | ヲトニ          |              |      |
| 一人 { 私   | アイ<br>I     | マイ<br>my     | ミー<br>me    | ワイ<br>we     | ワウ<br>our    | アス<br>us     | 吾々 } 一人      |      |
| 二人 { 貴君  | ユー<br>you   | ユア<br>your   | ユ<br>you    | ユー<br>you    | ユア<br>your   | ユ<br>you     | 貴君方 } 二人     |      |
| 三人 {     | 彼男          | ヒー<br>he     | ヒズ<br>his   | ヒム<br>him    | ゼイ<br>they   | ゼア<br>their  | ゼム<br>them   | } 三人 |
|          | 彼女          | シー<br>she    | ハー<br>her   | ハー<br>her    | ゼイ<br>they   | ゼア<br>their  | ゼム<br>them   |      |
|          | これ          | ジス<br>this   | ディス<br>this | ディス<br>this  | ヒーズ<br>these | ヒーズ<br>these | ヒーズ<br>these |      |
|          | あれ          | ザット<br>that  | ザット<br>that | ザット<br>that  | ソーズ<br>those | ソーズ<br>those | ソーズ<br>those |      |
|          | それ          | イット<br>it    | イツ<br>its   | イツ<br>it     | ゼイ<br>they   | ゼア<br>their  | ゼム<br>them   |      |
| 生物名詞     | ドック<br>dog  | ドッグ<br>dog's | ドッグ<br>dog  | ドッグ<br>dogs  | ドッグ<br>dogs' | ドッグ<br>dogs  | 生物名詞         |      |
| 無生名詞     | デスク<br>desk |              | デスク<br>desk | デスク<br>desks |              | デスク<br>desks | 無生名詞         |      |

第十二章

「……………でない」

「……………を持たない」

今迄の説明は「……………である」とか「……………を持つ」とか云ふ肯定したもののみでありましたが、今度は「……………でない」「……………を持たない」と云ふ打消の文を説明させよう。

[a] これは犬でない。

[b] 私は少年でない。

[c] 彼は紳士でない。

[d] 私は本がない。

[e] 彼女は姉妹がない。

の五通りの日本文を譯して見ませう。此五通りの文には今迄習つた言葉のみでありますから、直ちに譯せる筈であります。

「である」動詞のことを Be 動詞と申しました。Be 動詞とは：—

イズ アー アム  
is are am

の三通りありますが、此動詞の打消には：—

ノット  
not

を用ひます。ですから；—

{これは犬である

{ジス イズ ア ドッグ  
This is a dog.

の否定文が即ち：—

[a] これは犬でない。

であります英文にしての配列は日本文にしますと、

「であるない」と云ふ様に：—

イズ ノット  
is not  
である ない

と「である」を打消のです。即ち：—

これは でない 犬

ジス イズ ノット ア ドッグ  
[a] This is not a dog.

假令複数文でも “not” は複数になりませんで、

ビーズ アー ノット ドッグズ  
These are not dogs.  
これは でない 犬

と云ふのです。次に (b) の文も全くこれと同一配別の順序に致しまして：—

アイ アム ノット ア ボイ  
[b] I am not a boy.  
私は でない [一人の] 少年  
(1) (4) (2) (3)

と云ひます。(c) も「である」動詞の打消でありますからして；—

ヒー イズ ノット ア ジェントルマン  
[c] He is not a gentleman.  
彼は でない 一人の 紳士  
(1) (4) (2) (3)

(d) 以下は “have” 動詞の打消であります。此 “have” 動詞の打消には：—  
ノウ  
no

と云ふ語を用ひまして “is not” とした様に「持つ、ない」と云ふ形に致しまして：—

私は本を持つてゐる。

は：—

アイ ハヴ ア ブック  
I have a book.  
私は 持つてゐる [一冊の] 本  
(1) (4) (2) (3)

と申しますから：—

[d] 私ば本がない。

は (a) 乃至 (c) の様にして：—

アイ ハヴ ノウ ア ブック  
I have no a book.  
私は がない [一冊の] 本

と云ひさうに思はれますが “have” や “has” を含んだ文の打消には “a” を入れませんで “no” 丈に致します。それは理屈から考へましても「持たない」と云ふのですから “a” の必要がなくなる譯であります。

そこで (d) の譯文は：—

アイ ハヴ ノウ ブック  
[d] I have no book.  
私は がない 本

と申します。若し主格が複数になりましたら：—

ウィー ハヴ ノウ ブック  
We have no book.  
私共は がない 本  
(1) (3) (2)

従つて (e) は：—

シー ハズ ノウ スィスタ  
[e] She has no sister.  
彼女は がない 姉妹  
(1) (3) (2)

### 練習と應用

ビー アム アー イズ  
Be [am, are, is] 動詞の打消には “not” を用ひ  
ハヴ ハズ  
have [has も同様] 動詞の打消には “no” を用ふ。

此規則を忘れてはなりません。

- (1)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{それは鳥でない。} \\ \text{That is not a bird.} \\ \text{それは (1) でない (4) 〔一羽の〕 (2) 鳥 (3)} \end{array} \right.$
- (2)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{それは鼠でない。} \\ \text{It is not a rat.} \\ \text{それは (1) でない (4) 〔一匹の〕 (2) 鼠 (3)} \end{array} \right.$
- (3)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{この本は字引でない。} \\ \text{This book is not a dictionary.} \\ \text{この本〔は〕 (1) でない (5) 〔一冊の〕 (3) 字引 (4)} \end{array} \right.$
- (4)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{樹がない。} \\ \text{There is no tree.} \\ \text{彼處に (1) がない (3) 樹 (2)} \end{array} \right.$
- (5)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{椅子がない。} \\ \text{Here is no chair.} \\ \text{此處に (1) がない (3) 椅子 (2)} \end{array} \right.$

〔注意〕 “there is” “here is” は Be 動詞であるが、これは例外で打消の場合には “not” を使わずに “no” を使ふことになつてゐますから、御注意下さい。次に “There is……”

“Here is……” は共に所在を表はすものでありまして日本語では「此處；彼處」と譯をつけますが、實は意味のない言葉であります。若し日本語の：—

郵便函がそこにある。

と云ふのであつたら：—

- (6)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{私ば金がない。} \\ \text{I have no money.} \\ \text{私は (1) がない (3) 錢 (2)} \end{array} \right.$
- (7)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{君には兩親がない。} \\ \text{You have no parents.} \\ \text{君は (1) がない (3) 兩親 (2)} \end{array} \right.$
- (8)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{彼には祖父がない。} \\ \text{He has no grand-father.} \\ \text{彼には (1) がない (3) 祖父 (2)} \end{array} \right.$
- (9)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{彼女には祖母がない。} \\ \text{She has no grand-mother.} \\ \text{彼女には (1) がない (3) 祖母 (2)} \end{array} \right.$
- (10)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{山田は軍人でない。} \\ \text{Yamada is not a soldier.} \\ \text{山田は (1) ではない (4) 〔一人の〕 (2) 軍人 (3)} \end{array} \right.$
- (11)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{田中は馬を持つてゐない。} \\ \text{Tanaka has no horse.} \\ \text{田中は (1) 持つてゐない (3) 馬 (2)} \end{array} \right.$

ゼア イズ ア ポウスト ゼア  
There is a post there

と云ふ様に “there” を繰返さなければなりません。

アイ ハヴ ア ペン バット アイ ハヴ ノット  
 I have a pen, but I have no  
 私は を持つ ペン 然し 私は を持たない  
 (1) (3) (2) (4) (5) (7)

(13) ファウンティンペン  
 fountain-pen.  
 万年 筆  
 (6)

〔譯〕 私はペンを持つてゐますが、万年筆は持つてま  
 せん。

ユー アー ア ソウダジャ バット アイ アム ノット  
 You are a soldier, but I am not  
 君は である 軍人 だが 私は でない  
 (1) (3) (2) (4) (5) (7)

(14) ア ソウダジャ  
 (a soldier.)  
 軍 人  
 (6)

〔譯〕 君は軍人でだが、私は軍人でない。

ジス イズ ア ペン バット イット イズ ノット  
 This is a pen, but it is not  
 これは である ペン 然し それは でない  
 (1) (3) (2) (4) (5) (7)

(12) ア ファウンティンペン  
 a fountain-pen.  
 万年 ペン  
 (6)

〔譯〕 これはペンです。たが(but)万年筆(fountain-pen)  
 ではありません。

### 第 十 三 章

#### 問 と 答 (その一)

〔Be 動詞の部〕

第一章乃至第十二章迄習つたものは悉く「……である」

とか「……を持つ」と云つた様な普通文ばかりで  
 「……ですか」「……を持つてゐますか」と云ふ  
 問の形はなかつたのですが、本章では其間の形と答への  
 形とを研究して見ませう。

[a] これは鳥ですか。

[b] はい鳥です。

[c] いいえ、鳥ではありません。

[d] あなたは少年ですか。

[e] はい、少年です。

[f] いいえ、少年ではありません。

先づこの位にして暫次研究してゆきませう。先づ：—

これは鳥です。

ジス イズ ア バード  
 This is a bird.  
 これは である [一羽の] 鳥  
 (1) (4) (2) (3)

と申します。而して此文の主語は“*This*”で、其主  
 語の働きを表はす語、即ち動詞は“*is*”であります。此  
 文の間：—

これは鳥ですか。

は主語と動詞の位置を入れ換へまして問の形を作りま  
 す。而して問の文であると云ふ事を表はすために普通文  
 で終止符(.)を打つ所に疑問符(?)をつけて結ぶので  
 あります。即ち：—

イズ ジス ア バード  
 [a] Is this a bird?  
 ですか これは [一羽の] 鳥  
 (4) (1) (2) (3)

と云ふのです。同様に (d) の間は：—

|      |     |       |      |
|------|-----|-------|------|
| ユ-   | ア-  | ア     | ボーイ  |
| You  | are | a     | boy. |
| あなたは | である | 【一人の】 | 少年   |
| (1)  | (4) | ( )   | (3)  |

と云ふ文の間の形でありますからして、矢張主語と動詞の位置を入れ換へまして、疑問符 (?) をつけて結びます：—

|         |      |       |      |
|---------|------|-------|------|
| ア-      | ユ-   | ア     | ボーイ  |
| [d] Are | you  | a     | boy? |
| であるか    | あなたは | 【一人の】 | 少年   |
| (4)     | (1)  | (2)   | (3)  |

と申します。普通文の時は文の終りで聲を下げて發音致しますが、疑問文の時は文の終りで聲を上げて發音致します。

次に答の文「はい……………」 「いゝえ……………」 の二つを研究ませう。

日本語で「あなたは少年ですか」と問はれて「はい」と云へば「少年です」と云ふ意味になる。「いゝえ」と云へば「少年ではありません」と云ふ事になります。英語でも同様であります。「はい」「いゝえ」は英語では：—

はい (さうです) = Yes

いゝえ (さうではありません) = No

と申します。然し英語では問はれて單に “Yes” “No” だけで答へるのは無愛想だと云ふ事で、其次に何か言葉をつけます。さて(b), (c), (e), (f) の文を譯

して見ませう。

(b) の：—

はい、鳥です。

は：—

|          |     |     |       |       |
|----------|-----|-----|-------|-------|
| イエス      | イット | イズ  | ア     | バード   |
| [b] Yes, | it  | is  | a     | bird. |
| はい       | それは | である | 【一羽の】 | 鳥     |
| (1)      | (2) | (5) | (3)   | (4)   |

尚ほ注意して置きたい事は “Yes” と “No” の次に コマ (,) を打つことを忘れぬやう。そして答の文に打消がなければ “Yes” を用ひ、打消があれば “No” を用ひます。これも忘れぬやう。

いゝえ、鳥ではありません。

と云ふのですから、前章の打消 “Not” を使ひまして：—

|         |     |     |       |     |       |
|---------|-----|-----|-------|-----|-------|
| ノウ      | イット | イズ  | ノット   | ア   | バード   |
| [c] No, | it  | is  | not   | a   | bird. |
| いゝえ     | それは | でない | 【一羽の】 | 鳥   |       |
| (1)     | (2) | (5) | (3)   | (4) |       |

と譯します。従つて (e), (f) は：—

|          |     |     |       |      |
|----------|-----|-----|-------|------|
| イエス      | アイ  | アム  | ア     | ボーイ  |
| [e] Yes, | I   | am  | a     | boy. |
| はい       | 私は  | である | 【一人の】 | 少年   |
| (1)      | (2) | (5) | (3)   | (4)  |

|         |     |      |       |     |      |
|---------|-----|------|-------|-----|------|
| ノウ      | アイ  | アム   | ノット   | ア   | ボーイ  |
| [f] No, | I   | am   | not   | a   | boy. |
| いゝえ     | 私は  | ではない | 【一人の】 | 少年  |      |
| (1)     | (2) | (5)  | (3)   | (4) |      |

以上は一人稱二人稱文の間を挙げましたが、三人稱とも同一であります。

- (1) 

|     |     |       |            |
|-----|-----|-------|------------|
| ヒー  | イズ  | ア     | ヂェントルマン    |
| He  | is  | a     | gentleman. |
| 彼は  | である | 〔一人の〕 | 紳士         |
| (1) | (4) | (2)   | (3)        |
- (2) 

|     |     |       |       |
|-----|-----|-------|-------|
| シー  | イズ  | ア     | レイディ  |
| She | is  | a     | lady. |
| 彼女は | です  | 〔一人の〕 | 淑女    |
| (1) | (4) | (2)   | (3)   |

此一二の形を問にするは矢張主語 [He; She] と動詞 [is] の位置を換へまして、終りに疑問符(?) をつければよいのです。即ち:—

- (3) 

|   |     |     |       |            |
|---|-----|-----|-------|------------|
| { | イズ  | ヒー  | ア     | ヂェントルマン    |
|   | Is  | he  | a     | gentleman? |
|   | ですか | 彼は  | 〔一人の〕 | 紳士         |
|   | (4) | (1) | (2)   | (3)        |
- (4) 

|   |     |     |       |       |
|---|-----|-----|-------|-------|
| { | イズ  | シー  | ア     | レイディ  |
|   | Is  | she | a     | lady? |
|   | ですか | 彼女は | 〔一人の〕 | 淑女    |
|   | (4) | (1) | (2)   | (3)   |

(3) と (4) に對する答はに列舉せずも御解りの事とせう。

次に複數形の間と答とをどうするかと云ふに、矢張主語と動詞の位置を換へまして疑問符 (?) をつけまして結び、間を作り、“Yes” か “No” をつけて答に致します。

彼等は學生です。

- |      |     |           |
|------|-----|-----------|
| ゼイ   | アー  | ステューダント   |
| They | are | students. |
| 彼等は  | である | 學生        |
| (1)  | (3) | (2)       |

と云ふ複數形を普通文の間の文にして:—

彼等は學生ですか。

と云ふのであつたら:—

- |     |      |           |
|-----|------|-----------|
| アー  | ゼイ   | ステューダント   |
| Are | they | students? |
| ですか | 彼等は  | 學生        |
| (3) | (1)  | (2)       |

これに對する答は:—

はい、學生です。

- |      |      |     |           |
|------|------|-----|-----------|
| イエス  | ゼイ   | アー  | ステューダント   |
| Yes, | they | are | students. |
| はい   | 彼等は  | です  | 學生        |
| (1)  | (2)  | (4) | (3)       |

いえ、學生ではありません。

- |     |      |     |     |           |
|-----|------|-----|-----|-----------|
| ノウ  | ゼイ   | アー  | ノット | ステューダント   |
| No, | they | are | not | students. |
| いえ  | 彼等は  | でない |     | 學生        |
| (1) | (2)  | (4) |     | (3)       |

と斯う申します。

今度また第五章で習つた物の存在と所在とを表す文:—

卓の上に本がある。

- |       |    |       |      |     |     |        |    |   |
|-------|----|-------|------|-----|-----|--------|----|---|
| ゼア    | イズ | ア     | ブック  | オン  | ギ   | テイブル   |    |   |
| There | is | a     | book | on  | the | table. |    |   |
| がある   |    | 〔一冊の〕 | 本    | の   | 上   | に      | その | 卓 |
| (6)   |    | (4)   | (5)  | (3) | (1) | (2)    |    |   |

と云ふ文の間は矢張主語と動詞とを置き換へて：—

(單)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{卓の上に本がありますか。} \\ \text{イズ ゼア ア ブック オン チ テイブル} \\ \text{Is there a book on the table?} \end{array} \right.$

と致します。複數も同様にして：—

(複)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{アー ゼア ブックス オン ギ テイブル} \\ \text{Are there books on the table?} \\ \text{があるか 本 の上に その 卓} \\ \text{(5) (4) (3) (1) (2)} \end{array} \right.$

これに対する答も “Yes”(はい)、“No”(いいえ)を用ひまして：—

はい、本があります。

イエス ゼア アー ア ブック オン ギ  
Yes, there are a book on the  
はい があります [一冊の] 本 の上に その

テイブル  
table.  
卓

次に打消を使つて問ふ場合もある譯で、例へば：—

(A) これはペンぢやないか。

と云ふ様の場合を研究しなければなりません。

これはペンでない。

は前章で説明した様に “<sup>ノット</sup>not” で打消しまして：—

ジス イズ ノット ア ペン  
This is not a pen.  
これは でない [一本の] ペン

此普通文の間だと思へばよい譯ですから、矢張主語と動詞の位置を換へまして、疑問符をつけまして結ぶの

であります。即ち譯文は：—

イズ ジス ノット ア ペン  
(A) Is this not a pen?  
か これは でない [一本の] ペン

詰り “is not” が一緒になつて「でないか」と云ふ意味になるのです。若しこれが複數形でありました

ら：—

アー ビーズ ノット ペンズ  
Are these not pens?  
か これは でない ペン  
(4) (1) (3) (2)

同様 “are not” が一緒になつて「でないか」の意味になるのです。

この (A) の文に対する答は前のと一寸も變りませんが、例文を擧げて見ませう。

(B) はい、ペンです。

イエス イット イズ ア ペン  
Yes, it is a pen.  
はい それは である [一本の] ペン  
(1) (2) (5) (3) (4)

(C) いいえ、それはペンではありません。

ノウ イット イズ ノット ア ペン  
No, it is not a pen.  
いいえ それは でない [一本の] ペン  
(1) (2) (5) (3) (4)

複數の答は前に説明したのと同じであります。

以上の説明は全部「これはペンですか」と問はれ「はい、ペンです」か乃至は「いいえ、ペンではありません」云ふ二つの答だけでありますが、實際會話の場合は答



が色々になりまして、例へば：—

(イ) あなたは學生ですか。

と問はれて「はい、學生です」とか「いえ、學生ではありません」なら以上説明した通りで差支ありませんが若し：—

(ロ) いえ、私は先生です。

と答ふる場合もありませう。また學生にしても；—

(ハ) はい、私は中學生であります。

と答ふる場合もありませう。斯う云ふ様に答ふのを答の擴張と申します。此答の作り方は一向にむづかしい事のないもので：—

ア— ユ— ア ステューダント  
(イ) Are you a student?  
ですか あなたは [一人の] 學生  
(4) (1) (2) (3)

ノウ アイ アム ア ティーチャ  
(ロ) No, I am a teacher.  
いえ 私は です [一人の] 先生  
(1) (2) (5) (3) (4)

イエス アイ アム ア ミドル スクールの ステューダント  
(ハ) Yes, I am a middle school student.  
はい 私は です 中 学校の 學生  
(1) (2) (6) (3) (4) (5)

となるのです。次の章では「持つ」動詞を使つたものゝ問と答とを研究ませう。終りに一寸斷つて置くが：—

“No”で答へる時は、其次に打消が來なければならぬと申しましたが、それは答の内容が同じな場合でありまして、答の範圍が擴張しました時には上例の(ロ)の

様に否定が來なくとも“No”で答へられます。

### 第十四章

### 問と答(その二)

[Have 動詞の部]

前章に於ては Be 動詞の問と答とを研究しましたから、本章では have 動詞の問と答とを研究ませう。

- (a) { 私は犬を持つてゐる。  
アイ ハヴ ア ドッグ  
I have a dog.  
私は を持つ [一匹の] 犬
- (b) { あなたは馬を持つてゐる。  
ユ— ハヴ ア ホース  
You have a horse.  
あなたは を持つ [一匹の] 馬
- (c) { 彼[女]は鳥を持つてゐる。  
ヒー シー ハズ ア バード  
He [She] has a bird.  
彼は 彼女は を持つ [一匹の] 鳥
- (d) { 猫は尾を有つてゐる [猫は尾を有す]  
ア キャット ハズ ア テイル  
A cat has a tail.  
猫は を持つ [一本の] 尾

若し、複數なら：—

ウィー ハヴ ブラザーズ  
We have brothers.  
私共は を持つ 兄弟

とか：—

ゼイ ハヴ ア ティーチャ  
They have a teacher.  
彼等は を持つ [一人の] 先生

と云ふ事は第十章で説明した通りであるが、此形の問を作るには、Be 動詞と同様に、主語と動詞の位置を換へて、疑問符 (?) で結んで置けばよいのである。

即ち：—

(a) 犬をお持ちですか。

Have you a dog?  
持つか あなたは [一匹の] 犬  
(4) (1) (2) (3)

(b) 彼は良き教師を持つてゐますか。

Has he a good teacher?  
持つか 彼は [一人の] 良き 教師  
(5) (1) (2) (3) (4)

(c) があなたは御母様がおありですか。

Have you a mother?  
持つか あなたは [一人の] 母  
(4) (1) (2) (3)

複数になつた場合も矢張同様に：—

(d) 彼等には家がありますか。

Have they a house?  
持つか 彼等は [一軒の] 家  
(4) (1) (2) (3)

と云ふのです。これに対する答としては：—

[a] に対する答：—

(イ) はい、持つてゐます。

(ロ) いいえ、(犬を)持つてゐません。

(イ) Yes, I have a dog.  
はい 私は を持つ [一匹の] 犬  
(1) (2) (5) (3) (4)

(ロ) No, I have no dog.  
いいえ 私は を持たぬ 犬

と云ふので、詰り第六章で習つたものに “Yes” か “No” をつけたものに過ぎません。同様に (b), (c), に對する答も亦第六章で習つたものと同じ形を用ひ、(d) のに對しては第十章で習つたものを付けばよい。

### 練習と應用

本章の「練習に應用」には前章及び本章で習つた要領を申上げて置ませう。

#### I. 問の主語が代名詞なる時

問の主語が “I” “you” “he” “she” “it”

“this” “that” の如き代名詞なる時の注意としては：—

(a) 問の主語が “I” (私は) なら、問の主語が “you” (あなたは) となるのは、日本語から考へてもお解りでせう。以下の例題には主語の下に下線を引いて置きます。

例：—

私は善良な少年ですか。  
(問) Am I a good boy?  
ですか 私は 一人の良い 少年  
(4) (1) (2) (3)

はい、君は善良な少年です。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス} \quad \text{ユー} \quad \text{アー} \quad \text{ア} \quad \text{ヴェリ} \quad \text{グッド} \quad \text{ホイ} \\ \text{Yes, } \underline{\text{You}} \text{ are a } \text{very} \text{ good boy.} \\ \text{はい} \quad \text{君は} \text{ である} \quad \text{甚だ} \quad \text{善良な} \quad \text{少年} \\ (1) \quad (2) \quad (6) \quad (3) \quad (4) \quad (5) \end{array} \right.$

(b) 問の主語が “You” (あなたは) なら答の主語が “<sup>アイ</sup>I” (私は) になります。

例：—

あなたは御主人ですか。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{アー} \quad \text{ユー} \quad \text{ア} \quad \text{マスタ} \\ \text{Are } \underline{\text{you}} \text{ a } \text{master?} \\ \text{ですか} \quad \text{あなたは} \quad \text{主人} \\ (3) \quad (1) \quad (2) \end{array} \right.$

いえ、私は主人ではない。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノウ} \quad \text{アイ} \quad \text{アム} \quad \text{ノット} \quad \text{ア} \quad \text{マスタ} \\ \text{No, } \underline{\text{I}} \text{ am not a } \text{master.} \\ \text{いえ} \quad \text{私は} \quad \text{でない} \quad \text{主人} \\ (1) \quad (2) \quad (4) \quad (3) \end{array} \right.$

(c) 問の主語が “<sup>ヒー</sup>he” (彼は) “<sup>シー</sup>she” (彼女は) “it”(それは) なら答の主語も “he” “she” “it” になるのは、日本語でも「あの人は……」と問はれた場合、答ふる人も矢張同様に「あの人は……」であるのは明白な理屈でせう。

例：—

あの人は巡査ですか。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イズ} \quad \text{ヒー} \quad \text{ア} \quad \text{パリスマン} \\ \text{Is } \underline{\text{he}} \text{ a } \text{policeman?} \\ \text{ですか} \quad \text{あの人は} \quad \text{巡査} \\ (3) \quad (1) \quad (2) \end{array} \right.$

いえ、あの人は軍人です。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノウ} \quad \text{ヒー} \quad \text{イズ} \quad \text{ア} \quad \text{ソウダヤ} \\ \text{No, } \underline{\text{he}} \text{ is } \text{a } \text{soldier.} \\ \text{いえ} \quad \text{あの人は} \text{ である} \quad \text{軍人} \\ (1) \quad (2) \quad (4) \quad (3) \end{array} \right.$

それは獅子ですか。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イズ} \quad \text{イット} \quad \text{ア} \quad \text{ライオン} \\ \text{Is } \underline{\text{it}} \text{ a } \text{lion.} \\ \text{ですか} \quad \text{それは} \quad \text{獅子} \\ (3) \quad (1) \quad (2) \end{array} \right.$

いえ、それは虎です。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノウ} \quad \text{イット} \quad \text{イズ} \quad \text{ア} \quad \text{タイガ} \\ \text{No, } \underline{\text{it}} \text{ is } \text{a } \text{tiger.} \\ \text{いえ} \quad \text{それは} \text{ である} \quad \text{虎} \\ (1) \quad (2) \quad (4) \quad (3) \end{array} \right.$

(d) 問の主語が “<sup>ジス</sup>this” (それは) なら、答の主語は “this” 或は “<sup>ザット</sup>that” (それは) であります。これも日本語から考へて御覽下されればお解りになります。而して答ふる人も、指し示した物に近ければ “this” 遠ければ “that” を用ふるのは第一章 “this” “that” の所で説明した通りであります。

例：—

少年ですか。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イズ} \quad \text{ジス} \quad \text{ア} \quad \text{ホイ} \\ \text{Is } \underline{\text{this}} \text{ a } \text{boy.} \\ \text{ですか} \quad \text{これは} \quad \text{少年} \\ (3) \quad (1) \quad (2) \end{array} \right.$

はい、少年です。

(答) Yes (1) this (2) is (4) a (3) boy.

はい (1) that (2) である (4) 少年 (3)

(e) 問の主語が“that” (それは) ならば答の主語が“that” 或は“this” である。其わけは(c) と同様の理由からであります。

それは猫ですか。

(問) Is (3) that (1) a (2) cat.

ですか (3) それは (1) 猫 (2)

いえ、猿です。

(答) No (1) this (2) is (4) a (3) monkey.

いえ (1) this (2) である (4) 猿 (3)

尤も指し示した物が人でない場合即ち(c) の様な場合には“this” “that” の代りに“it” を用ひてよいと云ふ事も第二章第三章で申した筈である即ち上の答を：—

No, it is a monkey.

いえ (1) それは (2) である (4) 猿 (3)

と云ふのです。

## II. 問の主語が名詞なる時

問の主語が名詞なる場合と云ふのば；—

馬には尾がある。

A horse has a tail.

馬 (1) は (3) を持つ [一本の] (2) 尾

と云ふのかまたは第五章の「練習と應用」で習つた：—

The hen is on the nest.

その鶏 (1) は (5) に居る (4) の上 (2) その (3) 巢

と云ふ場合の“horse” や“The hen” が名詞の主語と云ふのですが、斯う云ふ名詞の主語を使つて問はれた場合には、其儘其名詞を主語として答へて差支ありません。

(a) Is the girl a student.

ですか (3) その少女 (1) は (2) 學生

(b) Has the boy a book.

を持つ (3) その少年 (1) は (2) 本

(c) Has the monkey no tail.

を持つ (3) その猿 (1) は (4) 無い (2) 尾

この(a) (b) (c) に対する答は“The girl” “The

boy” “The monkey” 等を主語にして；—

Yes, the girl.....

Yes, the boy.....

Yes, the monkey.....

としてもよろしう御座いますが、名詞と云ふものが三人稱に扱はれると前に申しましたが、この場合の名詞の主語も三人稱に扱はれますからして“boy”は男だから“he”“girl”は女だから“she”, monkey”は人以外の動物だから“it”で表はされ、従つて(I)の(c)の問に對する答と同一になります。即ち—

(a) に對する答：—

はい、彼女は學生です。  
Yes, she is a student.  
はい 彼女は である 學生  
(1) (2) (4) (3)

(b) に對する答：—

いゝん、彼は本を持つてゐません。  
No, he has no book.  
いゝえ 彼は を持つ 無い 本  
(1) (2) (4) (3)

(c) に對する答：—

はい、尾があります。  
Yes, It has a tail.  
はい それは を持つ 尾  
(1) (2) (4) (3)

### 答の簡潔

以上の問と答のことは大體済みましたが、答の簡潔に就て一言申して置きます。それは：—

Are you a Russian?  
ですか あなたは 露西亞人  
(3) (1) (2)  
〔譯〕 あなたは露西亞人ですか。

と問はれた場合に、「はい、さうです」なら“Yes”  
ですし、「いゝえ、そうではありません」なら“No”  
丈でもよいが、少し無愛想だから：—

(A) はい、私は露西人です。

なら：—

Yes, I am a Russian.  
はい 私は である 露西亞人  
(1) (2) (4) (3)

と答へ：—

(B) いゝえ、私は露西人ではありません。

なら：—

No, I am not a Russian.  
いゝえ 私は でない 露西亞人  
(1) (2) (4) (3)

と答へよ。そしと(B)の場合であつたら、更らに答を擴張して：—

(C) いゝえ、私は伊太利人です。

ノウ アイ アム アン イタリヤン  
 No, I am an Italian.  
 いえ 私は である 伊太利人  
 (1) (2) (4) (3)

とすれば一層よいと第十三章で申しましたが、此(A)  
 (B)の答を無愛想でなく、簡潔にする方法があります。

それは、(A)の場合であつたら：—

イエス アイ アム  
 Yes, I am.  
 はい 私は です

とだけ答へて、次の “a Russian” (露西亞人) を省  
 略し、(B)の場合でも “a Russian” を省略して：—

ノウ アイ アム ノット  
 No, I am not.  
 いえ 私は ではない

と丈に簡潔にするのであります。同様に Have 動詞  
 の場合でも此簡潔法が活用されます。

ハヴ ユー ア ナイフ  
 Have you a knife?  
 (問) 持つか あなたは 小刀  
 (3) (1) (2)

〔譯〕 君は小刀がありますか。

の問に對しては：—

イエス アイ ハヴ  
 Yes, I have.  
 (答) はい 私は 持つ  
 (1) (1) (3)

〔譯〕 はい、持つてゐます。

ノウ アイ ハヴ ノット  
 No, I have not.  
 (答) いえ 私は 持たぬ  
 (1) (2) (3)

〔譯〕 いえ、ありません。

〔注意〕 “have” の否定は “no” であると前で申しました  
 が、簡潔にして其次に或る語を省略した場合は “no” の代り  
 に “not” を使ひます。而して “have” と “not” を一字に  
 ハヴント  
 した “haven't” と云ふ語を使ひます。それは俗語や會話體に使  
 はれることが多いのです。例：—

ユー ハヴ ア ホース  
 You have a horse.  
 あなたは 持つ 馬  
 (1) (3) (2)

バット アイ ハヴ ノット  
 But I have not [a horse]  
 だが 私は 持たぬ 馬  
 (4) (5) (6)

〔譯〕 君は馬があるが、私は持たない。

### 第十五章

#### 形容詞に就て (その一)

本章では形容詞に就て説明し、合せる第一章から第十  
 四章迄に習つたもの復習をして見ませう。

第二章に於て形容詞のことを述べましたが、それはほ  
 んの一寸した事丈で詳しいことは致しませんでした。

形容詞とは、どんな詞であるかと申しますと：—

人或は物の色、形、性質等を表すものであります。直  
 接名詞の前に添へて名詞を形容するものであります。

日本語でも：—

|     |    |     |    |
|-----|----|-----|----|
| 美しい | 花  | 赤い  | 糸  |
| ⋮   | ⋮  | ⋮   | ⋮  |
| 形容詞 | 名詞 | 形容詞 | 名詞 |
| 四角な | 机  | 親切な | 少年 |
| ⋮   | ⋮  | ⋮   | ⋮  |
| 形容詞 | 名詞 | 形容詞 | 名詞 |

と云ふ様に普通は名詞の前に付けて名詞を形容致します。英語でも矢張普通は名詞の直ぐ前に添へまして名詞を形容致します。

|   |          |          |
|---|----------|----------|
| ア | ディリジャント  | ステュダント   |
| a | diligent | student. |
|   | 勤勉なる     | 學生       |
|   | (形容詞)    | (名詞)     |
| ア | グッド      | ティチャ     |
| a | good     | teacher. |
|   | 良い       | 先生       |
|   | (形容詞)    | (名詞)     |
| ア | ブラック     | キャット     |
| a | black    | cat.     |
|   | 黒い       | 猫        |
|   | (形容詞)    | (名詞)     |
| ア | ラウンド     | テイブル     |
| a | round    | table.   |
|   | 圓い       | 卓        |
|   | (形容詞)    | (名詞)     |

これは大きな犬である。

|         |      |       |       |      |
|---------|------|-------|-------|------|
| ジス      | イズ   | ア     | ビッグ   | ドッグ  |
| This    | is   | a     | big   | dog. |
| これは     | である  | [一匹の] | 大きな   | 犬    |
| (指示代名詞) | (動詞) | (冠詞)  | (形容詞) | (名詞) |

斯様に“big”と云ふ形容詞の前に冠詞“a”を使用して差支ないが、指示形容詞になると、冠詞をつけない。それは、指示形容詞は冠詞と同じ資格のものだからであります。

この犬は大きい。

|         |      |      |       |
|---------|------|------|-------|
| ジス      | ドッグ  | イズ   | ビッグ   |
| This    | dog  | is   | big.  |
| この      | 犬は   | である  | 大     |
| (指示形容詞) | (名詞) | (動詞) | (形容詞) |

と云ふ様に“dog”の前に“a”と云ふ冠詞をつけません。〔一寸こゝで断つて置きたい事は形容詞を Be 動詞の次に用ふる事もあります〕

それは善い時計です。

|         |      |       |       |        |
|---------|------|-------|-------|--------|
| イット     | イズ   | ア     | グッド   | ウォッチ   |
| It      | is   | a     | good  | watch. |
| それは     | である  | [一つの] | 善い    | 時計     |
| (指示代名詞) | (動詞) | (冠詞)  | (形容詞) | (名詞)   |

と云ふ様に形容詞と冠詞が共に用ひられますが、代名詞の所有格は冠詞と同じ資格のものであるからです。

例：—

それは私の時計です。

|         |      |           |        |
|---------|------|-----------|--------|
| イット     | イズ   | マイ        | ウォッチ   |
| It      | is   | my        | watch. |
| それは     | である  | 私の        | 時計     |
| (指示代名詞) | (動詞) | (代名詞の所有格) | (名詞)   |

同様の理由で名詞の所有格にも冠詞をつけません。名詞の所有格とは第七章の「練習と應用」で説明しました。—

|     |          |      |
|-----|----------|------|
| ザ   | ボイズ      | ドッグ  |
| The | boy's    | dog. |
| その  | 少年の      | 犬    |
|     | (名詞の所有格) |      |

|          |       |
|----------|-------|
| タローズ     | ブック   |
| Taro's   | book. |
| 太郎の      | 本     |
| (名詞の所有格) |       |

の如きを云ふのです。

形容詞と冠詞とを併用した場合の注意。

冠詞“a”を名詞の前につけた場合若し其名詞が母音に初まインクホトる時〔例へば“ink-bottle”(インキ瓶)の“i”が母音〕は“a”を“an”にすると申しました。その譯た冠詞と名詞との

發音がゴチャゴチャにならぬためであると申しましたが、冠詞と形容詞と名詞と三つ並んだ言葉の場合は“a”と“an”の使ひ分ける権利は名詞より形容詞に移りまして、形容詞が父音で始まる場合には不定冠詞は“a”を用ひ、母音で始まる場合は“an”を用ひます。例：—

ジス イズ アン インク ボトル  
This is an ink-bott'le.  
これは である [一本の] インキ瓶

と“an”と云ふ不定冠詞を用ひますが、若し、形容詞のグッド  
“good” (良い) と云ふのがつきますと、不定冠詞“an”は“a”に代ります。

ジス イズ ア グッド インク ボトル  
This is a good ink-bottle.  
これは である 良い インキ瓶  
(1) (4) (2) (3)

これに反して形容詞がなければ不定冠詞“a”であつたものが、形容詞をつけ、其形容詞が母音で始まつてゐれば冠詞“a”は“an”に代ります。

ヒー イズ ア マン  
He is a man.  
彼は である 男で  
(1) (3) (2)

ヒー イズ アン オールド マン  
He is an old man.  
彼は である 年とつた 男  
(1) (4) (2) (3)

形容詞は問の場合にも、また複数名詞の前につけても単数の場合と一寸も變りません。例：—

イズ ヒー アン アイドル ホイ  
Is he an idle boy?  
であるが 彼は [一人の] 怠惰な 少年  
(4) (1) (2) (3)  
〔形容詞〕

〔譯〕 彼は怠惰な少年ですか。

ノウ ヒー イズ ア ディリヂェント ホイ  
No, he is a diligent boy.  
いえ 彼は である [一人の] 勤勉な 少年  
(1) (2) (5) (3) (4)  
〔形容詞〕

〔譯〕 いえ、彼は勤勉なる少年です。

ゼイ アー バッド ホイ  
They are bad boy.  
彼等は である 悪い 少年  
(1) (4) (2) (3)  
〔形容詞〕

〔譯〕 彼等は悪い少年です。

次に：—

(A) 此の犬の尾は長い。

を；—

ジス ドッグズ テイル イズ ロング  
This dog's tail is long.  
この 犬の 尾は である 長く  
(1) (2) (3) (5) (4)

と云ふ様に“dog”を名詞の所有格にし、Be 動詞の次に形容詞“long”を使つて譯すことは一向に差支へないが、それよりも Have 動詞を用ひて

(B) 此犬は長い尾を持つ。

と譯した方が英文としては優つてゐるのです。

即ち：—

ジス ドッグ ハズ ア ロング テイル  
This dog has a long tail.  
この 犬は を持つ 長い 尾

とするのである。



### 第十六章

## 形容詞に就て (その二)

### —[數詞及び不定數量の形容詞]—

前章で説明したのは主として性質とか形状、色を表した形容詞でありましたが、本章では一つ二つとか第一、第二とか云ふ數詞の形容詞と、數量、例へば少しあるの「少し」とか、「幾らか」とか云ふものを研究して見ませう。

數の形容詞の事を數詞と申しますが其中「一、二、三」などの數を表はすものを普通數詞と云ふ、「第一、第二、第三」などの順序を表はす數詞を順序數詞と申します。

普通數詞は「一つ、二つ、三つ」と數へるに用ひたり、または時刻を表はすに用ひます。

順序數詞の方は「第一、第二、第三」と云ふ順序を表はすに用ひたり、または日附、即ち「一日、二日、三日」などに用ひます。

今普通數詞と順序數詞とを對比して御覽に入れませう。

|               |                  |
|---------------|------------------|
| one (ワン) 一    | first (ファースト) 第一 |
| two (トゥー) 二   | second (セカンド) 第二 |
| three (スリー) 三 | third (サード) 第三   |
| four (フォア) 四  | fourth (フォーサ) 第四 |
| five (ファイヴ) 五 | fifth (フィフス) 第五  |

|                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| six (シックス) 六             | sixth (シックスス) 第六          |
| seven (セヴン) 七            | seventh (セヴンズ) 第七         |
| eight (エイト) 八            | eighth (エイトス) 第八          |
| nine (ナイン) 九             | ninth (ナインス) 第九           |
| ten (テン) 十               | tenth (テンズ) 第十            |
| eleven (イレヴン) 十一         | eleventh (イレヴンズ) 第十一      |
| twelve (トゥエルヴ) 十二        | twelfth (トゥエルフス) 第十二      |
| thirteen (サーティーン) 十三     | thirteenth (サーティーンズ) 第十三  |
| fourteen (フォーティーン) 十四    | fourteenth (フォーティーンズ) 第十四 |
| fifteen (フィフティーン) 十五     | fifteenth (フィフティーンズ) 第十五  |
| シックスティーン sixteen 十六      | sixteenth 第十六             |
| セヴンティーン seventeen 十七     | seventeenth 第十七           |
| エイティーン eighteen 十八       | eighteenth 第十八            |
| ナインティーン nineteen 十九      | nineteenth 第十九            |
| トゥウェンティ twenty 二十        | トゥウェンティース twentieth 第二十   |
| トゥウェンティワン twenty-one 二十一 | twenty-first 第二十一         |
| サーティ thirty 三十           | サーティース thirtieth 第三十      |
| サーティワン thirty-one 三十一    | thirty-first 第三十一         |
| フォーティ forty 四十           | フォーティース fortieth 第四十      |

|                        |     |                         |      |
|------------------------|-----|-------------------------|------|
| ファイフティ<br>fifty        | 五十  | ファイフティイす<br>fiftieth    | 第五十  |
| sixty                  | 六十  | sixtieth                | 第六十  |
| seventy                | 七十  | seventieth              | 第七十  |
| eighty                 | 八十  | eightieth               | 第八十  |
| ninety                 | 九十  | ninetieth               | 第九十  |
| one hundred            | 百   | one hundredth           | 第百   |
| one hundred and one    | 百一  | one hundred and first   | 第百一  |
| one hundred and twelve | 百十二 | one hundred and twelfth | 第百十二 |
| two hundred            | 二百  | two hundredth           | 第二百  |
| one thousand           | 千   | one thousandth          | 第一千  |
| ten thousand           | 萬   | ten thousandth          | 第一萬  |

以上を記憶するのはなかなか至難であるが、順序数詞は普通数詞の 1, 2, 3, を除けば此語尾に “-th” を附けたものであります。但し “fifth” (第五), “ninth” (第九), “twelfth” (第十二) の三つの綴りだけは “c” を省略してありますから、此綴りに注意して下さい。次に「八」の順序数詞は “h” を一つつけた式ですが、此發音は「エイトす」と恰も “i” が二つあるが如く發音致します。

尙ほ普通数詞は算用數字を使つて 1, 2, 3, 4, …… と書く事が出来る、順序数詞は 1st, 2nd, 3rd, 4th, 5th, …… と書く事が出来ます。發音は上表にあるのと一寸も變りません。

また「二十一」、「二十二」とか「三十一」、「三十二」其他十位の數と一位の數とを連れる時には 連字符 (一) を入れまして

“twenty one” の如く致します。

百位の數と十位、一位の數と重つた時は “and” を入れて “one hundred and one” (百一) の如く致します。

順序数詞を用ひる時には “the” と云ふ定冠詞をつけまして “the first” 「第一」と云ふ如く致します。

普通数詞と不定冠詞とは一緒に用ひません。

不定數と、數量を表す形容詞

次に不定數と數量を表はす形容詞を述べて見ませう。

不定數と不定數量とを表はす形容詞は：一

不定數を表はす形容詞

メニ  
many (澤山な)

フィュー  
few (少數の)

不定數量を表す形容詞

マッチ  
much (多量の)

リトル  
little (少量の)

何れも二つ宛ありますが、不定數を表はす形容詞は一つ二つと數へられる普通名詞に添へますし、不定數量を表す形容詞は一つ二つと數へられない、例へば樽を以て量る酒とか米とか乃至はこれに類した、詰り計量器を以て計るものに用ひます。斯う云ふ名詞を 物質名詞 と申します。

日本語では：一

(A) 澤山の本 [普通名詞]

(B) 澤山の水 [物質名詞]

も兩者共に同じ形容詞を用ひますが英語では兩者共通に用ひられる形容詞はありません。ですから (A) (B) を譯して見ますと:—

メニ ブックス  
(A) many books  
本

マツチ ワイン  
(B) much wine.  
葡萄酒

となります。金錢即ち money (錢) は一錢二錢と計算が出来ますが物質名詞として取扱はれます。

アイ ハツ マツチ マニ  
(A) I have much money.  
私は を持つ 澤山の 錢  
(1) (4) (2) (3)

[譯] 私は澤山の錢を持つてゐる。

ヒー ハズ メニ スイスタズ  
(B) He has many sisters.  
彼は を持つ 大勢の 妹  
(1) (4) (2) (3)

[譯] 彼は妹が大勢ある。

となります。(B) の文で御覽の通り “many” と云ふ形容詞をつけますと複數(普通名詞) [sisters] を伴ひますが、“much” は單數の物質名詞 [物質名詞は複數になりません] を伴ひます。

日本語では「澤山の」と云ふ言葉は數にも量にも用ひ

られますが、これと同様に「少し」と云ふ言葉も數にも量にも用ひられます。

英語では前にも申した通り、數には “few” を用ひ、量には “little” を用ひます。そして同じ少いにしても「少いが少しはある」とある方に重きを置いた場合と、「少ししかない」と無い方に重きを置いた場合とで、其表し方を異にします。

少數量なれど少しはある。

の時は “few” “little” に冠詞 “a” を附けまして:—

ア フィュー  
a few [數の場合]  
ア リトル  
a little [量の場合]

と申します。

▲少數(量)で殆んどない。

の時は “a” つけませんで:—

フィュー  
few [數の場合]  
リトル  
little [量の場合]

と云ふのです。而して觀念の相異は實際數量の多寡ではありませんで、口にする人の心持に依るのであります。ですから、錢が百圓あれば、「少しはある」とある方に重きを置けば “a little” を用ひますし「少ししか

ない」とない方に重きを置けば “little” を用ひます。

“a few” “few” の區別も同様であります。例：—

アイ ハヴ ア フィュー フレンズ  
(C) I have a few friends.

私は 持つ 少し 友達を  
(1) (4) (3) (2)

〔譯〕 私には友達か少しはある。

〔注意〕 “friends” と複数名詞であるのに “a few” と “a” を附けたのが變ぢやないかと思ひなされるかも知れませんがこれは “a few” で一つの言葉だと思つて下さい。實際少しは少しにして一人でない事だけは明かですから、“friends” と複數にするのが當然であります。

アイ ハヴ フィュー フレンズ  
(D) I have few friends.

私は 持つ 少し 友達を  
(1) (4) (3) (2)

〔譯〕 私には友達は少ない。

同様に：—

シー ハズ ア リトル ミルク  
(E) She has a little milk.

彼女は 持つ 少し 牛乳を  
(1) (4) (3) (2)

〔譯〕 彼女は牛乳を少し持つてゐる。

シー ハズ リトル ミルク  
(F) She has little milk.

彼女は を持つ 少し 牛乳  
(1) (4) (3) (2)

〔譯〕 彼女は牛乳少ししかない。

エニ サム  
ANY と SOME.

“any” と “some” は複數の普通名詞にも物質名詞にも伴ひまして「若干の」と云ふ意味を表はします。

而し此兩者の區別は “any” は疑問と打消に用ひられますが、“some” は他の場合に用ふるのであります。

而し日本文に譯す場合には譯さずもよい。

イズ ゼア エニ ウォータ イン ギャット ウェル  
Is there any water in that well?  
あるか (若干の) 水が の中に その 井戸  
(6) (4) (5) (3) (1) (2)

〔譯〕 その井戸の中に水がありますか。

イェス ゼア イズ サム ウォータ イン イット  
Yes, there is some water in it.  
はい ある(若干の) 水が 中にその  
(1) (6) (4) (5) (3) (2)

〔譯〕 はい、その(井戸の)中には水があります。

ノウ ゼア イズ ノット エニ ウォータ イン イット  
No, there is not any water in it.  
いいえ もない(若干の) 水 中にその  
(1) (6) (4) (5) (3) (2)

〔譯〕 その(井戸)の中には水がない。

〔注意〕 「若干の」の意味は日本文に譯さぬがよい。

斯様に “some” と “any” が使はれるがまた單數普通名詞に添へて

何か 誰か

而して前と同様 “any” は疑問文と打消の文に用ひ “some” は他の場合に用ひられます。

ハヴ ユー エニ ブック  
Have you any book?  
を持つか あなた 何か 本  
(4) (1) (2) (3)

〔譯〕 何か本がありますか。

イエス アイ ハヴ サム イーズィ ブック  
Yes, I have some easy book.

はい 私は を持つ 何か 易し 本  
(1) (2) (6) (3) (4) (5)

〔譯〕 ばい、何か易しい本があります。

ノウ アイ ハヴ ノット エニ ブック  
No, I have not any book.

いゝえ 私は を持たぬ 何も 本  
(1) (2) (5) (3) (4)

〔譯〕 いゝえ、何も本がありません。

而して打消に用ひられた “any” は「何も」と云ふ意味になります。

## 第十七章

### 動詞に就て

—〔自動詞と他動詞〕—

今迄説明した動詞は主に Be 動詞〔即ち is, am, are〕と Have 動詞〔has も含む〕この二つでありました。

Be 動詞は：—

(1) 「である」 (2) 「がある」 (3) 「居る」

の三つの意味があると申しました、即ち：—

ジス イズア ハウス  
(A) This is a house.

これはである 家

〔譯〕 これは家である。

ソウズ アー ステュダント  
(B) Those are students.  
それはである 學生

〔變〕 それは學生である。

ゼア イズア フラウア  
(C) There is a flower.  
そこにある 花  
(1) (3) (2)

〔譯〕 花がある。〔譯す際には “There is” は所在を示すのだから「がある」と譯さずもよいと申した筈。〕

アイアム ア ファーマ  
(D) I am a farmer.  
私はである 農夫  
(1) (3) (2)

〔譯〕 私は農夫です。

以上 (A) 以下 (D) 迄は Be 動詞であります。

Have 動詞の例としては：—

アイ ハヴ ア ガン  
(E) I have a gun.  
私は を持つ 鐵砲  
(1) (3) (2)

〔譯〕 私は鐵砲を持つてる。

ヒー ハズ ア ピストル  
(F) He has a pistol.  
彼は を持つ ピストル  
(1) (3) (2)

〔譯〕 彼はピストルを持つてる。

以上の Be 動詞と、Have 動詞との以外に動詞には自動詞、他動詞との二つがあります。

第十一章で説明した：—

(A)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{私は父を愛す。} \\ \text{アイ ラヴ マイ ファーザ} \\ \text{I love my father.} \\ \text{私は を愛す 私の 父} \\ \text{(1) (4) (2) (3)} \end{array} \right.$

とか、または：—

(B)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{彼は富める叔父を有す。} \\ \text{ヒー ハズ ア リッチ アンクル} \\ \text{He has a rich uncle.} \\ \text{彼は を有す 富める 叔父} \\ \text{(1) (4) (2) (3)} \end{array} \right.$

(C)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{大工は家を建つ。} \\ \text{カーペンタ ビルド ハウズイズ} \\ \text{Carpenter build houses.} \\ \text{大工は を建つ 家} \\ \text{(1) (3) (2)} \end{array} \right.$

(A) の “love” (B) の “has” (C) の “build” の如く「を愛す」、「を持つ」、「を建つ」の動作が主語 [I, He, Carpenter] 等は “my father”, “a rich uncle”, “houses” に移動して、其動作の目的を示す名詞、又は代名詞を其動詞の目的と云ふのです。〔而して其関係を目的格と云ふ、と云ふと第十一章で申しました〕。

斯様に目的を要する動詞を他動詞と云ふのです。而して「……を」の「を」のつく動詞を他動詞と云ふのであります。これは何にもむづかしい事はありませんで實際理屈の上から考へて見ましても “I love” (私は愛す) や “Carpenter” 「大工は建つ」 だけでは何の事だ

か意味が解りません。これに反して、其目的を要しない動詞を自動詞と云ふのです。例：—

私は歌ふ。  
 $\left\{ \begin{array}{l} \text{アイ スィング} \\ \text{I sing.} \\ \text{私は 歌ふ} \\ \text{(1) (2)} \end{array} \right.$

鳥は飛ぶ。  
 $\left\{ \begin{array}{l} \text{バーズ フライ} \\ \text{Birds fly.} \\ \text{鳥は 飛ぶ} \\ \text{(1) (2)} \end{array} \right.$

の “sing”, “fly” の如く其動作状態が、主格 [I, Birds] 自身に止まり、他に及ばない動詞を自動詞と云ふのです。而して「……を」を要しません。

〔注意〕 Be [is, are, am] 動詞は自動詞、Have [has も] 動詞は他動詞と云ふ事になつてゐます。動詞には第十一章で申しました通り、二つの形があります、一つは原形の儘の “love” (を愛す) で、もう一つは “s” 或は “es” を付けました、<sup>らブズ</sup> “loves” と云ふ形です。三人稱の單數の代名詞 [指示代名詞、人代名詞共に] または單數名詞が主語の時には動詞は “s” 又は “es” を付けます。一人稱、二人稱、の代名詞が主語をなし、または複數の場合は一人稱、二人稱、三人稱を問はず 原形の儘を用ひます。今表にしてお目に掛けませう。

|     | 單 數                       | 複 數       |
|-----|---------------------------|-----------|
| 一人稱 | I love                    | we love   |
| 二人稱 | you love                  | you love  |
| 三人稱 | he<br>she } loves<br>it } | they love |

〔注意〕 名詞は總て三人稱に扱はれます。

同じ動詞でも其用方に依つて或は自動詞ともなり、或は他動詞ともなるものがあります。例：—

ヒー キャン スピーク イングリッシュ  
 〔他動詞〕 He can speak English.  
 彼は ことが出来る を話す 英語  
 (1) (4) (3) (2)

〔譯〕 彼は英語を話すことが出来る。

ヒー スピークス ウェル  
 〔自動詞〕 He speaks well.  
 彼は 話す 達者に  
 (1) (3) (2)

〔譯〕 彼は達者で話す。

第五章の「練習と應用」で説明した：—

ぎ ヘン イズ オン ギ ネスト  
 The hen is on the nest.  
 その 鶏は 居る の上に その 巢  
 (1) (2) (6) (5) (3) (4)

〔譯〕 鶏は巢の上に居る。

に於て“on”は前置詞〔名詞の前にあつて其名詞と他の言葉との關係を示すものを前置詞と云ふ〕と云ふのであると説明しました。而して此“the nest”は目的語であります。

元來“is”と云ふのは自動詞でありますからして目的語は不要な譯であります。前置詞を件ひますと他動詞と同様の意味に扱はれるのであります。前にあつた“sing”<sup>スイング</sup>(歌ふ)は自動詞でありますと説明しましたが、前置詞を件ひますと他動詞になります。即ち：—

アイ スイング ウィズ ヒム  
 I sing with him.  
 私は 歌ふ と一緒に 彼〔を〕  
 (主語) (他動詞) (前置詞) (目的語)

〔譯〕 私は彼と一緒に歌ふ。

〔注意〕 “him” (彼を) であるから、「私は彼と一緒に歌ふ」だが「を」を日本文に入れてはなりません。

前に Be 動詞は自動詞であると申しました。然らば Be 動詞の“is”“am”“are”等は：—

バーズ スイング  
 Birds sing.  
 鳥 歌ふ

の如くならねばならぬ筈であるのに：—

アイ アム ア ボイ  
 I am a boy.  
 私は少年である。  
 ゼイ アー スティudent  
 They are students.  
 彼等は學生である。

の如く “a boy” や、“students” を伴ふ所以はど  
うした譯であるかと申しますと、その理由は斯うであり  
ます。

Be 動詞は自動詞でありますからして「……を」と云ふ目的語を要しませんが、さりとて “I am” (私  
はである) 丈では完全な意味を表す事が出来ませんから、其次に是等動作を叙述する語を捕促しなければなり  
ません。斯の如く捕促を要する動詞を不完全自動詞と云  
ふのです。而して其捕促する語を補促語と申します。

斯う云ふ捕促語になるものは名詞、又は形容詞が主で  
時としては代名詞も補促語となることがあります。

ジス イズ ア ブック

This is a book.

これはである 本

(名詞補促語)

ジス キャット イズ ブラック

This cat is black.

この 猫は ある 黒く

(形容詞補促語)

イット イズ アイ

It is I.

それはである 私

(代名詞補促語)

他動詞は「……を」と云ふ目的語が伴ふものであ  
ると申しました。所が他動詞にも目的語だけで完全な意  
味を表はし兼ねるものがありまして、他の語を更らに補

促しなければならぬものがあります。そう云ふ動詞を  
不完全他動詞と云ふのです。例へば “call” (呼ぶ)  
“make” (作る、ならしむ) などは不完全他動詞であ  
りますから補促語をつけませんと完全な意味を表しませ  
ん。

ウイー コーる ヒム トム  
(A) We call him Tom.  
吾々は と呼ぶ 彼を トム

[譯] 吾々は彼をトムと呼ぶ。

イット メイクス ヒム ハピ  
(B) It makes him happy.  
それは ならしむ 彼を 幸福  
(1) (4) (2) (3)

[譯] それは彼を幸福ならしむ。

“call” “make” は他動詞で “him” は其目的語  
である。然し、「吾々は彼を呼ぶ」や、「それは彼をなら  
しむ」丈では意味が不完全であるから、“Tom” や  
“happy” を補促して完全なる意味を表はさしむるので  
あります。

前に動詞は用法に依つて自動詞ともなり、又他動詞と  
もなると申しました。また同じ動詞が用法次第で完全動  
詞ともなり、不完全動詞ともなります。“is” は「であ  
る」の時は不完全自動詞であります、「にある」所在を  
示す時には完全自動詞になります。



〔完全自動詞〕

マイ ブック イマ ヒア  
 (A) My book is here.  
 私の 本は にある 此所  
 (主語) (動詞) (副詞)

〔譯〕 私の本は此所にある。

〔注意〕 “here” は副詞〔動詞を形容するを副詞と云ふ〕

〔不完全自動詞〕

イット イズ ア ブック  
 (B) It is a book.  
 これは である 本  
 (主語) (動詞) (補促語)

〔譯〕 これは本である。

〔完全他動詞〕

アイ メイド ヒム ア コウト  
 (C) I made him a coat.  
 私は 作った 彼に 上衣(を)  
 (主語) (動詞) (間接目的語) (目的語)

〔譯〕 私は彼に上衣を作つてやつた。

〔注意〕 動詞には現在、過去、過去分詞の三つあります。

“made” は “make” の過去です。後から説明します。

〔不完全他動詞〕

ゼイ メイド ヒム キング  
 (D) They made him king.  
 彼等は にした 彼を 王  
 (主語) (動詞) (目的語) (補促語)

〔譯〕 人々は彼を王にした。

以上の説明で動詞の一通りは了解された事だと思ひますが、一二の注意を申し上げます。

名詞代名詞が補促語として用ひられた場合と、他動詞

の目的語と混同され易いから注意して下さい。(1) 不完全自動詞の補促語は主格と同一の人又は物でありまして、語格は主格と同格であります。(2) 不完全他動詞の補促語は目的語と同一の人又は物を表はし、語格は目的格であります。例：—

ヒー イズ ア ステュダント  
 (1) He is a student.  
 彼は である 學生  
 (主格) (自動詞) (補促語)

〔譯〕 彼は學生である。

この文を見ますと、“He” と云ふ人間と、「學生」と云ふ人間とは同一の人であります。即ち主格と同一の人であります。

ウィー メード ヒム ア ティーチャ  
 (2) We made him a teacher.  
 吾々は した 彼を 教師(に)  
 (主格) (他動詞) (目的語) (補促語)

〔譯〕 吾々は彼を教師にした。〔教師に仕上げた〕

この文を見ますと “make” [made は make の過去] と云ふ語は不完全他動詞だから “a teacher” と云ふ補促語をとりましたが、前に申した様に “teacher” と云ふ補促語は “him” と云ふ目的格と同一の人であります。

此前の例題 (C) の “I made him a coat.” の例で間接目的語と云ふことを申しましたが、此間接目的語と補促語とをよく混同されますが、目的語と補促語は常に同一の人又は物であります。直接目的語と間接目的語とは常に異つて居ります。前の題 (C) と今の例題 (2) とを比較して下さいればすぐ解ります。

アイ ギヴ ヒム ア ブック  
 (イ) I give him a book.  
 私は 與へる 彼に 本(を)  
 (主格) (動詞) (間接目的) (直接目的語)

〔譯〕 私は彼に本を與へる。

若し直接の目的語と間接の目的語とを置き換へますと、「に」と云ふ前置詞<sup>トゥ</sup>“to”を用ひまして:—

アイ ギヴ ア ブック トゥ ヒム  
 (ロ) I give a book to him.  
 彼は 與へる 本を に 彼  
 (1) (5) (4) (3) (2)

〔譯〕 私は彼に本を與へる。

即ち(イ)と(ロ)とは同意味の文であります。

### 第十八章

### 初等の會話

第一編第一章から第十八章迄の説明で、英語の基礎をなし、根柢をなすものは修習したのでありますから、本章では初等會話を練習し、並せて前各章の復習をして見ませう。

第一章から第十八章迄に習つた文章の構造の大體を申して見ます:—

主語は動詞に先だつを常とす。

ジス イズ ア ペン  
 This is a pen.  
 これは である ペン  
 (主語) (動詞)

バーツ フライ  
 Birds fly.  
 鳥は 飛ぶ  
 (主語) (動詞)

問の文は動詞は主語に先だつ。

イズ ジス ア ブック  
 Is this a book?  
 であるが これは 本  
 (動詞) (主語)

動詞は目的語及び補促語に先だつを常とす。

アイ ハヴ ア ブック  
 I have a book.  
 私は 持つ 本(を)  
 (主語) (動詞) (目的語)

マイ ファーザ ギヴ ミー ん づ ブック  
 My father give me the book.  
 私の 父は 與へる 私に その 本(を)  
 (主語) (動詞) (目的語)

〔注意〕 “me” 間接目的語で、“the book” は直接目的語であるが共に目的語であります。

ジス イズ ア ブック  
 This is a book.  
 これは である 本  
 (主語) (動詞) (補促語)

名詞を直接に修飾(形容)する形容詞は、其名詞の前に置くを常とす。

ヒー イズ ア グッド ボイ  
 He is a good boy.  
 彼は である 善良な 少年  
 (形容詞) (名詞)

但し數多の形容詞が一つの名詞を修飾する時は(1)指

示形容詞、(2)数詞の形容詞、(3)性質を表はす形容詞の順序に形容詞を配列します。

|       |       |       |      |     |
|-------|-------|-------|------|-----|
| ぞウズ   | サリー   | ヤング   | メン   | アー  |
| Those | three | young | men  | are |
| あの    | 三人の   | 若い    | 人達   | である |
| (指示形) | (数詞)  | (性質形) | (名詞) |     |

ステューダント  
students.  
學生

若し性質を表はす性質形容詞が二つ以上用ひられた場合には綴りの短き語を前にして、語と語との間にコンマ(,)を打つか或は“and”(及び)で結びます。

|      |     |    |       |     |             |
|------|-----|----|-------|-----|-------------|
| ジス   | イズ  | アン | イーズィ  | アンド | イントリステング    |
| This | is  | an | easy  | and | interesting |
| これは  | である |    | たやてい  | 及び  | 面白い本        |
|      |     |    | (性質形) |     | (性質形)       |

ブック  
book.  
本  
(名詞)

[注意] “and” の代りに “an easy, interesting book.” としてもいい。

名詞と密接な形容詞、例へば、“old”(年のとつた) “young”(若い) とか “big”(大きい) “little”(小さい) 等の形容詞又は固有名詞からきた形容詞 “English”(英國の) “Japanese”(日本の) とが云ふのは名詞の直ぐ前に置く。而して他の形容詞との間にば(,)を附けない。

|    |     |   |       |       |      |
|----|-----|---|-------|-------|------|
| ヒー | イズ  | ア | ブラインド | オウルド  | マン   |
| He | is  | a | blind | old   | man. |
| 彼は | である |   | 盲目な   | 年とつた  | 男    |
|    |     |   | (形容詞) | (形容詞) | (名詞) |

|      |     |    |       |         |       |
|------|-----|----|-------|---------|-------|
| ジス   | イズ  | アン | イーズィ  | イングリッシュ | ブック   |
| This | is  | an | easy  | English | book. |
| これは  | である |    | 易しい   | 英語の     | 本     |
|      |     |    | (形容詞) | (固有名詞から | (名詞)  |
|      |     |    |       | きた形容詞)  |       |

其他種々の場合があるが、大體以上を記憶して置き復習の積りで會話の練習をして見ませう。

▲第一章の「これは.....である」と、第七章の「...は~の——である」第九章の複數形第十二章の「これは.....でない」、第十三章の問と答の應用、及第十六章の形容詞とを應用して次の會話の練習を致します。

|     |      |      |      |
|-----|------|------|------|
| イズ  | ジズ   | ユア   | ペン   |
| Is  | this | your | pen? |
| ですか | これは  | あなたの | ペン   |

[譯]これはあなたのペンですか。

|      |     |     |    |      |      |
|------|-----|-----|----|------|------|
| イエス  | イット | イズ  | マイ | ペン   | ユア   |
| Yes, | it  | is  | my | pen. | Your |
| はい   | それは | である | 私の | ペン   | あなたの |

|     |    |     |     |        |
|-----|----|-----|-----|--------|
| ペン  | イズ | オン  | ザ   | テイブル   |
| pen | is | on  | the | table. |
| ペンは | ある | の上に | その  | 卓      |

[譯]はい、それは私のペンです。貴方のペンはあの卓の上にあります。

|     |     |    |     |    |      |
|-----|-----|----|-----|----|------|
| ノウ  | イット | イズ | ノット | マイ | ペン   |
| No, | it  | is | not | my | pen. |
| いえ  | あれは | では | ない  | 私の | ペン   |

イズ ビズ ア プリタイ バード  
 Is this a pretty bird?  
 でないか これは 美しい 鳥

[譯]これは美しい鳥ぢやありませんか。

イエス イット イズ ア ヴェリ プリタイ  
 Yes, it is a very pretty  
 はい それは 非常に 美しい

パラット  
 parrot.  
 オーム

[譯]はい、それは非常に美しい鸚鵡です。

イズ ゴット ア ウォッチ  
 Is that a watch?  
 ですか それは 時計

[譯]それは懐中時計ですか。

ノウ イット イズ ア クロック  
 No, it is a clock.  
 いゝえ それは である 掛時計

[譯]いゝえ、それは掛時計であります。

アー ビーズ ヘアズ  
 Are these pears?  
 ですか これは 梨子

[譯]これは梨子ですか。

ノウ ゴウズ アー アプルズ  
 No, those are apples.  
 いゝえ それは である 林檎

[譯]いゝえ、それは林檎です。

イズ ビズ ア スレイト  
 Is this a slate?  
 ですか これは 石盤

[譯]これは石盤ですか。

ノウ イット イズ ノット ア スレイト  
 No, it is not a slate.  
 いゝえ それは で ない 石盤

[譯]いゝえ、それは石盤ではありません。

イズ ゴット ア ボール  
 Is that a ball?  
 ですか それは 毬

[譯]それは毬ですか。

ノウ イット イズ アン エッグ  
 No, it is an egg.  
 いゝえ それは です 卵

[譯]いゝえ、鶏卵です。

イズ ゴット アン アンブレラ  
 Is that an umbrella?  
 ですか それは 洋傘

[譯]それは洋傘ですか。

ノウ イット イズ ア ケイン  
 No, it is a cane.  
 いゝえ それは です 杖

[譯]いゝえ、杖です。

ざ スミダ イズ ア リヴァー イン  
 The Sumida is a river in  
 隅田川は である 河 の中の

ざ スィティ オヴ トーキョー  
 the city of Tokyo.  
 市 の 東京

[譯]隅田川は東京の河である。

イズ ムコージマ アン アイランド  
 Is Mukojima an island?  
 ですか 向島は 島

[譯]向島は島ですか。

ノウ イット イズ ノット アン アイランド  
 No, it is not an island  
 いえを それは で ない 島

[譯]いえ、島ではありません。

ジャパン イズ アン エンバイア  
 Japan is an empire.  
 日本は である 帝國

[譯]日本は帝國である。

ジス イズ ア レタ  
 This is a letter.  
 これは である 手紙

[譯]これは手紙です。

ザット イズ ア ポウストカード  
 That is a postcard.  
 それは である 葉書

[譯]それは葉書です。

イズ ジス ノヴェル アン イーズィ アンド  
 Is this novel an easy and  
 あるか この 小説は 易しく そして

イントリスティング  
 interesting?  
 面白く

[譯]此小説は易しくそして面白くありますか。

ノウ イット イズ ヴェリ ディフィカルト フォア  
 No, it is very difficult for  
 いえ それは ある 甚だ むづかしい には

ビギナズ  
 beginners.  
 初學者

[譯]いえ、それは初學者は甚だむづかしくあります。

イズ ゴット ノット ア シップ  
 Is that not a ship?  
 か それは でない 船

[譯]あれは船でにありませんか。

ノウ ゴット イズ ア バドルシップ  
 No, that is a battle-ship.  
 いえ それは である 軍艦

[譯]いえ、あれは軍艦です。

アー ゴウズ オリンジイズ スウィート  
 Are those oranges sweet?  
 ですか これらの 橙は 美味しい

[譯]これらの橙(みかん)は美味しいですか。

イエス ゼイ アー スウィート オリンジイズ  
 Yes, they are sweet oranges.  
 はい それなは です 美味しい 橙

[譯]はい、美味しい橙(みかん)です。

イズ ゴット ア カウ  
 Is that a cow?  
 ですか あれは 牝牛

[譯]あれは牝牛ですか。

ノウ イット イズ ア ホース  
 No, it is a horse.  
 いえ それは である 馬

[譯]いえ、あれは馬です。

今度は第五章の「ここに.....がある」「その.....が——である」、「彼處に.....がある」、「その.....は——である」と云ふのと、第十六章の數詞の形容詞を入れ、第八章第九章の複數形を加へた會話を練習して見ませう。會話に入る前に一寸注意して置き度い事は“There are a book”と云ふ“There are.....”は單に「本がある」と云ふ所在を示す丈で、「其處に本がある」と譯すのではないが、初學者には“there”を「其處」と云ふ譯をつけて記憶させたのである。ですから、若し「其處に本がある」なら：—

There are a book there. と “there” を繰返さねばなりません。

イズ ゼア ア リヴァ イン ゴット タウン  
Is there a river in that town?  
あるか 河が に その 町

[譯]その町に河がありますか。

イエス ゼア イズ ア ラーヂャ リヴァ  
Yes, there is a large river  
はい あります 大きな 河(が)

イン イット  
in it.  
中に その

[譯]はい、大きな河があります。[in it=in that town]

イズ ゼア ア ライブラリ イン ゴット シティ  
Is there a library in that city.  
あるか 圖書館 に その 市

[譯]その市に圖書館がありますか。

イエス ゼア アー フォア ライブラリズ  
Yes, there are four libraries  
はい あり ます 四つの 圖書館(が)

イン イット  
in it.  
中に それの

[譯]はい、圖書館が四つあります。

イズ ゼア エニ ボート オン ギ  
Is there any boat on the  
あるか 若干の ボート の上に その

リヴァ  
river?  
川

[譯]河にボートが若干ありますか。

イエス ゼア アー メニ ボーツ  
Yes, there are many boats  
はい あり ます 澤山の ボート

オン イット  
on it.  
上に それの

[譯]はい、澤山のボートがあります。[on it = on the river]

アー ゼア フラウアズ イン ギ パーク  
Are there flowers in the park?  
あるか 花 の中に、その 公園

[譯]公園に花がありますか。

イエス ゼア アー メニ ゼア  
Yes, there are many there.  
はい あり ます 澤山の 其處に

[譯]はい、澤山あります。

イズ ゼア ア クイレン イン ざ  
 Is there a crane in the  
 居るか 鶴 の中に その  
 ポンド  
 pond?  
 池

[譯]池の中に鶴がゐますか。

イエス ゼア アー すリー クレンズ  
 Yes, there are three cranes  
 はい 居ります 三つの 鶴(が)  
 イン イット  
 in it.  
 中に それの

[譯]はい、(池の中=in it) 三羽の鶴がゐます。

[此 in とか on とか云ふ前置詞練習のために上例を擧げて置きました。]

ゼア イズ ア バード イン ざ  
 There is a bird in the  
 居 る 鳥が の中に  
 ケイダ  
 cage.  
 籠

[譯]籠の中に鳥が居る。

ゼア イズ ア ハット オン ざ タイプル  
 There is a hat on the table.  
 がある 帽子 の上に その 卓

[譯]卓の上に帽子がある。

イズ ゼア ア スウォン バイ ざ  
 Is there a swan by the  
 居るか 白鳥(が) の傍に その  
 ポンド  
 pond?  
 池

[譯]池の傍に白鳥が居るか。

アー ゼア メニ ホースイズ イン ざ  
 Are there many horses in the  
 居るか 澤山の 馬が の中に  
 フィールド  
 field?  
 野

[譯]野に馬が澤山居るか。

ゼア イズ ア ネスト イン ざ ボクス  
 There is a nest in the box.  
 ある 巢(が) の中に その 箱

[譯]箱の中に巢がある。

ざ エッグ イズ イン ざ ネスト  
 The egg is in the nest.  
 卵が ある の中に その 巢

[譯]卵はその巢の中にある。

ゼア イズ ア トーる マン アト ざ  
 There is a tall man at the  
 居る 背の高い 人が に

ドア  
 door.  
 戸口

[譯]戸口に背の高い人が居る。

次に第三章の「私は(あなたは).....である」、第

四章の「彼は(彼女は).....である」第六章の「.....ば——を有つてゐる」、第七章の「.....は~~の——である」、第十章の人代名詞の複数、第十一章の「.....は~~を——する」第十三章、第十四章の問と答第十五章、第十六章の形容詞及び第十七章の動詞等を應用して會話の練習をして見ませう。

ア— ユ— ア ジャパニーズ  
Are you a Japanese?  
ですか 貴方は 日本人

[譯]あなたは日本人ですか。

ノウ アイ アム アン イングリッシュマン  
No, I am an English-man.  
いえ 私は です 英國人

ヒー イズ アン アメリカン  
He is an American.  
彼は である 米國人

[譯]いえ、英國人です、あの人は米國人です。

イズ シー ア ライタ  
Is she a writer?  
ですか 彼女は 著述家

[譯]彼女は著述家ですか。

ノウ シー イズ ア ティーチャ オヴ ア  
No, she is a teacher of a  
いえ 彼女は です 先生の

ガールズ ハイ スクー  
girls' high school.  
女の 高等 學校

[譯]いえ、彼女は高等女學校の先生です。

イズ シー ア グッド ティーチャ  
Is she a good teacher?  
ですか 彼女は 良い 先生

[譯]良い先生ですか。

ウェル シー イズ ア グッド スコラ  
Well, she is a good scholar,  
さうね 彼女は である 立派な 學者

バット ノット ア グッド ティーチャ  
but, not a good teacher.  
だが ない 良い 教師

[譯]さうね、彼女は立派な學者です、が、良教師ではありません。

[注意] ウェル “Well” とふのは、日本語の「さうね」とか「さあ」、  
「はてな」とか云ふ様な一寸答に窮した時とか、または “Yes”  
でもなければ “No” でもない「さうさな」とか云ふ場合に使  
はれる。

イズ ヒー ア ソルジャー  
Is he a soldier?  
ですか 彼は 軍人

[譯]彼は軍人ですか。

ノウ ヒー イズ ア ドクタ  
No, he is a doctor.  
いえ 彼は です 醫者

[譯]いえ、醫者です。

ア— ユ— ア マーチャント  
Are you a merchant?  
ですか 貴方は 商人

[譯]貴方は商人ですか。



ノウ アイ アム ア ステイツマン  
No, I am a statesman.  
いえ 彼は である 政治家

[譯]いえ、私は政治家です。

ハヴ ユー ア ブラザ  
Have you a brother?  
を持つか 貴方は 兄弟

[譯]貴方は御兄弟ありますか。

イエス アイ ハヴ トゥー ヤンガ  
Yes, I have two younger  
はい 私は を持つ 二人の より若い

ブラザズ  
brothers.  
弟

[譯]はい、弟が二人あります。

ハズ シー ア シスタ  
Has she a sister?  
を持つか 彼女は 姉妹

[譯]彼女は姉妹がいますか。

イエス シー ハズ サリー エルダ  
Yes, she has three elder  
はい 彼女は を持つ 三人の より年上の

シスタズ  
sisters.  
姉

[譯]はい、姉が三人あります。

ハヴ ユー ア チャイルド  
Have you a child?  
を持つか 貴方は 子供

[譯]お子さんありますか。

イエス アイ ハヴ シックス チャイルドラン  
Yes, I have six children.  
はい 私は を持つ 六人 子供

[譯]はい、子供が六人あります。

イエス アイ ハヴ フォア ボイズ アンド  
Yes, I have four boys and  
はい 私は 持つ 四人(の) 男児 と

トゥー ガールズ  
two girls.  
二人(の) 女児

[譯]はい、男児が四人と女児が二人あります。

ハヴ ユー ノウ ティケット  
Have you no ticket?  
を持た 貴方は ないか 切符

[譯]切符がありませんか。

イエス アイ ハヴ ワン  
Yes, I have one.  
はい 私は を持つ 一枚

[譯]はい、持っています。

[注意] 此“one”は“a ticket”の意味です。

アイ ハヴ ファイヴ カズンズ  
I have five cousins.  
私は を持つ 五人の 従兄弟

[譯]私は従兄弟が五人あります。

ハヴ ユー ア フレンド イン トケヨウ  
Have you a friend in Tokyo?  
持つか 貴方は 友人 に 東京

[譯]貴方は東京に友人がいますか。

イエス アイ ハヴ メニ フレンズ  
Yes, I have many friends.  
はい 私は 持つ 澤山の 友人(を)

[譯]はい、友人は澤山あります。

## 第三編

〔前編、第一章乃至第十八章迄に於て英語の基礎根柢をなすものは既に學修し、初等の會話位には先づ差支なくなつたのであるが、然し未だ不十分であるから、本編に於て稍複雑した構文を一通り問研究して、先づ初等英語の完全を期し、更らに高等程度の英語に進む階梯を作ることにしようと思ふ〕

### 第一章

「……………しますか」

「……………します」

「……………しませんか」

前編では主として Be [is, are, am] 動詞, Have [has も] 動詞とを説明し:—

{ 貴方は少年ですか。

{  
ア— ユー ア ボイ  
Are you a boy?  
ですか 貴方は 少年

とか:—

{ 本をお持ちですか。

{  
ハヴ ユー ア ブック  
Have you a book?  
を持つか 貴方は 本

の問の作り方を習ひました。然し:—

{ 私は歌ふ。

{  
アイ スィング  
I sing.  
私は 歌ふ

の間はまだ習ひませんでした。本章に於て此問「……  
……………しますか」を研究して見ませう。

Be 動詞, Have 動詞以外の問には:—

ドゥー  
do

と云ふ言葉を文の始めにつけて問ひの形を作るので

す。即ち:—

ドゥー ユー スィング  
Do you sing?

ますか 貴方は 歌ひ

(3) (1) (2)

〔譯〕 貴方は歌ひますか。

と致します。然し主語が三人稱の場合は Be, Have

動詞以外の動詞には、第十章で習つた通り:—

ヒー ラヴズ ヒズ ブラザ  
He loves his brother.

彼は を愛す 彼の 弟

(1) (4) (2) (3)

〔譯〕 彼は弟を愛す。

の如く、“love” か “loves” になりました通り、語

尾に “s” 又は “es” をつけまして:—

ドゥー ダズ  
do が does

に變ります。即ち:—

ダズ ヒー スィング  
Does he sing?

ますか 彼は 歌ひ

(3) (1) (2)

〔譯〕 彼は歌ひますか。

となります。由來 “do” と云ふのは「する; 爲す」

と云ふ意味の他動詞でありまして:—

{ アイ ドゥー イット  
 I do it.  
 私は をなす それ  
 [譯] 私はそれをします。

{ ユー ドゥー イット  
 You do it.  
 貴方は をなす それ  
 [譯] 貴方はそれをします。

{ ヒー ダズ イット  
 He does it.  
 彼は をなす それ  
 [譯] 彼はそれをなす。

となります。若し “I” “you” “he” が複数になりまして  
 ウィー ユー ゼイ  
 “we” “you” “they” と變化しましたなら、“do” 人稱に  
 拘らず “do” であります。詰り主語が三人稱の單數の場合だ  
 け “do” が “does” になるのです。ですから主語が複數の時  
 でも；—

{ ウィー ドゥー イット  
 We do it.  
 私達にそれをなす。

{ ユー ドゥー イット  
 You do it.  
 君達はそれをなす。

{ ゼイ ドゥー イット  
 They do it.  
 彼等はそれをなす。

今此變化を表に用しますと；—

|     | 單 數                                                                | 複 數               |
|-----|--------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 一人稱 | アイ ドゥー<br>I do                                                     | ウィー ドゥー<br>we do  |
| 二人稱 | ユー ドゥー<br>you do                                                   | you do            |
| 三人稱 | ヒー }<br>he }<br>シー }<br>she } }<br>ダズ }<br>does }<br>イット }<br>it } | ゼイ ドゥー<br>they do |

ドゥー ユー スィング  
Do you sing?

貴方歌ひますか。

の “do” は “sing” (歌ふ) と云ふ動詞を助けて、そ  
 れに問ひの意味を與へる言葉でありますから、これを文  
 法上助動詞と申します。

三人稱の場合には；—

ヒー スィングズ  
He sings.

彼は歌ふ。

と云ふ様に “sing” に “s” をつけますが、助動詞  
 を用ひますと、助動詞と、本動詞とを一所に用ひます時  
 は、助動詞に “s” 又は “es” をつけまして、本動詞  
 は動詞本來の形になりますから；—

Does he sings? (誤り)

は誤りでありまして；—

ダズ ヒー スィンク  
Does he sing?

が正しいであります。

Be や Have 動詞の打消には Be 動詞の場合には  
“not” を入れてまして：—

ヒー イズ ノット ア ステューダント  
He is not a student.  
彼は で ない 學生  
(1) (3) (4) (2)

〔譯〕 彼は學生でない。

としました。Have 動詞の場合は “no” を用ひまし  
て：—

アイ ハヴ ノウ ペアランツ  
I have no parents.  
私は を持た ない 兩親

〔譯〕 私は兩親がない。

と云ふ様に用ひますが、Be や Have 動詞以外の動詞  
の打消には “do” の次に “not” を置きまして、其  
次に本動詞を置きます。即ち：—

ドゥー ノット スィンク  
Do not sing.  
なさぬ 歌ふ  
〔歌はぬ。〕

と云ふ様に用ひます。Be, Have 動詞は其次に否定の  
“no” や “not” を直ぐ附けますが、其他の動詞、例  
へば “sing” (歌ふ) の如き動詞は “sing not” とは  
とはしませんで、助動詞の “do” の方で打消すので  
ある事を記憶して下さい。

アイ ドゥー ノット スィンク  
I do not sing.  
私は ません 歌ひ  
〔譯〕 私は歌ひません。

ヒー ダズ ノット スィンク  
He does not sing.  
彼は なす しない 歌ひ  
〔譯〕 彼は歌ひません。

〔注意〕 “do” を用ひた普通の間は本章の始めて 習ひました  
が、否定の間はどうするかと云ふに、それには二つの場合があり  
ます。此前に否定の間と云ふのはどう云ふのか、前編の十三章で  
説明しましたが、便宜上 こゝでも 例を挙げませう。動詞でした  
ら：—

イズ ジス ノット ア ブック  
Is this not a book?  
か これは でない 本  
〔譯〕 これは本でないのか。

とか、Have 動詞でしたら：—

ハヴ ユー ノット ア ブック  
Have you not a book?  
を持た 貴方は ないか 本  
〔譯〕 貴方は本を持つてゐませんか。

と云ふのである。Be, Have 以外の動詞を含んだ文は普通の問  
と打消の間とで違ひがあります。

(1) 主語が名詞でしたら其前に “not” を置きます。

(普通の間) { ダズ ん バード スィンク  
Does the bird sing?  
ますか この 鳥は 歌ひ  
〔譯〕 此鳥は歌ひますか。

(打消の間) { ダズ ノット ん バード スィンク  
Does not the bird sing?  
なさらぬか この 鳥は 歌ひ  
〔譯〕 此鳥は歌ひませんか。

(2) 主語が代名詞でしたら、其代名詞の次に “not” を置きます。

(普通の問) { <sup>ダズ ヒー スィンク</sup>  
Does he sing?  
ますか 彼は 歌ひ  
〔譯〕 彼は歌ひますか。

(打消の問) { <sup>ダズ ヒー ノット スィンク</sup>  
Does he not sing?  
な 彼は ないか 歌ひ  
〔譯〕 彼は歌ひませんか。

助動詞の “do” は答に於ては “Be” “Have” 以外の動詞を省くに用ひらる。尙ほ省略するのであるから必ず省略しなすればならぬと云ふのではない、たゞ省略するのが普通であると云ふだけのことである。例：—

(問) { <sup>ドゥー ユー スィンク</sup>  
Do you sing?  
貴方は歌ひますか。

{ <sup>イエス アイ ドゥー</sup> <sup>イエス アイ スィンク</sup>  
Yes, I do. — Yes, I sing.  
はい歌ひます。

(答) { <sup>ノウ アイ トゥー ノット</sup>  
No, I do not.  
— <sup>ノウ アイ ノウ ノット スィンク</sup>  
No, I do not sing.  
いえ、私は歌ひません。

### 練習と應用

前編の第十三章第十四章及び本編の第一章の問の作り方とで次の三通りの形が出来ました。

(A) 「……………であるか」〔前編第十三章参照〕

(問) { <sup>アー ユー ア ラシヤン</sup>  
Are you a Russian?  
です(か) 貴方は 露西亞人  
貴方は露西亞人ですか。

(答) { <sup>ノウ アイ アム ノット ア ラシヤン</sup>  
No, I am not (a Russian)  
いえ、私は露西亞人ではありません。

(問) { <sup>アー ユー ノット アン アメリカン</sup>  
Are you not an American?  
貴方は米國人ではありませんか。

(答) { <sup>イエス アイ アム アン アメリカン</sup>  
Yes, I am. (an American)  
はい、私は米國です。

其他：—

Is he an Englishman?—貴方は英國人ですか。

Yes, he is. —はい、さうです。〔英國人です〕

Are you a student? —君は學生ですか。

No, they are soldiers.—いえ、彼等は軍人です。

(B) 「……………を有つて居るか」〔前編十四章参照〕

(問) { <sup>ハヴ ユー ア ブック</sup>  
Have you a book?  
貴方は本を有つてゐますか。

(答) { <sup>イエス アイ ハヴ ア ブック</sup>  
Yes, I have. (a book)  
はい、本を持つてゐます。  
<sup>ノウ アイ ハヴ ノット</sup>  
No, I have not.  
いえ、持つてゐません。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ハヴ ゼイ ア キング} \\ \text{Have they a king?} \\ \text{王様} \\ \text{あの人達には王様はありますか。} \end{array} \right.$

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{Yes, they have.} \\ \text{はい、あります。} \end{array} \right.$

(C) 「……………しますか」〔本編本章参照〕

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ドゥー ユー シング} \\ \text{Do you sing?} \\ \text{貴方は歌ひますか。} \end{array} \right.$

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス アイ シング イェス アイ ドゥー} \\ \text{Yes, I sing? [又は Yes, I do]} \\ \text{はい、歌ひます。} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ダズ ノット ユア ア ブラザ シング} \\ \text{Does not your a brother sing?} \\ \text{貴方の弟さんは歌ひませんか。} \end{array} \right.$

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス ヒー ダズ} \\ \text{Yes, he does.} \\ \text{はい、歌ひます。} \\ \text{No, he does not.} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{トウ ゼイ シング} \\ \text{Do they sing?} \\ \text{彼等は歌ひますか。} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ドゥー ゼイ ノット シング} \\ \text{Do they not sing?} \\ \text{彼等は歌ひませんか。} \end{array} \right.$

と是文の形が覚えられた譯であります。

本章で稽古しました“do”を用ふる練習を少しして見ませう。今迄の説明には、諸君の記憶を助成するために“sing”と云ふ動詞だけを用ひましたが、以下種々變つた動詞を使つて見ませう。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ドゥー ユー リヴ イン トウキョー} \\ \text{Do you live in Tokyo?} \\ \text{ます(か) 貴方は 住み に 東京} \\ \text{(5) (1) (4) (3) (2)} \\ \text{貴方は東京に住みますか。} \end{array} \right.$

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノウ アイ ドゥー ノット リヴ イン トウキョー} \\ \text{No, I do not live in Tokyo.} \\ \text{いえ 私は ませぬ 住み に 東京} \\ \text{(1) (2) (6) (5) (4) (3)} \\ \text{いえ、私は東京に住みませぬ。} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ダズ ヒー カム トゥ トウキョー} \\ \text{Does he come to Tokyo?} \\ \text{ます(か) 彼は 来 に 東京} \\ \text{(5) (1) (4) (3) (2)} \\ \text{彼は上京(東京に)しますか。} \end{array} \right.$

〔注意〕「に」と云ふ日本語でも、静止の状態を表はす時に“in”と云ふ言葉を用ひますが、動的状態の時は“to”と申します。ですから「来る」とか、「行く」とか云ふ場合には“to”です。「住む」とか「……………にある」とか、または「……………の中に」等は“in”であります。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノウ ヒー ダズ ノット カム トゥ トウキョー} \\ \text{No, he does not come to Tokyo.} \\ \text{いえ 彼は ませぬ 来 に 東京} \\ \text{(1) (2) (6) (5) (4) (3)} \\ \text{いえ、彼は東京に来ませぬ。} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ダズ ユア スィスタ ノット ゴウ トゥ チャーチ} \\ \text{Does your sister not go to church?} \\ \text{か 貴方の 妹さんは 行かぬ に 教會} \\ \text{(6) (1) (2) (5) (4) (3)} \\ \text{貴方のお妹さんは教會にお出にありませんか。} \end{array} \right.$

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス シー ゴウズ トゥー チャーチ} \\ \text{Yes, she goes to church.} \\ \text{はい 彼女は 参ります に 教會} \\ (1) (2) (5) (4) (3) \end{array} \right.$   
はい、参ります。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ドゥー ヌー カム ホーム} \\ \text{Do you come home?} \\ \text{ますか 貴方は 来 家へ} \\ (4) (1) (3) (2) \end{array} \right.$   
貴方は家に帰りますか。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノウ アイ ドゥー ノット カム ホーム} \\ \text{No, I do not. come home)} \\ \text{いえ 私は (来)ません} \\ (1) (2) (3) \end{array} \right.$   
いえ、歸りません。

[注意] 「家に歸る」「家に行く」と云ふ時には“to”をつけない。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ダス ん ンイ ゴウ トゥ スクーる} \\ \text{Does the boy go to school?} \\ \text{なされるか その 少年は 行き に 學校} \\ (6) (1) (2) (5) (4) (3) \end{array} \right.$   
少年は學校に行きますか。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス ん ンイ ゴウズ トゥ スクーる エヴリデイ} \\ \text{Yes, the boy goes to school everyday.} \\ \text{はい その 少年は 行くに 學校 毎日} \\ (1) (2) (3) (7) (6) (5) (4) \end{array} \right.$   
はい、少年は毎日學校に行きます。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ドゥー ゼイ ワーク ハード} \\ \text{Do they work hard?} \\ \text{ますか 彼等は 働 き 懸命に} \\ (4) (1) (3) (2) \end{array} \right.$   
彼等は勉強しますか。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノウ ゼイ ドゥー ノット ワーク ハード} \\ \text{No, they do not work hard.} \\ \text{いえ 彼等は ません 働 き 懸命に} \\ (1) (2) (5) (4) (3) \end{array} \right.$   
いえ、勉強しません。

以上の問答は總て自動詞のみの動詞を使つてやつたのでありますが、「.....を」のつく他動詞の動詞を使つた問答をして見せよう。他動詞とは「を」のつく動詞で、例へば：—

$\left\{ \begin{array}{l} \text{アイ リード ん ノヴル} \\ \text{I read the novel.} \\ \text{私は を讀む 小説} \\ \text{私は小説を讀む。} \end{array} \right.$

の“read”は他動詞であります。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ドゥー ヌー リード タ デイズ ペイパ} \\ \text{Do you read to-day's paper?} \\ \text{ますか 貴方は を讀み 今日の 新聞} \\ (5) (1) (5) (2) (3) \end{array} \right.$   
貴方は今日の新聞を讀みますか。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス アイ リード イット} \\ \text{Yes, I read it.} \\ \text{はい 私は を讀む それ} \\ (1) (2) (4) (3) \end{array} \right.$   
はい、讀みます。(it=to-day's paper)

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ドゥー ヌー ドリンク エニ ミルク} \\ \text{Do you drink any milk?} \\ \text{ますか 貴方は を飲み いくらか 牛乳} \\ (5) (1) (4) (2) (3) \end{array} \right.$   
貴方はいくら牛乳を飲みますか。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス アイ ドリンク サム ミルク} \\ \text{Yes, I drink some milk.} \\ \text{はい 私は を飲む 少々 牛乳} \\ (1) (2) (5) (3) (4) \end{array} \right.$   
はい、少々飲みます。

(問) 

|     |      |       |     |      |
|-----|------|-------|-----|------|
| ドゥー | ゼイ   | ドリンク  | エニ  | ティー  |
| Do  | they | drink | any | tea? |
| ますか | 彼等は  | を飲み   | い   | くらか  |
| (5) | (1)  | (4)   | (2) | (3)  |

 あの人達は茶を飲みますか。

(答) 

|      |      |       |      |      |
|------|------|-------|------|------|
| イエス  | ゼイ   | ドリンク  | サム   | ティー  |
| Yes, | they | drink | some | tea. |
| はい   | 彼等は  | を飲む   | い    | くらか  |
| (1)  | (2)  | (5)   | (3)  | (4)  |

 はい、飲みます。

## 第二章

- [a] 「……………出来る」
- [b] 「……………出来ない」
- [c] 「……………してよろしい」
- [e] 「……………していけない」
- [d] 「……………せねばならぬ」
- [f] 「……………するに及ばぬ」

本章に於てはこの六通りを研究ませう。

以上の六通りを漢文句調のむつかしい言葉で簡潔に表して見ますと：—

- (a) 可能            (b) 不可能
- (c) 許可            (d) 禁止
- (e) 必要            (f) 不要

であります。此六通りは前章で一才申上りました助動詞〔動詞を助けるもの〕で言ひ表はすのです。“do”は助

動詞だと前章で申したか、“do”と云ふのは本来は本動詞ですが、本章に述べるものは真個の助動詞とも云ふべきものであります。今上に擧げた六通りを言ひ表はす助動詞を擧げて見ますと：—

- (a) can                            (b) キャンノット cannot
- (c) may                            (d) マスト ノット must not
- (e) must                            (f) ニード ノット need not

と斯う申します。可能 (can) の反対は不可能 “not” と云ふ否定をつけました (cannot) であります。許可 (may) の反対、不許可、即ち禁止は “may not” とは申しませんで、必要 (must) の否定 “must not” を用ひます。必要 (must) の反対、不要は “must not” が禁止の方に先がけて横取されましたので “need not” を用ひます。

### [a] 可能

|         |     |       |
|---------|-----|-------|
| キャン     | ユー  | スィング  |
| Can     | you | sing? |
| ことが出来るか | 貴方は | 歌ふ    |
| (3)     | (1) | (2)   |

〔譯〕 貴方は歌へますか〔可能か否かを問ふ〕

|      |     |     |       |
|------|-----|-----|-------|
| イエス  | アイ  | キャン | スィング  |
| Yes, | I   | can | sing. |
| はい   | 私は  | 出来る | 歌ふ    |
| (1)  | (2) | (4) | (3)   |

〔譯〕 はい私は歌へます。〔可能〕



[b] 不可能

|     |     |        |       |
|-----|-----|--------|-------|
| ノウ  | アイ  | キャノット  | スینگ  |
| No, | I   | cannot | sing. |
| いえ  | 私は  | 事が出来ない | 歌ふ    |
| (1) | (2) | (4)    | (3)   |

[譯] いいえ、私は歌へません。〔不能〕

と斯う云ふ様に可能、不可能を用ひます。

〔注意〕 先へ進む前に一言御注意申上て置き度い事は動詞は三人稱の場合には“s”或は“es”をつけますが、助動詞を用ひますと、動詞は必ず動詞本來の形の儘〔“s”や“es”をつけない〕用ひられます。また前で習ひました“do”と云ふ助動詞は Be, have 以外の動詞に伴ふのでありますが、本章の助動詞は總ての動詞に伴ひます。

[c] 許可

|     |     |       |
|-----|-----|-------|
| メイ  | アイ  | スینگ  |
| May | I   | sing? |
| よいか | 私は  | 歌ふ    |
| (3) | (1) | (2)   |

[譯] 私は歌つてもよろしう御座いますか。

〔許可を乞ふ場合〕

|      |     |       |
|------|-----|-------|
| イエス  | ユー  | メイ    |
| Yes, | you | may.  |
| はい   | 君は  | してもよい |
| (1)  | (2) | (3)   |

[譯] 歌つてもよろしい。〔許可〕

[d] 禁止

|     |     |          |      |
|-----|-----|----------|------|
| ノウ  | ユー  | マスト      | ノット  |
| No, | you | must     | not. |
| いえ  | 貴方は | してはいけません |      |

[譯] いいえ、いけません〔禁止〕

〔注意〕 答の“Yes, you may”や No, you must not”の次に“sing”と云ふ言葉が略されてゐます。

[e] 必要

|        |     |       |
|--------|-----|-------|
| マスト    | アイ  | スینگ  |
| Must   | I   | sing? |
| ねばならぬか | 私は  | 歌は    |
| (3)    | (1) | (2)   |

[譯] 私は歌はねばなりませんか。

〔必要か不要かを問ふ場合〕

|      |     |       |         |
|------|-----|-------|---------|
| イエス  | ユー  | マスト   | スینگ    |
| Yes, | you | must  | (sing). |
| はい   | 君は  | ねばならぬ | 歌は      |
| (1)  | (2) | (4)   | (3)     |

[譯] はい、歌はねばなりません。〔必要〕

[f] 不要

|     |     |       |      |        |
|-----|-----|-------|------|--------|
| ノウ  | ユー  | ニード   | ノット  | スینگ   |
| No, | you | need  | not. | (sing) |
| いえ  | 君は  | 必要はない | 歌ふ   |        |
| (1) | (2) | (4)   | (3)  |        |

[譯] いいえ、それには及びません。〔不要〕

これで六通りの言ひ表し方を覺えた譯であります。

以下練習をませう。

練習と應用

|     |   |         |     |       |          |
|-----|---|---------|-----|-------|----------|
| (問) | { | キャン     | ユー  | スピーク  | イングリッシュ  |
|     |   | Can     | you | speak | English? |
|     |   | ことが出来るか | 貴方は | を話す   | 英語       |
|     |   | (4)     | (1) | (3)   | (2)      |

英語を話せますか。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス アイ キャン スピーク イット} \\ \text{Yes, I can speak it.} \\ \text{はい 私は ことが出来る な話す それ} \\ \text{(1) (2) (5) (4) (3)} \\ \text{はい、話せます。} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{キャン ユー スピーク ジャーマン} \\ \text{Can you speak German?} \\ \text{ことが出来るか 貴方は を話す 獨逸語} \\ \text{(4) (1) (3) (2)} \\ \text{獨逸語を話せますか。} \end{array} \right.$

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノウ アイ キャノット スピーク イット} \\ \text{No, I cannot speak it.} \\ \text{いえ 私は ません を話せ それ} \\ \text{(1) (2) (5) (4) (3)} \\ \text{いえ、話せません。} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{キャン ユー ミスタ ヤマキ} \\ \text{Can you, Mr. Yamaki?} \\ \text{(話せ)るか 君は 君 山木} \\ \text{(4) (3) (2) (1)} \\ \text{山木君、君はどうだね。} \end{array} \right.$

注意：— 君はどうだねと、隣席の人に聴く場合に用ふ。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス アイ キャン} \\ \text{Yes, I can.} \\ \text{はい 私は 出来ます} \\ \text{(1) (2) (3)} \\ \text{はい、話せます。} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{メイ アイ トライ} \\ \text{May, I try?} \\ \text{よいか 私は やつて見ても} \\ \text{(3) (1) (2)} \\ \text{やつて見てもよろしう御座いますか。} \end{array} \right.$

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス ユー メイ トライ イット} \\ \text{Yes, you may. (try it)} \\ \text{はい 君は してもよい を試みて それ} \\ \text{(1) (2) (5) (4) (3)} \\ \text{はい、やつて御覧なさい。} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{キャン ユー スペル リーダ} \\ \text{Can you spell "reader," Yoshimoto?} \\ \text{ますか 君は 綴れ リーダ(と) 吉本} \\ \text{(5) (2) (4) (3) (1)} \\ \text{吉本、君はリーダ(教科書)と云ふ字を綴れますか。} \end{array} \right.$

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ノウ サー アイ キャノット} \\ \text{No, sir, I cannot.} \\ \text{いえ 私は 出来ません} \\ \text{(1) (2) (3)} \\ \text{いえ、私は綴れませんで御座います。} \end{array} \right.$

〔注意〕 “Yes, sir, ……” とか “No, sir, ……” と云ふのは “Sir” は 敬語で、丁寧な言葉です。ここでは先生に對しての答へであるから、“Sir” を用ひます。教室で「先生!」と<sup>ティーチャ</sup>呼ぶ場合に “teacher” (先生) と云つてはいけません。“Sir” と呼ぶのです。

ユー アー アン アイドル ホイ  
You are an idle boy, Yoshimoto.  
君は である ナマケ 少年 吉本  
(2) (5) (3) (4) (1)

ユー マスト ノット ビー ソー アイドル ユー  
You must not be so idle. You  
君は いけない ほ そんなに ナマケテ 君は  
(1) (5) (4) (2) (3) (1)

マスト ラーン イット バイ ネクスト タイム  
must learn it by next time.  
ねばならぬ 學ぶ それを 迄に 次の 時  
(6) (5) (2) (4) (3) (4)

山本、君は惰け少年だ。君はそんなに惰けてはいけません。それを [reader の綴りを] 此次の時迄に學んで (覚えて) 來なければいけません。

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{キャン} \quad \text{ユー} \\ \text{Can you, Satake?} \\ \text{出来るか 君は 佐竹} \\ \text{(3) (2) (1)} \end{array} \right.$

佐竹、君は出来るか。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス} \quad \text{サー} \quad \text{アイ} \quad \text{キャン} \quad \text{リーダ} \\ \text{Yes, sir, I can. "R-e-a-d-e-r Reader."} \\ \text{はい、私は出来ます。「ア-、イ-、エ-イ、デー、イ} \\ \text{-、ア-——リーダ」} \end{array} \right.$

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ギット} \quad \text{イズ} \quad \text{イット} \\ \text{That is it.} \\ \text{それでよろしい。} \end{array} \right.$

(問)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{メイ} \quad \text{アイ} \quad \text{カム} \quad \text{イン} \\ \text{May I come in?} \\ \text{よいか 私は 来る 中に} \\ \text{(4) (1) (3) (2)} \end{array} \right.$

私は入つてもよろしく御座いますか。

[注意] 斯う云ふのは諳記した方がよいのである。英語の此“can”“may”“must”は支那人の日本語によく似て居る。即ち「中に入るよろしい」とか「あなた来るよろしい」などよく似た言葉の配列であります。

(答)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{イエス} \quad \text{ユー} \quad \text{メイ} \\ \text{Yes, you may.} \\ \text{入つてもよろしい。} \end{array} \right.$

$\left\{ \begin{array}{l} \text{アイ} \quad \text{キャン} \quad \text{スウィム} \\ \text{I can swim.} \\ \text{私は ことが出来る 泳ぐ} \\ \text{(1) (3) (2)} \end{array} \right.$

私は泳げます。

“can”は「……する事が出来る」と云ふ語ですが、上の様な場合には「泳げます」と譯した方が日本語にはまります。又次の様な文の如きは「私は飛べません」と譯した方がよいのです。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{アイ} \quad \text{キャンノット} \quad \text{フライ} \\ \text{I cannot fly.} \\ \text{私は ことが出来ない 飛ぶ} \\ \text{(1) (3) (2)} \end{array} \right.$

私は飛べない。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ユー} \quad \text{メイ} \quad \text{ゴウ} \quad \text{アウト} \\ \text{You may go out.} \\ \text{君は よろしい 行く 外に} \\ \text{(1) (4) (3) (2)} \end{array} \right.$

出て行つてもよろしい。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ユー} \quad \text{マスト} \quad \text{ノット} \quad \text{ゴウ} \quad \text{アウト} \\ \text{You must not go out.} \\ \text{君は いけない 行く 外に} \\ \text{(1) (4) (3) (2)} \end{array} \right.$

出て行つてはいけません。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ユー} \quad \text{ニード} \quad \text{ノット} \quad \text{カム} \quad \text{イン} \\ \text{You need not come in.} \\ \text{君は 必要はない 来る 中に} \\ \text{(1) (4) (3) (2)} \end{array} \right.$

中に入つてはいけない。[入る必要ない]

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ユー} \quad \text{マスト} \quad \text{スイット} \quad \text{ダウン} \\ \text{You must sit down.} \\ \text{君は ねばならぬ 座る} \\ \text{(1) (3) (2)} \end{array} \right.$

君は座らねばいけません。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ユー} \quad \text{ニード} \quad \text{ノット} \quad \text{スタンド} \\ \text{You need not stand.} \\ \text{君は 及ばぬ 立つに} \\ \text{(1) (3) (2)} \end{array} \right.$

君は立つに及びません。

$\left\{ \begin{array}{l} \text{ユー} \quad \text{メイ} \quad \text{オウブン} \quad \text{ざ} \quad \text{ウィンドウ} \\ \text{You may open the window.} \\ \text{君は よろしい 開ける その 窓を} \\ \text{(1) (4) (4) (2) (3)} \end{array} \right.$

窓を開けてよろしい。

You <sup>ユー</sup> must <sup>マスト</sup> not <sup>ノット</sup> shut <sup>シャット</sup> the <sup>ザ</sup> door. <sup>ドア</sup>  
 君は <sup>(1)</sup> いけない <sup>(5)</sup> 閉めて <sup>(4)</sup> その <sup>(2)</sup> 戸を <sup>(3)</sup>  
 戸をしめてはいけません。

| 肯定             | 否定                 |
|----------------|--------------------|
| ……出来る = can    | ……出来ない = cannot    |
| ……してよい = may   | ……してならぬ = must not |
| ……ねばならぬ = must | ……に及ばぬ = need not  |

上の兩様の形を口辭になる迄繰返して諳記されたし。

### 第三章

[a] 「……………であらう」

[b] 「……………しませう」

こゝに掲げた二つは現在のことでもなければ、過去のことでもありません。二つ共、未來のことを云ふ時に使はれる言葉であります。こゝで一才申上げて置きますが動作状態には三體あります。一つは過去で「……………した」と云ふ動作状態で、二は「……………である」と云ふ現在の動作状態であります。第三には「……………するでせう」未來の動作状態を表すのであります。

本章に掲げました「……………でせう」と云ふのは單純の未來であります。「……………しませう」と云ふのは未來は未來に相違ありませんが、意志を含んで未來であります。兎もあれ未來を表はすには助動詞の：—

Will <sup>ウィル</sup> と Shall <sup>シャル</sup>

この二つを使ひわけます。其使ひわけが一才六つかしいが、慣れたら何んでもありません。純粹の未來の場合には一人稱 (I; we) の主語の場合には “shall” と云ふ助動詞を使ひますし、二人稱 (you) 三人稱 (he, they) には “will” を用ひます。意志を含んだ未來を表はすには主格人稱如何に拘らず “will” を用ひます。表にして見ますと：—

|        |         |                                                             |
|--------|---------|-------------------------------------------------------------|
| 未<br>來 | 一人稱     | I (we) shall.....                                           |
|        | 二人稱     | You will .....                                              |
|        | 三人稱     | He [she,it] [they] will...                                  |
| 意<br>志 | 一、二、三人稱 | I (we) will .....                                           |
|        |         | { You will .....,<br>He } (they) will .....,<br>She }<br>It |

となります。この表で見ますと純粹の未來と意志の未來との二人稱三人稱は同じ形でありますから、何れが純粹の未來か將た意志を含んだ未來かの見分けがつかない事になりますが、これは前後の關係から見分ける外ありません。以下説明致して見ませう。

純粹の未來の例：—

[上の表を見て下さい]

私は行きませう。〔一人稱〕

|   |     |       |     |
|---|-----|-------|-----|
| { | アイ  | シヤル   | ゴウ  |
|   | I   | shall | go. |
| { | 私は  | ませう   | 行き  |
|   | (1) | (3)   | (2) |

君は行きなさるでせう。〔二人稱〕

|   |     |      |     |
|---|-----|------|-----|
| { | ユー  | ウイ   | ゴウ  |
|   | You | will | go. |
| { | 君は  | でせう  | 行く  |
|   | (1) | (3)  | (2) |

あの人は行くでせう。〔三人稱〕

|   |     |      |     |
|---|-----|------|-----|
| { | ヒー  | ウイ   | ゴウ  |
|   | He  | will | go. |
| { | 彼は  | でせう  | 行く  |
|   | (1) | (3)  | (2) |

〔注意〕 二人稱三人稱の未來に “will” を用ふるのは恰かも “You” “He” 等が意のままになるでせうからと他人の心を敬意を表して云ふ心持から出たものであります。

意志を表はす例：—

〔意志の “will” は「……するつもりだ」と譯してよい。〕

私は彼を助けやろうと思ふ。〔一人稱〕

|   |     |      |      |      |
|---|-----|------|------|------|
| { | アイ  | ウイ   | ヘルプ  | ヒム   |
|   | I   | will | help | him. |
| { | 私は  | ませう  | 助け   | 彼を   |
|   | (1) | (4)  | (3)  | (2)  |

〔自己の意志を表白する場合〕

君は彼を助けやうと思ふ。〔二人稱〕

|   |     |      |      |      |
|---|-----|------|------|------|
| { | ユー  | ウイ   | ヘルプ  | ヒム   |
|   | You | will | help | him. |
| { | 君は  | ませう  | 助け   | 彼を   |
|   | (1) | (4)  | (3)  | (2)  |

〔對話者の意志を代辯する場合〕

彼は彼女を助けやうと思ふ。〔三人稱〕

|   |     |      |      |      |
|---|-----|------|------|------|
| { | ヒー  | ウイ   | ヘルプ  | ハー   |
|   | He  | will | help | her. |
| { | 彼は  | ませう  | 助け   | 彼女を  |
|   | (1) | (4)  | (3)  | (2)  |

〔これは第三者の意志を代辯する場合である〕

此 “will” “shall” は問の場合に最も役立つのであります。例へば單純の未來を問ふ場合と、意志を確める問を發する場合等に分れます。

問ふ場合には何れも “will” “shall” を前に出して問ふのです。次に否定の場合には “will not” “shall not” と直ぐ其次に “not” をつけます。今其場合の例を擧げて見ませう。

|     |   |      |     |      |      |
|-----|---|------|-----|------|------|
| (問) | { | ウイ   | ユー  | ヘルプ  | ヒム   |
|     |   | Will | you | help | him? |
|     | { | つもりか | 貴方は | 助ける  | 彼を   |
|     |   | (4)  | (1) | (3)  | (2)  |

貴方は彼を助ける積りか。〔意志を問ふ〕

|     |   |      |     |      |      |      |
|-----|---|------|-----|------|------|------|
| (答) | { | イエス  | アイ  | ウイ   | ヘルプ  | ヒム   |
|     |   | Yes, | I   | will | help | him. |
|     | { | はい   | 私は  | つもりだ | 助ける  | 彼を   |
|     |   | (1)  | (2) | (5)  | (4)  | (3)  |

はい、私は彼を助けるつもりです。

|     |   |     |     |      |     |      |      |
|-----|---|-----|-----|------|-----|------|------|
| (答) | { | ノウ  | アイ  | ウイ   | ノット | ヘルプ  | ヒム   |
|     |   | No, | I   | will | not | help | him. |
|     | { | いいえ | 私は  | つもりだ | ない  | 助け   | 彼を   |
|     |   | (1) | (2) | (6)  | (5) | (4)  | (3)  |

いいえ、私は彼を助けないつもりです。

以上は對話者の意志を問ふ例であります。第三者の意志を問ふ場合でも同様であります。〔練習と應用参照〕

以上の説明で、二人稱 (you) 三人稱 (he, she, it, they) には純粹の未來にもまた意志にも “shall” を用ひないと申します。若し用ひたらどうなるかと申しますと、それは：—

指圖 と 命令

の場合であります。例へば、—

|   |       |     |     |
|---|-------|-----|-----|
| { | シヤる   | ヒー  | ゴウ  |
|   | Shall | he  | go? |
|   | させやうか | 彼を  | 行く  |
|   | (1)   | (2) | (3) |

彼を行かせませうか。

即ち對話者に、第三者の行動の指揮を求むる問であります。これに對する問として：—

|     |      |     |       |     |
|-----|------|-----|-------|-----|
| {   | イエス  | ヒー  | シヤる   | ゴウ  |
|     | Yes, | he  | shall | go? |
|     | はい   | 彼を  | せませう  | 行か  |
| (イ) | (1)  | (2) | (4)   | (3) |

はい、私を行かせませう。

|     |     |     |       |     |
|-----|-----|-----|-------|-----|
| {   | ノウ  | ヒー  | シヤる   | ノット |
|     | No, | he  | shall | not |
|     | いえ  | 彼は  | 行かせない |     |
| (ロ) | (1) | (2) | (3)   |     |

いえ、彼はやらない。

上例二つ共に (イ) は命令であり、(ロ) は命令的禁止であります。

一人稱の “shall” 純粹の未來であります。これ亦問の形に用ひますと、對話者の 指圖を求める 形になります。即ち一：

|   |       |     |     |
|---|-------|-----|-----|
| { | シヤる   | アイ  | ゴウ  |
|   | Shall | I   | go? |
|   | ませうか  | 私は  | 行き  |
|   | (3)   | (1) | (2) |

私は行きませうか。

と云ふのは自分が果して行くかどうかを問ふのではなくして、「行きませうか」と云ふ對話者に指圖を求める形であります。これに對して：—

|     |       |     |
|-----|-------|-----|
| ユー  | シヤる   | ゴウ  |
| You | shall | go. |

と二人稱に “shall” を使ひますと：—

君を (嫌應なしに) 行かせる。

と云ふ一種の恐喝の意味になります。

然らば日本語の：—

行つて呉れ給へ

に相當する依頼の意味を含めた答はどうするかと云ふ

に：—

|      |        |        |     |
|------|--------|--------|-----|
| イエス  | フリーズ   | ドゥー    | ソウ  |
| Yes, | please | do     | so. |
| はい   | どうぞ    | しなされさう |     |
| (1)  | (2)    | (4)    | (3) |

とか、または：—

|      |         |
|------|---------|
| イエス  | フリーズ    |
| Yes, | please. |
| はい   | どうぞして呉れ |
| (1)  | (2)     |

と云ふのです。

斯くの如く、二人稱、三人稱に “shall” を用ひますと對話者の意志を表はすのですが、其意志にも：—

(a) 好意 と 悪意  
の二つの意志があります。

ユー シャル ハヴ ジス ブック  
(a) You shall have this book  
君は であらう を持つ この 本  
(1) (5) (4) (2) (3)

と云ふのは：—

君に此本を差上げませう。

と意味になりまして好意の意志ですが：—

ユー シャル ダイ  
(b) You shall die.  
君を であらう 殺す  
(1) (3) (2)

は：—

君を殺してやる。

と云ふ意味になつて悪意の意志を表明した事になります。兎も角二人稱、三人稱の“shall”は純粹の未來でもなければ其人の意志でもありませんで、對話者の勝手な意志でありますから、要は“will”に相當します。

シャル アイ ハヴ ジス ブック  
Shall I have this book?  
私は頂けませうか この 本を  
(3) (1) (2)

は：—

此本を頂けませうか。

で、即ち(a)の答を促す問であります。

Yes, you shall have it.  
(はい、差上げませう)  
No, you shall not.  
(いいえ、差上げません)

Shall he have this book?  
彼にやりませうか この 本を  
(3) (1) (2)

は：—

彼に此本をやりませうか。

此答は：—

Yes, he shall have it.

{(はい、やりませう)

{No, he shall not. (.....)

{(いいえ、やりません)

“I will .....”は自己の意志を表はすものでありますが、これを問にした：—

ウィル アイ ゴウ  
Will I go?  
でせうか 私は 行く

の形は自己の意志を他人に問ふ様になつて可笑しいので使ひませんが、但し日本語の「私が行くかッて」と反問する場合には往々使はれます。

“Will you .....?”は二人稱の純粹の未來の意志を表明する場合に使はれることは前段説明の通りであります、依頼を表はす時にも用ひます。

例へば：—

ウィル ユー レンド ミー ユア ブック  
Will you lend me your book?  
{呉れませんか 君は を貸して 私に 君の 本  
(6) (1) (5) (4) (2) (3)  
君は君の本を私に貸して呉れませんか、

即ち「依頼」の意味であります。もつと丁寧に言へば  
“will you”の次に “<sup>プリーズ</sup>please”(何卒)とか “<sup>カインドリ</sup>kindly”  
(親切に)とか云ふ言葉を入れるのです。

{ <sup>ウィル</sup> Will   <sup>ユー</sup> you   <sup>プリーズ</sup> please   <sup>レンド</sup> lend   <sup>ミー</sup> me  
{ ませんか   君は   何卒・呉れ   貸して   私に  
{ (8)   (1)   (5) (7)   (6)   (4)

<sup>ユア</sup> your   <sup>ナイフ</sup> knife?  
君の   小刀  
(2)   (3)

何卒、小刀を貸して下さいな。

{ <sup>ウィル</sup> Will   <sup>ユー</sup> you   <sup>カインドリ</sup> kindly   <sup>ギヴ</sup> give   <sup>ミー</sup> me  
{ ませんか   君は   親切にも   下さい   私に  
{ (7)   (1)   (4)   (6)   (5)

<sup>ユア</sup> your   <sup>ペンスル</sup> pencil?  
君の   鉛筆  
(2)   (3)

何卒鉛筆を下さいな。

斯く依頼されたのに対して：—

「さあ、どうぞ(お使ひ下さい)」

「はい、どうぞ(お持なさい)」

の意味は何と云ふかと申しますと：—

{ <sup>サートンリ</sup> Certainly,   <sup>サー</sup> sir!  
{ さあどうぞ。

{ <sup>ウィズ</sup> With   <sup>プレジャ</sup> pleasure,   <sup>サー</sup> sir!  
{ はい、はい。(おやすい御用です)

と云ふのです。序にもう一つ覚えて頂き度いことは、  
若し、否定の “not” を使つて “Will you not .....  
...?” (.....して下さらんか) と問ふて來られた場  
合に若し “certainly” を使ふのであつたなら、次に  
“not” を入れて “Certainly not, sir” としなければ快諾の意味になりません。“not” を落したら「いけ  
ない」と断る意味になるから注意しなければいけませ  
ん。

{ <sup>ウィル</sup> Will   <sup>ユー</sup> you   <sup>ノット</sup> not   <sup>ギヴ</sup> give   <sup>ミー</sup> me   <sup>ユア</sup> your   <sup>ブック</sup> book?  
{ Will you not give me your book?  
{ 本を下さいませんか。

{ <sup>サートンリ</sup> Certainly   <sup>ノット</sup> not,   <sup>サー</sup> sir!  
{ さあさあどうぞお持ちなさい。

### 練習と應用

#### 〔一〕 主格の意志を表示する場合

- |                                |   |            |
|--------------------------------|---|------------|
| (1) I will go.<br>(私は参るつもりだ)   | } | 自己の意志を表白す  |
| (2) You will go.<br>(君は行くつもりだ) |   |            |
| (3) He will go.<br>(彼は行くつもりだ)  | } | 第三者の意志を代辯す |
|                                |   |            |



(4) Will I go? } 自己の意志を問ふ〔普通「…  
(私は行くつもりか) } ……なるつもりか」反問  
する場合に用ふ]

(5) Will you go? } 對話者の意志を問ふ  
(君は行く積りか) } (答は 1 か 7 かなり)

(6) Will he go? } 第三者の意志の有無を對話者  
(彼は行くつもりか) } に問ふ  
(答は 3 か 9 かなり)

(7) I will not go. } 自己の意志を否定す  
(私は行かないつもりだ)

(8) You will not go. } 對話者の拒絶を代辯す  
(君は行く意志はない)

(9) He will not go. } 第三者の拒絶を代辯す  
(彼は断じて行かない)

(10) Will I not go? } 反問の場合に用ふ  
(私は行く意志はないか  
って)

(11) Will you not go? } 形は問なれど誘引の意  
(君は行かないつもりか) } (答は 1 か 7 かなり)

(12) Will he not go? } 第三者の意志を對話者に問ふ  
(彼は行かないつもりか)

〔二〕 主格の意志を含みぬ純粹の未來を表す

(13) I shall sing. } 一人稱  
(私は歌ふであらう)

(14) You will sing. } 二人稱  
(君は歌ふでせう)

(15) He will sing. } 三人稱  
(彼は歌ふでせう)

(16) I shall not sing. } 一人稱の否定  
(私は歌はないでせう)

(17) You will not sing. } 二人稱の否定  
(君は歌はないでせう)

(18) He will not sing. } 三人稱の否定  
(彼は歌はないでせう)

(19) Shall I reach Kyoto at 5?  
(五時に京都へ着きませうか) [一人稱問]

I think you will (……………)  
(多分着かれませう) [同上答]

(20) Shall you go to Kyoto?  
(京都へお出なさる筈ですか) [二人稱問]

Yes, I shall (……………)  
(はい参ります) [同上答]

(21) Will he go to Kyoto?  
(彼は京都へ行くでせうか) [三人稱問]

I think he will (……………)  
(多分行くでせう) [同上答]

〔三〕 對話者の指揮を求むる場合

(22) Shall I go? } 自己の行動につき對話者の指  
(行きませうか) } 圖を求むる問

Yes, please do so.  
(はい、どうぞ行つて下さい) [同上答]

(23) Shall he go? } 第三者の行動の指圖を對話者  
(彼を行かせませうか) } に求むる問

Yes, let him do so.

(はい彼にさせて下さい) [答]

(24) Shall we go to Hibiya? } 發議  
(日比谷く行きませうか) }

Yes, we will(.....) } 賛同

(はい、行きませう)

[四] 對話者の意志を表示する場合

[此場合は實は「……させる」と云ふ指圖命令に似たもので對話者の意志を表示したものであります]

(25) You shall go there.

(君を彼處に遣はす)

これを形を更へれば：—

アイ ウィル センド ユー ゼア  
I will send you there.  
私はつもりだ 遣はす 君を 彼處に  
(1) (5) (4) (2) (3)  
君を彼處にやるつもりだ。

(26) He shall die.

(彼を殺してやるつもりだ)

これを表から言へば：—

アイ ウィル キル ヒム  
I will kill him.  
私は つもりだ 殺す 彼を  
(1) (4) (3) (2)  
彼を殺し積りだ。

第 四 章

「……………であつた」

「……………した」

前編で習つた：—

アイ アム ア ボイ  
(A) I am a boy.

=私は少年である。

イット イズ ア ドッグ  
(B) It is a dog.

=それは犬である。

アイ ハヴ ア ブック  
(C) I have a book.

=私は本を持つてゐる。

また矢張本編第一章に説明した：—

ドゥー ユー スィング  
(D) Do you sing?

=貴方は歌ひますか。

等の主格の動作を表はす動詞は何れも「……………である」

とか「……………持つてゐる」とか「……………しますか」

とか云ふものであります。

また前章で習つた：—

アイ シャル スィング  
(E) I shall sing.

=私は歌ひませう。

アイ ウィル スィング  
(F) I will sing.

=私は歌ふつもりだ。

と云ふもので (E) は純粹の未來 (F) は意志を含んだ未來の差こそあれ、共に將來の動作を表示するものがあります。

人や物の動作には (A) 乃至 (D) の如き現在の動作もあれば、(E) (F) の如き未來の動作を表はすものもあるが、「……であつた」とか「……した」と云ふ過去の動作をも表はす場合もなければなりません。

英語で過去の動作を表はすには動詞の過去形を用ひます。

日本語では動作の過去を表はすには動詞現在形の語尾を變化して作ります。

|      | 現在    | 過去    |
|------|-------|-------|
| (1)  | 起きる   | 起きた   |
| (2)  | を洗ふ   | を洗つた  |
| (3)  | を食べる  | を食べた  |
| (4)  | を復習する | を復習した |
| (5)  | 行く    | 行つた   |
| (6)  | を訪ふ   | を訪ふた  |
| (7)  | 居る    | 居た    |
| (8)  | を見る   | を見た   |
| (9)  | 歸る    | 歸つた   |
| (10) | を學ぶ   | を學んだ  |

上の表を御覽なさればすぐお解りの事でせうが、何れも語尾變化によつて現在を過去形に致しますが：—

英語では日本語の様に語尾變化せるものと不規則變化するものとの二通りあります。

英語の語尾變化させるは動詞本來の形の語尾に “ed” をつけまして例へば、前に習つた：—

キル  
Kill (殺す)

と云ふ現在動詞を過去にします時には “ed” をつけまして：—

キルド  
Killed (殺した)

と致します。斯様に “ed” をつけて語尾變化をせる動詞を規則動詞と云ふのです。

次に不規則變化をさせる動詞と云ふのは、矢張前章で習つた：—

ゴウ  
Go (行く)

と云ふ現在動詞が過去になりますと、全く別な文字になりますして：—

ウェント  
Went (行つた)

となります斯様に不規則變化をする動詞を不規則動詞と云ふのです。

前に掲げました日本語の語尾變化を掲げましたものを英語であてゝ見ますと、奇數の番號のものは不規則變化をする不規則動詞になりますし、偶數の番號のついでなるものは規則變化をする規則動詞になります。参考のために當てはめて見ますと：—

不規則動詞

| 現在                                         | 過去                                |
|--------------------------------------------|-----------------------------------|
| (1) <sup>ゲット アップ</sup> get up (起さる)        | <sup>ゴット アップ</sup> got up (起きた)   |
| (3) <sup>イート</sup> eat (を食べる)              | <sup>エイト</sup> ate (を食べた)         |
| (5) <sup>ゴウ</sup> go (行く)                  | <sup>ウエント</sup> went (行つた)        |
| (7) <sup>イズ アー</sup> is (are) (居る)         | <sup>ウォズ ワー</sup> was (were) (居た) |
| (9) <sup>カム ホーム</sup> come (home) (「家に」歸る) | <sup>ケイム ホーム</sup> came (home)    |

規則動詞

| 現在                                 | 過去                                |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| (2) <sup>ウォッシュ</sup> wash (を洗ふ)    | <sup>ウォッシュト</sup> washed (を洗 た)   |
| (4) <sup>レビュー</sup> review (を復習する) | <sup>レビュード</sup> reviewed (を復習した) |
| (6) <sup>ヴィジット</sup> visit (を訪ふ)   | <sup>ヴィジテッド</sup> visited (を訪ふた)  |
| (8) <sup>ルック</sup> look (を見る)      | <sup>ルックト</sup> looked (を見た)      |
| (10) <sup>ラーン</sup> learn (を學ぶ)    | <sup>ラーンド</sup> learned (を學んだ)    |

斯様な譯で要するに動詞の過去形は規則動詞は“ed”さへつけばよいのでありますから、不規則動詞の過去形さへ記憶が出来れば峠が越せる譯であります。日常最も多く使はれる言葉の不規則動詞の過去形を掲げますから諸記して下さい。〔上に掲げたものは省略して置きます。〕

日常に使はれる不規則動詞

| 現在                          | 過去                          |
|-----------------------------|-----------------------------|
| <sup>ハヴ</sup> have (持つ)     | <sup>ハッド</sup> had (持つた)    |
| <sup>ドゥー</sup> do (爲す)      | <sup>デッド</sup> did (爲した)    |
| <sup>ギヴ</sup> give (與へる)    | <sup>ゲイヴ</sup> gave (與へた)   |
| <sup>レンド</sup> lend (貸す)    | <sup>レント</sup> lent (貸した)   |
| <sup>センド</sup> send (送る)    | <sup>セント</sup> sent (送つた)   |
| <sup>リーヴ</sup> leave (去る)   | <sup>レフト</sup> left (去つた)   |
| <sup>キャッチ</sup> catch (捕へる) | <sup>コート</sup> caught (捕へた) |
| <sup>ノウ</sup> know (知つてゐる)  | <sup>ニュー</sup> knew (知つた)   |
| <sup>ティーチ</sup> teach (教へる) | <sup>トート</sup> taught (教へた) |
| <sup>スィング</sup> sing (歌ふ)   | <sup>サンク</sup> sang (歌つた)   |
| <sup>リード</sup> read (讀む)    | <sup>レッド</sup> read (讀んだ)   |
| <sup>ライト</sup> write (書く)   | <sup>ロート</sup> wrote (書いた)  |
| <sup>ビギン</sup> begin (始める)  | <sup>ビギヤン</sup> began (始めた) |
| <sup>セイ</sup> say (言ふ)      | <sup>セッド</sup> said (言つた)   |
| <sup>スィット</sup> sit (坐る)    | <sup>サット</sup> sat (坐つた)    |
| <sup>メイク</sup> make (作る)    | <sup>メード</sup> made (作つた)   |
| <sup>シャット</sup> shut (閉ぢる)  | <sup>シャット</sup> shut (閉ぢた)  |

現在

スウィープ  
sweep (掃く)  
ライズ  
rise (起きる)  
ラン  
run (走る)  
テル  
tell (告げる)  
フライ  
fly (飛ぶ)  
ストライク  
strike (撃つ)  
シンク  
sink (沈める)  
ヒア  
hear (聞く)  
ファインド  
find (見出す)  
シュート  
shoot (射る)  
テイク  
take (取る)

過去

スウェプト  
swept (掃いた)  
ローズ  
rose (起きた)  
ラン  
ran (走つた)  
トウルド  
told (告げた)  
フルー  
flew (飛んだ)  
ストラック  
struck (撃つた)  
サンク  
sank (沈んだ)  
ハード  
heard (聞いた)  
ファウンド  
found (見出した)  
ショット  
shot (射た)  
トゥック  
took (取つた)

先づ此位の不規則動詞を知つてゐたなら諸君の英語にはさして不自由を感じぬであります。

次に規則動詞は“ed”を語尾につければよいと申しましたが、単数を複数にするにも種々の場合がありましたが、この“ed”をつけるものにも矢張種々のつけ様があります。

(1) 語尾に“e”のついてゐる語には單に“d”だけをつけます。

ライク  
like (好む)

は語尾に“e”がありますから、單に“d”だけつけまして：—

ライクト  
liked (好んだ)

と致します。これに類するものに：—

|                        |                           |
|------------------------|---------------------------|
| リヴ<br>live (住む)        | リヴド<br>lived (住んだ)        |
| ファイア<br>fire (發砲す)     | ファイアド<br>fired (發砲した)     |
| アライヴ<br>arrive (着く)    | アライヴド<br>arrived (着いた)    |
| イスケイプ<br>escape (逃れる)  | イスケイプト<br>escaped (逃れた)   |
| リスイーヴ<br>receive (受取る) | リスイーヴト<br>received (受取つた) |
| クローズ<br>close (終る)     | クローズト<br>closed (終つた)     |

(1) 一つの父音で終つてゐる一綴りの言葉で短母音を含むものは其父音を重ねて“ed”をつけます。

例へば：—

ストップ  
stop (止る)

は“p”と云ふ父音で終る一綴り言葉で“o”は短母音でありますから、此語の過去形は“p”を加へて“ed”をつけます。即ち：—

ストップト  
stopped (止つた)

これに類するものに：—

|                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| ポップ<br>hop (跳ぶ) | ポップト<br>hopped (跳んだ) |
|-----------------|----------------------|

(3) 父音字+yで終る語は“y”を“i”に變へて“ed”を附けます。

トライ  
try (試む)

は“r”と云ふ父音+“y”でありますから“y”を“i”に變へて“ed”をつけます。即ち:—

トライド  
tried (試みた)

これに類する普通の語には:—

スタディ                      スタディード  
study (勉強する)              studied (勉強した)

現在動詞は人稱の如何によつて變化しました。

例へば:—

[一人稱]

アイ      スィンク  
I          sing.  
=私は歌ふ。

と云ふ、一人稱の人代名詞の主語の時の“sing”が、若し主語が三人稱[he, she, it]の單數人代名詞の場合ですと、“sings”を“s”をつけまして:—

ヒー      スィンクス  
He        sings.  
=彼は歌ふ。

となりました。動詞が過去の場合には斯様の區別を致しませんで常に同形の動詞を使用致します。

アイ      サング  
I          sang.  
=私は歌ひました。

ヒー      サング  
He        sang.

=彼は歌ひました。

但し Be 動詞 [are, am, is] は例外で:—

Am, is の過去は was.

Are      の過去は were

になります。

|     | 單 數                                                                                 | 複 數                          |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 一人稱 | アイ      ウォズ<br>I      was                                                           | ウィー      ワー<br>we      were  |
| 二人稱 | ユー      ワー<br>you      were                                                         | you      were                |
| 三人稱 | ヒー      }<br>he        }<br>シー      } ウォズ<br>she      } was<br>イット }<br>it        } | ゼイ      ワー<br>they      were |

過去のみ動詞のことはこの位にして、本章の始めに擧げた(A)乃至(F)の過去の言ひ表し方を擧げませう。

(A) 私は少年であつた。

「である」即ち“am”の過去は“was”でありますからして:—

アイ      ウォズ      ア      ボイ  
I          was      a      boy.  
(であつた)

であります。

(B) それは犬であつた。

“is” の過去は矢張り “was” <sup>ウォズ</sup> でありますからして：—

イット ウォズ ア ドッグ  
It was a dog,  
(であつた)

であります。

(C) 私は本を持つてゐました。

「持つ」の “have” の過去は “had” <sup>ハッド</sup> でありますからして：—

アイ ハッド ア ブック  
I had a book,  
(を持つてゐた)

でよろしい。

(D) 貴方は歌ひましたか。

「ましたか」の “do” の過去は “did” <sup>デッド</sup> でありますから：—

デッド ユー スィング  
Did you sing?  
(ましたか)

であります。過去でありますからして “sing” の過去の動詞 “sang” <sup>サンク</sup> を用ひさうに思ひませうが、助動詞の “do” の過去 “did” を使用して問を發する時には本動詞は動詞本來の形を用ひます。

(E) (F) 私は歌ひました。

の時は “do” を使ひませんから：—

アイ サンク  
I sang.

でよいのです。

折衷の場合の例にしては (一) (二) 掲げるに事に致して置きます。

私は少年ではありませんでした。

アイ ウォズ ノット ア ボイ  
I was not a boy.  
私は ありませんでした 少年

貴方は學生ではありませんでした。

ユー ワー ノット ア ステュダント  
You were not a student.  
貴方は ありませんでした 學生

彼は醫者ではありませんでした。

ヒー ウォズ ノット ア ドクタ  
He was not a doctor.  
彼は ありませんでした 醫者(で)

君は犬を持つてゐましたか。

ハッド ユー ア ドッグ  
Had you a dog.  
を持つてゐたか 君は 犬

“do” の過去は “did” でありますからして “does” の過去も當然 “did” であります。

ヒー ダズ ノット ゴウ  
He does not go.

=彼は行かない。

の過去は：—

ヒー デット ノット ゴウ  
He did not go.

=彼は行かなかつた。

餘り長くなりましたから、「練習と應用」とを省略して置きます。動詞の過去形を殊に不規則動詞を記憶して下さい。

### 第 五 章

—[指圖、依頼、命令]—

- [a]「.....せよ」
- [b]「.....下さい」
- [c]「.....するな」
- [d]「.....して下さるな」

本編の前々章の第三章の“shall”“will”の説明の際、指圖と依頼とを説明しましたが、本章で新たに項目を擧げて説明して見ます。[第三章をもう一度読んで下さい。指圖の方は第三章で詳細説明してありますから省略します。

日本語の「.....せよ」と「.....して下さい」と云ふのは前者は命令的であるが、後者は依頼であると區別こそすれ、目下の下女下男にこれを用ひたら、同じく一種の強制であつて命令であります。英語でも命令又は依頼の文を一くるめにして命令文と云つて居ります。

第三章で依頼文を習ひました通り、日本語の「何卒」に相當する“please”とか、または“will you.....?”の形を用ひて云へば、立派な依頼文であります。例:—

- |                     |      |      |       |       |      |
|---------------------|------|------|-------|-------|------|
| プリーズ                | れンド  | ミー   | ユア    | ブック   |      |
| Please              | lend | me   | your  | book. |      |
|                     |      | (私に) | (貴方の) |       |      |
| 何卒私に貴方の本を貸して下さい。    |      |      |       |       |      |
| ウィル                 | ユー   | ギヴ   | ミー    | ユア    | ペン   |
| Will                | you  | give | me    | your  | pen? |
|                     |      |      | (私に)  | (貴方の) |      |
| 何卒私に 貴方のペンを下さいませんか。 |      |      |       |       |      |

或は“will you kindly .....?”を用ふることもあります。英語では常に文の所有主を七面倒臭く入れて「私に、貴方のペン.....」と云ふやうに申しませんが、命令文の場合には目的語の「私に」「彼に」「君に」とか云ふのを省略しますが、「君の」「私の」「彼の」とか云ふ所有格や、「私は」「君は」「彼は」と云ふ主格を省略致します。

(A) 君は私に君の小刀を貸して呉れ。

を普通の英文にしますと:—

- |            |      |     |      |        |     |
|------------|------|-----|------|--------|-----|
| プリーズ       | れンド  | ミー  | ユア   | ナイフ    |     |
| (A) Please | lend | me  | your | knife. |     |
|            | 何卒   | を貸せ | 私に   | 君の     | 小刀  |
|            | (1)  | (5) | (2)  | (3)    | (4) |

となります。英語では「貸せ」か「貸してくれ給へ」とかは“lend”と云ふ言葉にあるのでありませんで、文の構造にあるのです。今上の(A)の文を真個の命令文にしますと:—

- |      |     |   |        |
|------|-----|---|--------|
| れンド  | ミー  | ア | ナイフ    |
| Lend | me  | a | knife. |
| を貸せ  | 私に  |   | 小刀     |
| (3)  | (1) |   | (2)    |

となりまして、(A)の文と比較しますと、“please”(何卒)と云ふ語と貴方と、“your”(君の)と云ふ。所有主が省略されて、新たに“a”と云ふ語が入りました。

(B) 君此處へ來給へ。

は:—



|     |      |       |
|-----|------|-------|
| ユー  | カム   | ヒア    |
| You | come | here. |
| 君   | 来い   | 此處へ   |
| (1) | (3)  | (2)   |

であるが、これも “you” (君は) と云ふ主格を省略  
 しまして:—

|     |      |       |
|-----|------|-------|
| (B) | カム   | ヒア    |
|     | Come | here. |
|     | 来い   | 此處へ   |
|     | (2)  | (1)   |

と云ふのです。然し斷つて置くが (貴方の) と云ふ所  
 有格は省略しない場合は 澤山ありますが、主格となる  
 “You” とか “He” は命令文に於ては必ず省略され  
 るものと記憶して下さい。以上 (A) (B) は「せよ」と  
 云ふ命令文でありますが、今度「……………するな」と云  
 ふ禁止の命令文を習ひませう。

(C) 君はこんな本を讀んではいけません。

は日本文にして稍丁寧なものですから、依頼めいた英  
 文にしますと、<sup>プリーズ</sup> “please” と云ふ言葉を前か後かに入れ  
 まして:—

|     |     |        |     |      |      |   |       |
|-----|-----|--------|-----|------|------|---|-------|
| (C) | ユー  | ドゥー    | ノット | リード  | サッチ  | ア | ブック   |
|     | You | do     | not | read | such | a | book, |
|     | 貴方は | ではいけない | を讀む | こんな  | 本    |   |       |
|     | (1) | (5)    | (4) | (2)  | (3)  |   |       |

プリーズ  
 (please.)  
 何卒  
 (6)

となりますが、これをむきつけの命令文にしますと、  
 主格の “You” と “please” とをりまして、又 “do

not” をつめまして:—

ドウント  
 Don't [=do not]

と致します。即ち:—

|       |      |      |     |       |
|-------|------|------|-----|-------|
| ドウント  | リード  | サッチ  | ア   | ブック   |
| Don't | read | such | a   | book. |
| 勿れ    | を讀む  | こんな  | 本   |       |
| (5)   | (4)  | (1)  | (2) |       |

となります。またこゝで斷つて置き度いことは依頼の  
 文は命令文の構造の中に入つてはゐますが、成るべく叮  
 嚀な言ひ方をした方がよいので “please” を用ひた方  
 が禮にかなふ譯であります。また真個の命令文であつて  
 も、日本文で:—

(D) どうぞ、出て呉れ給へ。

と、云ふ様に「どうぞ」をつけても性質は真ものゝ命  
 令文であります。英語でも:—

|        |     |       |
|--------|-----|-------|
| プリーズ   | ゴウ  | アウェイ  |
| Please | go  | away. |
| どうぞ    | 行け  | あちらに  |
| (1)    | (3) | (2)   |

|     |      |         |
|-----|------|---------|
| ゴウ  | アウェイ | プリーズ    |
| Go  | away | please. |
| 行け  | あちらに | どうぞ     |
| (2) | (1)  | (3)     |

としてもこれは依頼でなしに命令であります。斯様な  
 次第ですから、依頼文も真ものゝ命令文でも、共に命令  
 文であると思つて下さい。

動詞の「である」動詞、即ち “is” “am” “are”  
 の Be 動詞の命令文は Be と云ふ原形を用ひて命令文

を作ります。

(A) 勤勉であれ。〔……せよ〕

と云ふのは “Be” と云ふ原形を用ひまして：—

|     |           |
|-----|-----------|
| ビー  | ディリヂャント   |
| Be  | diligent. |
| あれ  | 勤勉なる(で)   |
| (2) | (1)       |

と致します。また Be 動詞の「……するな」は：—

(B) 怠惰なる勿れ。

は矢張 Be を打消して：—

|        |     |     |         |
|--------|-----|-----|---------|
| ドゥー    | ノット | ビー  | アイドル    |
| (B) Do | not | be  | idle.   |
|        | 勿れ  | なる  | 怠惰なる(で) |
|        | (3) | (2) | (1)     |

本編の第二章の “may” “can” “must” の所でも一寸例を擧げて置きましたが、これを冠して命令文を作る場合も、矢張此 “Be” の形を用ひます。

(C) 勤勉ならざるべからず。

を譯するには “must” (ねばならぬ) と云ふ助動詞を用ひまして：—

|         |       |     |           |
|---------|-------|-----|-----------|
| ユー      | マスト   | ビー  | ディリヂャント   |
| (C) You | must  | be  | diligent. |
| 君は      | ねばならぬ | ある  | 勤勉なる(で)   |
| (1)     | (4)   | (3) | (2)       |

同様に：—

(D) 怠惰なるべからず。

|     |      |     |         |       |
|-----|------|-----|---------|-------|
| ユー  | マスト  | ノット | ビー      | アイドル  |
| You | must | not | be      | idle. |
| 君は  | いけない | める  | 怠惰なる(で) |       |
| (1) | (4)  | (3) | (2)     |       |

と云ふのです。

“Do not” を “Don't” にすることもあると前で申しましたが、“Do not” や “Don't” の代りに “Never” (決して……ない) といふ言葉を代用して命令文を作ることもあります。

|     |     |    |       |
|-----|-----|----|-------|
| ドゥー | ノット | ビー | アイドル  |
| Do  | not | be | idle. |

|       |    |       |
|-------|----|-------|
| ドゥント  | ビー | アイドル  |
| Don't | be | idle. |

|       |    |       |
|-------|----|-------|
| ネヴァ   | ビー | アイドル  |
| Never | be | idle. |

|     |      |       |    |       |
|-----|------|-------|----|-------|
| ユー  | マスト  | ネヴァ   | ビー | アイドル  |
| You | must | never | be | idle. |

= 怠惰なる勿れ。

最後に對話者を通じて第三者に命令する場合と、依頼する場合とを附加へて置きます。

(1) 對話者を通じて第三者に與ふ命令には：—

れット  
Let (……させる)

と云ふ言葉を文頭に置きて：—

|     |     |     |           |
|-----|-----|-----|-----------|
| れット | ヒー  | ビー  | ディリヂャント   |
| Let | he  | be  | diligent. |
| させる | 彼に  | あれ  | 勤勉なる(で)   |
| (2) | (1) | (4) | (3)       |

彼をして勤勉であらしめよ。

|        |     |     |     |       |
|--------|-----|-----|-----|-------|
| ドゥント   | れット | ヒム  | ビー  | アイドル  |
| Don't  | let | him | be  | idle. |
| なからしめよ | 彼に  | ある  | 怠惰で |       |
| (4)    | (1) | (3) | (2) |       |

彼をして怠惰なるなからしめよ。

(2) 對話者を通して第三者に依頼する場合には：—

アースク  
Ask (頼む) と云ふ言葉を前に置きます。

|      |     |     |       |
|------|-----|-----|-------|
| アースク | ヒム  | トゥ  | カム    |
| Ask  | him | to  | come. |
| 依頼せよ | 彼に  | やうに | 来る    |
| (4)  | (1) | (3) | (2)   |

彼に来るやうに傳へて呉れ。

### 練習と應用

本章で習つたことを要約すれば：—

(1) 對話者其直接に與ふる命令

|          |      |          |
|----------|------|----------|
| カム       | ジス   | イーヴニング   |
| (a) Come | this | evening. |
| 来い       | 今    | 夜        |

=今夜来い。

|           |      |            |
|-----------|------|------------|
| ドウント      | カム   | タモロウ       |
| (b) Don't | come | to-morrow. |
| 勿れ        | 来る   | 明日         |

=明日来てはいけない。

〔注意〕 命令文は動詞の原形を用ふ。打消には “don't” は又  
ネヴァ  
“do not” 或は “never” を用ふ。

(2) 對話者を通じて第三者に與ふる命令。

|         |     |      |         |
|---------|-----|------|---------|
| レット     | ヒム  | カム   | タデイ     |
| (c) Let | him | come | to-day. |
| させろ     | 彼を  | 来る   | 今日      |
| (4)     | (1) | (3)  | (2)     |

=彼をして今日来させよ。

|           |     |     |       |
|-----------|-----|-----|-------|
| ドウント      | レット | ヒム  | カム    |
| (d) Don't | let | him | come. |
| 勿れ        | させる | 彼に  | 来     |
| (4)       | (3) | (1) | (2)   |

=彼をして来させるな。

(3) 對話者に直接依頼する文。

|            |      |      |          |
|------------|------|------|----------|
| フリーズ       | カム   | ジス   | イーヴニング   |
| (a) Please | come | this | evening. |
| 何卒         | 来れ   | 今    | 夕        |

=何卒今夕来て下さい。

|          |     |        |      |      |
|----------|-----|--------|------|------|
| ウィル      | ユー  | フリーズ   | カム   | ジス   |
| (b) Will | you | please | come | this |
| 下さらぬか    | 君は  | 何卒     | 来て   | 今    |
| (6)      | (1) | (5)    | (4)  | (2)  |

イーヴニング  
evening?  
夕  
(3)  
=何卒今夕来て下さらぬか。

〔注意〕 (b) は丁寧な言ひ方であります。而して “will... ..come?” を打消に譯しましたが、日本語では丁寧な依頼には必ず打消を入れるからさう譯したのであります。

(4) 對話者を通じて第三者に依頼する文。

|      |     |     |      |      |          |
|------|-----|-----|------|------|----------|
| アースク | ヒム  | トゥ  | カム   | ジス   | イーヴニング   |
| Ask  | him | to  | come | this | evening. |
| 依頼せよ | 彼に  | やうに | 来る   | 今    | 夕        |
| (6)  | (1) | (5) | (4)  | (2)  | (3)      |

=彼に今夕来るやうに頼んで呉れ。

〔注意〕 對話者其人が目上の人なら “please” か、更らに丁寧  
にすれば “Will you please?” を冒頭に冠します。

ウイ<sup>ル</sup> ユー フリーズ アースク ヒム トゥ カム  
 Will you please ask him to come  
 ジス イーヴニング  
 this evening.

=彼に今夕来るように何卒お傳へ下さいませんか。  
 の如くします。

ギヴ ミー ぎ フラウア  
 Give me the flower.  
 與へよ 私に その 花を  
 (4) (1) (2) (3)

(此花を私に與れ)

へるプ ミー  
 [You] Help me.  
 助けよ、私を  
 (私を助けよ)

ドウント ギヴ ビム ア ブック  
 Don't give him a book.  
 勿れ を與へる 彼に 本  
 (4) (3) (1) (2)

=彼に本をやるな

スینگ  
 Sing  
 =歌へ

[注意] 自動詞を命令にしますと、主格を省略しますから、一語になつてしまいます。

フライ  
 Fly  
 =飛べ

ギヴ ヒム サム マニ  
 Give him some money.  
 を與へよ 彼に 少々 錢  
 (4) (1) (2) (3)

=彼に金をやれ。

ショウ ミー ユア パース  
 Show me your purse.  
 を見せよ 私に 君の 財布

=私に君の財布を見せろ。

らいト ぎ ランプ  
 Light the lamp.  
 黙火せよ その ランプ(に)  
 (3) (1) (2)

=ランプをつけよ。

プリーズ シャット ぎ ウィンドウ  
 Please shut the window.  
 何卒 をしめ その 窓  
 (1) (4) (2) (3)

=何卒此窓をしめて下さい。

Shut the window.  
 =窓を閉めよ。

カム イン  
 Come in.  
 來い 中に  
 =お入り。

ゴウ アウェー  
 Go away.  
 行け あちらに  
 =出て行げ。

プリーズ スィット ダウン  
 Please sit down  
 何卒 かけ 下に  
 (1) (3) (2)

=何卒お掛け下さい。

オープン ぎ ドア  
 Open the door.  
 を開けよ その 戸  
 (3) (1) (2)

=戸をあけて呉れ。

シャット さ ドア  
Shut the door.  
を閉めよ その 戸  
(3) (1) (2)  
=戸を閉めよ。

ライズ アーリ イン ざ モーニング  
Rise early in the morning.  
起きよ 早く に 朝  
(4) (3) (2) (1)  
=朝早く起きなさい。

ドウント バイ サッチ ア シンク  
Don't buy such a thing.  
勿れ を買ふ そんな 物  
(4) (3) (1) (2)  
=そんな物買をふな。

ドウント イート トゥー マッチ  
Don't eat too much.  
勿れ を食ふ 餘り 多く  
(4) (3) (1) (2)  
=食ふ過ぎるな。

ネヴァ テル ア ライ  
Never tell a lie.  
決してする勿れ を言ふ 虚言  
(3) (2) (1)  
=決して虚言を言ふな。

ユー マスト ビー オニスト  
You must be honest.  
君は ねばならぬ である 正直  
(1) (4) (3) (2)  
=正直ならざるべからず。

ノウ ホイズ オウブン ユーア ブックス  
Now, boys, open your books.  
さあ 諸君 を開けよ 君等の 本  
(1) (2) (5) (3) (4)  
=さあ皆さん本をおあけなさい。

第 六 章

[不定詞、進行形の動詞、過去分詞]

「.....すること」

「.....してゐる」

「.....されたる」

本章では:—

[a] 私は歌ふ事を好む。

[b] 少年は歌つてゐる。

[c] 彼は教育ある紳士である。

と云ふ三つの形を研究して見ませう。先づ既に習つ例題から研究しませう。

<sup>スィンク</sup>  
(1) I sing. [主語一人稱]

=私は歌ふ。

(2) You sing. [主語二人稱]

=君は歌ふ。

<sup>スィンクズ</sup>  
(3) He sings. [主語三人稱]

=彼は歌ふ。

<sup>ゼイ</sup>  
(4) They sing. [主語三人稱複數]

=彼等は歌ふ。

上例の (1) 乃至 (4) を見ますと、“sing” と云ふ動詞が主語 (I, you, he) の人稱や主語の數 (they) によつて變化して参ります。斯る動詞を一名有主格動詞と稱

してゐます。これに反して全く人稱や数の制限を受けない形があります。斯様のものを不定詞と申します。

不定詞とは動詞本来の形に “to” と云ふ言葉を添へたものでありまして：—

トッ スィンク  
to sing.

と云ふのであります。一例を挙げて見ますと  
〔前に挙げた(1)乃至(4)に照して作りますと〕：—

アイ ライク トッ スィンク  
(1) I like to sing. [一人稱]  
私は を好む 歌ふこと

=私は歌ふ事が好きだ。

ユー ライク トッ スィンク  
(2) You like to sing. [二人稱]  
君は を好む 歌ふ事

=君は歌ふ事が好きだ。

ヒー ライクス トッ スィンク  
(3) He likes to sing. [三人稱]  
彼は を好む 歌ふ事

=彼は歌ふ事が好きだ。

〔like は有主格動詞なるに依り其主格が三人稱の單數のときは likes となります〕

ゼイ ライク トッ スィンク  
(4) They like to sing. [三人稱複數]  
彼等は を好む 歌ふ事

=彼等は歌ふ事が好きだ。

となりまして “to sing” が主格の人稱や数に何等の制限を受けません。

不定詞を使ふことを不定法と申します。不定法は動詞

の形に “to” を冠した形で、名詞〔……する事〕、  
形容詞〔……するもの〕副詞〔……するために〕  
の用をなします。斯んなことを申しますと六つかしくな  
りますから、大ざつばに其用法を區別しますと、〔……  
……すること〕名詞の用ものとなす目的〔……す  
るため〕を表はすものとの二通あると覚えて下さい。

(イ)名詞の用をなす場合

トッ スィンク イズ ノット イーズイ  
(a) To sing is not easy.  
歌ふ事は ことでない 容易なる

=歌ふ事は容易でない。

アイ ライク トッ プレイ  
(b) I like to play.  
私は が好きだ 遊ぶ事  
(1) (3) (2)

=私は遊ぶ事が好きだ。

〔注意〕 主格が不定法である時には不定文を文の後部に廻して  
“It” と云ふ假りの主格を文頭に置くことが往々ある。例：—

イット イズ ノット イーズイ トッ スィンク  
It is not easy to sing.  
ではない 容易 歌ふ事は  
(3) (2) (1)

=歌ふ事は容易ではない。

即ち(a)の文と同意である。

(ロ)形容詞の用をなす場合。

アイ ウォーント サムシング トッ ドリンク  
I want something to drink.  
私は 欲しい 何か 飲むものが  
(1) (4) (2) (3)

=私は何か飲むものが欲しい。

(ロ) 副詞の用をなすもの、即ち目的を表はす言葉  
のことであります。

(a) He came to sing.  
彼は 来た 歌ふために  
(1) (3) (2)

= 歌ふために来た。

(b) He went to see him.  
彼は 行った ために 見る 彼を  
(1) (5) (4) (3) (2)

= 彼は彼に會ふために行った。

次に動詞の進行形動詞本來の形に ing を添へたもの  
で、例へば：—

sing 進行形 singing

と ing をつけたものであります。

規則

(1) 若し語尾“e”にて終る語に“ing”をつける場合は  
“e”を棄て、 “ing”をつけます。例：—

ラヴ ラヴンク  
love (愛する) — loving

(2) 一つの父音字で終れる一綴語で短母音を含めるものは、此  
父音を重ねて此次へ“ing”をつけます。例：—

スウィム スウィミンク  
swim (泳ぐ) — swimming

進行形の動詞には種々な用法がありますが、先づ第一  
名詞につけて用ひますと「……………してゐる」と云ふ形  
容詞の様な意味になります。〔此場合を稱して現在分詞  
と稱してゐます〕

例：—

A singing boy.  
a singing boy.

= 歌つてゐる少年。

A swimming dog.  
a swimming dog.

= 泳いでゐる犬。

第二に、Be 動詞 [am, are, is] の次に用ひれば、  
動作の進行繼續を表はします。例：—

Be+ing

の形を動詞の繼續形と申しまして「……………しつゝあ  
る」と云ふのであります。例：—

The boy is singing.  
その少年は ある 歌ひつゝ  
(1) (2) (4) (3)

= 其の少年は歌つてゐる。

A dog is swimming.  
A dog is swimming.  
犬が ある 泳ぎつゝ  
(1) (3) (2)

= 犬が泳いでゐる。

“is singing” や “is swimming” は現に歌つてゐ  
るか、現に泳いでゐるのでなければ斯く云ふ事は出来ま  
せん。平素手紙を書く人ならば必ずしも現在認めつゝあ  
る際でなくとも、假令讀者中でも、また遊戯中でも：—

I write a letter.  
私は を書く 手紙  
(1) (3) (2)

=私は手紙を書く。

と云ふ事は一向に差支ないが、現に手紙を認みつゝあるにあらざれば:—

|     |     |         |   |        |      |
|-----|-----|---------|---|--------|------|
| アイ  | アム  | ライテック   | ア | レタ     | ノウ   |
| I   | am  | writing | a | letter | now, |
| 私は  | ある  | を認めつゝ   |   | 手紙     | 今    |
| (1) | (5) | (4)     |   | (3)    | (2)  |

=私は今手紙を書いています。

と云ふ事は云つてはいけないのであります。

[注意] “Be” “know” [知つてゐる] “like” (好む) “love” (愛す) 等の動詞は或期間は持続する働きを本来もつてゐるものでありますから “write” (書く) と云ふ様な瞬時的に中止、継続の出来る動作と異り “knowing” と云ふ様な形を使つてはいけません。

君はあの彼を知つてゐますか。

「知つてゐる」と云ふ事は本来そも々々継続の意味があるのですからして “know” で澤山であります。

[誤] Are you knowing him?

[正] Do you know him?  
 ますか 貴方は 知つてゐる 彼を  
 (4) (1) (3) (2)

と云はねばなりません。これに対する答は:—

[誤] I am knowing him.

[正] I know him.  
 私は 知つてゐる 彼を  
 (1) (3) (2)

また:—

私は彼女を愛してゐる。

は、「愛しつゝある」の意味であるが(愛す=love)は「愛してゐる」と云ふ動詞であるから “loving” とはしない。

[誤] I am loving her.

[正] I love her.  
 私は 愛す 彼女を  
 (1) (3) (2)

第三に動詞の過去分詞と云ふものも説明します。

第四章で動詞には現在と過去とあることを説明致しました。即ち:—

| 現在                | 過去                 |
|-------------------|--------------------|
| ライト<br>write (書く) | ロート<br>wrote (書いた) |
| リード<br>read (読む)  | レッド<br>read (讀んだ)  |
| ラン<br>run (走る)    | ラン<br>ran (走つた)    |

の二形あることを説明しましたが、動詞にはもう一つの形、過去分詞と云ふものがありまして:—

現形——過去 ——過去分詞

の三つの主要な語形があります。

動詞の原形と云ふのは現在動詞で、“s” や “es” を附けないものであります。過去の形と云ふのは過去の



動詞であります。過去分詞と云ふのは動詞の過去の性質を有しながら形容詞の性質を有するものであります。凡て形容詞の性質を有する動詞と云ふので、“—ing”をつけた動詞で形容詞の性質を有するものを現在分子と云ふのである。

動詞の中規則動詞の過去分詞は過去の形と同じで、動詞本来の形に“ed”や“d”を添へたものであります。例へば：—

|      |       |        |
|------|-------|--------|
| リヴ   | リヴド   | リヴト    |
| live | lived | lived  |
| (原形) | (過去形) | (過去分詞) |

と云ふ様に過去の形と同一であります。所が不規則動詞になりますと、第四章で習ひました過去の形と同形不規則ですから、此動詞の中日常使はれるものは是非記憶しなければいけません。今表にして掲げて見ませう。

| 原 形                      | 過 去 形         | 過 去 分 詞      |
|--------------------------|---------------|--------------|
| ハヴ<br>have (持つ)          | ハッド<br>had    | had          |
| ドゥー<br>do (爲す)           | テッド<br>did    | ダン<br>done   |
| カム<br>come (来る)          | ケイム<br>came   | come         |
| ギヴ<br>give (與ふ)          | ゲイヴ<br>gave   | ギヴン<br>given |
| キャッチ<br>catch<br>(つかまいる) | コート<br>caught | caught       |
| ティーチ<br>teach (教へる)      | トート<br>taught | taught       |

| 原 形                 | 過 去 形                | 過 去 分 詞       |
|---------------------|----------------------|---------------|
| スィング<br>sing (歌ふ)   | サンク<br>sang          | サンク<br>sung   |
| スウィム<br>swim (泳ぐ)   | スワム<br>swam          | スワム<br>swum   |
| レント<br>lend (貸す)    | レント<br>lent          | lent          |
| リーヴ<br>leave (去る)   | レフト<br>left          | left          |
| ノウ<br>know (知る)     | ニユウ<br>knew          | ノウン<br>known  |
| ゴウ<br>go (行く)       | ウェント<br>went         | ゴン<br>gone    |
| ショウ<br>show (示す)    | ショウド<br>showed       | ショウン<br>shown |
| ビー<br>be (ある)       | { ウェズ<br>was<br>were | { ビーン<br>been |
| スィンク<br>sink (沈める)  | サンク<br>sank          | サンク<br>sunk   |
| ヒア<br>hear (聞く)     | ハード<br>heard         | heard         |
| シュート<br>shoot (射る)  | シヨット<br>shot         | shot          |
| ラン<br>run (走る)      | ラン<br>ran            | run           |
| ライズ<br>rise (起きる)   | ローズ<br>rose          | リズン<br>risen  |
| スウィープ<br>sweep (掃く) | スウィフト<br>swept       | swept         |
| シャット<br>shut (閉ぢる)  | シャット<br>shut         | shut          |
| メイク<br>make (作る)    | メイド<br>made          | made          |

| 原 形              | 過 去 形       | 過 去 分 詞 |
|------------------|-------------|---------|
| スィット<br>sit (坐る) | サット<br>sat  | sat     |
| セイ<br>say (云ふ)   | セッド<br>said | said    |
| セント<br>send (送る) | セント<br>sent | sent    |

過去分詞と云ふものは何の用をなすかに就ては稍程度の進んだ英語であるが、ここでは簡単な形を擧げて斯う云ふ用法もあると云ふ事を示し、もう少し進んでから順次説明する事にしませう。

他動詞の過去分詞を名詞に添へると「……せられたる」と云ふ形容詞の様な意味になります。例へば「boil」(煮る)の過去分詞「boiled」を名詞に添へると：—

ア    <sup>ボイルド</sup>    <sup>エッグ</sup>  
a    boiled    egg.  
      <sup>ゆでられたる</sup>    <sup>卵</sup>

＝ゆでられたる卵。

となりまして、「ゆで卵」の事になります。本章の冒頭の：—

彼は教育せられたる紳士です。

は「教育ある」は「<sup>エデュケート</sup>educate」であるからして：—

(C)    <sup>ヒー</sup>    <sup>イズ</sup>    <sup>アン</sup>    <sup>エデュケイティッド</sup>    <sup>ヂェントルマン</sup>  
      He    is    an    educated    gentleman.  
      彼は    である    教育せられたる    紳士  
      (1)    (4)                    (2)                    (3)

となるのです。所が「教育せられたる紳士」と云ふのはとりも直さず「教育ある紳士」と云ふ事で、(C)は：—

彼は教育ある紳士である。

と云ふ日本語になる。次に：—

Be+他動詞の過去分詞

の形を説明します。

あの人は私をほめる。

を譯して見ます。「ほめる」は「<sup>プレイズ</sup>praise」と申しますから「あの人」と云ふ主格が三人稱の單數でありますからして「<sup>プレイズ</sup>praises」となりまし：—

(A)    <sup>ヒー</sup>    <sup>プレイズ</sup>    <sup>ミー</sup>  
      He    praises    me.  
      彼は    ほめる    私を  
      (1)    (3)    (2)

となります、此(A)の文を主客顛倒しまして：—

(B) 私はあの人にほめられる。

私と云ふものを受身に致します時に「Be+他動詞の過去分詞」を用ひまして：—

(B)    <sup>アイ</sup>    <sup>アム</sup>    <sup>プライズド</sup>    <sup>バイ</sup>    <sup>ヒム</sup>  
      I    am    praised    by    him.  
      私は    ほめられた[受身]    よつて    彼に  
      (1)                    (4)                    (3)                    (2)

即ち「私は彼によつてほめられる」と云ふ様に譯します。「by」と云ふのは前置詞であります。日本語の「に」に相當し「私は彼にほめられる」とすれば自然であります。今此(A)(B)の文を過去に致しまして：—

- (C) 彼は私をほめた。
- (D) 私は彼にほめられた。

と致しますと：—

(C) He praised me.  
 彼は ほめた 私を  
 (1) (3) (2)

(D) I was praised by him.  
 私は ほめられた に 彼(に)  
 (1) (4) (3) (2)

となります。

### 練習と應用

進行形の用法は：—

ホット アー ユー ドゥーイング  
 What are you doing?  
 何を あるか 君は なしつゝ  
 (2) (4) (1) (3)

(君は何をしてゐますか)

アイ アム ライテング ア レタ  
 I am writing a letter.  
 私は ある 書きつゝ 手紙(を)  
 (1) (4) (3) (2)

(手紙を書いてゐます)

アー ユー リヴューイング ユア レスズ  
 Are you reviewing your lessons?  
 あるか 君は を復習しつゝ 君の 課業  
 (5) (1) (4) (2) (3)

(君は課業を復習してゐる所ですか)

[注意] “lesson” は学校の課業である。

メニ ホイズ アー プレイイング イン  
 Many boys are playing in  
 多くの 少年は ある 遊びつゝ の中で  
 (1) (2) (7) (6) (5)

ぎ プレイグラウンド  
 the playground.  
 その 運動場  
 (3) (4)

(多くの少年は運動場の中で遊んでゐる)

“Go” (行く) “come” (来る) の進行形 “going”  
 (行きつゝある)、“coming” (來つゝある) は屢々「行  
 かうと思つてゐる」や「來やうと思つてゐる」の未來の  
 意味に用ひられることがあります。

明日上野へ行かうと思ふ。

は若し純粹の未來なら第三章で習つた “shall” 意志  
 の入つたものなら “will” である様に思ふかも知れな  
 いが、眞個は “go” “come” の進行形の方がよい。

アイ アム ゴウング トゥ ウヘノ タ  
 I am going to Ueno to-  
 私は 行かうと思ふ へ 上野  
 (1) (4) (4) (3)

モロウ  
 tomorrow.  
 明日  
 (2)

と譯します。また實際歩きながら：—

I am going to Kanda.

と云へば：—

私は神田へ参ります。

と云ふ意味になります。

彼は二三日したら参ります。

を：—

|     |    |        |     |     |     |
|-----|----|--------|-----|-----|-----|
| ヒー  | イズ | カミング   | イン  | トゥー | オー  |
| He  | is | coming | in  | two | or  |
| 彼は  |    | 参ります   | の中に | 二   | か   |
| (1) |    | (6)    | (5) | (2) | (3) |

|       |       |
|-------|-------|
| サリー   | デイズ   |
| three | days. |
| 三     | 日     |
| (3)   | (4)   |

と譯します。また單に：—

|     |    |        |       |
|-----|----|--------|-------|
| ヒー  | イズ | カミング   | ヒア    |
| He  | is | coming | here. |
| 彼は  |    | 参ります   | 此所に   |
| (1) |    | (4)    | (2)   |

と云へば：—

彼は此處へ來ます。

と云ふ意味になります。

(1) 不定法の名詞の用をなす例：—

|       |       |     |        |
|-------|-------|-----|--------|
| トゥ    | ステール  | イズ  | ロンク    |
| To    | steal | is  | wrong. |
| 盗むことは |       | ある  | 悪く     |
| (1)   |       | (3) | (2)    |

(盗むことは悪い) [主格]

|     |      |    |       |
|-----|------|----|-------|
| アイ  | ライク  | トゥ | プレイ   |
| I   | like | to | play. |
| 私は  | が好きだ |    | 遊ぶこと  |
| (1) | (3)  |    | (2)   |

(私は遊ぶことが好きだ) [目的]

(2) 不定法が形容詞をなすもの例：—

|     |      |      |        |      |     |
|-----|------|------|--------|------|-----|
| アイ  | ハヴ   | メニ   | シングズ   | トゥ   | ドゥ  |
| I   | have | many | things | to   | do. |
| 私は  | を持つ  | 澤山の  | 事      | 爲すべき |     |
| (1) | (5)  | (3)  | (4)    | (2)  |     |

(爲すべき事が澤山ある。)

|     |    |     |   |     |    |     |
|-----|----|-----|---|-----|----|-----|
| ヒー  | イズ | ノット | ア | マン  | トゥ | ドゥ  |
| He  | is | not | a | man | to | do  |
| 彼は  |    | でない |   | 人   | 爲す |     |
| (1) |    | (6) |   | (5) |    | (4) |

|      |   |        |
|------|---|--------|
| サッチ  | ア | シング    |
| such | a | thing. |
| そんな  |   | 事を     |
| (2)  |   | (3)    |

(彼はそんな事をする人ではない)

|       |    |      |
|-------|----|------|
| ハウス   | トゥ | レット  |
| House | to | let. |
|       |    | (貸す) |

これは一字一字譯すことが出来ません。

(3) 不定法が副詞 [即ち目的] の用をなすものの。

例：—

|     |     |         |       |
|-----|-----|---------|-------|
| ウィー | イート | トゥ      | リヴ    |
| We  | eat | to      | live. |
| 吾々は | 食す  | 生きんがために |       |
| (1) | (3) | (2)     |       |

(吾人は生きんがために食す)

|     |      |         |      |
|-----|------|---------|------|
| ウィー | ワーク  | トゥ      | イート  |
| We  | work | to      | eat. |
| 吾人は | 働く   | 食せんがために |      |
| (1) | (3)  | (2)     |      |

(吾々は食せんがために働く)

|     |     |      |     |      |     |
|-----|-----|------|-----|------|-----|
| アイ  | アム  | クラッド | トゥ  | ヒア   | イット |
| I   | am  | glad | to  | hear | it. |
| 私は  | ある  | 喜んで  | 聞いて |      | それを |
| (1) | (5) | (4)  | (3) |      | (2) |

(それを聞いて喜ばしく思ふ)

|     |     |     |       |        |        |
|-----|-----|-----|-------|--------|--------|
| シー  | イズ  | トゥー | ヤング   | トゥー    | マリ     |
| She | is  | too | young | to     | marry. |
| 彼女は | である | 餘り  | 幼年    | 結婚するのに |        |
| (1) | (5) | (3) | (4)   | (2)    |        |

(彼女は年が若いから結婚出来ぬ)

過去分詞の應用は非常に範圍が廣く、進んだ英語になるから、此例は後章天候、時候の會話の所で申します。

### 第七章

#### 〔疑問詞を用いた問ひ方〕

第二編第十三章、第十四章、及び第三編第一章で問ひの出し方及び答ひ方を一通り習ひましたが、英語には疑問詞と云ふものを用ひて問ふ場合があります。

日本文にも「とちら」とか「誰が(と、の)」とか「いくら」とか云ふものは其言葉自身に疑問の意味が含まれてゐます。例へば日本文の「か」は問ひの言葉であります。此「か」がなくとも疑問詞を前に置いて:—

{ 誰のですか。  
 { 誰のです。

の二文は「か」あるなしに拘らず「誰」と云ふ疑問詞があるために問ひの言葉であることが解ります。英語にも斯る疑問詞がありますから、本章ではこれを研究させよう。先づ:—

(A) 貴方は誰ですか。

からはじめませう。英語では:—

誰(たれ)

のことを

フー  
who

と申します。

貴方は少年ですか。

を:—

|     |     |   |       |
|-----|-----|---|-------|
| アー  | ユー  | ア | ホイ    |
| Are | you | a | body? |
| ですか | 貴方は |   | 少年    |
| (3) | (1) |   | (2)   |

と申します。(A)の文をこれに真似ますと:—

アー ユー フー  
Are you who?

となりますが、英語では:—

|     |   |     |     |      |
|-----|---|-----|-----|------|
| (A) | { | 誰   | である | 貴方は  |
|     |   | (1) | (2) | (3)  |
|     |   | フー  | アー  | ユー   |
|     |   | Who | are | you? |
|     |   | (2) | (3) | (1)  |

と必ず疑問詞を文の始めに置くのが規則であります。

(B) 誰が本を持つてゐますか。

を今度やつて見ませう。「が」や「は」のつくものは文の主語となりますからして、(B)の文では「誰が」が主語であります。英語では:—

誰(たれ)が

はやはり

フー  
who

と申します。前に：—

彼は本を有つてゐるか。

を：—

|      |     |   |       |
|------|-----|---|-------|
| ハズ   | ヒー  | ア | ブック   |
| Has  | he  | a | book? |
| を持つか | 彼は  |   | 本     |
| (3)  | (1) |   | (2)   |

であります。前で申した様に疑問詞は必ず〔假令疑問詞の誰がは主語であつても〕文の始めに置く規則ですから (B) の文は：—

|         |     |   |       |
|---------|-----|---|-------|
| フー      | ハズ  | ア | ブック   |
| (B) Who | has | a | book? |
| 誰が      | を持つ |   | 本     |
| (1)     | (3) |   | (2)   |

と譯すのです。而して “who” の場合の動詞は人代名詞の三人稱 [he, she, it] の單數の場合に準ずるのでから (B) の場合でも “has” を用ひました。

(C) それは誰の本ですか。

誰か」は “who” でありましたが：—

誰 (たれ) の

は

フーズ  
whose

と申します。前編の第十三章で：—

それは貴方の本ですか。

を：—

|     |     |      |       |
|-----|-----|------|-------|
| イズ  | イット | ユア   | ブック   |
| Is  | it  | your | book? |
| ですか | それは | 貴方の  | 本     |

と譯す筆法で (C) の文を譯して見ると：—

|    |     |       |       |
|----|-----|-------|-------|
| イズ | イット | フーズ   | ブック   |
| Is | it  | whose | book? |

となります。所が先程申した通り、“whose” と云ふ疑問詞を文の始めに置く規則でありますし、また英語では「誰の本」と云ふのをひとまとめにします。それは「私の本」を “my book” 「貴方の本」を “your book” とひとまとめにしたと同様の意味で、「誰の」と云ふのは所有の意味で密接な関係があるからです。即ち：—

|       |       |      |      |
|-------|-------|------|------|
| (C) { | 誰の本   | であるか | それは  |
|       | フーズ   | ブック  | イズ   |
|       | Whose | book | is   |
| (2)   | 誰の    | 本    | であるか |
|       |       |      | それは  |
|       |       |      | イズ   |
|       | (3)   | (4)  | (1)  |

と譯すのです。

人間は「誰ですか」に相當する動物の「何ですか」を “what” と申します。

(D) それは何ですか。

「何で」は “what” ですが、一體どうすれば英語になるかと申しますと：—

それは犬ですか。

を：—

|     |     |   |      |
|-----|-----|---|------|
| イズ  | イット | ア | ドック  |
| Is  | it  | a | dog? |
| ですか | それは |   | 犬    |

と申しますから、本来なら “Is it what?” であり  
ますが、疑問詞を前に置く規則ですから：—

|     |   |      |     |     |
|-----|---|------|-----|-----|
| (D) | { | 何で   | あるか | それは |
|     |   | ホット  | イズ  | イット |
|     |   | What | is  | it? |
|     |   | 何で   | あるか | それは |
|     |   | (2)  | (3) | (1) |

「誰で」も「誰が」も “<sup>フー</sup>who” であつたが、“<sup>ホット</sup>what”  
も「何で」と「何が」と両方に使はれ、「何が」の方は  
主語になるのです。

(E) 何が羽子を持っていますか。

は (B) と同じ形で：—

|          |     |   |       |
|----------|-----|---|-------|
| ホット      | ハズ  | ア | ウイング  |
| (E) What | has | a | wing? |
| 何が       | を持つ |   | 羽子    |
| (1)      | (3) |   | (2)   |

であります。次に：—

{どんな  
{何といふ

と云ふ種類を問ふのにも

ホット  
what

を用ひます。

(F) これは何といふ鳥ですか。

これも疑問詞を始には置き、“what” と密接の關係

ある「鳥」を直ぐつけて：—

|          |      |     |       |
|----------|------|-----|-------|
| ホット      | バード  | イズ  | ジス    |
| (F) What | bird | is  | this? |
| 何と云ふ     | 鳥    | ですか | これは   |
| (2)      | (3)  | (4) | (1)   |

など用ひます。

(G) どれが貴方の本ですか。

と云ふどれがを覚えませう。

「どれが」は

ホッチ  
which

と申します。而して疑問詞を前に出しまして：—

|           |      |      |       |
|-----------|------|------|-------|
| ホッチ       | イズ   | ユア   | ブック   |
| (G) Which | is   | your | book? |
| どれが       | であるか | 貴方の  | 本     |
| (1)       | (4)  | (2)  | (3)   |

と云ふのです。“which” は人にもつけて：—

|       |     |      |          |
|-------|-----|------|----------|
| ホッチ   | イズ  | ユア   | ティーチャ    |
| Which | is  | your | teacher? |
| どれが   | ですか | あなたの | 先生       |
| (1)   | (4) | (2)  | (3)      |

などと云ひます。また “which” の次に直ぐ名問を  
つけます：—

|       |      |     |      |         |
|-------|------|-----|------|---------|
| ホッチ   | レイデイ | イズ  | ユア   | マギ      |
| Which | lady | is  | your | mother? |
| どの    | 婦人が  | ですか | 貴方の  | 母       |
| (1)   | (2)  | (5) | (3)  | (4)     |

と云ふ様に「どの」と云ふ意味にもなります。

次に種類が少々異なりますが、次の三つの疑問詞を習ひませう。

(H) 鳥は何所にゐますか。

何所に

と云ふの疑問詞は

ホエア  
where

と申します。而して英語では：—

何處に 居る 鳥が

(H) Where is the bird?  
何處に 居るか その 鳥が  
(1) (4) (2) (3)

と譯します。

次に状態を問ふ言葉

{いかゞ  
どう

とか云ふの疑問詞は

ハウ  
how

と申します。

(I) 貴方(御機嫌) 如何ですか。

を：—

(I) How are you?  
如何 ですか 貴方は  
(2) (3) (1)

また天候を問ふ時に用ひます。

(J) 天候はどうですか。

を：—

ハウ イズ ぎ ウェギ  
How is the weather?  
どう ですか 天候は  
(2) (3) (1)

“the weather” と “the” をつけましたのは「この」と云ふきまつた意味です。其他when (何日、何時) とか “why” (何故) とか云ふのがありますが次の編で申します。

## 練習と應用

以下二章を以て本書の講義を完結し、次編以下は會話と手紙の書き方に致します關係から、本章の練習と應用とを少し長くを練習致します、諸君が和文英譯の場合の参照ともなることがあらうと思つて項目分けにして擧げて参ります。

[注意] 疑問詞で始まる問に對する答には “Yes” “No” をつけて答へません。

最後に 動詞 “do” や “does” を用ひました時でも疑問詞は文の始めに置きますことを覚えて下さい。

貴方は誰を好みますか

(I) { Whom do you like?  
誰を ますか 貴方は 好み  
(1) (4) (2) (3)



彼は何所に住むか。  
 (2)  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ホエア} \quad \text{ダズ} \quad \text{ヒー} \quad \text{リヴ} \\ \text{Where does he live?} \\ \text{何處に} \quad \text{なざるか} \quad \text{彼は} \quad \text{住み} \\ \quad (1) \quad (4) \quad (2) \quad (3) \end{array} \right.$

(1) 名を問ふには What

(a)  $\begin{array}{cccc} \text{ホット} & \text{イズ} & \text{ユア} & \text{ネイム} \\ \text{What} & \text{is} & \text{your} & \text{name?} \\ \text{何で} & \text{あるか} & \text{貴方の} & \text{名は} \\ (3) & (4) & (1) & (2) \end{array}$

〔譯〕 貴方のお名前は何と仰しやるか。

$\begin{array}{cccccc} \text{マイ} & \text{ネイム} & \text{イズ} & \text{エス} & \text{シブヤ} \\ \text{My} & \text{name} & \text{is} & \text{S.} & \text{Shibuya.} \\ \text{私の} & \text{名は} & \text{である} & \text{エス} & \text{シブヤ} \\ (1) & (3) & (4) & (3) & (4) \end{array}$

〔譯〕 私の名はエス、シブヤと申します。

(b)  $\begin{array}{cccc} \text{フット} & \text{イズ} & \text{ジス} & \text{アニマル} \\ \text{What} & \text{is} & \text{this} & \text{animal?} \\ \text{何で} & \text{あるか} & \text{この} & \text{動物は} \\ (3) & (4) & (1) & (2) \end{array}$

〔譯〕 此動物は何ですか。

尤も前章の“what”の所で説明した様に：—

What animal is this?

としても差支ありません。

$\begin{array}{cccc} \text{イット} & \text{イズ} & \text{ア} & \text{エリファント} \\ \text{It} & \text{is} & \text{a} & \text{elephant.} \\ \text{それは} & \text{である} & & \text{象} \\ (1) & (3) & & (2) \end{array}$

〔譯〕 象です。

〔注意〕 名を問ふ場合に前章で習つた：—

$\begin{array}{ccc} \text{フー} & \text{アー} & \text{ユー} \\ \text{Who} & \text{are} & \text{you?} \\ \text{誰で} & \text{あるか} & \text{貴方は} \\ (2) & (3) & (1) \end{array}$

姓名、身分を問ふ形なれど、これは詰問的口調であります。但

し、三人稱の：—

$\begin{array}{ccc} \text{フー} & \text{イズ} & \text{ヒー} \\ \text{Who} & \text{is} & \text{he?} \\ \text{誰で} & \text{あるか} & \text{彼は} \end{array}$

と云ふのは普通に姓名身分を問ふ場合に用ひます。

(2) 所在地、産地、目的地を問ふには Where

(a)  $\begin{array}{cccc} \text{ホエア} & \text{ドゥー} & \text{ユー} & \text{リヴ} \\ \text{Where} & \text{do} & \text{you} & \text{live?} \\ \text{何所に} & \text{なざるか} & \text{貴方は} & \text{住み} \\ (2) & (4) & (1) & (3) \end{array}$

〔譯〕 お住居はどちらですか。

$\begin{array}{cccc} \text{アイ} & \text{リヴ} & \text{イン} & \text{カンダ} \\ \text{I} & \text{live} & \text{in} & \text{Kanda.} \\ \text{私は} & \text{住んでゐる} & \text{に} & \text{神田} \\ (1) & (4) & (3) & (2) \end{array}$

〔譯〕 神田に居ります。

(b)  $\begin{array}{ccccc} \text{ホエア} & \text{ダズ} & \text{ヒー} & \text{カム} & \text{フロム} \\ \text{Where} & \text{does} & \text{he} & \text{come} & \text{from?} \\ \text{何所} & \text{なすか} & \text{彼は} & \text{來} & \text{から} \\ (2) & (4) & (1) & (4) & (3) \end{array}$

〔譯〕 彼は生國は何所ですか〔何所の國の生れか、何所の産だ〕

$\begin{array}{cccc} \text{ヒー} & \text{カムズ} & \text{フロム} & \text{センダイ} \\ \text{He} & \text{comes} & \text{from} & \text{Sendai.} \\ \text{彼は} & \text{來た} & \text{から} & \text{仙臺} \\ (1) & (4) & (3) & (2) \end{array}$

〔譯〕 彼は仙臺です。

(c) <sup>ホェア</sup> Where <sup>アー</sup> are <sup>ユー</sup> you <sup>ゴウイング</sup> going?  
 何所へ あるか 貴方は 行きつゝ  
 (2) (4) (1) (3)

〔譯〕 君方はどちらへ御出になりますか。〔going と云ふのは  
 ゴウ go (行く) と云ふのの進行形と云ふので、現に「……し  
 つゝある」動作を表はすのです。

<sup>アイ</sup> I <sup>アム</sup> am <sup>ゴウイング</sup> going <sup>トゥ</sup> to <sup>ウエノ</sup> Ueno.  
 私は ある 行きつゝ へ 上野  
 (1) (5) (4) (3) (2)

〔譯〕 上野へ参ります。

(3) 材料を問ふには What.....of (from)

(a) <sup>ホット</sup> What <sup>イズ</sup> is <sup>ジス</sup> this <sup>ハウス</sup> house <sup>ビルト</sup> built <sup>オヴ</sup> of?  
 何 あるか この 家は 建てられて で  
 (3) (6) (1) (2) (5) (4)

〔譯〕 此家は何で作られましたか〔木作りか石作りかの意〕

<sup>イット</sup> It <sup>イズ</sup> is <sup>ビルト</sup> built <sup>オヴ</sup> of <sup>ストーン</sup> stone.  
 それは ある 建てられて で 石  
 (1) (5) (4) (3) (2)

〔譯〕 石造です。

(b) <sup>ホット</sup> What <sup>イズ</sup> is <sup>ワイン</sup> wine <sup>メイド</sup> made <sup>フロム</sup> from?  
 何 あるか 酒は 造られて から  
 (2) (5) (1) (4) (3)

〔譯〕 葡萄酒は何で造るか。

<sup>イット</sup> It <sup>イズ</sup> is <sup>メイド</sup> made <sup>フロム</sup> from <sup>グレイプス</sup> grapes.  
 それは ます 造り から 葡萄  
 (1) (5) (4) (3) (2)

〔譯〕 葡萄から造ります。

〔注意〕 出来あがつたものが、原料と變らないものは “of”  
 形が變つてしまうものは “from” を用ひます。

(4) 選擇 (どちらがよい) を問ふには Which

(a) <sup>ホット</sup> Which <sup>ドゥー</sup> do <sup>ユー</sup> you <sup>ライク</sup> like <sup>ベタ</sup> better,  
 どちらを ますか 貴方は 好む 餘計に  
 (5) (3) (1) (7) (6)

<sup>ティー</sup> tea <sup>オー</sup> or <sup>コフィ</sup> coffee?  
 茶 と 珈琲  
 (2) (3) (4)

〔譯〕 茶と珈琲とどちらがお好きですか。〔茶を上げませうか  
 珈琲を上げませうか。〕

<sup>アイ</sup> I <sup>ライク</sup> like <sup>ティー</sup> tea <sup>ベタ</sup> better.  
 私は 好む 茶を 餘計に  
 (1) (4) (2) (3)

〔譯〕 茶がすきます。〔茶を下さい〕

(b) <sup>ホット</sup> Which <sup>イズ</sup> is <sup>ラーヂャ</sup> larger, <sup>ジス</sup> this <sup>オー</sup> or  
 どちらが あるか より大きく これ と  
 (4) (6) (5) (1) (2)

<sup>ギット</sup> that?  
 あれで  
 (3)

〔譯〕 これとあれでどちらが大きくあるか。

<sup>ジス</sup> This <sup>イズ</sup> is <sup>ラーヂャ</sup> larger <sup>ギン</sup> than <sup>ギット</sup> that.  
 これが ある より大きく より あれ  
 (1) (6) (5) (4) (2)

〔譯〕 これの方がきれより大きい。

(5) 理由を問ふには Why

(a) <sup>ホワイ</sup> Why <sup>ドゥー</sup> do <sup>ユー</sup> you <sup>ノット</sup> not <sup>ゴウ</sup> go <sup>トゥ</sup> to  
 何故 なさ 君は ぬ 行か に  
 (2) (6) (1) (7) (5) (4)

<sup>スカー</sup> school?  
 学校  
 (3)

〔譯〕 何故君は學校に行かない。

<sup>ビコーズ</sup> Because <sup>アイ</sup> I <sup>ハヴ</sup> have <sup>ノウ</sup> no <sup>マニ</sup> money.  
 何故なら—から 私は な持た ない 錢  
 (1) (6) (2) (4) (5) (3)

〔譯〕 何故なら錢がないから。

〔注意〕 “why” には “because” 「……の理由から」答ふ

(6) 目的を問ふには What……for

<sup>ホワット</sup> What <sup>アー</sup> are <sup>ユー</sup> you <sup>ラーニング</sup> learning <sup>イングリッシュ</sup> English  
 何の あるか 貴方は 學びつゝ 英語を  
 (2) (6) (1) (5) (4)

<sup>フォア</sup> for?  
 ために  
 (3)

〔譯〕 貴方は何のために英語を學びますか。

(7) 健康、状態、方法を問ふには How

(a) <sup>ハウ</sup> How <sup>アー</sup> are <sup>ユー</sup> you <sup>ミスダ</sup> Mr. <sup>ヤマダ</sup> Yamada?  
 如何 であるか 君は 君 山田  
 (4) (5) (3) (2) (1)

〔譯〕 山田君御機嫌如何ですか。

<sup>アイ</sup> I <sup>アム</sup> am <sup>クワイト</sup> quite <sup>ウェル</sup> well, <sup>シンク</sup> thank <sup>ユー</sup> you.  
 私は ある 完全に 良く 謝す 貴方に  
 (1) (4) (2) (3) (6) (5)

〔譯〕 至極達者です、有りがとう。〔健康〕

(b) <sup>ハウ</sup> How <sup>イズ</sup> is <sup>ザ</sup> the <sup>ウォー</sup> war <sup>ゴウイング</sup> going <sup>オン</sup> on?  
 如何に あるか その 戦争は 進みつゝ  
 (3) (5) (1) (2) (4)

〔譯〕 戦争の経過はどうですか〔“going on” は「どしどし進行してゐる」状態〕

(c) <sup>ハウ</sup> How <sup>ダズ</sup> does <sup>ザ</sup> the <sup>エアプレーン</sup> airplane <sup>フライ</sup> fly?  
 如何に ますか その 飛行機は 飛び  
 (3) (5) (1) (2) (4)

〔譯〕 飛行機はどうして飛びますか。〔方法〕

〔注意〕 「……し方」の意を表はす言葉に “how to swim” (泳ぐ方法) “how to teach” (教へ方) などの “how to……” があります。

(8) 数を問ふに How many

(a) <sup>ハウ</sup> How <sup>メニ</sup> many <sup>ブラザーズ</sup> brothers <sup>ハヴ</sup> have <sup>ユー</sup> you?  
 何人の 兄弟を もつか 貴方は  
 (2) (3) (4) (1)

〔譯〕 御兄弟はお幾人おありですか。

<sup>アイ</sup> I <sup>ハヴ</sup> have <sup>スリー</sup> three.  
 私は を持つ 三人

〔譯〕 三人あります。

(b) <sup>ハウ</sup> How <sup>メニ</sup> many <sup>ブックス</sup> books <sup>アー</sup> are <sup>ゼア</sup> there?  
 何冊 本が あるか  
 (1) (2) (3)

〔譯〕 其處に本が何冊ありますか。

ゼア アー フィフティ  
There are fifty.  
ある 五十

〔譯〕 五十冊あります。

ハウ メニ ドッグズ ハヴ ユー  
(c) How many dogs have you?  
何正の 犬 を持つか 貴方は  
(2) (3) (4) (1)

〔譯〕 犬を何正お持ちですか。

アイ ハヴ シックス  
I have six.

〔譯六〕 匹あります。

〔注意〕 “How many” は人間なら「何人」犬なら「何匹」、物なら「何箇」となるのです。

(9) 距離を問ふには How far

ハウ ファー イズ イット フロム ヒア  
How far is it from here  
如何に 遠く あるか から 此處  
(5) (6) (7) (2) (1)

トゥ ヨコハマ  
to Yokohama?  
へ 横濱  
(4) (3)

〔譯〕 此處から横濱迄どの位の距離があるか。

イット イズ サーティ マイルズ  
It is thirty miles.  
あります 三十 哩

〔譯〕 三十哩あります。

〔注意〕 「何哩ありますか」と “mile” で問ふ時には (8) の “How many miles is it……” を用ひます。

(10) 時間の長さを問ふには How long

ハウ ロング ハヴ ユー リヴ イン  
How long have you live in  
如何に 長く ますか 貴方は 住み に  
(2) (3) (7) (1) (6) (5)

Tokyo?

東京  
(4)

〔譯〕 どの位 (何年位) 東京にお住居ですか。

ハウ ロング ダズ イット テイク  
(b) How long does it take  
如何に 長く か それ(時間) をとる  
(4) (5) (8) (6) (7)

トゥ ゴウ トゥ  
to go to Hokkaido?  
行くには へ 北海道  
(3) (2) (1)

〔譯〕 北海道へ行くのに何時間位かかりますか。

“does it take” は「時間かゝるか」の意 “to go to H” 「北海道へ行くのに」の意。

イット テイクス トウェンティフォア アワーズ  
It takes twenty-four hours.  
それ(時間)はかゝります 二十四 時間  
(1) (4) (2) (3)

〔譯〕 二十四時間かゝります。

〔注意〕 「時間」とか「天候」を表はすに “it” を以てするのが英語のくせです。會話の所で説明します。

(11) 物の長さを問ふには How long

ハウ ロング イズ ぎ  
How long is the Ishikari?  
如何に 長く あるか 石狩川は  
(2) (3) (4) (1)

〔譯〕 石狩川はどの位の長さありますか。

|       |       |     |         |     |        |
|-------|-------|-----|---------|-----|--------|
| イット   | イズ    | ワン  | ハンドレッド  | アンド | ファイフティ |
| It    | is    | one | hundred | and | fifty  |
| それは   | である   | 一   | 百       | と   | 五十     |
| (1)   | (8)   | (2) | (3)     | (4) | (5)    |
|       |       |     |         |     |        |
| マイズ   | ロング   |     |         |     |        |
| miles | long. |     |         |     |        |
| 哩(の)  | 長さ    |     |         |     |        |
| (6)   | (7)   |     |         |     |        |

【譯】百五十哩の長さがあります

【注意】 答の場合、文尾の “long” を落してはいけません。また “one hundred and fifty miles” を “150 miles” と書いてあつても、読む時には “one hundred and fifty miles” と読まねばいけません。 “and” はを落してはいけません。

(12) 物の幅を問ふには How wide

|     |      |     |      |         |
|-----|------|-----|------|---------|
| ハウ  | ワイド  | イズ  | ぎ    | スミダ     |
| How | wide | is  | the  | Sumida? |
| 如何に | 広く   | あるか | 隅田川は |         |
| (2) | (3)  | (4) | (1)  |         |

【譯】 隅田川は川幅は幾ら位ありますか。

|     |     |       |     |      |
|-----|-----|-------|-----|------|
| イット | イズ  | アバウト  | トー  | チヨー  |
| It  | is  | about | two | cho. |
| それは | ある  | 約     | 二   | 町    |
| (1) | (5) | (2)   | (3) | (4)  |

【譯】 約二町程あります。

【注意】 “wide” と云ふのは「広い」と云ふ形容詞であります。凡て物の幅を問ふのに此形を用ひます。

(13) 物の高さを問ふには  $\begin{cases} \text{a. How high} \\ \text{b. How tall} \end{cases}$

|     |     |      |     |      |          |
|-----|-----|------|-----|------|----------|
| (a) | ハウ  | ハイ   | イズ  | マウント | ツクバ      |
|     | How | high | is  | Mt.  | Tsukuba? |
|     | 如何に | 高く   | あるか | 山(は) | 筑波       |
|     | (3) | (4)  | (5) | (2)  | (1)      |

【譯】 筑波山はどの位高さがありますか。

|     |     |       |       |       |    |
|-----|-----|-------|-------|-------|----|
| イット | イズ  | サリー   | さウザンド | フィート  | ハイ |
| It  | is  | 3,000 | feet  | high. |    |
| それは | がある | 三千    | 呎の    | 高さ    |    |
| (1) | (5) | (2)   | (3)   | (4)   |    |

【譯】 三千呎あります。

【注意】 答の文尾の “high” を落さぬ事。3,000 とあつても “three thousand” と讀む事。

|     |     |      |     |      |       |
|-----|-----|------|-----|------|-------|
| (b) | ハウ  | トール  | イズ  | ぎット  | トリー   |
|     | How | tall | is  | this | tree? |
|     | 如何に | 高く   | あるか | その   | 樹は    |
|     | (3) | (4)  | (5) | (1)  | (2)   |

【譯】 その樹はどの位高いか。

【注意】 “high” を用ふるのは頂點が地面又は海面を抜く高度を問ふ場合で山などの海拔何尺など云ふのはこの “high” であります。“tall” の方は地面又は海面に接する點より頂點迄の長さを問ふ場合であります。ですから：—

山や、雲、飛行機の高度を問ふのは high を用ひ建物や樹木の高さを問ふのは tall であります。

(14) 人の身長を問ふには How tall

|     |     |      |     |      |
|-----|-----|------|-----|------|
| (a) | ハウ  | トール  | アー  | ユー   |
|     | How | tall | are | you? |
|     | 如何に | 高く   | あるか | 貴方は  |
|     | (2) | (3)  | (4) | (1)  |

【譯】 貴方は背の高さはどの位ありますか。

|     |     |      |      |     |         |
|-----|-----|------|------|-----|---------|
| アイ  | アム  | ファイヴ | フィート | イン  | ハイト     |
| I   | am  | five | feet | in  | height. |
| 私は  | ある  | 五    | 呎    | は   | 高さ      |
| (1) | (6) | (4)  | (5)  | (3) | (2)     |

【譯】 五呎あります。

但し「幾呎ありますか」と云ふ場合は (9) の「幾呎あるか」と

同様に “How many feet……?” の形を用ひます。

- (b) How many feet does he  
 幾 呎 なさるか 彼は  
 (2) (3) (5) (1)
- stand?  
 立つ  
 (4)

〔譯〕 彼は背の高さは幾呎あるか。

|     |        |      |       |
|-----|--------|------|-------|
| ヒ-  | スタンズ   | ファイヴ | フィート  |
| He  | stands | five | feet. |
| 彼は  | 立つ     | 五    | 呎     |
| (1) | (4)    | (2)  | (3)   |

〔譯〕 彼は五呎あります。

〔注意〕 此場合 “stand” (立つ) と云ふ言葉を用ひますが、直譯して「立つて……」とせずもよい、日本語の「立背が〜尺」を想像されたし、尙ほ次の例を見て下さい。

{ 彼は丈が高い。  
 {He is tall.

{ 彼は丈が低い。  
 {He is short.  
 (低い)

(14) 人の重さを問ふのは How much……weigh.

- (a) How much do you weigh?  
 ハウ マッチ ドゥー ユー ウェイ  
 如何に 多く あるか 貴方は 目方が  
 (2) (3) (5) (1) (4)

〔譯〕 貴方は目方がどの位かかりますか。

|     |       |          |         |
|-----|-------|----------|---------|
| アイ  | ウェイ   | ワンハンドレット | ポウンツ    |
| I   | weigh | 100      | pounds. |
| 私は  | かかります | 百        | 磅       |
| (1) | (4)   | (2)      | (3)     |

〔注意〕 “weigh” 「重み」「目方がかゝる」の味意でありま

す。但し (9)、(15) と同様に「幾磅あるか」と問ふ場合でしたら:-

How much……?

を使ひまして:-

How many pounds……?

としても差支ありません。

(16) 物の重さを問ふには How heavy

- (a) How heavy is this stone?  
 ハウ ヘヴィ イズ ジス ストン  
 如何に 重く あるか この 石は  
 (3) (4) (5) (1) (2)

〔譯〕 此石は如何に重い〔何貫位ある〕か。

|     |     |       |      |     |         |
|-----|-----|-------|------|-----|---------|
| イット | イズ  | フィフティ | カン   | イン  | ウェイト    |
| It  | is  | 50    | kawn | in  | weight. |
| それは | ある  | 五十    | 貫    | は   | 重さ      |
| (1) | (6) | (4)   | (5)  | (3) | (2)     |

〔譯〕 五十貫あります。

〔注意〕 此場合にも (14) と同様、“in weight” を落してはいけません。

(17) 人の年齢又は物の古さを問ふには

How old

- (a) How old are you?  
 ハウ オウロド アー ユー  
 如何に 年経て あるか 貴方は  
 何歳で (3) (1)  
 (2)

〔譯〕 貴方はお幾歳ですか〔お歳幾つか〕

|     |     |     |       |      |
|-----|-----|-----|-------|------|
| アイ  | アム  | テン  | イヤーズ  | オウロド |
| I   | am  | ten | years | old. |
| 私は  | ある  | 十   | 歳     | 年経て  |
| (1) | (5) | (2) | (3)   | (4)  |

(b) 

|      |      |     |      |        |
|------|------|-----|------|--------|
| ハウ   | オウルト | イズ  | ジス   | ハウス    |
| How  | old  | is  | this | house? |
| 幾年経て |      | あるか | この   | 家は     |
| (3)  |      | (4) | (1)  | (2)    |

【譯】 此家は幾年経てあるか。

イット イズ アバウト フィフティ イヤーズ オウルト  
 It is about 50 years old.  
 それは ある 約 五十 年 年経て  
 (1) (6) (2) (3) (4) (5)

【譯】 約五十年位経ました。

(18) 物の大きさ又は國の廣さを問ふには

How large

(a) 

|     |       |     |      |       |
|-----|-------|-----|------|-------|
| ハウ  | ラーヂ   | イズ  | レイク  | ビワ    |
| How | large | is  | Lake | Biwa? |
| 如何に | 大きく   | あるか | 湖    | 琵琶    |
| (3) | (4)   | (5) | (2)  | (1)   |

【譯】 琵琶湖の大きさはどの位あるか。

イット イズ セヴンティ リ ラウンド  
 It is 70 ri round.  
 それは ある 七十 里 周囲  
 (1) (5) (3) (4) (2)

【譯】 周囲七十里あります。

(b) 

|     |       |     |        |
|-----|-------|-----|--------|
| ハウ  | ラーヂ   | イズ  | ジャパン   |
| How | large | is  | Japan? |
| 如何に | 大きく   | あるか | 日本は    |
| (2) | (3)   | (4) | (1)    |

【譯】 日本はどの位の廣さがありますか。

イット イズ スクウェア マイルズ  
 It is 257,000 square milcs  
 それは ある 平方 哩

【譯】 二十五萬六千平方里あります。

【注意】 「二十五萬六千哩」を英語で讀む時には「二百五十八

トウハンドレッドアンドフィフティエイト サウザント  
 萬哩」即ち two hundred and fifty-eight thousand  
 マイルズ  
 miles” と讀むのです。

(19) 樹木などの周圍を問ふには How big round

ハウ ビック イズ ザ ビック トリー  
 How big is the big tree  
 如何に 太く あるか その 巨 木は  
 (4) (6) (7) (1) (2) (3)

ラウンド  
 round?  
 周圍が  
 (5)

【譯】 その巨木の周圍がどれ位あるか。

イット イズ エイティ フィート ラウンド  
 It is 80 feet round.  
 それは ある 八十 呎 周圍が  
 (1) (5) (2) (3) (4)

【譯】 周圍が八十呎あります。

(20) 水などの深さを問ふには How deep.

ハウ ディープ イズ ジス ウォータ  
 How deep is this water?  
 如何に 深く あるか この 水は  
 (3) (4) (5) (1) (2)

【譯】 此水の深さは幾らあるか。

イット イズ ジャスト ニーディーブ  
 It is just knee-deep.  
 それは ある 丁度 膝の 深さ  
 (1) (5) (2) (3) (4)

【譯】 丁度膝だけの深さある。

(21) 費用、勞力を問ふには How much.....cost

(a) 

|     |      |         |     |      |     |
|-----|------|---------|-----|------|-----|
| ハウ  | マッヂ  | ダズ      | イット | コースト | ユー  |
| How | much | does    | it  | cost | you |
| 如何程 |      | 費用をかけるか |     |      | 貴方に |
| (5) |      | (7)     |     |      | (6) |

|       |       |      |     |        |
|-------|-------|------|-----|--------|
| トッ    | ビルド   | ユア   | ニュー | ハウス    |
| to    | build | your | new | house? |
| を建てるに |       | 貴方の  | 新しい | 家      |
| (4)   | (1)   | (2)  | (3) |        |

〔譯〕 新築の家を建てるのに如何程費用がかかりましたか。

|     |      |       |       |       |       |    |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|----|
| イット | コースト | ミー    | アバウト  | トゥー   | ざウザンド | エン |
| It  | cost | me    | about | 2,000 | yen.  |    |
| それが |      | 費用かゝる | 私に    | 約     | 二千    | 圓  |
| (1) | (6)  | (5)   | (2)   | (3)   | (3)   |    |

〔譯〕 約二千圓かゝります。

|     |      |      |        |     |      |
|-----|------|------|--------|-----|------|
| (6) | ハウ   | マツチ  | れイバ    | デッド | ジス   |
|     | How  | much | labour | did | this |
|     | 如何程の |      | 勞力を    | たか  | この   |
|     | (3)  |      | (4)    | (7) | (1)  |

|      |      |      |
|------|------|------|
| ブック  | コスト  | ユー   |
| book | cost | you? |
| 本が   | かけ   | 君に   |
| (2)  | (6)  | (5)  |

〔譯〕 此本をお書きになるにどれ丈の勞力を費しました〔どれだけ時間がかゝつたか〕

|     |      |     |       |     |        |
|-----|------|-----|-------|-----|--------|
| イット | コースト | ミー  | アバウト  | テン  | イヤーズ   |
| It  | cost | me  | about | ten | years' |
| それは | をかけた | 私に  | 約     | 十   | 年の     |
| (1) | (7)  | (6) | (2)   | (3) | (4)    |

|         |
|---------|
| れイバ     |
| labour. |
| 勞力      |
| (5)     |

〔譯〕 約十年かゝりました。

〔注意〕 前編第十章に於て説明した所有格、即ち“my” “your” “his” 及び“Taro's” (太郎の) など云ふ所有格が若し、「犬の」と云ふのであつたら“dog's” であるが、複數であつたら“dogs'” とするのです。「十年の」と云ふのは恰も生物の如く見て“ten years'” としたのです。日本語の「の」に相

當します]

(22) 時刻を問ふには What time is it?

What is the time? を用ひます。

|     |      |     |     |       |
|-----|------|-----|-----|-------|
| (a) | ホット  | イズ  | ぎ   | タイム   |
|     | What | is  | the | time? |
|     | 何    | あるか |     | 時で    |
|     | (1)  | (3) |     | (2)   |

〔譯〕 今何時ですか。

|     |      |      |     |     |
|-----|------|------|-----|-----|
| (b) | ホット  | タイム  | イズ  | イット |
|     | What | time | is  | it? |
|     | 何    | 時    | である | 時刻  |
|     | (2)  | (3)  | (4) | (1) |

〔譯〕 何時ですか。

〔注意〕 斯る言ひ方を諳記すべし。

|     |     |       |            |
|-----|-----|-------|------------|
| イット | イズ  | エイト   | アクロック      |
| It  | is  | eight | (o'clock). |
| それは | である | 八     | 時          |
| (1) | (4) | (2)   | (3)        |

〔譯〕 八時です。

〔注意〕 “it” と云ふのは時間を表はす時の主格に使はれるのである“o'clock” と云ふのは“of the clock” (時計の) と云ふ意味で、強いて譯せば「時」に相當するのです。然し“It is eight” と云へば「今八時です」と云ふ意味で“o'clock” はあつてもなくとも差支ありません。

|     |      |      |      |     |     |     |
|-----|------|------|------|-----|-----|-----|
| (c) | ホット  | タイム  | ドゥー  | ユー  | ゲット | アップ |
|     | What | time | do   | you | get | up? |
|     | 何    | 時に   | なさるか | 貴方は | 起き  |     |

〔譯〕 貴方は何時に起きなさるか。

|     |     |     |     |      |      |      |
|-----|-----|-----|-----|------|------|------|
| アイ  | ゲット | アップ | アト  | ハーフ  | パスト  | スイクス |
| I   | get | up  | at  | half | past | 6.   |
| 私は  | 起きる |     | に   | 半    | 過ぐる  | 六時   |
| (1) | (6) |     | (5) | (4)  | (3)  | (2)  |



〔譯〕 私は六時半に起きます。

〔注意〕 時間の言ひ表は方に就ては會話編で詳しく申述べます。

(23) 時日を問ふには When

|          |      |     |       |  |
|----------|------|-----|-------|--|
| ホエン      | ワー   | ユー  | ホーン   |  |
| (a) When | were | you | born? |  |
| 何時       | か    | 君は  | 生れた   |  |
| (2)      | (4)  | (1) | (3)   |  |

〔譯〕 君は何時生れましたか。〔人の生年月を問ふ場合〕

|     |     |      |     |       |       |
|-----|-----|------|-----|-------|-------|
| アイ  | ウオズ | ホーン  | イン  | マーチ   | 1890. |
| I   | was | born | in  | March | 1890. |
| 私は  | た   | 生れ   | に   | 三月    | 一八九〇  |
| (1) | (6) | (5)  | (4) | (3)   | (2)   |

〔譯〕 私は 1896 年三月生れました。

〔注意〕 “were” や “was” は Be 動詞の過去形であります  
年號の讀み方は例へば 1890 年の讀み方は眞中から切りまして  
エイティーン      ナインティ  
(18=) eighteen. (20=) ninety とよみます。

|          |     |     |      |     |        |
|----------|-----|-----|------|-----|--------|
| ホエン      | デッド | ユー  | カム   | トゥ  |        |
| (b) When | did | you | come | to  | Tokyo? |
| 何時       | たか  | 君は  | 來    | へ   | 東京     |
| (2)      | (6) | (1) | (5)  | (4) | (3)    |

〔譯〕 君は何時東京へ來ましたか。

|     |      |      |      |       |      |
|-----|------|------|------|-------|------|
| アイ  | ケイム  | ヒア   | ファイヴ | イヤーズ  | アゴウ  |
| I   | came | here | five | years | ago. |
| 私は  | 來ました | 此處に  | 五    | 年     | 前    |
| (1) | (6)  | (5)  | (2)  | (3)   | (4)  |

〔譯〕 私は五年前に此處に來ました。

|          |       |     |     |     |
|----------|-------|-----|-----|-----|
| ホエン      | シャロ   | ユー  | ゴウ  | トゥ  |
| (c) When | shall | you | go  | to  |
| 何時       | 答か    | 貴方は | 行く  | へ   |
| (2)      | (6)   | (1) | (5) | (4) |

アメリカ  
America?  
亞米利加  
(3)

〔譯〕 貴方は何時亞米利加へ行きますか。

|     |       |     |       |      |       |
|-----|-------|-----|-------|------|-------|
| アイ  | シャロ   | ゴウ  | ゼア    | ネクスト | イヤー   |
| I   | shall | go  | there | next | year. |
| 私は  | 答です   | 行く  | 彼處に   | 來    | 年     |
| (1) | (6)   | (5) | (4)   | (2)  | (3)   |

〔譯〕 私は來年參ります。

〔注意〕 a と b は過去に関する問であるし、(c) は未來に関する問であります。次章以下に説明致します。

(24) 日附を問ふには What day

|          |     |     |     |       |     |
|----------|-----|-----|-----|-------|-----|
| ホット      | デイ  | オヴ  | ザ   | マンサ   | イズ  |
| (a) What | day | of  | the | month | is  |
| 何        | 日で  | の   | この  | 月     | あるか |
| (4)      | (5) | (3) | (1) | (2)   | (7) |

イット  
it?  
それ(日)は  
(6)

〔譯〕 今日は何日ですか。

〔注意〕 “it” と云ふのは (22) と同様時を表はして、此場合「日」を指してゐるのです。

|        |     |     |       |
|--------|-----|-----|-------|
| イット    | イズ  | ザ   | テンサ   |
| It     | is  | the | 10th. |
| それ(日)は | である |     | 十日    |
| (1)    | (3) |     | (2)   |

〔譯〕 今日十日です。

〔注意〕 “10th” と順序數詞を以て日附を表します。

|          |     |     |     |      |     |
|----------|-----|-----|-----|------|-----|
| ホット      | デイ  | オヴ  | ザ   | ウィーク | イズ  |
| (b) What | day | of  | the | week | is  |
| 何        | 日で  | の   | この  | 週    | あるか |
| (4)      | (5) | (3) | (1) | (2)  | (7) |

イット  
it?  
それ(曜)は  
(6)

〔譯〕 今日は何曜ですか。

イット イズ マンデイ  
It is Monday.  
それ(日)は である 月曜  
(1) (3) (2)

〔譯〕 今日は何曜日です。

ホット マンス イズ イット  
(c) What month is it?  
何 月で あるか それ(月)は  
(1) (2) (4) (3)

〔譯〕 今月は何月ですか。

イット イズ セプテンバ  
It is September.  
その(月)は である 九月

〔譯〕 今月は何月です。

〔注意〕 (b) の間には “of the week” を省略しても差支ありません。西洋では日附を問はれたら、「曜日」を以て答へればよいのです。邦人の便宜上 (a) (b) と區別して掲げて見ました。

(25) 人の職業を問ふのは What

ホット イズ ユア プラフেশヨン  
(a) What is your profession?  
何で あるか 貴方の 職業は  
(3) (4) (1) (2)

〔譯〕 貴方の御職業は何ですか。

アイ アム ア ドクタ  
I am a doctor.  
私は である 醫者  
(1) (3) (2)

〔譯〕 私は 醫者です。

ホット アー ユー インゲイヤ イン  
(b) What are you engaged in?  
何 ゐるか 貴方は 従事して に  
(2) (5) (1) (4) (3)

〔譯〕 何職業に従事しておゐますか。

ホット ライン オヴ ビズネス アー  
(c) What line of business are  
何 種類 の 商業 あるか  
(2) (3) (4) (5) (7)

ユー イン  
you in?  
貴方は に  
(1) (6)

〔譯〕 御商賣は何ですか。

〔注意〕 “profession” は頭惱を要する高等な職業で (學者、法律家、醫師、宗教家教育家) あります。職人なら “trade” と云つてもよろしい。(c) は商人である事が解つてゐるが何の商賣かを問ふ場合に使はれます。まに單に:-

ホット イズ ヒー  
What is he?

と云へば人の 資格、職業 を問ふ形であります。稍や不躰な問ひ方であり、最も對話者以外の三人稱の場合には使はれません。答は:-

ヒー イズ ア ジェントルマン  
He is a gentleman. [資格]  
あの人は紳士です。

ヒー イズ ア ドクタ  
He is a doctor. [職業]  
あの人はお醫者さんです。

(26) (a) 通學先、勤め先 を問ふには

(a) <sup>ホット</sup>What <sup>スカー</sup>school <sup>ドゥー</sup>do <sup>ユー</sup>you <sup>アテンド</sup>attend?  
 何 学校へ なさるか 貴方は 出席し  
 (2) (3) (5) (1) (4)

〔譯〕 何の学校へお通ひですか。

アイ アテンド ア ミドル スクール イン  
 I attend a middle school in  
 私は 出席する 中 学校 の  
 (1) (6) (4) (5) (3)

Kanda.  
 神田  
 (2)

〔譯〕 神田にある中學校に通つてゐます。

(b) <sup>ホット</sup>What <sup>ファーム</sup>firm <sup>アー</sup>are <sup>ユー</sup>you <sup>カネクテッド</sup>connected?  
 何 商會に あるか 貴方は 關係  
 (2) (3) (6) (1) (4)

ウィズ  
 with?  
 して  
 (5)

〔譯〕 何會社にお勤めですか。

アイ カネクテッド ウィズ  
 I connected with Mtsui & Co..  
 私は 關係してゐる 三井商會  
 (1) (3) (2)

〔譯〕 私は三井の會社に勤めてゐます。

〔注意〕 學校を問ふ時には <sup>ホット</sup>What <sup>イズ</sup>is <sup>ユア</sup>your <sup>スカー</sup>school? (何學校ですか) と云つてもよろしい。また銀行を問ふ場合なら、  
<sup>ファーム</sup>“firm” か <sup>バンク</sup>“bank” とし、雑誌社なら <sup>マガズイン</sup>“magazine”  
 とし、新聞社なら <sup>ペーパー</sup>“paper” としてもよろしい。

### 第八章

### 〔比較の文〕

二つの物又は場合の性質、狀況、程度を比較するには  
 “as” (の如く) や “than” (よりも) を用ひます。

(1) 同じ程度に.....であるなら:—

アズ  
 as ..... as

を用ひます。

(a) 彼は年の若さは私と同じ程度である。

ヒー イズ アズ ヤング アズ アイ  
 He is as young as I. [am young]  
 彼は です (左様に) 若い の様に 私  
 (1) (6) (4) (5) (3) (2)

(b) 丈の高さは僕は君と同じ程である。

アイ アム アズ トーる アズ ユー  
 I am as tall as you.  
 私は でも (左様に) 丈高い の様に 君  
 (1) (6) (4) (5) (3) (2)

[are tall]

と申します。次に

(2) 同じ程度に.....でない なら

ソウ アズ  
 so ..... as

を用ひます。例:—

(c) 彼は君程年とつてゐない。

ヒー イズ ノット ソウ オールド  
 He is not so old  
 彼は ゐない 左様に 年とつて  
 (1) (6) (4) (5)

アズ ユー  
as you [are old]  
様に 君  
(3) (2)

(d) 彼は私達程に丈が高くない。

ヒー イズ ノット ソウ トーる  
He is not so tall.  
彼は ない 左様に 丈高く  
(1) (6) (4) (5)

アズ ウィー  
as we [are tall]  
の様に 私共  
(3) (2)

以上挙げた “tall” “young” “old” 三つ共に形容詞であります、副詞〔動詞を形容するもの〕でも矢張 “as ..... as” “so ..... as” を用ひて比較します。例：—

(e) 君は犬の様に迅く走ることが出来ますか。

キャン ユー ラン アズ ファースト アス  
Can you run as fast as  
ますか 君は 走れ (左様に) 迅く の様に  
(7) (1) (6) (4) (5) (3)

ア ドッグ  
a dog?  
犬  
(2)

〔注意〕 “fast” は “run” と云ふ動詞を形容する副詞です。

(f) いゝえ、犬の様に迅く走るとは出来ません。

ノウ アイ キャンノット ラン ソウ ファースト  
No, I cannot run so fast  
いゝえ 私は ません 走れ 左様に 迅く  
(1) (2) (8) (7) (5) (6)

アズ ア ドッグ  
as a dog.  
の様に 犬  
(4) (3)

以上は要するに：—

同程度の時は as ..... as

を用ひ：—

同程度でない時には so ..... as

を用ひます。

一回 二回  
の二倍 の三倍

を英語では何と申すかに就て申して見ませう。

一回 を ワンス  
once  
二回 を トワイス  
twice

と申ます。例：—

(a) 私は月に二回私の父に手紙をやりませう。

アイ ライト トゥ マイ ファーザ ワンス オア  
I write to my father once or  
私は 文通します へ 私の 父 一回 か  
(1) (10) (4) (2) (3) (7) (8)  
トワイス ア マンス  
twice a month.  
二回 一 月(に)  
(9) (5) (6)

同様に：—

一日一回 は once a day.  
一日二回 は twice a day.

と致します。而して三回以上は普通數詞 [one, two, three ..... ] に “times” (回に相當す) を附けて申します。

三回 は <sup>サリー タイムズ</sup> three times.

五回 は <sup>ファイヴ タイムズ</sup> five times.

であるから：—

一月に三回 は three times a month.

一日に五回 は five times a day.

と申します。例：—

(b) 私共は日に三回食事致します。

<sup>ウィー</sup> <sup>テイク</sup> <sup>サリー</sup> <sup>ミーアズ</sup> <sup>ア</sup> <sup>デイ</sup>  
We take three mea's a day.  
吾々は をとる 三 食事 一日(に)  
(1) (6) (4) (5) (2) (3)

従つて 何倍廣い とか 何倍厚い 云ふ場合には 前の

“as ..... as” を入れて

<sup>ワイド</sup>  
twice as wide as.  
二倍 左様に 廣い の様に  
(2) (3) (4) (1)

<sup>シック</sup>  
three times as thick as.  
三倍 左様に 厚い の様に  
(2) (3) (4) (1)

と致します。“wide” “thick” の所に他の形容詞を入れれば色々な比較文が出来ます。

### 原級、比較級、最上級

190 頁に於て younger (ヤング) [より若い]、192 頁に於て elder (エラダ) [年] の、また 275 頁に於て better (ベタ) [よりよい] と云ふ言葉を記憶した筈であります。本項に於てはこの事に関して少しく述べて置きます。

<sup>サワコ</sup> <sup>イズ</sup> <sup>ファイヴ</sup> <sup>イヤーズ</sup> <sup>オウラド</sup>  
[a] Sawako is five years old.  
サワ子は ある 五 歳 年經て  
(1) (5) (2) (3) (4)

[譯] 佐和子は五歳です。

<sup>シー</sup> <sup>イズ</sup> <sup>トール</sup> <sup>フォア</sup> <sup>ハー</sup> <sup>エイヂ</sup>  
[b] She is tall for her age.  
彼女は ある 高く にしては 彼女の 年  
(1) (6) (5) (4) (2) (3)

[譯] 彼女は年にして丈が高い。

<sup>タロ</sup> <sup>イズ</sup> <sup>トール</sup> <sup>ギン</sup> <sup>シー</sup>  
[c] Taro is taller than she.  
太郎は ある より高く より 彼女  
(1) (5) (3) (3) (2)

[譯] 太郎は彼女より丈がより高い。

<sup>ハット</sup> <sup>ノブオ</sup> <sup>イズ</sup> <sup>ザ</sup> <sup>トール</sup> <sup>エスト</sup> <sup>オウ</sup> <sup>ギ</sup>  
[d] But Nobuo is the tallest of the  
然し 信雄は ある 一番に高く の中で この  
(1) (2) (7) (6) (5) (3)

<sup>サリー</sup>  
three.  
三人  
(4)

[譯] 然し信雄は三人の中で一番に丈が高い。

<sup>ヒー</sup> <sup>ハズ</sup> <sup>ア</sup> <sup>ビュータフル</sup> <sup>ローズ</sup>  
[e] He has a beautiful rose.  
彼は を持つてる 美しい ばらの花  
(1) (4) (2) (3)

[譯] 彼は美しい薔薇の花を持つてゐる。

[f] Sawako's rose is more beautiful.  
 佐和子のばらはあるもつと美しく  
 (1) (2) (5) (3) (4)

[譯] 佐和子の薔薇はもつと美しい。

[g] But those in the garden  
 だがあれら(ばら)はの中にあるその花園  
 (1) (5) (4) (2) (3)  
 are the most beautiful of all.  
 ある一番に美しく中で全部の  
 (10) (8) (9) (7) (6)

[譯] 花園の中にあるあれら(ばらの花)はどれよりも一番に美しい。

先づ此位にして (a) 乃至 (g) の文を説明しませう。  
 第一編第十五章 形容詞の所で説明した通り “tall”  
 “beautiful” の如き形容詞は物の性質有様を述べたものであります。第一編の各章にありました：—

- ア ブレイヴ ホイ  
 a brave boy (勇敢なる少年)  
 勇敢なる 少年
- ア デイリヂェント ステューダント  
 a diligent student (勤勉なる學生)  
 勤勉なる 學生
- ス スィック ライオン  
 a sick lion. (病氣な獅子)  
 病氣な 獅子
- ア ラージ トリー  
 a large tree (大きな木)  
 大きな 樹
- ブ ブラック キャット  
 a black cat (黒い猫)  
 黒い 猫

等の如き皆性質の形容詞であります。所が “tall” が “er” “est” をとつて：—

トーラ taller トーレスト tallest

等は身長に就き比較を示せるものであります。斯の如く形容詞を表はす性質有様又は數量等を比較することを稱して形容詞の比較級と稱します。

(I) 而して “tall” の如く單に共有様を性質性質等を其儘表はすを「原級」の形容詞と申します。

(2) taller の如く二つの事柄を比して「より……だ」このを「比較級」と申します。

(3) tallest の如く三つ又は三つ以上のものを比較して「一番に……だ」と其中最上の度合を表はすものを「最上級」と申します。

比較級、最上級を作るには一音節、即ち一綴りの語、及び二音節、即ち二綴りの語の幾分は原級の形容詞の語尾に -er を加へて比較を作り、-est を加へて最上級を作ります。

| 原 級                | 比較級                  | 最上級                     |
|--------------------|----------------------|-------------------------|
| トーラ<br>tall (高い)   | トーラ<br>taller (より高い) | トーレスト<br>tallest (最も高い) |
| ショート<br>short (低い) | ショータ<br>shorter      | ショータスト<br>shortest      |
| リッチ<br>rich (富める)  | リッチャ<br>richer       | リッチュスト<br>richest       |
| プア<br>poor (貧しき)   | プアラ<br>poorer        | プアレスト<br>poorest        |

|                   |                |                   |
|-------------------|----------------|-------------------|
| ウォーム<br>warm (暖い) | ウォーマ<br>warmer | ウォームスト<br>warmest |
| コールド<br>cold (寒い) | コルダー<br>colder | コールドスト<br>coldest |

(A) 一つの父音字で終わる一綴りの形容詞が短母音を含む時は其父音文字を重ねて -er -est を附す。

| 原級               | 比較級           | 最上級              |
|------------------|---------------|------------------|
| ビッグ<br>big (大きい) | ビグガ<br>bigger | ビグゲスト<br>biggest |
| ホット<br>hot (暑い)  | ホッタ<br>hotter | ホッテスト<br>hottest |

(B) 形容詞の語尾が 父音字+y 字で終わる場合は其 y "i に變へて -er, -st を添へる。

| 原級                  | 比較級             | 最上級                |
|---------------------|-----------------|--------------------|
| ハッピー<br>happy (幸福な) | ハピァ<br>happier  | ハピイスト<br>happiest  |
| イーズィ<br>easy (楽な)   | イーズィァ<br>easier | イーズィイスト<br>easiest |
| ヘヴィ<br>heavy (重い)   | ヘヴィァ<br>heavier | ヘヴィイスト<br>heaviest |
| ドライ<br>dry (乾かす)    | ドライァ<br>drier   | アドライイスト<br>driest  |

(C) 形容詞の語尾に -e ある時は "e" を省いて -er, -est を附ける。

| 原級                 | 比較級            | 最上級               |
|--------------------|----------------|-------------------|
| ラーヂ<br>large (大きい) | ラーヂァ<br>larger | ラーヂイスト<br>largest |
| ファイン<br>fine (綺麗に) | ファイナ<br>finer  | ファイネスト<br>finest  |
| ワイド<br>wide (広い)   | ワイダ<br>wider   | ワイデスト<br>widest   |

〔注意一〕 比較級はもし後に of the two (二人の中で) と云ふ句を入れると、其前に "the" を附す。

例:—

|       |     |         |       |     |       |
|-------|-----|---------|-------|-----|-------|
| ホッチ   | イズ  | トーラ     | ノブオ   | オア  | タロー   |
| Which | is  | taller, | Nobuo | or  | Taro. |
| どちらが  | ある  | 丈が高く    | 信雄    | と   | 太郎    |
| (4)   | (6) | (5)     | (1)   | (2) | (3)   |

〔譯〕 信雄と太郎とどちらが丈が高いか。

|       |     |        |      |       |
|-------|-----|--------|------|-------|
| ノブオ   | イズ  | トーラ    | ギン   | タロー   |
| Nobuo | is  | taller | than | Taro. |
| 信雄が   | ある  | より高く   | より   | 太郎    |
| (1)   | (5) | (4)    | (3)  | (2)   |

〔譯〕 信雄が太郎より丈が高い。

|        |     |      |        |     |     |      |
|--------|-----|------|--------|-----|-----|------|
| ノブオ    | イズ  | き    | トーラ    | オヴ  | ギ   | ドー   |
| Noburo | is  | the  | taller | of  | the | two. |
| 信雄が    | ある  | より高く | の中ではこの | 二人  |     |      |
| (1)    | (6) | (5)  | (4)    | (2) | (3) |      |

〔譯〕 信雄が二人の中が丈がより高い。

〔信雄の方が高い。〕

〔注意二〕 最上級は大概其前に "the" を置くを普通とす。本章の例題 (d) 考照せよ。

(3) 二音節の語の大半及び三音節以上の語には、其前に more を附して比較級を作り、most を附して最上級を作る。本章例題 (f) (g) を参照せられ度し。尚ほ次の語も "beautiful" と同様に、more, most を附して比較級、最上級を作る。

| 原級                         | 比較級                  | 最上級                    |
|----------------------------|----------------------|------------------------|
| ディフィカルト<br>difficult (難しい) | モア<br>more difficult | モウスト<br>most difficult |

| 原 較                            | 比較級              | 最上級              |
|--------------------------------|------------------|------------------|
| イントリスティング<br>interesting (面白い) | more interesting | most interesting |

(4) 次の形容詞は比較級的方式極めて不規則なるものであります。

| 原級                                                                                                                      | 比較級                                                                                                                                                                                                    | 最上級                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| クド<br>good<br>ウエル<br>well<br>バッド<br>bad<br>イ<br>ill<br>イーヴル<br>evil<br>メニ<br>many<br>マッヂ<br>much<br>リトル<br>little (少ない) | (よい)<br>ベタ<br>better<br>よりよい<br><br>ワース<br>worse<br>より悪い<br><br>モア<br>more<br><br>レス<br>less<br>より少い<br>オウダ<br>older<br>より年とつた<br>エラダ<br>elder<br>より年上の<br>レイタ<br>later<br>より遅い<br>ラタ<br>latter<br>後者の | ヘスト<br>best<br>最もよい<br><br>ワースト<br>worst<br>最も悪い<br><br>モウスト<br>most<br><br>リースト<br>least<br>最も少ない<br>オウダレスト<br>oldest<br>最も年とつた<br>エラダレスト<br>eldest<br>最も年上の<br>レイティスト<br>latest<br>一番遅い<br>ラスト<br>last<br>最後の |

| ニア   | ニアラ     | ニアレスト    |
|------|---------|----------|
| near | nearer  | nearest  |
| 近い   | より近い    | 最も近い     |
| ファー  | ファーガ    | ファーゼスト   |
| far  | further | furthest |
| 遠い   | より遠い    | 最も遠い     |

〔注意一〕 “well” は形容詞としては、健康の意に

用ひられます。例：—

|     |      |       |       |
|-----|------|-------|-------|
| アイ  | アム   | クワイト  | ウエル   |
| I   | am   | quite | well. |
| 私は  | あります | 全く    | よく    |
| (1) | (4)  | (2)   | (3)   |

〔譯〕 私は至極達者であります。

〔注意二〕 “bad” は善悪の悪に相當し、「悪い」意味に使はます。

|     |     |   |     |      |
|-----|-----|---|-----|------|
| ヒー  | イズ  | ア | バッド | ボーイ  |
| He  | is  | a | bad | boy. |
| 彼は  | である |   | 悪い  | 少年   |
| (1) | (4) |   | (2) | (3)  |

〔譯〕 彼は悪い少年であります。

“ill” は健康状態の「病氣な」と云ふ意味に使はます。

|      |      |     |      |
|------|------|-----|------|
| ザット  | ガール  | イズ  | イル   |
| That | girl | is  | ill. |
| あの   | 少女は  | ひます | 病つて  |
| (1)  | (2)  | (4) | (3)  |

〔譯〕 ある少女は病氣であります。

“evil” は「悪い」だが、「邪悪の」「邪」に相當し、「よこしまな」の意味であります。

|       |      |        |       |          |
|-------|------|--------|-------|----------|
| アン    | イーヴル | ディー    | ネヴァ   | プロスペズ    |
| An    | evil | deed   | never | prosper. |
| よこしまな | 行爲は  | 決してしない | 榮える   |          |
| (1)   | (2)  | (3)    | (5)   | (4)      |



〔譯〕 よこしまな行爲は決して成功するものでない。

“little” は「可愛い」とか「年の少ない」意味であるし、small (smaller: smallest) は「形の小さい」意味に使われます。

〔注意三〕 “older” “oldest” は年長の意に用ゐ、“elder” “eldest” は長幼の順序に用ゐます。

マイ エルダ ブラダ イズ オウダ ギン ニア  
My elder brother is older than your  
私の 年上の 兄は である 年かき より 貴方の  
(1) (2) (3) (9) (8) (7) (4)

エルDEST スィスタ  
eldest sister.  
一番上の 姉  
(5) (6)

〔譯〕 私の兄は君の一番上の姉さんより年が多い。

〔註〕 “brother” は「兄弟」のことで兄でも弟でも差支ない、  
ヤンガ  
“elder brother” は「兄」のことであるし、“younger brother”  
「弟」のこととあります。“sister” も同様であります。

ヒー イズ オウラDEST オダ アス オーラ  
He is oldest of us all.  
彼は である 一番年長者 の中で 吾々 全部  
(1) (6) (5) (4) (2) (3)

〔譯〕 彼は吾々の中で一番年長者である。

〔注意四〕 “late” “later” は時を表し、“latter”  
“last” は位置を表はすのです。

ジス イズ ギレ イティスト ニューズ  
This is the latest news.  
これは である 最近の 報導  
(1) (4) (2) (3)

〔譯〕 これは最近の報導(又は消息)です。

ヒー イズ ギラスト ホイ イン ギ クラース  
He is the last boy in the class.  
彼は である 最後の 少年 の中で この 級  
(1) (7) (5) (6) (4) (2) (3)

〔譯〕 彼は級中でビリ(最も成績不良)の少年です。

〔注意五〕 “nearer” “nearest” は距離又は場所の  
近き意味に用ゐられます。“next” は順序又は位置に  
用ひます。

ホフチ イズ ギ ニアレスト ウェイ トウ ヒビヤ  
Which is the nearest way to Hibiya?  
どれで あるか 最も近い 道は へ行く 日比谷  
(5) (6) (3) (4) (2) (1)

〔譯〕 日比谷への最も近道はどれですか。

ホフット イズ ギ ネクスト ステイション  
What is the next station?  
何で あるか この 次の 停車場  
(4) (5) (1) (2) (3)

〔譯〕 此次の停車場は何と申しますか。

〔注意六〕 “further” “furthest” は距離を表はす  
のです。

比較級は以上述べた外、度合の小さくなるものがあり  
ます。是を作るには音節(綴り)の如何に拘らず “less”  
“least” を用ひまして比較、最小の二級を作るのです。

| 原 級                       | 比較級                             | 最小級                                |
|---------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| ビータフル<br>beautiful<br>美しい | レス<br>less beautiful<br>より少く美しい | リースト<br>least beautiful<br>最も少く美しい |
| ブラック<br>black<br>黒い       | レス<br>less black<br>より少く黒い      | リースト<br>least black<br>最も少く黒い      |

以上の “less beautiful” は二者を比較して「これも

美しくないが、これは更らに美しくない」の意味を表し、  
“least beautiful” は三者以上を比較して「これも随分  
美しくないが、これは最も美くない」の意味。例：—

ジス フラウア イズ ビュータフル  
This flower is beautiful.  
この 花は ある 美しく  
(1) (2) (4) (3)

〔譯〕 此花は美しい。

ザット イズ レス ビュータフル ギン ジス  
That is less beautiful than this.  
あれは ある より少く 美しく より これ  
(1) (6) (4) (5) (3) (2)

〔譯〕 あれはこれより更に美しくない。

バット ジズ イズ ギ リースト ビュータフル  
But this is the least beautiful  
然し これは ある 一番少く 美しく  
(1) (2) (7) (5) (6)

オヴ オー  
of all.  
の中で 全部  
(4) (3)

〔譯〕 然しこれは全部の中で一番に美しくない。

## 第九章

### 〔所有代名詞に就て〕

第一編第七章に於て人代名詞の所有格 [my, your, his, her, its 及其複數] を習ひました。即ち：—

(1) これは私の本である。

ジス イズ マイ ブック  
This is my book.  
これは である 私の 本  
(人代名詞の所有格)

と云ふのです。所が、其意味は同じでも：—

(a) この本は私の本である。

と云ふ様に「所有者と所有者の物」とを特に擧げる場

合には (1) の文の形式に真似て譯して見ると：—

ジス ブック イズ マイ ブック  
[a] This book is my book.  
この 本は である 私の 本  
(1) (2) (5) (3) (4)

と云ふこととなります。英文としては別に批難する誤りの文ではありませんが、“book” と云ふ言葉が重複しまして甚だ見苦しい英文であります。此見苦しさをとり去るために「所有者と所有物」とを兼ねた言葉があります。即ち：—

私のもの mine

と云ふ言葉を用ひます。今の(a)の文の“my book”を“mine”に代へますと：—

ジス ブック イズ マイン  
This book is mine.  
この 本は である 私のもの  
(1) (2) (4) (3)

となりまして、意味は“mine=my book”であります。同様に：—

この時計は君の時計です。

は：—

(b) この時計は君のものです。

と云ふ事になります。

君のもの        <sup>ユアズ</sup> yours

と云ひますから：—

ジス ウォッチ イズ ユアズ  
This watch is yours.  
この 時計は である 君のもの  
(1) (2) (4) (3)

となります。今人代名詞の所有格と所有代名詞とを比較して表にして見ますと：—

| 人代名詞所有格 |       | 所有代名詞 |        |
|---------|-------|-------|--------|
| 単 数     | 複 数   | 単 数   | 複 数    |
| my      | our   | mine  | ours   |
| your    | your  | yours | yours  |
| his     | their | his   | theirs |
| her     | their | hers  | theirs |
| its     | their | its   | theirs |

これで所有代名詞と云ふものがお解りになりましたらうが、注意して頂きたいことは、人代名詞の所有格も主格の単複に影響されませんで：—

これ(らの本)は私の本です。

と：—

ジーズ アー マイ ブックス  
These are my books.  
これらは である 私の 本  
(1) (4) (2) (3)

此本が二冊以上の場合でも「私の」と云の“my”には變りありませんが、これと同様“mine”も同様に變りありません。即ち：—

ジーズ ブックス アー マイン  
These books are mine (=my book).  
これらの 本は である 私のもの  
(1) (2) (4) (3)

と云ふ様に變りません。次の例を見て以上の説明を十分會得せられ度し。

ユー ハヴ ア ウォッチ  
(1) You have a watch.  
君は を持つ 時計  
(1) (3) (2)

〔譯〕 君は時計を持つてゐる。

イズ イット ユアズ  
(2) Is it yours (=your watch)?  
ですか それは 君のもの  
(3) (1) (2)

〔譯〕 それは君の(時計)ですか。

イエス イット イズ マイン  
(3) Yes it is mine (=my watch).  
はい それは です 私のもの  
(1) (2) (4) (3)

〔譯〕 はい、それは私の(時計)です。

マイ アンクル ゲヴ イット トゥ ミー  
(4) My uncle gave it to me.  
私の 叔父は を與へた それを 對して 私に  
(1) (2) (6) (5) (4) (3)

〔譯〕 私の叔父はそれを(時計)を與れました。

(5) He gave my brother a watch too.  
 彼は を與へた 私の 兄に 時計 も  
 (1) (6) (2) (3) (5) (4)

〔譯〕 彼は(叔父は)私の兄にも時計を與へました。

(6) But mine is better than his  
 然し 私のものは ある よりよく より 彼のもの  
 (1) (2) (6) (5) (4) (3)

(=his watch).

〔譯〕 然し私のもの(時計)は彼のもの(時計)より更らによい(時計である)

次に：—

(a) 私の一友人。

(b) 私の此本。

はどう譯すかに就て、第一編第七章で申した通り、所有格と冠詞とを同時に名詞の前に附ける事が出来ないと申しました。即ち：—

a my book.

my a book.

共にいけません。して見ると (a) も：—

a my friend.

my a friend.

共にいけない。此場合には “of” を所有代名詞の前に用ひまして：—

a friend of mine.  
 (一) (友人) (私の)

a book of mine.  
 (一冊の) (本) (私の)

と云ふ様な構造に致します。

例：—

Is he your friend?  
 ですか 彼は 君の 友人  
 (4) (1) (2) (3)

〔譯〕 彼は君の友人ですか。

Yes, he is a friend of mine.  
 然り 彼は である 一 友人 私の  
 (1) (2) (6) (4) (5) (3)

〔譯〕 はい、彼は私の一友人です。

次に人代名詞の所有格と、指示形容詞とは同時に名詞の前に置く事が出来ない事になつてゐます。ですから (b) の文を譯して：—

my this book.

this my book.

共に不可であります。此場合にも矢張 “of” を使用しまして：—

This book of mine.  
 この 本 私のもの  
 (2) (3) (1)

と云ふ様に致します。例：—

|     |      |      |        |
|-----|------|------|--------|
| イズ  | jis  | ブック  | ユアズ    |
| Is  | this | book | yours? |
| ですか | この   | 本は   | 君のもの   |
| (4) | (1)  | (2)  | (2)    |

〔譯〕 此本は君のものですか。

|      |      |     |   |      |    |       |
|------|------|-----|---|------|----|-------|
| イエス  | jis  | イズ  | ア | ブック  | オヴ | マイン   |
| Yes, | this | is  | a | book | of | mine. |
| はい   | これは  | である |   | 本    |    | 私の    |
| (1)  | (2)  | (5) |   | (4)  |    | (3)   |

### 補 稿 感 歎 文

以上説明の外に文には感歎文と云ふのがあります。日本文で「何とマア」など云ふのがそれでありませう。而して感歎文には文の終りに感歎符(!)と云ふものをつけます。

|                                   |   |      |      |     |    |
|-----------------------------------|---|------|------|-----|----|
| ホット                               | ア | プリティ | フラウア | jis | イズ |
| [a] What a pretty flower this is! |   |      |      |     |    |
| 何とまあ美しい                           |   | 花で   | これは  | あるよ |    |
| (1)                               |   | (2)  | (3)  | (4) |    |

〔譯〕 これはまあ何と云ふ美しい花でせう。

|                                |      |     |      |    |
|--------------------------------|------|-----|------|----|
| ハウ                             | プリティ | jis | フラウア | イズ |
| [b] How pretty this flower is! |      |     |      |    |
| 何と美しく                          | この   | 花は  | あるよ  |    |
| (1)                            | (2)  | (3) | (4)  |    |

〔譯〕 この花はまあ美しいこと。

## 第 四 編

### —(日 常 會 話)—

第三編には會話を入れませんが、本編で第二編、第三編で習った練習と應用に日常の會話を一廻り説明しまして注意を要する場合や、更らに説明を要する時は、其時々説明して行くことに致します。

### 第 一 章

#### 日 常 の 挨拶

〔日常の挨拶とは「お早う御座います」、「御機嫌やう」、「おやすみなさい」、と云ふものであります。

|               |         |     |
|---------------|---------|-----|
| グッド           | モーニング   | ヤマダ |
| Good morning, | Yamada! |     |

山田、お早う。

|               |       |    |
|---------------|-------|----|
| グッド           | モーニング | サー |
| Good morning, | sir.  |    |

お早よう御座います。

〔目上の人には“sir”をつける〕

|              |    |    |
|--------------|----|----|
| ハウ           | アー | ユー |
| How are you? |    |    |

御機嫌如何。

|            |      |      |       |     |     |
|------------|------|------|-------|-----|-----|
| サンク        | ユー   | アイ   | アム    | ヴェリ | ウェル |
| Thank you, | I am | very | well. |     |     |

難有う。無事です。

|            |      |    |    |      |       |
|------------|------|----|----|------|-------|
| サンク        | 君に   | 私は | ある | 甚だ   | よろしく  |
| Thank you, | you, | I  | am | very | well. |

|               |       |    |     |     |     |
|---------------|-------|----|-----|-----|-----|
| グッド           | モーニング | ハウ | ドゥー | ユー  | ドゥー |
| Good morning, | how   | do | you | do? |     |

お早よう、御機嫌よう。  
〔此問には返事不用、矢張同じ事を云へばよし〕

チェントルルン  
 Good mornng, gentlemen!  
 クッド アフタヌーン  
 Good afternoon.  
 よい 午後  
 クッド デイ  
 Good day.  
 よい 日  
 ユー るック ヴェリ ペーる  
 You look very pale, Yoshida.  
 君は 見える 甚だ 顔色が青い  
 アー ユー ノット ウェル  
 Are you not well?  
 のか 君は ない よく  
 ノウ サー アイアム ノット クワイ  
 No, sir; I am not quite  
 ない 全く  
 ウェル  
 well.  
 よく  
 ハヴ ユー ア ヘディク  
 Have you a headache?  
 を持つか 君は 頭痛  
 イエス アイ ハヴ  
 Yes, I have.  
 アー ユー フィーヴリッシュ  
 Are you feverish?  
 あるか 君は 発熱して  
 ノウ サー アイアム ノット  
 No, sir; I am not.  
 アイ レンク ユー ハヴ ア コールド  
 I think you have a cold.  
 思ふ 君は 風を引いた  
 クッド イーヴニング  
 Good evening, Tagawa.      アー  
 Are  
 ユア ペアランツ ウェル  
 your parents well?  
 君の 両親 達者で

皆さんお早よう。  
 今日(午後)。さよなら[にも用ふ]  
 左様なら(日中)  
 吉田、君は顔色が青いやうだが、體が悪いのか。  
 はい、私はどうも體の具合が變です。  
 頭痛がしますか。  
 はい、[頭痛が]します。  
 熱がありますか。  
 いえ、ありません。  
 君は風邪を引いたのだらう。  
 田川、今晚は、君の御両親は御達者かね。

マイ マギ イズ ウェル ハット  
 My mother is well, but  
 私の 母は である 達者 だが  
 私の母は達者ですが、父は病氣です。  
 マイ ファーガ イズ イル  
 my father is ill.  
 私の 父は である 病氣  
 イズ ヒー アイアム ヴェリ ソリ  
 Is he? I am very sorry  
 ですて 彼が 私は である 甚だ 氣の毒  
 お父様が。そりやお氣毒ですね。お父様はお幾つですか。[he は father を指す]  
 トゥ ヒア ゴット  
 to hear that.  
 て を聞い それを  
 ハウ オウロド イズ ヒー  
 How old is he?  
 幾歳で あるか 彼は  
 お父様(彼)はお幾つですか。  
 ヒー イズ イヤーズ オウロド  
 He is 65 years old.  
 である 年の 歳  
 六十五歳です。  
 イズ ヒー チェナラリ ヘルシ  
 Is he generally healthy?  
 あるか 常に 健全で  
 お父様 (he) は常に御達者ですか。  
 イエス サー ヒー イズ  
 Yes, sir. he is.  
 はい、常に達者です。  
 ゼン アイ ホウブ ヒー ウィル スーン  
 Then, I hope he will soon  
 望む だきに  
 それでは、ぢきに御恢復なさるでせう。  
 リカヴァ  
 recover.  
 恢復する  
 ユー マスト テイク グレイト ケア  
 You must take great care  
 オヴ ヒム  
 of him.  
 お父様をお大切にしながらはいけません。  
 イエス サー アイ ウィル  
 Yes, sir; I will.  
 はい、大切に致します

グッド ナイト  
Good night.

おやすみなさい。

グッド ナイト サー  
Good night sir.

おやすみなさい。  
〔其日の内に二度と會  
はぬ人に“Good night”  
がナイトと云ふ〕

第二章

初對面の挨拶

〔成るべく簡単な形を選んで、諸君が使はれるのみにして置きます。〕

イズ ジス ミスタ アベ  
Is this Mr. Abe?

貴方は阿部さんですか。

イエス イット イズ  
Yes, it is.

はい、左様です。

レット ミー イントラデュース  
Let me introduce  
してせしめよ私を 紹介する

私の友人加藤が君を御  
紹介申し上げます。

ユー トゥ マイ フレンド ミスタ  
you to my friend Mr, Kato.  
貴方にを 私の 友人

ミスタ ミスタ  
Mr. Yamaki, Mr. Kato.

山木君、加藤君です。

アイ アム (glad) トゥ ミート ユー  
I am (喜んで) to meet you!  
私は (happy) て 會ふ 君に  
幸福で

初めてお目に掛ります  
〔お目に掛つて悦ばし  
い〕

アイ ボウブ ウィー メイ ビカム  
I hope we may become  
望む であらう になる  
フレンド  
friend.

何卒御別懇に御願ひ申  
します。

アラウ ミー トゥ イントラ  
Allow me to intro-  
敷して呉れ 私 ことを 紹介

自己紹介で失禮ですが  
〔自分で自分を紹介す  
るために〕

デュース マイセルフ マイ ネイム  
duce myself. My name  
する 私自身が 私の 名は

私は東京の渡邊信雄で  
御座います。

イズ ノブラ ワタナベ オヴ トウキョー  
is Nobuo Watanabe of Tokyo

第三章

食卓にて

食事に關する 會話の中是非知らねばならぬもののみを掲げる  
ことに致します。

ホエア シャル アイ スィット  
Where shall I sit?

何處へ座りませうか。

何處に ませうか 私は 座り

テイク ジス スィート プリーズ  
Take this seat, please.  
取れ この 席を 何卒

此處へお座り下さい。

スィット ネクスト トゥ ミスタ ビー  
Sit next to Mr. B.  
座れ 次への 君

Bさんの次へお座りな  
さい。

ホワット ウィル ユー ハヴ ティー  
What will you have tea,  
何を ますか 貴方は 召上る 茶

茶とコーヒーとどちらを  
召上りますか。〔have  
を便ふことに注意〕

オア コフィ  
or coffee?  
と コーヒー

ア カップ オヴ ティー フリーズ  
A cup of tea, please.  
一杯を茶 何卒

ドゥー ユー テイク シュガ イン  
Do you take suger in  
ますか 君は 入れ 砂糖を の中に

ユア ティー  
your tea?  
君の 茶お

イエス プリーズ オウンリ シュガ  
Yes, please—only suger,  
何卒 だけ 砂糖

ノウ ミルク  
no milk.  
いらぬ 牛乳

ウォント ユー テイク ミルク ウィズ  
Won't you take milk with  
ませんか 貴方は を入れ 牛乳 に

ユア コフィ  
your coffee?  
貴方の コーヒ

シンク ユー  
Thank you.

ノウ シンク ユー  
No, thank you.

ヒア イズ ハム コウルド ビーフ  
Here is ham cold beef.  
此處にるの ハム 冷たい 牛肉

フエッチ ドゥー ユー プリファ  
Which do you prefer?  
どつちを なすか 貴方は 寧ろ一好み

ア スライス オヴ コウルド ビーフ  
A slice of cold beef,  
一片を の 冷した 牛肉

イフ ユー プリーズ  
if you please.  
何卒

茶を一杯下さい。

茶の中に砂糖を入れま  
すか。[take を使ふ事  
に注意]

何卒願ひます。砂糖だ  
けにして下さい。牛乳  
はいりません。

コーヒーに牛乳を入れま  
せんか。

[Won't は Will not の  
略]

どうぞ願ひます。  
[難有う。は呉れの意]  
いえ、入りません。

此處にハムと冷肉とが  
あります。どれになさ  
いますか。

何卒 冷肉を少し下さ  
い。

ホット ワイン ドゥー ユー  
What wine do you  
何の 葡萄酒を なすか 貴方は

プリファ クララット シェリ ホック  
prefer, claret, shory hoch,  
寧ろ一好み

オア モゼル  
or Mosselle?

ノウ ワイン シンク ユー  
No, wine; thank you.  
酒

ウィル ユー ノット ハヴ ア ピース  
Will you not have a piece  
一 かけ

オヴ アイス イン ユア ワイン  
of ice in your wine?  
の 氷の 中に 君の 酒

アイ レンク アイ ウィル  
I think I will.

エニ モア ビーフ サー  
Any more beef, sir?  
少し もう 肉

シンク ユー イット イズ ヴェリ  
Thank you, it is very  
甚だ

ナイス インディード  
nice indeed.  
美味しい 實際に

ヘルプ ユアセルフ  
Help yourself.

お酒は何がお好きです  
か。クラレット、(赤葡  
萄酒) シリーホック、  
モゼルの中で。

いえ、酒は頂きませ  
ん。

酒に氷を入れませ  
んか。

入れて見ませうか。

どうぞ願ひます。

もう少し牛肉如何です  
か。

有難う御座います。ほ  
んとらに美味しい肉で  
すね。

御随意におとり下さい

「一杯のコーヒー、又は茶」のやうなものは “a cup of  
ティー オア コフィ  
ter, or coffee” と申します。“cup” とは日本語の「コ  
茶 コーヒ



「一杯の酒又は水」の様なもの “a glass of wine, or water” と申します。“glass” は 葡萄酒 水

日本語の「硝子」に相当します。即ち「硝子製のコップ」を云ふ “a piece of ice” (かけら) (氷)

と申します。次に「肉の一片」を “a slice of meat” (一) (片) 肉 と申します。

### 第 四 章

## 呼 び 掛 け 方

「呼びかけ方」とは「お早う」とか「さよなら」「おいおい」とか云った様なもので一部分第一章の朝夕の挨拶に似たものであります。

|                                                                     |                                                 |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| グッド モーニング ファーザー マザー<br>Good morning, father (mother);<br>良い 朝 父 母   | お父様 (お母様、叔父<br>さん、叔母さん、兄さ<br>ん、弟、姉さん、妹)<br>お早う。 |
| アングル アーント ブラザー シスター<br>uncle; aunt; brother sister).<br>叔父 叔母 兄弟 姉妹 |                                                 |
| グッド モーニング ミスター キムラ<br>Good morning, Mr. Kimura.                     | 木村さん、お早う。                                       |
| Good morning, Ando.                                                 | 安藤、お早う。<br>〔友人同志間は Mr. を<br>つけない〕               |
| Good morning, sir.                                                  | 先生、お早う御座いま<br>す。〔目上の人には、<br>“sir” をつける〕         |

グッド バイ ミスター コンド  
Good-by, Mr. Kodo.

近藤君、左様なら。

グッド アフタヌーン  
Good afternoon.  
よい 午後

今日は。(午後)

グッド イーヴニング  
Good evening.  
よい 夕

今晚は。(夕方、又は  
夜)

グッド ナイト  
Good night.  
よい 夜

おやすみなさい。〔其晩  
の内に二度と會はぬ人  
に〕

ハロウ  
Hallo! Kondo.  
おい

おい、近藤。

ハルウ  
Halloo! Kondo.  
おーい

おーい、近藤。〔前よ  
り遠方の時に〕

ウェイター ティー フォア トゥー プリーズ  
Waiter, tea for tow please.  
給士さん 茶 を 二つ 何卒

給士さん、お茶を二つ  
下さい。

ハルウ ロバート ストップ ニア  
Halloo Robert! stop your  
おい 止めよ お前の

おいロバート、静かに  
して呉れ。

ノイズ  
noise.  
音を

サー メイ アイ ゴウ アウト  
Sir! May I go out?  
先生 よいか 私は 行く 出て

先生、出て行つてもよ  
ろしい御座いますか。

ボイズ ドント スピーク トゥ イーチ  
Boys, don't speak to each  
皆さん な 話す が お

皆さん、お互におしゃ  
べりしてはいけません

アズ  
other.  
互同志

ハル— カム オン ボイズ レット  
 Halloo; come on boys! Let  
 おい お出で 皆さん ませう  
 アス プレイ ベースホ—る  
 us play baseball.  
 吾々は 遊ぶ ベースボール

おい、皆さんお出で。  
 ベースボールをして遊  
 びませう。

第 五 章

禮 の 言 ひ 方

〔禮の言ひ方は“Thank you”と云へば足りるのであるが、  
 稍丁寧な、また複雑な形を少し挙げませう〕

アイ キンク ユー  
 I thank you.  
 私は 謝す 君に

有難う。

Thank you.

有難う。

キンクス  
 Thanks.

有難う。

メニ キンクス  
 Many thanks.  
 多く 謝す

有難々々。

キンク ユー サー  
 Thank you, sir.

有難う御座います。  
 [何時も“sir”をつけ  
 ると丁寧になる]

サンク ユー エヴァ ソー マッチ  
 Thank you ever so much.  
 澤山

誠に有難う御座いま  
 す。

キンク ユー フォア ユア カインドニス  
 Thank you for your kindness.  
 謝す 貴方々に 對し 貴方の 親切

御親切有難う御座いま  
 す。

アイ カント キンク ユー トゥー マッチ  
 I can't thank you too much.  
 出来ぬ 謝する 君に 餘り 多く

街禮の申様ありませ  
 ん。

ユ— ア— ヴェリ カインド  
 You are very kind.  
 君は である 非常に 親切

貴方は御親切な方  
 です。〔謝辭〕

イット イズ ヴェリ カインド オヴ  
 It is very kind of

さう仰しやるのは御親  
 切な事です。〔謝辭〕

ユ— トゥー セイ ソー  
 you to say so.  
 のは 云ふ そう

アイ シャル ネヴャ ファゲット イット  
 I shall never forget it.

決して忘れません。

であらう 決して一忘れない それを

サンク ユー オォア カミンク ソー  
 Thank you for coming so  
 謝す 君に のに 對し 来た 大そう

遠路態々御足勞を煩し  
 まして有難う御座いま  
 す。

ファー  
 far.  
 遠方(から)

アイ アム ソリ トゥ ハヴ トラブルド  
 I am sorry to have troubled  
 私は である 氣の毒 て かけ 面倒を

御迷惑をかけて済みま  
 せん。

ユ—  
 you.  
 貴方に

キンク ユー オォア ユア グッド  
 Thank you for your good  
 に 對して 貴方の 良い

結構な品有難う御座い  
 ました。

ギフト  
 gift.  
 贈物

ノット アト オーる  
 Not at all.  
 ない 一向に何でも

どう致しまして。

|       |         |     |          |
|-------|---------|-----|----------|
| ドント   | メンション   | イット |          |
| Don't | mention | it. | どう致しまして。 |
| なきるな  | 擧げて言ひ   | それを |          |

## 第六章 依頼の仕方

〔依頼の仕方には種々あるが、日常使はれる簡単な言葉だけを擧げて置きますよ。〕

|     |    |      |   |        |    |             |
|-----|----|------|---|--------|----|-------------|
| メイ  | アイ | アースク | フ | フェイヴァ  | オヴ |             |
| May | I  | ask  | a | favour | of | お願いが御座いますが。 |
| よいか | 私は | 頼む   |   | お恵ミ    | の  |             |

ユー  
you?  
貴方に

|       |     |       |    |   |              |
|-------|-----|-------|----|---|--------------|
| ウィル   | ユー  | グラント  | ミー | ア |              |
| Will  | you | grant | me | a | お願いを聞いて下さいませ |
| 下さらぬか | 貴方は | お聴届け  | 私に |   | せんか。         |

フェイヴァ  
favour?  
お好意を

|            |      |    |     |              |
|------------|------|----|-----|--------------|
| サートンリ      | ホット  | イズ | イット |              |
| Certainly! | What | is | it? | 畏りました。何んですか。 |

|         |     |     |    |             |
|---------|-----|-----|----|-------------|
| ウィル     | ユー  | ドゥ  | ミー |             |
| Will    | you | do  | me | 御助力下さいませんか。 |
| 下さいませんか | 貴方は | なして | 私に |             |

ア ザーヴィス  
a service?  
盡力

|     |            |              |
|-----|------------|--------------|
| イエス | サートンリ      |              |
| Yes | certainly! | はい々々、承知しました。 |

|      |    |       |    |    |      |             |
|------|----|-------|----|----|------|-------------|
| イエス  | アイ | ウィル   | イフ | アイ | キャン  |             |
| Yes, | I, | will; | if | I  | can. | はい、出来る事ならば。 |
| はい   | 私は | しませう  | 若し | 私が | 出来れば |             |

|      |    |      |    |          |            |
|------|----|------|----|----------|------------|
| イエス  | アイ | ウィル  | ドゥ | エニシング    |            |
| Yes, | I  | will | do | anything | 出来る事なら何でも致 |
|      |    |      | する | 何事でも     | します。       |

アイ キン  
I can  
私が出来る事なら

|         |     |      |      |               |
|---------|-----|------|------|---------------|
| ウィル     | ユー  | ポウスト | ジス   |               |
| Will    | you | post | this | 此手紙を投函して下さいませ |
| 下さいませんか | 貴方は | 投函して | この   | いませんか。        |

レ フォア ミー プリーズ  
letter for me, please?  
手紙を 對して 私に 何卒

|      |     |        |         |
|------|-----|--------|---------|
| イエス  | オール | ライト    |         |
| Yes, | all | right. | 承知しました。 |

|    |     |    |      |            |
|----|-----|----|------|------------|
| ア  | カップ | オヴ | ティー  | プリーズ       |
| A  | cup | of | tea, | please.    |
| 一杯 | を   | 茶  | 何卒   | 何卒茶を一杯下さい。 |

|      |      |           |
|------|------|-----------|
| イエス  | サー   |           |
| Yes, | sir. | はい、畏りました。 |

## 第七章 謝罪

〔謝罪と書いても、日本語の前置の「すみませんが」と云ふ言ひ方と、何か無様な事をして「いや恐入りました」と二通りあります。兩方を擧げて置きますから、文意から察して下さい。〕

|    |     |      |         |             |
|----|-----|------|---------|-------------|
| アイ | ベック | ニア   | パードン    | 御免下さい。〔後から〕 |
| I  | beg | your | pardon. |             |
| 私ば | 乞ふ  | 君の   | お許しを    |             |

|         |     |            |
|---------|-----|------------|
| エクスキューズ | ミー  | 御免下さい。〔前に〕 |
| Excuse  | me. |            |
| 許して下さい  | 私に  |            |

|    |     |        |          |
|----|-----|--------|----------|
| アイ | アム  | ソリ     | お氣毒様でした。 |
| I  | am  | sorry. |          |
| 私は | である | 氣の毒    |          |

|      |    |      |        |            |
|------|----|------|--------|------------|
| ノット  | イン | ギ    | リースト   | } どう致しまして。 |
| Not, | in | the  | least. |            |
| ノット  | アト | オー   | ール     |            |
| Not, | at | all. |        |            |

|     |       |       |             |
|-----|-------|-------|-------------|
| オー  | ネヴァ   | マイント  | いゝえ、御心配下るな。 |
| Oh, | never | mind! |             |
| 決して | 心     |       |             |

|    |    |       |      |      |                  |
|----|----|-------|------|------|------------------|
| アイ | アム | ソリ    | トゥ   | ハウ   | お待せしましてすみませんでした。 |
| I  | am | sorry | to   | have |                  |
| 私は | ある | 氣の毒で  | に對して | こと   |                  |

|      |     |          |              |
|------|-----|----------|--------------|
| ケプト  | ユー  | ウェイテング   | 置いた 貴方を 待たせて |
| kept | you | waiting. |              |

### 第八章

### 諸種の問と答

〔既に第二編第三編の各章に於て問と答として掲げたもの以外のも掲げて見ませう。〕

|      |     |      |       |              |
|------|-----|------|-------|--------------|
| ホット  | イズ  | ニア   | ネイム   | お名前は何と申しますか。 |
| What | is  | your | name? |              |
| 何で   | あるか | 君の   | 名前    |              |

|    |      |    |       |              |
|----|------|----|-------|--------------|
| マイ | ネイム  | イズ | タロー   | 私の名は太郎と申します。 |
| My | name | is | Taro. |              |

|      |    |      |        |       |             |
|------|----|------|--------|-------|-------------|
| ホット  | イズ | ニア   | ファミリー  | ネイム   | 苗字は何と申しますか。 |
| What | is | your | family | name? |             |
|      |    |      | 一家の    |       |             |

|    |        |      |    |       |               |
|----|--------|------|----|-------|---------------|
| マイ | ファミリー  | ネイム  | イズ | サトウ   | 私の苗字は佐藤と申します。 |
| My | family | name | is | Sato. |               |

|     |     |   |           |            |
|-----|-----|---|-----------|------------|
| アー  | ユー  | ア | ジャパニース    | 貴方は日本人ですか。 |
| Are | you | a | Japanese? |            |
|     |     |   | 日本人       |            |

|      |    |     |               |
|------|----|-----|---------------|
| イエス  | アイ | アム  | はい、〔さう日本人です。〕 |
| Yes, | I  | am. |               |

|     |    |    |    |          |            |
|-----|----|----|----|----------|------------|
| ノウ  | アイ | アム | アン | イングリッシュ  | いゝえ、英國人です。 |
| No, | I  | am | an | English- |            |
|     |    |    | です | 英國       |            |

マン  
man.

|     |      |      |      |                            |
|-----|------|------|------|----------------------------|
| ハウ  | オールド | アー   | ユー   | お年はお幾つですか。<br>〔oldは歳とつたの意〕 |
| How | old  | are  | you? |                            |
|     | 幾    | 歳(で) | あるか  | 貴方は                        |

|    |     |         |       |            |
|----|-----|---------|-------|------------|
| アイ | アム  | フィフティーン | イヤーズ  | 十五歳で御座います。 |
| I  | am  | fifteen | years |            |
|    | である | 十五      | 年の    |            |

オールド  
old.

|       |     |     |       |            |
|-------|-----|-----|-------|------------|
| ホエア   | ドゥー | ユー  | リヴ    | お住居はどちらですか |
| Where | do  | you | live? |            |
| 何處に   | なすか | 貴方は | 住み    |            |

|    |       |    |        |          |
|----|-------|----|--------|----------|
| アイ | リヴ    | イン | ホンゴウ   | 本郷に居ります。 |
| I  | live  | in | Hongo. |          |
|    | 住んで居る | に  | 本郷     |          |

|       |      |     |       |            |
|-------|------|-----|-------|------------|
| ホエア   | ワー   | ユー  | ボーン   | 御出生は何處ですか。 |
| Where | were | you | born? |            |
| 何處で   | か    | 君は  | 生れた   |            |

アイ ウォズ ホーン イン センダイ  
I was born in Sendai.  
ました 生れで 仙 臺

仙臺で生まれました。

ホエン デッド ユー カム トウ  
When did you come to  
何時 ました 君は 来 へ

何時東京へ来ましたか。

Tokyo?  
東京

アイ ケイム トゥ ファイヴ  
I came to Tokyo. five  
来ました に 五年

五年前に東京に来ました。〔(前)“before”を  
使はぬ。〕

イヤーズ アゴウ  
years ago.  
年 前に

キャン ユー スピーク  
Can you speak  
ことが出来るか 君は を話す

君は英語を話せますか。

イングリッシュ  
English?  
英語

イエス アイ キャン リトル  
Yes. I can a little.  
出来ます 少し

少しは話せます。

ホット スクーラ ドゥー ユー アテンド  
What school do you attend?  
何の 學校に か 君は 出席する

何の學校に通つてゐますか。

アイ アテンド ミドル スクーラ  
I attend middle school  
出席する 中 學校に

中學校に通つてゐます。

ホエア イズ イット  
Where is it?  
何處に あるか それは

〔學校は〕何處にありますか。

イット イズ イン ヒビヤ  
It is in Hibiya.  
それは ある に 日比谷

〔學校は〕日比谷にあります。

ホット イヤー クラース ユー アー  
What year class you are  
どの 年 級(の) 君は あるか

何年級ですか。

イン  
in?  
中に

アイ アム イン ざ フォーサ  
I am in the 4th  
ある に 第四

四年生です。

イヤー クラース  
year class  
年 級

アー ゼア・メニ ホイズ イン  
Are there many boys in  
ゐるか 澤山の 少年 に

君の級には澤山生徒が  
ゐますか。

ユア クラース  
your class?  
君の 級

イエス ゼア アー メニ ホイズ  
Yes, there are many boys  
ゐます 澤山の 少年

はい、澤山の生徒が  
ゐます。

イン アウア クラース  
in our class.  
に 吾々の 級

ハウ メニ ホイズ アー ゼア  
How many boys are there?  
澤山の 如何に 少年が あるか

幾人位居りますか。

パーハックス ゼア アー セヴンティ  
Perhaps there are seventy  
まあ大凡 ある 七十

七十人位居ります。

ホイズ  
boys.  
少年

ハウ メニ ブラダズ ハヴ ユー  
How many brothers have you?  
何人の 兄弟が あるか 君は

御兄弟は幾人おありで  
すか。

アイ ハヴ ノウ ブラダ  
I have no brother.

兄弟ありません。

アイ ハウ すリ ブラダズ アンド  
I have three brothers and  
三 兄弟

私は兄弟が三人と、姉  
妹が二人あります。

トゥー スィスタズ  
two sisters.  
二 姉妹

ホエア アー ゼイ  
Where are they?

皆さん [they] 何所に  
お出ですか。

ゼイ アー イン ギ カントリ  
They are in the country.  
彼等は みますに 田舎

皆田舎にみます。

アー ユー ギ エルデスト  
Are you the eldest?  
ですか 貴方は 最年長

貴方は長男ですか。

イエス アイ アム  
Yes, I am.

はい、さうです。

ノウ アイ アム ギ ヤングスト  
No, I am the youngest.  
である 最若年

いえ、末子です。

ホット イズ ニア ファーダ  
What is your father?  
何で ゆるか 貴方の 父

お父様は何職業です  
か。

ヒー イズ ア マーチャント  
He is a merchant.  
彼は である 商人

商人であります。

ウィル ユー カム ウィズ ミー  
Will you come with me?  
ませんか 来る 共に 私に

一緒にお出になりませ  
んか。

イエス アイ ウィル ゴウ  
Yes, I will go.

はい、参りませう。

キャン ユー ライド ア パイスイクル  
Can you ride a bicycle?  
るか 君は 乗れ 自転車(に)

自転車に乗れますか。

イエス アイ キャン  
Yes, I can.

はい、乗れます。

フーズ ブック イズ ジス  
Whose book is this?  
誰の 本 であるか これは

これは誰の本ですか。

イット イズ マイ ブック  
It is my book.

私の本です。

ホエア デッド ユー バイ イット  
Where did you buy it?  
何處で なせしか 君は 買ひ それは

何處で買ひました。

アイ ホート イット イン カンダ  
I bought it in Kanda.  
私は 買つた それを で 神田

神田で買ひました。

ハウ マッチ ウォズ イット  
How much was it?  
幾ら 多く ありしか それは

幾らで買ひましたか。

イット ウォズ トゥー エン  
It was two yen.  
でした 二 圓

二圓でした。

デッド ユー テル イット トゥ  
 Did you tell it to  
 ましたか 君は 話し それを 對し  
 ヒム  
 him?  
 彼に  
 イェス アイ トウるド イット トゥ ヒム  
 Yes, I told it to him.  
 話しました  
 フー イズ ヒー  
 Who is he?  
 誰 ですか 彼は  
 ヒー イズ マイ アンクル  
 He is my uncle.  
 叔父  
 ハヴ ユー スイーン ヒム  
 Have you seen him?  
 貴方は會つたか 彼を  
 イェス アイ ハヴ  
 Yes, I have.  
 會ました。

### 第九章

## 時刻と時計

時刻と時計のことは未だ説明しないから、會話をはじめる前に一寸御注意迄に申上げて置きます。

ホワット イズ ぎ タイム  
 What is the time?  
 何で あるか 時刻は

と云ふのが：—  
 今は何時ですか。

と云ふことです。

今七時です。

例：—

イット イズ セヴン アクろック ナウ  
 It is seven o'clock now.  
 それは である 七 時 今  
 (4) (2) (3) (1)

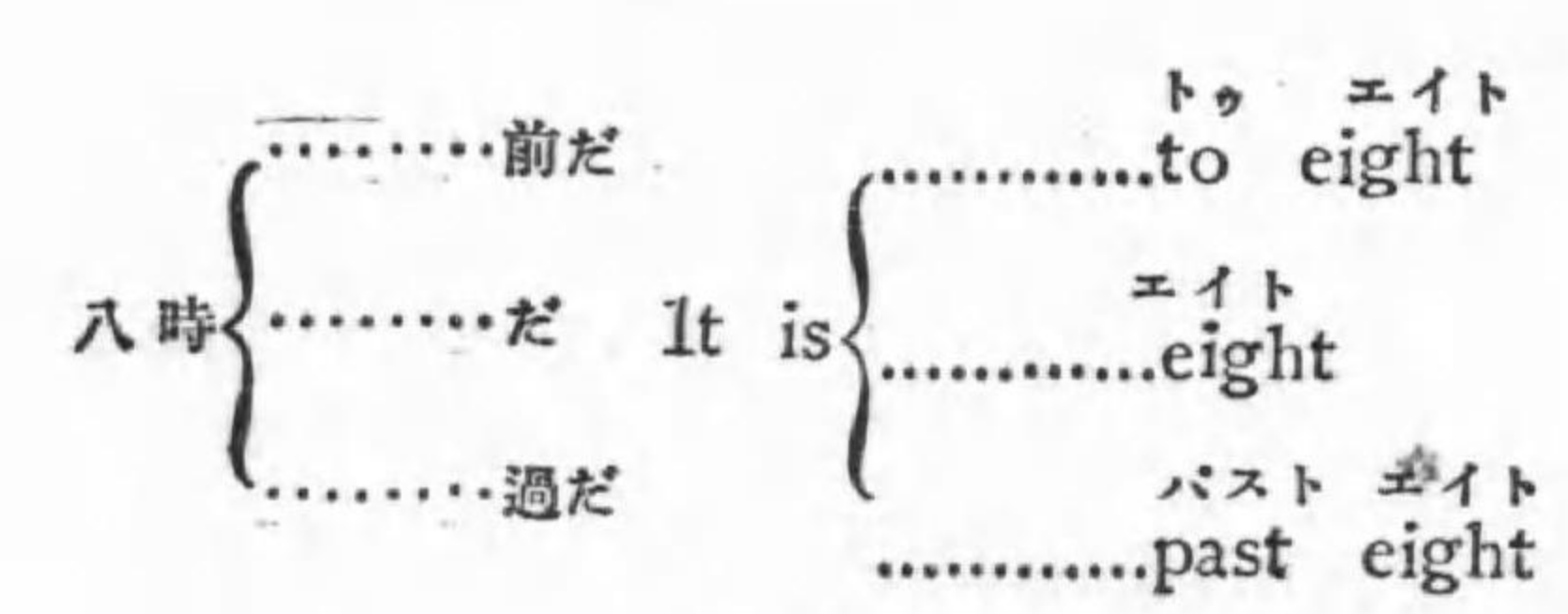
と云ふのですが、これを“o'clock”と“now”とを略して云ふ場合があります。然し、八時半とか七時十五分と云ふ半端のない時間の時は普通“now”だけを略して“o'clock”を存して置きます。

It is seven o'clock.

＝今は七時です。

と云ひます。次に英語では、時を表はすに次の如く申します

前 と 過



そして「三十分」を「半分」“half”「十五分」を「四分の一」クォーター “quarter” と申しまして、「三十分迄を past 過ぎ」と申し、三十分過ぎたら、次の時間を示して、to 前と申します。ですから、次の會話を見て會得して下さい。

ホット イズ ぎ タイム  
What is the time?

何時ですか。

イット イズ すり ミニッツ パスト  
It is three minutes past  
である 三 分 を過ぐる

七時三分(過ぎ)です。

セヴン  
seven.  
七時

イット イズ エイト アクロック  
It is eight o'clock.

八時です。

イット イズ ア クォータ パスト  
It is a quaster past  
四分の一 過ぐる

七時十五分(過ぎ)です。

セヴン  
seven.  
七時

イット イズ ハーフ パスト セヴン  
It is half past seven.  
です 半分 過ぐる 七時

七時半(過ぎ)です。

イット イズ ア クォータ トゥ エイト  
It is a quarter to eight.  
四分の一 に 八時

八時に十五分前です。  
〔七時四十五分です〕

イット イズ ファイヴ ミニッツ トゥ エイト  
It is five minutes to eight.  
です 五 分 に 八時

八時に五分前です。  
〔七時五十五分です〕

今度時の「進む」「後れる」「進んでゐる」「後れてゐる」は：—

進 む——後 れ る

|      |                                      |            |                                    |
|------|--------------------------------------|------------|------------------------------------|
| 此時計は | {<br>……進む<br>……合ふ<br>……後れる         } | This watch | ギンズ<br>……gains.                    |
|      |                                      |            | キープス グッド タイム<br>……keeps good time. |
|      |                                      |            | るーゼズ<br>……loses.                   |

進んでゐる——後れてゐる

|      |                                              |               |                 |
|------|----------------------------------------------|---------------|-----------------|
| 此時計は | {<br>……進んで居る<br>……合つて居る<br>……後れて居る         } | This watch is | ファスト<br>……fast. |
|      |                                              |               | ライト<br>……right. |
|      |                                              |               | スロウ<br>……slow.  |

と申します。

ダズ ユア ウォッチ キープス  
Does your watch keeps  
なざるか 君の 時計は 保つ

君の時計は正確ですか  
〔進むも後れもしませ  
んか。〕

グッド タイム  
good time?  
良く 時間を

ノウ サー イット ゲインズ ア リトル  
No, sir; it gains a little.  
それは 進む 少し

いえ、少しづつ進み  
ます。

ノウ イット ルーゼズ ファイヴ ミニッツ  
No, it loses five minutes  
後れる 五 分

いえ、一日に五分宛  
後れます。

ア デイ  
a day.  
一 日(に)

ホット タイム イズ イット バイ  
What time is it by  
幾 時 ですか 時は で

貴方の時計は何時です  
か。

ユア ウォッチ  
your watch?  
君の 時計

ホット タイム アー ユー  
What time are you?

何時ですか。



イット イズ イクザクトリ テン  
It is exactly ten.  
丁度 十時

丁度十時です。

マイ ウォッチ イズ テン ミニッツ  
My watch is ten minutes  
をる 十 分

私の時計は十分進んで  
ゐます。〔後れて居る〕

ファスト スロウ  
fast. [slow]  
進んで

ハヴ ユー ゴ ライト タイム  
Have you the right time?  
を持つか 君は 正しい 時

貴方の時計は正確です  
か。

イエス マイ ウォッチ イズ ライト  
Yes, my watch is right.  
私の 時計は ある 正しく

はい、正確です。

マイ ウォッチ イズ アウト オヴ オーダ  
My watch is out of order.  
時計は 狂つて居る

私の時計は狂つてゐま  
す。

イット イズ ミッドナイト  
It is midnight.  
真夜中

毎夜中です。

イット イズ ヌーン  
It is noon.  
正午

正午です。

ザ デイ イズ ブレイケンブ  
The day is breaking.  
日がある 破れつゝ

夜が明けかけました。

ザ ナイト イズ フォリング  
The night is falling.  
夜がある 落ちつゝ

日が暮れかかりまし  
た。

ザ サン イズ リズン  
The sun is risen.  
太陽が ました 上り

太陽が出ました。

ザ サン イズ セット  
The sun is set.  
太陽が ました 沈み

太陽が没しました。

### 第 十 章

## 日 常 の 動 作

日常の動作の中：—

「何時に.....するか」

には：—

ホワット タイム  
What time.....?

の形を用ひ：—

「.....時に——する」

と云ふ時には：—

アイ アト  
I.....at——

時の前に“at”を使ひます。此“at”は前置詞で「に」に  
相當す。

{ 起る

{ ゲット アップ  
get up

{ 寝る

{ ゴウ トゥ ベッド  
go to bed

{ 學校へ行く

{ ゴウ トゥ マク—る  
go to school

{ 家へ歸る

{ カム ホーム  
come home

{ 復習する

{ リヴュー マイ レスン  
review my lesson

{ 豫習する

{ フリベア フォア ザ  
prepare for the  
ネクス デイ  
next day

ブレックファスト  
朝食=breakfast

ランチ  
昼食=lunch

夕食=supper <sup>サバ</sup> 軽い食事=tea (茶) <sup>ティー</sup>

一月中の正餐=dinner <sup>ディナ</sup>

ホット タイム ドゥー ヌー ゲット アップ  
What time do you get up? 何時に起きますか。  
何時に ますか 君は 起き

アイ ゲット アップ アト ファイヴ  
I get up at five. 五時に起きます。  
起きます に 五時

ホット タイム ドゥー ヌー ハヴ  
What time do you have 朝食を何時に召しあが  
何 時 ますか 君は をとり  
りますか。

ブレイクファスト  
breakfast?  
朝食

アイ ハヴ イット アト シックス  
I have it at six. 六時に〔朝食を it〕食  
私はとりますそれをに 六時  
べます。

ホット タイム ドゥー ヌー ゴウ トゥ  
What time do you go to 何時に學校に参ります  
何 時に ますか 君は 行き  
か。

スクー  
school?  
學校に

アイ ゴウ トゥ スクー アト ハーフ  
I go to school at half 七時半に學校に参りま  
に行く 學校 に 半分  
す。

パスト セヴン  
past seven.  
過ぐる 七時を

ホット タイム ドゥー ヌー カム  
What time do you come 何時に家に 歸ります  
ますか 歸り  
か。

ホーム  
home?  
家に

アイ カム ホーム アト スリー  
I come home at three. 三時に家に歸ります。  
歸る 家に に 三時

ホット ドゥー ヌー ドゥー アフタ  
What do you do after 授業が済んだら何をな  
何を ますか 君は 爲す 後(済んだ) ますか。

スクー  
school?  
學校(授業)の

アイ テイク ア ウォーク イン ぎ  
I take a walk in the 公園に散歩します。  
散歩します に

パーク  
park.  
公園

ホット タイム ドゥー ヌー ハヴ  
What time do you have 何時に夕食をめしあが  
ますか  
りますか。

サバ  
supper?  
夕食

アイ イート イット アト ハーフ パスト  
I eat it at half past 六時半に (it 夕食を)  
たべます それを に 半 過ぐ たべます。

シックス  
six.  
六時

ホット ドゥー ヌー ドゥー  
What do you do 夕食後は何をなさいま  
ますか 爲す すか。

アフタ サバ  
after supper?  
後に 夕食(の)

アイリビュー マイ レスンズ アンド  
I reviw my lessons and 私は復習と翌日の豫習  
復習をします 私の 課業の そして  
とを致します。〔前に  
アリペア フォア ん ネクスト デイ 掲げたものを参照〕  
prepare for the next day. 準備します の 習 日

ホット タイム ドー ユー ゴウト  
What time do you go to 何時にお寝みになりま  
ますか 行きに すか。

ベッド  
bed?  
床

アイ ゴウ トゥ ベッド アト テン  
I go to bed at ten. 十時に寝ます。  
行きますに 床に 十時

〔上例で御覽の通り「食事する」の「する」と「散歩する」の「する」を“take”を用ひましたが、“have”の代りに“take”が使はれ「食べる、電車に乗る、散歩する」皆“take”を用ひて差支ありません〕

アイ クリーン マイ シューズ  
I clean my shoes. 靴を磨きます。  
磨きます 靴を

アイ リード ん ペーパー  
I read the paper. 新聞を読みます。  
読みます 新聞を

アイテイク ブレックファスト アト セヴン  
I take breakfast at 7. 七時に朝食を食べます。〔takeを用ひて、  
をとる 朝食 に 七時 前の文と比較せよ〕

テイク カー アト  
I take car at Sugamo. 巣鴨で電車に乗りま  
に乗る 電車 で 巣鴨 す。

アイチェインダ カーズ  
I change cars at Onarimon. 御成門で電車を乗換へ  
換へる 電車を で 御成門 ます。

アイゲット トゥ オフィス アト ナイン  
I get to office at nine. 九時に役所に着きま  
着くに 役所に 九時 し。

アイテイク ランチ アト ヌーン  
I take lunch at noon. 正午に昼食を食べま  
とります 昼食を に 正午 す。

オフィス クロウゼス アト フォア  
Office closes at 4. 四時に役所が終りま  
役所が 閉ぢる に 四時 す。

アイカム ホーム オン フット  
I come home on foot. 徒歩 (on foot) で家に  
来る 家に で 足 歸ります。

アイゲット ホーム アト アクウォータ  
I get home at a quarter 五時十五分前に家着き  
着く 家に に 四分一分 ます。

トゥ ファイヴ  
to 5.  
に 五時

アイテイク ティー アト ファイヴ  
I take tea at 5. 五時に茶を飲みます。  
をとる 茶 に 五時

アイテイク サバ アト スイクス  
I take supper at 6. 六時に夕食を食べま  
をとる 夕食 に 六時 す。

### 第 十 一 章

## 何 日……………何 曜

〔英米では「今日は何日ですか」と問はれた時には「今日は…

…曜です」と曜を使つて答へるのが普通ですが、日本式に云ふ場合は日附を以て答へる。「今日は何曜ですか」の場合は曜を以て答へるのが當然です。其便宜のために日本流に問ひ、答へる例をも擧げて置きます。而して日時は“日”を假りの主格に用ふることは時間の場合と同じであります。]

ホット デイ オヴ ザ マンス  
What day of the month  
何 日 の この 月  
今日は今月の何日ですか。

イズ タデイ  
is to-day?  
であるが今日は

イット イズ ザ トウェンティイサ  
It is the 20th.  
今日は廿日です。

ホット デイ オヴ ザ ウィーク イズ  
What day of the week is  
何 日 の この 週 であるか  
今日は此週の何日であるか。

イット  
it?  
それは

イット イズ サンデイ  
It is Sunday.  
今日は日曜です。

ア ウィーク ハズ セヴン デイズ  
A week has seven days.  
週は 七 日  
一週は七日あります。

ザ セヴン デイズ アー サンデイ  
The seven days are Sunday,  
七 日 は である 日曜日  
七日と云ふは、日曜

マンデイ テューズデイ ウェンズ  
Monday, Tuesday, Wednes-  
月曜日 火曜日 水曜  
日、月曜日、火曜日、  
水曜日、木曜日、金曜

デイ ーズデイ フライデイアンド  
day, Thursday, Friday, and  
日 木曜日 金曜日 と  
曜日は始めの一字を大  
文字で書く]

サタデイ  
Saturday.  
土曜日

ア デイ ハズ トウェンティ フォア  
A day has twenty - four  
一 日 を持つ 二十 四  
一日は二十四時間あ  
る。

アウアズ  
hours.  
時間

ワン アウア ハズ sixty ミニッツ  
One hour has sixty minutes.  
一 時間 を持つ 六十 分  
一時間は六十分であ  
る。

ア マンス ハズ サーティ デイズ  
A month has thirty days.  
一 月 は を持つ 日  
一ヶ月は三十日ある。

ア イヤー ハズ トウェンティ マンス  
A year has twelve months.  
一 年 は を持つ 十二ケ 月  
一年は十二ヶ月ある。

ア イヤー ハズ ナリ ハンドレッド  
A year has three hundred  
一 年 は を持つ 三 百  
一年は三百六十五日で  
ある。[前の例も皆

アンド sixty - five days. [=  
と 六十 五 日  
There are three hundred  
ある 三 百  
There are three hundred  
are twenty-four hours  
in a day" の如し]

and sixty-five days in a  
と 六十五 日 に 一  
year.]  
年

第十二章

四季 (春、夏、秋、冬)

「四季」のことを「Four seasons」と申します。而して:-

スプリング サマ  
春 = spring 夏 = summer

オータム ウィンタ  
秋 = autumn 冬 = winter

春 { 三月 March  
四月 April  
五月 May

夏 { 六月 June  
七月 July  
八月 August

秋 { 九月 September  
十月 October  
十一月 November

冬 { 十二月 December  
一月 January  
二月 February

七曜の始めの文字を大文字で書いたと同様、月名も始めの一  
字を大文字で書きます。四季の名は小文字でも差支ありません。

ぎ ウィンタ イズ オウヴァ  
The winter is over.  
冬は した 通り越

冬は過ぎました。

ぎ スプリング ハズ カム  
The spring has come.  
春は ました 来

春は来ました。

イット イズ ゲテンク ウォーマ  
It is getting warmer.  
なる だんゝゝ 暖かに

暖かになり。

ぎ フラウアズ ブルーム  
The flowers bloom.  
花が 咲く

花が咲く。

ぎ フラウズ アー アウト  
The flowers are out.  
花は 居る 出て

花が咲いて居る。

フィールドアー オヴ グリーン から  
Field are of green colour.  
野原は なりましたに 緑の 色

野原は緑色になりました。

ぎ レイニ スイーズン ハズ  
The rainy season has  
梅雨期が ました

梅雨期に入りました。

セット イン  
set in.  
初まり

ウィー ハヴ マイチ レン  
We have much rain.  
吾々は 持つ 多量の 雨

雨が多い。

イット イズ ホット  
It is hot.  
ちる 暑く

暑い。

イット イズ ゲッタング ホタ  
It is getting hotter.  
だんゝゝある より暑く

暑くなる。

イット イズ ヴェリ サるトリ  
It is very sultry.  
非常に むし暑い

どうも蒸し暑い御座います。

ホット ア リフレッシュング シャウワ  
What a refreshing shower!  
何とまあ せいせいする 夕立

何とせいせいする夕立  
でせう。〔感嘆詞(!)を  
以て結ぶ〕

ア ザンダ ストーム  
A thunder storm.  
雷の あらし

雷雨。

ウィー フィーるマツチ クーる イン き  
We feel much cool in the  
吾々は感ずる 多量に 涼しく に

朝夕は大部涼しくなり  
ました。

モーニング アンド イーヴニング  
morning and evening.  
朝 と 夕方

イット イズ グロウイング クーら  
It is growing cooler.  
ある なりつゝ より涼しく

涼しくなる。

イット イズ チリ ビス モーニング  
It is chilly this morning.  
膚寒い この 朝は

今朝は冷々する。

ぎ フルーツ ライブン  
The fruits ripen.  
果實は 熟す

果實は熟す。

ぎ フルーツ アー ライブ  
The fruits are ripe.  
果實は 居る 熟して

果實は熟して居る。

イット イズ ア ストーム スイーズン  
It is a stormy season.  
である 嵐多き 季節

暴風雨が多い。

ウィンタ イズ アト ハンド  
Winter is at hand.  
冬が 近づいた

冬が近いた。

英 習 字

|                  |  |          |  |         |  |           |                     |          |                                |          |  |
|------------------|--|----------|--|---------|--|-----------|---------------------|----------|--------------------------------|----------|--|
|                  |  |          |  |         |  |           |                     |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | March               |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | April               |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | May                 |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | June                |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | July                |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | August              |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | September           |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | October             |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | November            |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | December            |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | 1925.               |          |                                |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | January             |          | Wednesday, January 21st, 1925. |          |  |
|                  |  |          |  |         |  |           | February            |          |                                |          |  |
| DAYS OF THE WEEK |  |          |  |         |  |           | MONTHS OF THE YEAR. |          |                                |          |  |
| Sunday           |  | Monday   |  | Tuesday |  | Wednesday |                     | Thursday |                                | Saturday |  |
| January          |  | February |  |         |  |           |                     |          |                                |          |  |

イット イズ コウルド  
It is cold.  
ある 寒く

寒い。

イット イズ グロウイング コウラダ  
It is growing colder.  
ある だんゝゝなる より寒く

寒くなる。

|      |       |     |         |       |     |        |    |           |
|------|-------|-----|---------|-------|-----|--------|----|-----------|
| ぎ    | コウ    | ド   | イズ      | セウ    |     |        |    |           |
| The  | cold  | is  | severe. |       |     | 寒気が強い。 |    |           |
|      | 寒さ    | は   | ある      | 厳しく   |     |        |    |           |
| ぎ    | トリー   | ズ   | アー      | ベア    |     |        |    |           |
| The  | trees | are | bare.   |       |     | 樹木凋落す。 |    |           |
|      | 樹     | は   | ある      | 裸か    |     |        |    |           |
| ぎ    | ウォー   | タ   | イズ      | フロ    | ウズン |        |    |           |
| The  | water | is  | frozen. |       |     | 氷結ぶ。   |    |           |
|      | 水     | ある  | 凍つて     |       |     |        |    |           |
| れ    | イク    | スワ  | イズ      | フロ    | ウズン | オウ     | ウヅ |           |
| Lake | Suwa  | is  | frozen  | over. |     |        |    | 諏訪湖は氷結した。 |
|      | る     | 凍つて | すつかり    |       |     |        |    |           |

### 第十三章 寒暑冷暖

〔前章の四季に於て寒暑冷暖を少し述べましたが、本章で新たに述べて置くことに致します。〕

寒暑冷暖に關係ある東西、南北から初めませう。

|           |           |
|-----------|-----------|
| イースト      | ウエスト      |
| 東 = east  | 西 = west  |
| サウス       | ノー        |
| 南 = south | 北 = north |

而して名詞の場合は常に“the”と云ふ定冠詞をつけて用ひます。

氣候(暑い、寒い)を叙する場合は“it”を以て始めるのが普通です。

風雨、雪の多い少いを叙する場合は“we have...”(吾々は...を持つ)を以て始めるのが普通です。

|        |           |        |          |        |    |                                                     |
|--------|-----------|--------|----------|--------|----|-----------------------------------------------------|
| ハウ     | イズ        | ぎ      | クラ       | イミット   | オウ |                                                     |
| How    | is        | the    | climate  | of     |    | 北海道の氣候は如何で                                          |
|        | 如何であるか    |        | 氣候       | の      |    | すか。                                                 |
|        | ホツ        | カ      | イ        | ド      | ウ  |                                                     |
|        | Hokkaido? |        |          |        |    | 北海道                                                 |
|        | イット       | イズ     | ヴェリ      | スウ     |    |                                                     |
|        | It        | is     | very     | sever. |    | 厳しう御座います。                                           |
|        |           | ある     | 非常に      | 厳しく    |    |                                                     |
| ウー     | ハヴ        | マッ     | スノウ      |        |    |                                                     |
| We     | have      | much   | snow.    |        |    | 雪が多い。                                               |
|        | 吾々は       | 持つ     | 多量の      | 雪      |    |                                                     |
| ゼイ     | ハヴ        | マッ     | スノウ      |        |    |                                                     |
| They   | have      | much   | snow.    |        |    | 同上(“We”の代りに“they”を以てする場合は三人稱の場合即ち「北海道の人々は」の如き場合である) |
| ウー     | ハヴ        | リトル    | スノウ      | イン     |    |                                                     |
| We     | have      | little | snow     | in     |    | 今年の冬は雪は少ない。                                         |
|        | を持つ       | 少量の    | 雪        | に      |    |                                                     |
| ウインタ   | ジス        | イヤ     |          |        |    |                                                     |
| winter | this      | year.  |          |        |    |                                                     |
| 冬      | 今         | 年      |          |        |    |                                                     |
| ゼイ     | リヴ        | イン     | フォー      | モウ     | サ  |                                                     |
| They   | live      | in     | Formosa. |        |    | 彼等は臺灣に住んでる。                                         |
|        | 彼等は       | 住んでる   | に        | 臺灣     |    |                                                     |
| ゼイ     | ハヴ        | マッ     | レン       | イン     |    |                                                     |
| They   | have      | much   | rain     | in     |    | 〔彼等は一臺灣の人は〕一臺灣は夏は雨が多い。                              |
|        | 彼等は       | 持つ     | 多量の      | 雨      | に  |                                                     |
|        | サマ        |        |          |        |    |                                                     |
|        | summer.   |        |          |        |    |                                                     |
|        | 夏         |        |          |        |    |                                                     |
| ウー     | リヴ        | イン     |          |        |    |                                                     |
| We     | live      | in     | Tokyo.   |        |    | 吾々は東京に住んでる。                                         |
|        | 住んでる      | に      | 東京       |        |    |                                                     |

ウイー ハヴ メニ ファイアズ イン  
 We have many fires in 東京に火事が多い。  
 ある 度々 火事 に  
 Tokyo.  
 東京

ウイー ハヴ メニ アーサクウェイクス  
 We have many earthquakes 日本に地震が多い。  
 ある 度々 地震が  
 イン ヤヤパン  
 in Japan.  
 に 日本

ウイー ハヴ フュー ストームス イン  
 We have few storms in 春には嵐が少ない。  
 ある 少なく 暴風雨が に  
 スプリング  
 spring.  
 春

イット イズ ヴェリ コールド イン  
 It is very cold in 一月は非常に寒い。二  
 ある 非常に 寒く に 月は氷結する。三月に  
 チェンアリ イット フリーズイズ ハード  
 January. It freezes hard 是寒さがゆるんで来  
 一月 氷結する 堅く る。五月には暖かくそ  
 イン フェブルアリ イット ピカムス  
 in February. It becomes して長閑になる。八月  
 に 二月 成る は厳しく暑い。十月に  
 れス コールド イン マーチ イット  
 less cold in March. It 是涼しく、そして晴々  
 少く 寒き に 三月 しくなる。

イズ ウォーム アンド チェンヤル イン  
 is warm and genial in  
 である 暖かく そして 長閑 に

メイ イット イズ インテンシブリ  
 May. It is intensely  
 五月 非常に

ホット イン オーガスト イット イズ  
 hot in August. It is  
 暑い に 八月

クーア アンド リフレッシング イン  
 cool and refreshing in  
 涼しい 清々しい に  
 オクトゥバ  
 October.  
 十月

### 章 十 四 章

## 天 氣 の 事

〔晴天、雨、風、雪〕

天気も矢張 "It" で始めます。天気的事で注意して置き度い事は:-

現在の模様を語る時:-

Be (is)+—ing.

の形を用ひまして:-

{ 雨が降つてゐる。  
 イット イス レイニング  
 It is raining.  
 (be 動詞) (ing)

即ち "rain" は「雨」と云ふ名詞であると共に「雨降る」と云ふ動詞であります。から、それに "ing" をつけて用ひます。

次に「雨がやんだ」など云ふのは、前編の第十二章で習つた過去分詞を用ひまして:-

過去の模様を語る時:-

Have [has]+過去分詞



の形を用ひまして:-

雨がやんだ。  
 イット ハズ ストップト レイニング  
 It has stopped raining.  
 (Have 動詞) (過去分詞)

れット アス ゴウ トゥ ヒビヤ パーク  
 Let us go to Hibiya Park  
 ぢやないか行かうへ 日比谷 公園 かうぢやないか。

フォア ア ウォーク  
 for a walk?  
 に 散歩

イエス ウィー ウィル バット ハウ イズ  
 Yes, we will. But how is  
 いは 吾々は さうし だが 如何であるか  
 ませう すが 天気は 如何でせう

ぎ ウェぎ  
 the weather?  
 天候は

ウェル ねット ミー シー  
 Well, let me see.  
 さうね {一寸待つて呉れよ  
 (さうね) {さうね

イット イズ クラウドイ ゼア イズ  
 It is cloudy. There is  
 ゐる 曇つて がある 曇つてゐますね。風が

ア ハイ ウィンド イズ イット  
 a high wind. Is it  
 高い 風 のでないか 強う御座います。雨が  
 降るのぢありません

レイニング  
 raining?  
 雨降る

イット イズ ア ファイン デイ  
 It is a fine day.  
 である 晴かな H 快晴である。

イット イズ カーム  
 It is calm.  
 である 静か 風がない。

イット オレトンス トゥ レン  
 It threatens to rain.  
 嚇かす べく 雨になる 雨になりさうだ。  
 [threatens を looks like と云つてもよい]

イット ルックス ライク スノウ  
 It looks like snow.  
 模様だ らしい 雪 雪模様だ。

イット ルックス ライク サンダ  
 It looks like thunder.  
 様子だ らしい 雷 雷がなりさうだ。

クラウツ アー ギャギリグ  
 Clouds are gathering.  
 雲が ある 集りつゝ 雲が出る。

ぎ ウィンド イズ ライズィング  
 The wind is rising.  
 風が ある 起りつゝ 風が出る。

ぎ レン イズ カミング オン  
 The rain is coming on.  
 雨が ある 襲ひ來つゝ 雨が来る。[次の題の  
 様に云つてもよし]

イット イズ ビギニング トゥ スノウ  
 It is begining to snow.  
 ある なりつゝ に 雪 雪になる [前題の如く  
 "coming on" として  
 もよい。]

ぎ ライトニング フラッシュズ  
 The lightning flashes.  
 雷光が 閃く 電光がする。

イット イズ クラウドイ  
 It is cloudy.  
 ゐる 曇つて 曇つてゐる。

イット イズ ブロウィング  
 It is blowing.  
 ある 風吹きつゝ 風が吹いてゐる。

|                                                                    |             |
|--------------------------------------------------------------------|-------------|
| イット イズ レイニング<br>It is raining.<br>ある 雨降りつゝ                         | 雨が降つてゐる。    |
| イット イズ スノウイング<br>It is snowing.<br>ある 雪降りつゝ                        | 雪が降つてゐる。    |
| イット イズ サンダリング<br>It is thundering.<br>ある 雷が鳴りつゝ                    | 雷が鳴つてゐる。    |
| イット ハズ クリアド アップ<br>It has cleared up.<br>天気が 晴れ 上つた                | 晴れ上つた。      |
| ざ ウィンド ハズ ダイド<br>The wind has died.<br>風が 止んだ                      | 風が止んだ。      |
| イット ハズ ストップト レイニング<br>It has stopped raining.<br>止んだ 雨降り           | 雨が止んだ。      |
| イット ハズ ストップト スノウイング<br>It has stopped snowing.<br>止んだ 雪降り          | 雪が止んだ。      |
| イット プロミセス トゥ ビー ファイン<br>It promises to be fine.<br>約束する なり ことを 晴天に | お天気になりさうだ。  |
| ざ サン イズ カミング アウト オヴ<br>The sun is coming out of<br>大陽がある 出つゝ 外に の  | 大陽が雲から出て来た。 |
| ざ クラウツ<br>the clouds.<br>雲                                         |             |

## 第十五章 英 文 名 刺

日本人でも、外人と交際する人や、外匯貿易關係の諸會社に  
勤めてゐる諸君は、英文名刺をこしらへる必要がありませう。

東  
郷  
八  
郎

*Hachiro Togo.*

と云ふ様に姓と名とを反對にする事は羅馬字の所で申しました  
が、姓の次に終止符(・)をつけます。商賣上や、正式の名刺  
には:-

|       |    |      |       |
|-------|----|------|-------|
| 男     | なら | Mr.  | (ミスタ) |
| 未婚の婦人 | なら | Miss | (ミス)  |
| 既婚婦人  | なら | Mrs. | (ミスズ) |

を冠して置く。商賣上や公用の場合に用ふるのは肩書や住所  
氏名をつけて置くのが普通でのります。肩書は氏名の下に、住  
所は左端右端何れにても差支ありません。

高田商會支配人  
山田三郎  
東京市麹町區丸の内  
電話大手二二五六番

*Mr. S. Yamada,*  
*Manager of the Takata & Co.,*  
*Marunouchi, Kojinachi-ku,*  
*Tokyo.*  
Tel. 2256 (Otemachi)

肩書をつけた場合には姓の次に(・)を打たずに(,)を打つ  
而して商會 (Co.) は “Company” の略であるから、略した  
と云ふしるしに(・)打つ。次に終止符をつけて置く。番地住所  
の Tokyo の次で(・)を打つ。<sup>テル</sup>“Tel.” は、<sup>テリフォウン</sup>“Telephone” (電  
話) の略であるから(・)を打つて置くのです。

内閣總理大臣  
子爵 加藤高明

*Viscount T. Kato,*  
*The Prime Minister.*

爵位のある人は Mr. の代りに爵位を冠して置きます。

公爵 Prince      侯爵 Marquise

伯爵 Count      子爵 Viscount  
男爵 Baron      郷 Sir

「内閣總理大臣」は “The Prime Minister” と申します。  
名刺に正月などに「謹賀新年」と單簡な用件を上部に印刷す  
る事があるが、西洋では新年を祝ふよ、「クリスマス」を祝ふ  
アメリクリスマス  
關係から “A Merry Christmas” など書きます。

謹賀新年  
田中一郎  
神田區山本町五

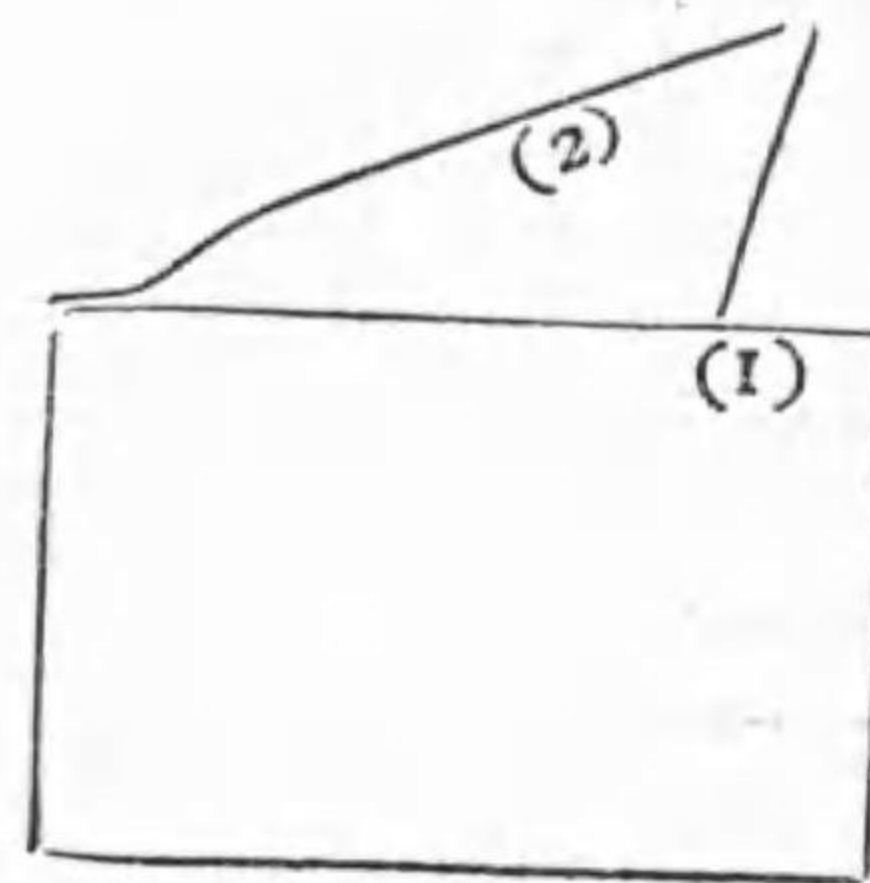
*A Happy New Year.*  
*Ichiro Tanaka.*  
5, Yamamocho, Kanda-ku.

“A Happy New Year.” (賀正; 謹賀新年) 若し  
(幸福なる)(新しい)(年)  
紹介状なら “A Happy New Year” の所へ “In-  
<sup>イン</sup>roducing Mr.—” と書きます。「見舞」には “To  
<sup>トッ</sup>  
(紹介)  
インクワイア  
inquire” と書きます。  
見舞する

## 第十六章 手紙の認め方

手紙と葉書の書き方は、後章で述べますが、本章では  
總論的のものを一通り述べて置きます。

手紙を書くには手紙用紙 (letter paper) を用ひ封筒  
は角封を用ひます。而して手紙用紙の表だけに書き裏へ  
書かぬのが普通であります。然し裏迄書く時には：—



二つ折の用紙なら先づ (1) から  
書き初め、(2) に移り更らに餘ら  
ば (1) の裏へ書き、更らに餘ら  
ば (2) の裏へ書いても差支ない。  
然し前にも申した通り裏へ書か  
ぬ方がよい様である。

### 差出人の居所と年月日

英文の手紙には次章で説明する文例にて御覽なればお  
解りになりますが letter paper の上左の端にやゝ小  
さく書きます。居所は長くなれば二行位につめて書い  
てもよい。頁の中程より左へ出ない様にします。月日は  
正式に書けば：—

April 1st, 1925. (1925 年四月一日)  
であります。大抵略字を用ひまして：—  
Apr. 1st, -25.

と書いても差支ありません。然し讀む時には略さずに  
讀みます。十二ヶ月の略字を参考のため掲げて置きます  
か、年號は西曆を書き、普通略して 1925 年を -25 と  
書きます。

ヂヤニアリ  
January (一月) を Jan.

フエブルアリ  
February (二月) を Feb.

マーチ  
March (三月) を Mar.

エイプリル  
April (四月) を Apr.

メイ  
May (五月) も略しません。

デューン  
June (六月) も略しません。

デュライ  
July (七月) も略しません。

オーガスト  
August (八月) を Aug.

セプテンバ  
September (九月) を Sept.

オクトウバ  
October (十月) を Oct.

ノヴェンバ  
November (十一月) を Nov.

ディセンバ  
December (十二月) を Dec.

同じ土地に住む人に宛てる手紙ならば月日の代りに七  
曜を以てしても差支ありません。例へば：—

Shitaya, Wednesday.

(下谷、水曜日)

の如くします。七曜も略字を使つても差支ありません。七曜の略字は：—

サンデー  
Sunday (日曜日) を Sun.

マンデー  
Monday (月曜日) を Mon.

ティューズデー  
Tuesday (火曜日) を Tues.

ウェンズデー  
Wednesday (水曜日) を Wed.

サーズデー  
Thursday (木曜日) を Thur.

フライデー  
Friday (金曜日) を Fri.

サタデー  
Saturday (土曜日) を Sat.

自己の居所を先方で熟知してゐる場合には簡略して差支ない。然し返辭を貰ふ時は先方の便利のため成るべく詳細に書いた方がよい。他人の家に寓する時は：—

渋谷方 c/o Mr. Shibuya

と致します。c/o は “care of” (氣附) に相當します。

冒頭の文言

日本では手紙の冒頭に「拜啓；謹啓」等種々用ひますが、英語では先方に依つて書き方に差があります。

(1) 親友には <sup>マイディア</sup> My dear Taro.

(2) やゝ改まつた相手には <sup>マイディア ミスタ</sup> My dear Mr. Yamana.

(3) 更に鹿爪らしく <sup>マイディア サー</sup> My dear Sir [女にはMadam]

(4) やゝ他人行儀に <sup>ディア ミスタ</sup> Dear Mr. Yamada,

(5) 最も他人らしく <sup>ディア サー</sup> Dear Sir

本文

本文には何より先づ用件を最先に書き、日本流の如き時候の挨拶など長々しく書く事は禁物であります。而して書き出しは左端を四分の一位あけて書き出し、初めの一字を大文字で書き始めよ。

結尾

日本流の結尾には「敬具；匆々」と書くが、英文にては親疎の程度に依つて差異あります。前の冒頭の文言によつてあてはめられは：—

(1) には <sup>ユア アフェクシフニト フレンド</sup> Your affectionate friend.  
君の 親愛な 友達

(2) には <sup>ユアズ ヴェリ スインシアリ</sup> Yours very sincerely.  
君の 非常に 眞實なる

(3) には <sup>ユアズ ヴェリ トルーリ</sup> Yours very truly.  
君の 非常に 眞實なる

(4) には <sup>ユアズ トルーリ</sup> Yours truly.  
君の 眞實の

“sincerely”と“truly”を交換しても差支なし。

### 第十七章

## 端書文の實例

日本の葉書でも、外國の葉書でも切手は右の上の隅に貼る定めなれば下の如き形式に表面に先方の氏名、住所を認め、裏面には手紙と同じ書式に用件を簡略に書き、自己の住所を記載します。

(表)

|        |           |
|--------|-----------|
| きがは便郵  |           |
| 切手     | 仙臺市東二番丁三五 |
| 七月一日   | 長谷川陸郎様    |
| 日光にて   |           |
| 内ヶ崎作三郎 |           |

(裏)

拜啓只今日光へ着し、小西族館に入り申候、  
 天氣晴朗なれど氣候は東京より餘程涼しく  
 候、明日御廟へ參詣の積りに候

匆々

(表)

|                              |       |
|------------------------------|-------|
| POST CARD                    | Stamp |
| <i>Mr. Rokuro Hasegawa,</i>  |       |
| <i>53, Higashi-Nibancho,</i> |       |
| <i>Sendai.</i>               |       |

(裏)

*My dear Mr. Hasegawa,*

*I have just arrived in Nikko and put up at the Konishi Hotel. The weather is fine, but it seems to be much cooler than in Tokyo. I shall visit the temple to-morrow morning.*

*Yours very truly,*  
*Sakusaburo Uchigasaki.*

At Nikko,  
 July 1st, 1925.

[書き方見本]

—(1)—

Carre Postale  
Union Postale Universelle

Mr. Ichiro Ito,  
Sosaqun,  
Chibakens  
Yotcaichiba Japan.

(内地間郵便葉書)

Union Postale Universelle  
Carte Postale

Via America

Miss F. Kamei,  
36 Takata-machi  
near Tokyo, Japan.

(外國内地間郵便葉書)

書き方見本 1 乃至 4 は東京麹町丸の内、株式会社三省堂書店發行、吉田一郎氏著の英習字帖 (Yoshida's Newest Arm Movement Penmanship) の中にあつたものを寫眞版にしたものであります。〔吉田氏は東京市外目白高田町三十六番地に於て、大日本英習字學會を主宰され、英習字の通信教授をなされてお出になります。〕  
“Via America” は「亞米利加が經由」の意味であります。  
“near Tokyo” とあるのは「東京府下」の意味です。

[書き方見本]

—(2)—

Friday  
Dear Mater,  
We arrived here last night and Carrie wants Bessie to stay here until the end of next week so shall return alone on Sunday.  
We have had a good holiday and feel much better for it. Hope you are well. The bike is running splendidly.  
Your affectionate,  
Marriot

(葉書裏面の文面)

105 Causewayside,  
Edinburgh,  
Scotland, 9/1/22.

Dear Sir,  
I was delighted to receive your post card and shall be pleased to correspond with you. I am sending a small book of views of Edinburgh. I would like you to send some news cards or drawings to me. I have entered another two competitions but don't know if I have been successful.  
Yours truly,  
H. Ross

(同上)

フライデー  
上の葉書の一番初めに “Friday” (金曜日) と日附を曜日を以て冒頭に書いたのは同一土地に住む人に宛てる場合であります。下の英國のスコットランドから日本に宛てたもので住所と日附を冒頭に書いたものであります。“Scotland 9/1/22” は「スコットランド 1922年九月一日」の意味です。

繪葉書

POST CARD

き が は 便 郵

宮城縣黒川郡  
大松澤村

澁谷利兵衛様

切手

---

上野の櫻を見に上  
京致しました、非  
常の人出でした。  
上野にて偶然御令  
弟に會ひました。  
東京にて  
宮澤實周  
四月十日

同上英文

POST CARD

Mr. Rihei Shibuya,  
Omatsusawa-mura,  
Kurokawa-gun,  
Miyagi-ken.

---

Tokyo, Apr. 10th.  
I came up to Tokyo to-day to  
see the cherry-blossoms. The park  
was packed with sight-seers. I met  
your brother at Ueno.  
Yours affectionatly,  
S. Miyazawa.

[書き方見本]

— ( 3 ) —



上部のは名刺に新年の賀詞を書いたものであります。[英米では十二月二十五日クリスマスに祝詞を陳べる習慣です。] 中間のは繪葉書に「クリスマス」の祝詞を書いたものです。下のは日本式の「謹賀新年」と英語で書いた繪葉です。外國人に出す時には中間のものを暮の二十五日に發送し、日本人になら下のものを元旦に出せばよい。



[書き方見本]



ここに掲げたものは署名の見本として矢張吉田一郎氏のお書きになつたものであります。

第十八章

手紙文の實例

(日本文)

拜啓

美事なる林檎澤山に御送  
り被下難有御禮申上候  
早速一同にて賞翫仕候處  
中々の風味に有之候、先  
は不敢取御禮申上候

勿々

九月廿五日

山田太郎

木村一郎君

(中文面)

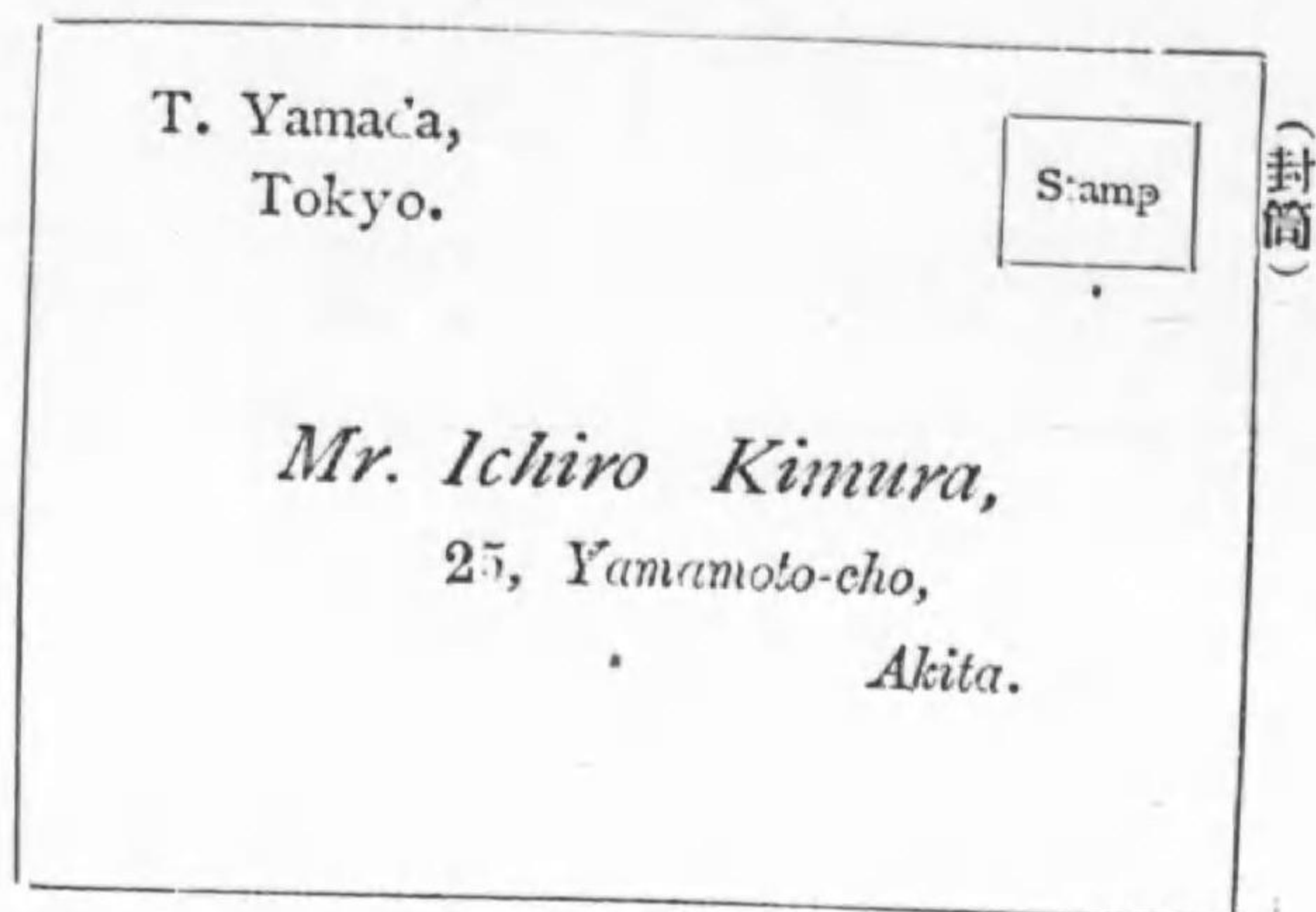
TOKYO,  
Sept. 25, 1925.

Dear Mr. Kimura,

Many thanks for sending me  
a great quantity of nice apples. All  
of us took pleasure in them at once  
and found them very delicious.

Yours truly,

Taro Yamada.



第十九章

揭示文、看板、請取書式

最後に揭示文、看板、請取書式其他を説明して本書の講義を終ります。(發音假名は卷末の單語集に附けて置く)

- (1) 縦覽御隨意
  - (a) Inspection [is] cordially invited.
  - (b) Pleas walk in.
- (2) 入場無料  
Admission [is] free.
- (3) (就業中) 縦覽謝絶  
No visitors [are] allowed.  
(While at work)

- (4) 大人五十錢、小人二十五錢  
Admission fee: 50 sen for adults;  
25 sen for children.
- (5) 左側通行  
Keep to the left.
- (6) 往來止 [通行止、道路通行止]  
No thoroughfare (Street closed;  
Road stopped)
- (7) 片側通行止  
Thoroughfare [is] closed [on] one side.
- (8) 車馬乗入るべからず。  
No admission on horse or vehicles.
- (9) 自轉車にて此坂を降るべからず。  
Get off your bicycle at this slope.
- (10) 汽車に注意すべし。  
Look out for the train.
- (11) 入口 (出口)  
Entrance (Exit)
- (12) (自動) 電話 [室]  
(Automatic) Telephone [room]
- (13) エレベーター (エスカレーター)  
Elevator (Escalator)
- (14) [便所] 男子 (女子)  
[Levatory] Gentlemen (Ladies)

〔注意〕 便所を “W. C. = Water Closet.” 或は “Toilet”  
とも云ふ。

- (15) 禁煙  
No Smoking
- (16) 脱帽  
Please remove your hat.
- (17) 記者席 (婦人席)  
The Press (Ladies)
- (18) 非常口  
Emergency Door.
- (19) ペンキ塗立  
Wet Paint.
- (20) 手を觸るべからず。  
Hands Off.
- (21) 貸約済  
Sold.
- (22) 賣品 (非賣品)  
For Sale (Not For Sale)
- (23) 張紙無用  
Post No Bills.
- (24) 廣告張紙無用  
Post No Advertisement.
- (25) 開放嚴禁  
This door must be kept closed.

- (26) 戸閉御注意  
Please close the door.
- (27) 開放すべからず。  
Keep the door closed.
- (28) 戸を叩くべし (戸を叩くべからず)  
Knock (Do not knock)
- (29) 鈴を鳴すべし。  
Ring (Ring the Bell)
- (30) 戸を押す (戸を引く)  
Push. (Pull)
- (31) 入口は角に有之候  
Entrance on the corner.
- (32) 此處小便無用  
Commit no nuisance.
- (33) 行商人入るべからず。  
No peddlers.
- (34) 車置くべからず。  
Carriages not admitted.
- (35) 芝生の上を歩むべからず。  
Keep of the grass.
- (36) 構内に入るべからず。  
No trespassing allowed.
- (37) 私用室 [在宅、不在]  
Private [In; Out]

看板用語

時計寶石貴金屬

天賞堂

縦覧御随意

**THE TENSHODO**

Watch-maker, Jeweller,  
Goldsmith.

Please Walk In.

寫真

江木一郎

PHOTOGRAPHIC STUDIO

Ichiro Egi.

調髮師

田中守平

BARBER & HAIRDRESSER

Morihei Tanaka.

新井  
洋服裁縫店

洋服類一式

最近流行新型

**ARAI**

CUSTOM TAILOR

ALL ARTICLES OF CLOTHING  
TAILORED IN THE LATEST STYLE.

株式三省堂  
會社

圖書出版、販賣

THE SANSEIDO Co.,  
PUBLISHERS, BOOKSELLERS.

請取書式

證  
一金壹萬圓也  
右正ニ領收候也  
昭和十一年  
四月十日  
山中鹿之助  
荒木又右衛門殿

Tokyo, Apr. 10th, 1936

Yen 10.000 only,

Received from Mr. M. Araki.

Shikanosuke Yamanaka.

此例は極めて日本式のものをお目に掛けましたので、英米の請  
書取書の正式のものを次にお目に掛けます。

内金受取證  
金五十圓也  
右内金として正に領收  
候也  
大石良雄  
昭和十一年  
四月十日  
徳川家達殿

Tokyo, Apr. 1st 1936

Yen 50.00

Received of Mr. Iesato Tokugawa,  
Fifty yen, to apply on account.

Y. Oishi.

全金受取證  
一金參百圓也  
右全金として正に受  
取申候也  
大石良雄  
昭和十一年  
四月十日  
徳川家達殿

*Tokyo, Apr. 10th*

Yen. 300,000

*Received of Mr. Iesato, Tokugawa,  
the sum of Three Hundred Yen, in full  
of account to date.*

*Y. Oishi.*

山  
上  
殿

東京市日本橋  
木村良一

昭和十一年四月八日

右代金正に受取候也

印字器一臺

一金六百圓也

受取證

*Niionbashi, Tokyo. Apr. 8th 1936*

Y. 600.00

*Received of Mr. Yamagami,  
Six Hundred Yen, in payment of a  
Type-writer.*

*R. Kimura.*

## 單語集

### 本書の辭書

本書に入れてある英語の言葉、即ち單語を掲げて置きます。

數字は最初に出て来た頁の頁ですが、共同一單語を幾度も使用したものもありますから、頁はほんの参考のため入れたに過ぎません。

或單語になりますと、一番最初に使つた時と、二度目に使つた場合とでは意味が相異なることがあります。例へば、well は「はてな；さうさな」と云ふ意と、「よい；よく」の意味にも使はれます。

最も綴りは同一で well が「井戸」の意味を表すこともあります。

動詞が三人稱單數現在の場合は、“s” をつけまして “love” が “loves” になり、“sing” が “sings” になる場合の形は擧げたり、擧げなかつたり致しましたから、諸君の方で注意して下さいとばお解りになります。

過去、過去分詞の場合は現在動詞に “ed” を添へたものは掲げませんが、不規則變化するものは掲げてあります。例へば “go” が “went” (過去) “gone” (過去分詞) になるものは掲げてあります。

— A —

a (ア) 一つの ..... 41

account' (アカウント) 勘定 ..... 377

admission' (アドミシユン) 入場; 入場料 ..... 370

admit' [ted] (アドミット [アドミティット]) 入場  
 させる; 許す ..... 373

adult' [s] アダルト [ーるツ]) 大人 ..... 371

adver'tisement (アドヴァーティスマント) 広告 ..... 72

affec'tionate[ly] (アフエクシユニョット [リ]) 懇意な(に) 361

aft'er (アフタ) 後の; 次の ..... 339

age (エイヂ) 年; 年齢 ..... 227

at the years of ten. 十歳の時。

at ten years of age. 十歳で。

ago' (アゴア) 前に; 以前に ..... 288

air'-plane (エアプレーン) 飛行機; 航空機 ..... 277

allow' [ed] (アラウ [ド]) 許可する [許された] ..... 370

Amer'ican (アメリカン) 亞米利加の;  
 亞米利加人 ..... 70

an (アン) 一つの ..... 45

and (アンド) 及び ..... 119

an'imal (アニマル) 動物 ..... 272

an'y (エニ) どんな ..... でも; 幾らか ..... 167

an'ything (エニシング) 何事; 何か ..... 325

ap'ple (アップル) 林檎 ..... 182

apply' (アプライ) 應用する ..... 378

Apr. = A'pril の略 ..... 359

A'pril (エイプリル) 四月 ..... 344

are (アー) ある; 居る ..... 56

arrive' (アライヴ) 到着する; 届く ..... 233

ar'ticle (アーティクル) 箇條, 冠詞 ..... 375

as (アズ) 同じ様に ..... 293

as ..... as と同じ位に ..... 293

ask (アスク) 乞ふ; 頼む ..... 244

at (アト) の所に; の傍に ..... 85

ate (エイト) eat の過去 ..... 230

attend' (アテンド) 出席する ..... 262

Aug. = August ..... 359

Au'gust (オーガスト) 八月 ..... 344

aunt (アアント) 叔母 ..... 92

au'tomatic' (オートマテチック) 自動的 ..... 371

autumn (オートム) 秋 ..... 344

away' (アウェイ) あちうへ ..... 241

— B —

bad (バッド) 悪い ..... 159

ball (ボール) 球; 毬 ..... 183

bank (バンク) 銀行 ..... 292

bar'ber (バーバ) 理髪師 ..... 375

bare (ベア) 裸の; (葉の) 凋落した ..... 348

|                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| bar'on (パラン) 男爵.....                | 357 |
| bat'tle-ship (バトルシップ) 戦艦 .....      | 185 |
| because' (ビコーズ) 故に; ために .....       | 276 |
| become' (ビカム) .....                 | 317 |
| bed (ベッド) 寢床.....                   | 337 |
| beef (ビーフ) 牛肉.....                  | 313 |
| been (ビーン) be の過去分詞 .....           | 257 |
| beg (ベック) 乞ふ; 求める .....             | 326 |
| began' (ビギャン) begin の過去.....        | 231 |
| begin' (ビギン) 始める .....              | 231 |
| begin'ing (ビギニング) begin の進行形.....   | 353 |
| bell (ベル) 鐘 .....                   | 573 |
| best (ベスト) 最も良い; good の最上級 .....    | 302 |
| bet'ter (ベター) もつとよい; good の比較級..... | 275 |
| bi'cycle (バイサイクル) 自転車 .....         | 331 |
| big (ビク) 大きな .....                  | 1   |
| big'ger (ビガ) より大きな .....            | 300 |
| bill (ビル) 勘定書; 證書 .....             | 372 |
| bird (バード) 鳥 .....                  | 103 |
| bird's (バーツ) 鳥の .....               | 102 |
| black (ブラック) 黒の .....               | 54  |
| blind (ブラインド) 盲目の .....             | 181 |
| bloom (ブルーム) 開花; 花咲く .....          | 45  |
| blow[ing] (ブルウ[イック]) 風が吹[いてゐる]く ... | 35  |

|                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| boat (ボート) 短艇.....                 | 187 |
| boil (ボイル) 煮える .....               | 253 |
| boil'ed (ボイルド) 煮たる.....            | 258 |
| book (ブック) 本 .....                 | 78  |
| book'-seller (ブックセラ) 本屋.....       | 376 |
| book'-stand (ブックスタンド) 本立 .....     | 85  |
| born (ボーン) bear (産む) の過去分詞 .....   | 288 |
| bought (ボート) 買った。buy の過去 .....     | 331 |
| box (ボックス) 箱 .....                 | 86  |
| boy (ボイ) 少年 .....                  | 64  |
| boy's (ボイズ) 少年の .....              | 101 |
| brave (ブレイヴ) 勇敢なる .....            | 298 |
| break'fast (ブレイクファスト) 朝食 .....     | 337 |
| brea'king (ブレイキング) break の進行形..... | 326 |
| broth'er (ブラザー) 兄、弟 .....          | 89  |
| build (ビルド) 建てる .....              | 174 |
| built (ビルト) 建てた。build の過去.....     | 270 |
| built of で建てた .....                | 274 |
| busi'ness (ビジネス) 事業, 商賣.....       | 291 |
| buy (バイ) 買ふ .....                  | 248 |
| by (バイ) に依つて; の側に.....             | 11  |

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| cage (ケイジ) 籠.....       | 188 |
| call (コール) 呼ぶ; 叫ぶ ..... | 175 |



|                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| calm(カーム)静かな                       | 253 |
| came(ケーム)来た。comeの過去                | 230 |
| can(キャン)能ふ                         | 172 |
| cane(ケイン)杖                         | 183 |
| can't(キャノット)出来ない。can notの連<br>つたもの | 207 |
| car[s](カー[ズ])車                     | 340 |
| care(ケア)心配; 心配する                   | 315 |
| car'penter(カーペンタ)大工                | 179 |
| car'riage[s](キャリヤ[イズ])馬車; 車        | 373 |
| cat[s](キャット[キャッツ])猫                | 54  |
| catch(キャッチ)つかまへる                   | 231 |
| caught(コート)catchの過去、過去分詞           | 231 |
| cer'tainly(サートンリ)確かに; 必ず           | 222 |
| chair(チェア)椅子                       | 134 |
| change(チェインガ)變へる                   | 341 |
| cherry-blos'som(チェリブろサム)櫻の花        | 367 |
| child(チャイルド)子; 小兒                  | 108 |
| chil'dren(チルドラン)childの複数           |     |
| chill'y(チリ)寒い; 冷かな                 | 346 |
| church(チャーチ)教會                     | 200 |
| cit'y(スイテイ)町; 市                    | 193 |
| class(クラス)級; 階級                    | 307 |
| class'-mate(クラスメイト)同級生             | 124 |

|                                               |     |
|-----------------------------------------------|-----|
| clear [ed](クリア[ド])晴れ[たる]てゐる                   | 354 |
| clear water(清水)                               |     |
| cli'mate(クライミット)氣候                            | 249 |
| clock(クロック)時計                                 | 182 |
| close[d](クローズ[ド])閉ぢた[る]                       | 233 |
| clos'et(クローズィット)納戸; 便所; 小室                    | 372 |
| cloth'ing(クローウヰンガ)衣類                          | 375 |
| cloud(クラウド)雲; 曇らせる                            | 253 |
| cloud'y(クラウディ)曇つてゐる                           | 252 |
| Co.=com'pany(カンパニ)會社                          | 356 |
| coat(コート)上衣                                   | 176 |
| cof'fee(コフィ)コーヒー                              | 275 |
| cold(コールド)寒い                                  | 300 |
| col'o(u)r(カラ)色                                | 345 |
| come(カム)来る                                    | 200 |
| com'ing(カミング)来る                               | 261 |
| commit'(コミット)行ふ                               | 373 |
| com'pany(カンパニ)仲間; 會社                          | 356 |
| connect'[ed](コネクト[コネクティット])接ぐ;<br>合はせる[聯絡のある] | 292 |
| cool(クー)涼しい                                   | 346 |
| cool'er(クーラ)もつと涼しい                            | 346 |
| cor'dially(コーデアリ)信實に                          | 370 |
| cor'ner(コーナ)隅; 角                              | 373 |

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| cost (コースト) 價; 價する    | 285 |
| count (カウント) 計算する; 伯爵 | 357 |
| coun'try (カントリー) 田舎   | 330 |
| cous'in (カズン) 従兄弟     | 193 |
| cow (カウ) 牝牛           | 285 |
| crane(クレーン) 鶴         | 183 |
| cup (カップ) コップ         | 318 |
| coustom (カスタム) 風習; 得意 | 375 |

## — D —

|                           |     |
|---------------------------|-----|
| date (デイト) 日附             | 578 |
| daugh'ter (ドータ) 姉; 妹      | 77  |
| day[s] (デイズ) 日            | 232 |
| dear (ディア) 親愛なる; 愛する      | 360 |
| Dec.=December の略          | 359 |
| Decem'ber (ディセンバ) 十二月     | 344 |
| deed[s] (ディード[ディーツ]) 行爲   | 303 |
| deep (ディープ) 深い            | 285 |
| deli'cious (ディリシヤス) 美味な   | 369 |
| desk (デスク) 机              | 96  |
| dic'tionary (ディクシヤナリ) 字引  | 134 |
| did (ディッド) 爲した。do の過去     | 231 |
| die (ダイ) 死ぬ               | 220 |
| difficult (ディフィカルト) むづかしい | 184 |
| dil'igent (ディリジャント) 勤勉な   | 156 |

|                        |     |
|------------------------|-----|
| do (ドー) 爲す             | 193 |
| doc'tor (ドクタ) 醫者; 博士   | 191 |
| does (ダズ) do の三人稱單數現在  | 193 |
| dog (ドッグ) 犬            | 51  |
| dog's (ドッグズ) 犬の        | 102 |
| do'ing (ドーイング) do の進行形 | 250 |
| done (ダン) do の過去分詞     | 256 |
| don't (ドント) do not の連體 | 241 |
| door (ドア) 戸; 入口        | 189 |
| down (ダウン) 下に; 下へ      | 213 |
| dri'er (ドライア) もつと乾いた   | 300 |
| dri'est (ドライイスト) 最も乾いた | 300 |
| drink (ドリンク) を飲む       | 202 |
| dry (ドライ) 乾く; 乾かす      | 300 |

## — E —

|                           |          |
|---------------------------|----------|
| each (イーチ) どれも; 各         | 321      |
| ear'ly (アーリ) 早い           | 248      |
| earth'quake (アーナクウェイク) 地震 | 350      |
| ear'ier (イーゾリア) もつと易い     | 300      |
| ear'iest (イーゾイスト) 最も易い    | 300      |
| east (イースト) 東; 東方         | 348      |
| ear'y (イーゾイ) 易い           | 168; 300 |
| eat (イート) 食ふ              | 230      |
| ed'ucate (エデュケイト) 教育する    | 258      |

ed'ucated(エデュケイティッド) 教育ある .....258  
egg (エッグ) 卵.....18  
eight'een' (エイティーン) 十八; 十八の .....161  
eight (エイト) 八; 八の .....161  
eight'centh' (エイティーンズ) 第十八 .....161  
eighth (エイトズ) 第八.....161  
eight'ieth (エイティイサ) 第八十 .....162  
eight'y (エイティ) 八十; 八十の.....162  
eld'er (エラダ) もつと年上の.....192  
eld'est(エラディスト) 最も年上の .....502  
el'ephant (エリフアント) 象 .....272  
el'vator (エリヴェイタ) 昇高機 .....371  
elev'en (イレヴン) 十一; 十一の.....161  
elev'enth (イレヴンズ) 第十一.....161  
emer'gency (イマーヂャンスィ) 不意の; 事變 .....572  
em'pire (エンパイア) 帝國.....184  
engaged' (インゲイサド) 従事して居る .....291  
Eng'lishman (イングリッシュマン) 英國人.....70  
    Eng'lishmen (イングリッシュマン) 同上複数  
    Eng'lish (イングリッシュ) 英國の; 英語(の)  
en'trance (エントランス) 入口; 入場料 .....371  
es'calator (エスカレイタ) 自動階段 .....371  
escape' (エスケイプ) 免れる.....225  
eve'ning (イーヴニング) 夕 .....244

ev'er (エヴァ) 曾て; 今までに .....342  
ev'eryday (エヴリデイ) 毎日 .....204  
e'vil (イーヴル) 悪い; 邪な .....303  
exact'ly (イクザクトイ) 正確に .....336  
excuse' (クスキューズ) 赦す .....326  
ex'it (エクスイット) 出口.....71

— F —

fall'ing (フォリング) 降ちる .....236  
fam'ily (ファミリ) 家族 .....327  
far (ファー) 遠い .....303  
farm'er (ファーマ) 農夫 .....167  
fast (ファースト) 速い.....294  
fa'ther (ファーダ) 父.....89  
fa'vour (フェイヴァ) 恵み; 恩恵.....324  
Feb.=February の略 .....359  
Feb'ruary (フェブルアリ) 二月 .....44  
fee (フィー) 給料金.....371  
feet (フィート) 足。foot の複数 .....108  
fe'verish (フィーヴァリッシュ) 發熱してゐる .....314  
few (フュー) 少ない .....163  
    a few 少しはある  
    few 少しかない  
field (フィールド) 野; 原 .....189  
fif'teen' (フィフティーン) 十五; 十五の .....161

|                               |     |
|-------------------------------|-----|
| fif'teenth' (フィフティーンズ) 第十五    | 161 |
| fifth (ファイフ) 第五               | 160 |
| fif'tieth (フィフティイサ) 第五十       | 162 |
| fifty (ファイフティ) 五十; 五十の        | 162 |
| find (ファインド) 見出す; 見附ける        | 232 |
| fine (ファイン) 美しい               | 300 |
| fin'er (ファイナ) もつと美しい          | 300 |
| fin'est (ファイネスト) 最も美しい        | 300 |
| fire (ファイア) 火; 火事             | 233 |
| firm (ファーム) 商館                | 292 |
| first (ファースト) 第一              | 160 |
| five (ファイヴ) 五; 五つの            | 160 |
| flash (フラッシュ) 光る; 閃光          | 353 |
| flew (フルー) fly の過去            | 232 |
| flow'er (フラウア) 花              | 82  |
| flow'er-vase' (フラウアヴァーズ) 花瓶   | 83  |
| fly (フライ) 飛ぶ〔蠅(ハエ)〕           | 171 |
| foot (フット) 足                  | 108 |
| forget' (ファゲット) 忘れる           | 323 |
| Formo'sa (フォモウサ) 臺灣           | 349 |
| for'tieth (フォーティイサ) 第四十       | 161 |
| for'ty (フォーティ) 四十; 四十の        | 161 |
| found (ファウンド) find の過去, 過去分詞  | 232 |
| foun'tain-pen (ファウンティンペン) 万年筆 | 340 |

|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| four (フォー) 四; 四つの           | 160 |
| four'teen (フォーティーン) 十四; 十四の | 161 |
| four'teenth' (フォーティーンズ) 第十四 | 161 |
| fourth (フォーサ) 第四            | 160 |
| free (フリー) 自由な              | 370 |
| freeze (フリーズ) 凍る            | 350 |
| Fri.=Friday の略              | 300 |
| Fri'day (フライデイ) 金曜日         | 343 |
| friend (フレンド) 友達            | 193 |
| from (フロム) より; から           | 273 |
| fro'zen (フロウゼン) 凍つた         | 348 |
| fruit (フルート) 果實; 實を結ぶ       | 346 |
| full (フル) 満ちてゐる; 十分に        | 378 |
| fur'ther (ファーズ) 一層遠い        | 303 |
| fur'thest (ファゼスト) 最も遠い      | 303 |

— G —

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| gain[s] (ゲイン[ズ]) 得る; 利益; 進む    | 324 |
| gar'den (ガードン) 庭; 花園           | 293 |
| gath'ering (ギザギリング) 集りつゝある; 集り | 353 |
| gave (ゲイヴ) give の過去            | 231 |
| gen'erally (ジェナラリ) 大概に; 一般に    | 315 |
| ge'nial (ジェニアル) 長閑な; 快い        | 350 |
| gen'tleman (ジェントルマン) 紳士        | 70  |
| gen'tlemen (ジェントルマン) 同上の複数     | 108 |

Ger'man (ヂャーマン) 獨逸人; 獨逸人の;  
 獨逸語 .....210  
 get (ゲット) 得る; 生む.....230  
 get'ting (ゲッテンク) だんこになる.....345  
 gift (ギフト) 贈物; 恵み; 與へる.....323  
 girl[s] (ガール[ズ]) 少女.....56  
 give (キヴ) 與へる .....178  
 giv'en (ギヴン) 與へた。give の過去分詞.....256  
 glad (グラッド) 喜んだ; 喜ばしい .....263  
 glass (グラス) ガラス.....107  
 go (ゴウ) 行く .....203  
 go on どんどん進む。  
 go on! やれ。  
 let go 行かせる。  
 go away 去る; 去れ。  
 go home 歸宅する。  
 go in 入る。  
 go off 立去る。  
 go to — に行く。  
 go'ing (ゴウインク) go の進行形 .....261  
 going to — する積り  
 gold'smith (ゴウズミス) 金細工 .....374  
 gone (ゴン) 行つた。go の過去分詞.....257  
 good (グッド) 善い.....143

got (ゴット) 得た。get の過去.....230  
 got home 歸宅した。  
 grand'father (グラッドファーダ) 祖父 .....135  
 grand'mother (グラッドマダ) 祖母.....135  
 grant (グラント) 承諾する; 承諾; 許可.....324  
 grape[s] (グレイブ[ズ]) 葡萄 .....274  
 great (グレイト) 大きな .....315  
 gun (ガン) 小銃 .....169

— H —

hair'-dresser (ヘアドレサ) 理髮師 .....375  
 had (ハッド) 持つた。have の過去 .....231  
 half (ハーフ) 半; 半分 .....287  
 hallo' (ハラウ) おい .....321  
 halloo' (ハルウ) おーい .....321  
 ham (ハム) 鹽豚肉 .....318  
 hap'pier (ハピア) もつと幸福な .....300  
 hap'piest (ハピイスト) 最も幸福な .....300  
 hap'py (ハピ) 幸福な .....175  
 hard (ハード) 烈しい; 堅い..... 01  
 has (ハズ) 持つて居る .....92  
 hat (ハット) 帽子 .....96  
 have (ハヴ) 持つ .....92  
 have a race 競走する。

have on 着けて居る。  
 have to — せねばならぬ。

haven't (ハヴント) have not の連體.....150  
 he (ヒー) 彼は ..... 174  
 head'ach (ヘダイク) 頭痛.....314  
 health'y (ヘルシ) 健全な.....315  
 hear (ヒア) 聞く .....232  
 heard (ハード) 聞いた .....233  
 heav'ier (ヘヴィア) もつと重い .....300  
 heav'iest (ヘヴィイスト) 最も重い .....310  
 heav'y (ヘヴィ) 重い .....283  
 height (ハイト) 高さ.....281  
 help (ヘルプ) 助ける.....216  
 hen (ヘン) 牝鶏 .....86  
 her (ハー) 彼女の; 彼女に.....93  
 here (ヒア) 此處に .....79  
 he'ro (ヒアロウ) 英雄 .....108  
 he'ro 小説などの男の主人公。  
 her'oine (ヘロウイン) 同上女の主人公。

high (ハイ) 高い; 高く.....190  
 him (ヒム) 彼に; 彼を .....127  
 his (ヒズ) 彼 .....98  
 home (ホーム) 家 .....201  
 hon'est (オニスト) 正直な .....248

hop (ホップ) 跳ぶ; ピッコする .....233  
 hope (ホープ) 望む .....315  
 hot (ホット) 暑い.....300  
 hotel' (ホテる) 旅館; ホテル .....363  
 hot'ter (ホタ) もつと暑い .....300  
 hot'test (ホッタスト) 最も暑い .....300  
 house (ハウス) 家 .....169  
 how (ハウ) どの様に.....270  
 how to 如何に.....すべきか, 方法  
 how big round 周囲如何程.....(285)  
 how deep 深さ如何程 .....(285)  
 how far 幾ら (道程) .....(278)  
 how heavy 重さ如何程 .....(283)  
 how high 高さ如何程.....(280)  
 how large 大きさ如何程 .....(284)  
 how long 長さ如何程 .....(278)  
 how many 幾ら (数) .....(277)  
 how much 幾ら (量) .....(285)  
 how much.....cost 費用幾ら .....(285)  
 how much.....weigh 幾ら (重量) .....(282)  
 how tall 高さ如何程 .....(280)  
 how wide 廣さ如何程 .....(280)  
 hun'dred (ハンドリッド) 百; 百の .....162  
 hun'dredth (ハンドリッドス) 第百 .....162

— I —

I (アイ) 私は .....64

ice (アイス) 氷 .....319

i'ddle (アイドル) 怠惰な .....158

if (イフ) 若しも ..... なら .....304

ill (イル) 病つてゐる; 病氣 .....325

in (イン) の中に .....85

    in'to (イントゥ) の中へ

ink (インク) インキ .....45

ink'-bottle (インクボトル) インキ瓶 .....45

inquire' (インクワイア) 尋ねる; 問ふ .....357

inspec'tion (インスペクション) 視察; 検査 .....370

intense'ly (インテンスリ) 烈しく .....350

in'teresting (イントリステング) 面白い .....180

introduce' (イントラデュース) 導く; 紹介する .....316

introduc'ing (イントラデュースィング) 紹介 .....357

is (イズ) である .....41

is'land (アイランド) 島 .....184

it (イット) それ; それは .....48

Ital'ian (イタリヤン) 伊太利亞の; 伊太利亞  
人の; 伊太利亞人; 伊太利亞語 .....154

— J —

Jan. = January の略 .....359

Jan'uary (ヂャニユアリ) 一月 .....344

Japan' (ヂャパン) 日本 .....350

Japanese' (ヂャパニーズ) 日本の; 日本人;  
日本語 .....70

jew'eller (ヂューイラ) 寶玉商 .....374

July' (ヂューライ) 七月 .....344

June (ヂューン) 六月 .....344

just (ヂャスト) 正しい; 丁度 .....285

— K —

keep (キープ) 保つ; (約束を)守る .....324

kept (ケプト) 置いた。keep の過去; 過去分詞 ...326

kill (キル) 殺す .....226

kind (カインド) 親切な .....323

kind'ness (カインドニス) 親切 .....322

kind'ly (カインドリ) 親切に .....222

king (キング) 王 .....177

knee'-deep (ニーディープ) 膝までの深さの .....285

knew (ニュー) 知つた。know の過去 .....231

knife (ナイフ) 小刀 .....96

knock (ノック) (戸を) 叩く .....373

know (ノウ) 知る; 覺る .....231

known (ノウン) know の過去分詞。知つてゐる;  
既知の。..... 57

— L —

la'bo(u)r (レイバ) 労働する; 骨を折る .....288  
 la'dy (レイディ) 貴婦人; 淑女.....70  
 lake (レイク) 湖.....348  
 lamp (ランプ) ランプ .....247  
 large (ラージ) 大きな .....185  
 larg'er (ラージヤ) もつと大きな .....275, 302  
 larg'est (ラージイスト) 最も大きな .....300  
 last (ラスト) 最後の .....300  
 late (レイト) 先の; 前の; 遅い; 此頃 .....302  
 la'ter (レイタ) もつと遅い .....302  
 la'test (レイティスト) 一番遅い.....302  
 lat'ter (ラタ) 彼者の, 近時の .....302  
 lav'atory (ラヴァタリ) 化粧室; 便所 .....371  
 learn (ラーン) 學ぶ .....211  
 learned (ラールド) 覺えた, learn の過去.....211  
 learn'ing (ラニング) 學びつゝある .....286  
 least (リースト) 最も少ない .....304  
 left (レフト) leave の過去, 過去分詞, 去つた ...231  
 left (レフト) 左 .....370  
 leg (レグ) 脚 .....90

lend (レンド) 貸す.....221  
 lent (レント) 貸した。lend の過去, 過去分詞 .....231  
 less (レス) やゝ小さい .....305  
 les'son (レスン) 課業; 課 .....250  
 let (レット) せしむ .....226, 243  
 let us .....しやうぢやないか。  
 let me 私をして ..... せしめよ。  
 let him 彼をして ..... せしめよ。  
 let'ter (レタ) 手紙, 文字 .....184  
 li'brary (ライブラリ) 圖書館.....183  
 lie (ライ) 虚言; うそ.....248  
 never tell a lie 決してうそを言ふな。  
 lie (ライ) 横はる, 寝る  
 lie down 横になる, 寝る。  
 life (ライフ) 一生, 生涯  
 light (ライト) 軽い .....247  
 light (ライト) 光り; 明り  
 light'ning (ライトニング) 雷光 .....253  
 like [s] (ライク[ス]) 好む .....233  
 like (ライク) 同じ, 似た .....353  
 looks like ..... らしい。  
 line (ライン) 方面, 種類 .....291  
 line (ライン) 線  
 li'on (ライオン) 獅子.....149



lit'tle (リトル) 小さい; 可愛らしい .....200  
 live (リヴ) 住む; 生きてゐる .....200  
 long (ロング) 長い .....159  
 look (ルック) 眺める; 見える; らしい .....230  
   look like ..... らしい。  
   look out 氣をつける。  
   look out for the train 汽車に注意せよ。  
   looks 見える; らしい  
 los'es (ロス) 失ふ, 後れる .....234  
 love[s] (ラヴ) 愛す .....125  
 lunch (ランチ) 晝食 .....357

— M —

made (メイド) 作つた。make の過去 .....176  
   made from ..... から作つた (原料と變る)  
   made of ..... から作つた (原料と變らず)  
 magazine' (マガズィーン) 雜誌 .....292  
 make (メイク) 作る; ならしむ .....175  
   makes ..... ちせる; ならしむ。  
 man (マン) 人; 男; 大人 .....108  
 man'y (メイ) 澤山の .....163  
 map (マップ) 地圖 .....85  
 Mar. = March の略 .....350  
 March (マーチ) 三月 .....290

mar'quise (マークウィス) 侯爵 .....356  
 mar'ry (マリ) 結婚する .....264  
 mas'ter (マスタ) 主人 .....148  
 May (メイ) 五月 .....344  
 may (メイ) ..... して宜しい .....207  
 me (ミー) 私に; 私を .....125  
 meal (ミー) 食事; 一食 .....296  
 men (メン) man の複数 .....108  
 men'tion (メンション) 陳述 .....323  
 mer'chant (マーチャント) 商人 .....191  
 mice (マウス) mouse の複数 .....108  
 mid'dle (ミドル) 中の .....144  
   middle school 中學校  
   middle school student 中學生  
 mid'night (ミッドナイト) 眞夜中 .....336  
 mile [s] (マイル) 哩 .....280  
 milk (ミルク) 牛乳 .....166  
 mine (マイン) 私のもの .....309  
 min'ister (ミニスタ) 大臣 .....355  
   Prime Minister 總理大臣  
 min'ute (ミニット) 分 .....334  
   minutes (ミニッツ) minute の複数  
 Miss (ミス) 令嬢; 未婚婦人の敬稱 .....355  
 Mon. = Monday の略 .....360

Mon'day (マンデイ) 月曜日 .....290

mon'ey (マニ) 錢 .....135

mon'key (マンキ) 猿 .....150

month (マンサ) 月 .....289

more (モア) もつと .....298

morn'ing (モーニング) 朝 .....248

    Good morning お早う

most (モウスト) many, much の最上級。  
    一番多い, 大番大きい .....208

moth'er (マギ) 母 .....89

moun'tain (マウンティン) 山 .....102

moun'tain's (マウンティンズ) 山の .....102

mouse (マウス) 二十日鼠 .....108

Mr. (ミスタ) 君 (敬稱) .....276

Mrs. (ミスィズ) 奥様 既婚婦人に對する敬稱) .....355

much (マッチ) 大きに; 大層 .....163

Mt.=mountain 山 .....280

must (マスト) ねばならぬ .....207

    must not してはならない。

my (マイ) 私の .....98

myself (マイセルフ) 私自ら; 自身 .....317

— N —

name (ネイム) 名 .....102

near (ニア) 近い; 近くに; 側に .....203

    near Tokyo 東京附近

    near at hand 手近に

near'er (ニアラ) もつと近くに .....203

near'est (ニアレスト) 最も近くに .....203

    nearest station 最寄の停車場

need (ニート) を要する .....207

    need not するに及ばぬ。

neph'ew (ネヴュー) 甥 .....99

nest (ネスト) 巢 .....86

nev'er (ネヴァ) 決してない .....243

new (ニュー) 新らしい .....257

new'est (ニューイスト) 最新の .....375

news (ニューズ) 新らしいこと; 新聞 .....204

next (ネクスト) 次の .....211

nice (ナイス) 美しい; 美味な .....319

night (ナイト) 夜 .....221

    Good night おやすみなさい。

nine (ナイン) 九の; 九 .....161

nine'teen' (ナインティーン) 十九の; 十九 .....161

nine'teenth' (ナインティーンズ) 第十九 .....161

ninetieh (ナインティエ) 第九十.....162  
 n'ne'ty (ナインティ) 九十の; 九十 .....162  
 n'inth (ナインズ) 第九 .....161  
 no (ノウ) 否; ちつとも.....せぬ .....132, 133  
 noon (ヌーン) 正午; 日中 .....336  
 north (ノース) 北; 北方の .....348  
 not (ノット) ぬ; 否; .....せぬ ..... 131  
   not at all 決してせぬ; どう致しまして?  
   not in the least どう致しまして; 一向に  
   差支ありません。  
   not yet まだ ..... せぬ  
 note'-book (ノウトブック) 雑記帳 ..... 95  
 Nov.=November の略.....359  
 nov'el (ノヴェル) 小説 .....184  
 Novem'ber (ノヴェンバ) 十一月 .....344  
 now (ナウ) 今.....248  
 nui'sance (ニユースンス) 妨害 .....373  
   Commit no nuisance 小便無用

— O —

o'clock (アクロック) 時 .....287  
   five o'clock 五時  
 Oct.=October の略.....359  
 Octo'ber (オクトウバ) 十月 .....344

of (オヴ) ..... の.....102  
 of'fice (オフイス) 役所; 事務所.....341  
 old (オウラド) 老いた; 年とつた .....158  
 old'er (オウラダ) もつと年とつた .....302  
 old'est (オウラデスト) 最も年とつた .....302  
 on (オン) の上に .....85  
 once (ワンス) 一度; 或時.....295  
 on'ly (オウンリ) 一つの; ばかり.....318  
 one (ワン) 一つの .....213  
 o'pen (オウパン) 開ける .....213  
 or (オー) 或は.....262  
 or'ange (オリンヂ) 橙(みかん) .....185  
 or'der (オーダ) 命令する; 秩序 .....336  
   be out of order 狂つて居る。  
 oth'er (アジ) 他の .....321  
 our (アウア) 吾々の (my の複数) .....122  
 ours (アウアズ) 吾々のもの.....308  
 out (アウト) 外に .....213  
   go out 外に出る。  
 ox (オクス) 牡牛 .....108  
 ox'en (オクスン) ox の複数 .....108

— P —

paint (ペイント) (ペンキなどで) 塗る .....372

painted (ペイント) ペン 塗りの  
 pale (ペイル) 青さめた ..... 314  
 par'don (パードン) 容赦 ..... 326  
   Pardon me 御免下さい。  
   Beg your pardon 同上。  
 par'ent (ペアレント) 親 ..... 135  
   par'ents (ペアレント) 両親  
   both parents 両親  
 park (パーク) 公園 ..... 187  
 par'rot (パラット) オーム(鳥) ..... 182  
 past (パスト) 過ぎた; 過去の ..... 287  
 pay'ment (ペイメント) 支拂 ..... 378  
 pear (ペア) 梨 ..... 182  
 ped'dler (ペドラー) 行商人 ..... 373  
 pen (ペン) ペン ..... 41  
 pen'cil (ペンスル) 鉛筆 ..... 99  
 perhaps' (パハッパス) 多分 ..... 329  
 photograph'ic (フォウタグラフック) 寫眞の ..... 374  
   pho'tograph (フォウタグラフ) 寫眞  
 piece (ピース) 断片; 一片 ..... 319  
   piece of ice 氷のかけら  
 pis'tol (ピストル) ベストル; 短銃 ..... 169  
 play (プレイ) 遊ぶ; 奏す ..... 251  
   played (プレイド) 遊んだ; 奏した

play'ing (プレイイング) 遊びつつある ..... 261  
 play'ground (プレイグラウンド) 運動場 ..... 261  
 please (プリーズ) 何卒 ..... 219  
 plea'sure (プレジャ) 愉快; 快樂 ..... 222  
 police'man (ポリーマン) 警官 ..... 148  
 pond (ポンド) 池 ..... 188  
 poor (プア) 貧しい; かわいさうな ..... 299  
 poor'er (プアラ) より貧しい ..... 299  
 poor'est (プアレスト) 最も貧しい ..... 299  
 post (ポウスト) 郵便に出す; 郵便; 郵便函 ..... 135  
   post a letter 手紙を投函する。  
 post'-card (ポウストカード) 郵便葉書 ..... 184  
 pound (パウンド) 封度(英國の重量及貨幣) ..... 282  
 praise (プレイズ) 賞める ..... 259  
   praised 賞めた  
 prefer' (プリファー) .....の方がよい ..... 318  
 prepare' (プリペア) 準備する; 下読みする ..... 327  
 press (プレス) 出版 ..... 372  
   The press 記者  
 pret'ty (プリテイ) 綺麗な ..... 182  
 prime (プライム) 最初の; 首の ..... 357  
   Prime Minister 總理大臣  
 prince (プリンス) 玉様; 公爵 ..... 356  
 pri'vate (プライベート) 私の; 内證の ..... 373

profes'siohn (プロフェッション) 業; 専門 .....290  
 prom'se (プロミス) 約束する .....354  
 pros'per (プロスパー) 繁榮する; 繁榮 .....303  
   prosper (プロスパーズ) 同上三人稱現在單數  
 pub'lisher (パブリッシャー) 出版業者 .....376  
 pull (プル) 引く .....373  
 purse (パース) 財布 .....243  
 push (プッシュ) 押す .....373  
 put (プット) 置く .....363  
   put up at ~ (～に宿る)  
   put on 著ける  
   put up 揚げる; 張る

— Q —

quan'tity (クワンティティ) 多量 .....369  
 quar'ter (クォーター) 四分の一 .....333  
   quar'ter past sev'en 七時十五分  
   quar'ter to sev'en 六時四十五分  
 quite (クワイト) 全く; 全然 .....277

— R —

rain (レン) 雨 .....345  
 rain'y (レイニ) 雨降りの, 雨がちな .....345  
   rainy season 雨季

ran (ラン) 走つた。run の過去 .....232  
   ran away 逃げ去つた。  
   ran off かけ去つた。  
 rat (ラット) 鼠 .....76  
   rats 鼠(複數)  
 reach (リーチ) 伸ばす; 届く; 達する .....225  
 read (リード) 読む .....202  
 read (レッド) 讀んだ read の過去, 過去分詞  
   (發音相違することに注意) .....232  
 read'er (リーダ) 讀者; 教科書 .....81  
   read'ing (リーディング) 讀書  
   reading-room 讀書室  
 receive' (リシーヴ) 受取る .....233  
   received 受取つた  
 recov'er (リカヴァ) 取回す; 取戻す .....315  
   recovered 取戻した  
 refresh'ing (リフレッシュ) 爽快な .....346  
 remove' (リムーヴ) 移す; 移轉する .....372  
 review' (レヴュー) 復習する .....230  
 review'ing (レヴューイング) 復習しつゝある .....210  
 ride (ライド) 乗る; 乗り .....331  
 rich (リッチ) 富んだ; 有福な .....170; 299  
 rich'er (リッチャ) もつと富んだ .....299  
 rich'est (リッチュスト) 最も富んだ .....299

- right (ライト) 正しい; 當然な; 右……………336
  - all right よろしい; 承知した。
  - right hand 右の手
  - I feel all right to day. 今日は気分が大變によい。
- ring (リング) 鐘を鳴らす……………373
  - Ring the bell. 鐘を叩く。
  - ring には「環; 指環」の意もある。
- ripe (ライプ) 熟した; 實の入つた ……………345
- ripen (ライプン) 熟す ……………346
- rise (ライズ) 上る; 起きる ……………232
  - rise early 早く起きる。
  - The sun rise 日が出る。
- sis'en (リズン) 起きた; 上つた; rise の過去分詞 267
- ri'sing (ライズンク) 上る; 出る ……………353
- riv'er (リヴァ) 川; 河……………183
- rose (ローズ) ばら(花) ……………297
- rose (ローズ) 上つた; 起きた。rise の過去……………232
- round (ラウンド) 圓い ……………156
- Rus'sian (ラシヤン) 露西亞の; 露西亞人の; 露西亞人; 露西亞語 ……………153

— S —

- said (セッド) 言つた。say の過去 ……………231
- sang (サンク) 歌つた。sing の過去 ……………231
- sank (サンク) 沈んだ。sink の過去 ……………232
- sat (サット) 座つた。sit の過去、過去分詞 ……………231
- Sat.=Saturday の略……………360
- Sat'urday (サタデイ) 土曜日……………343
  - saw (ソー) 見た。see の過去
- say (セイ) 言ふ ……………231
- schol'ar (スコラ) 學生; 學者 ……………191
- school (スクー) 學校……………144
- school'-boy (スクーボーイ) 男生徒; 學僕 ……………70
- school'-girl (スクーガール) 女生徒 ……………70
- sea'son (スイズン) 季節; 時節 ……………345
  - rainy season } 雨季
  - wet season }
- seat (シート) 座; 腰掛……………317
- sec'ond (セカンド) 第二; 二度 ……………317
- see (シー) 見る
- seen (スイーン) 見た。see の過去分詞 ……………332
- send (セント) 送る ……………231
- sent (セント) 送つた。send の過去分詞 ……………231
- Sept.=September の略 ……………359

|                                     |          |
|-------------------------------------|----------|
| Septem'ber (セフテンバ) 九月               | 344      |
| set (セツト) 掛ける; 置く                   | 336      |
| set out 出掛ける; 出發した。                 |          |
| sev'en (セヴン) 七つの; 七                 | 161      |
| sev'enteen (セヴンティーン) 十七の; 十七        | 161      |
| sev'enteenth (セヴンティーンズ) 第十七         | 161      |
| sev'enth (セヴンズ) 第七                  | 161      |
| sev'entieth (セヴンティイず) 第七十           | 162      |
| sev'enty (セヴンティ) 七十の; 七十            | 162      |
| sev'er (セヴァ) 烈しい; 裂く                | 348      |
| shall (シャル) …… ませう                  | 215      |
| she (シー) 彼女は                        | 74       |
| ship (シップ) 船                        | 185      |
| shoot (シュート) 射る; 發射する               | 232      |
| short (ショート) 短い                     | 252      |
| short'er (ショータ) もつと短い               | 299      |
| short'est (ショータスト) 最も短い             | 299      |
| shot (ショット) 發射した。shoot の過去、<br>過去分詞 | 232; 257 |
| show (ショウ) 示す; 導く                   | 247      |
| shown (ショウン) 示した; 導いた。show<br>の過去分詞 | 257      |
| show'er (シャウア) 驟雨                   | 346      |
| shut (シャット) 塞ぐ                      | 214      |

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| side (サイド) 側                 | 317 |
| sight'-scer (サイトスィーア) 観光客    | 367 |
| sign (サイン) 署名する              | 367 |
| sig'nature (スィグニチャ) 署名       | 368 |
| sincere'ly (スィンシィアリ) 眞に; 眞實に | 361 |
| sing (シンク) 歌ふ                | 171 |
| sin'ging (シンギンク) 歌ひつゝある      | 252 |
| sink (シンク) 沈む                | 232 |
| sir (サー) 君; 足下; 先生           | 211 |
| sis'ter (スィスタ) 姉; 妹          | 90  |
| sit (シット) 腰掛ける; 着席する         | 213 |
| six (スィクス) 六つの; 六            | 161 |
| six'teen' (スィクスティーン) 十六の; 十六 | 161 |
| six'teenth (スィクスティーンズ) 第十六   | 161 |
| sixth (スィクスズ) 第六             | 161 |
| six'tieth (スィクスティイず) 第六十     | 162 |
| six'ty (スィクスティ) 六十の; 六十      | 162 |
| slate (スレイト) 石板              | 162 |
| slice (スライス) 斷片; 一片          | 318 |
| slope (スロップ) 傾斜; 坂           | 371 |
| small (スモール) 小さい             | 304 |
| small'er (スモール) もつと小さい       | 304 |
| small'est (スモールスト) 最も小さい     | 304 |
| smok'ing (スモウキンク) 喫煙の        | 372 |

smoking room 喫煙室  
 smoking car 喫煙車  
 snow (スノウ) 雪 .....349  
 snow'ing (スノウイング) 雪降りつゝある .....354  
 so (ソウ) そんなに; それ程に .....219  
 so ..... as それ程でない。  
 sold (ソールド) 賣つた。sell の過去、  
 過去分詞 .....372  
 sol'dier (ソウラヂヤ) 軍人 .....351  
 some (サム) 或; なにか .....167  
 some'thing (サムレンク) 或; 何か; 幾分 .....251  
 son (サン) 息子 .....77  
 son's (サンズ) 息子の .....102  
 soon (スーン) 速かに; 早く .....315  
 so'rry (ソリ) 悲んで居る; 悲しい ..... 15  
 south (サウス) 南方; 南 .....318  
 speak (ウヒーク) 話す .....172  
 spell (スベル) 綴る .....211  
 spring (スプリング) 春 .....344  
 square (スクウェア) 四角; 平方 .....284  
 stand[s] (スタンド[スタンツ]) 立つ .....213; 282  
 states'man (ステイツマン) 政治家 .....192  
 sta'tion (ステイション) 停車場 .....305  
 steal (スティーる) ぬすむ; こつそりやる .....262

stone (ストーン) 石 .....274  
 stop (ストップ) 止める .....233  
 storm (ストーム) あらし; 暴風雨 .....346  
 storm'y (ストーミ) あれる; 暴風雨の .....346  
 strike (ストライク) 打つ .....231  
 struck (ストラック) 打つた。strike の過去、  
 過去分詞 .....232  
 stu'dent (ステュダント) 學生 .....169  
 stu'dio (ステューディオウ) 仕事場; 技術室 .....374  
 style (スタイル) 風; 風體 .....375  
 such (サッチ) 斯様な; この様な .....243  
 sug'ar (シュガ) 砂糖 .....318  
 sul'try (サルトリ) 蒸暑い .....346  
 sum (サム) 總高; 金高 .....378  
 sum'mer (サマ) 夏 .....344  
 sun (サン) 太陽 .....336  
 Sun.=Sunday の略 .....360  
 Sun'day (サンデイ) 日曜日 .....242  
 sunk (サンク) 沈んだ。sink の過去、過去分詞 .....257  
 sang (サンク) 歌つた。sing の過去、過去分詞 .....257  
 sup'per (サバ) 夕食 .....337  
 swan (スワン) 白鳥 .....189  
 sweep (スウィープ) 掃く; 拂ふ .....185  
 sweet (スウィート) 旨い; 美味な .....185



swept (スエプト) 掃いた.....232  
 swim (スウィム) 泳ぐ.....212  
 swim'ming (スウィミンク) 泳ぐ; 水泳.....252  
 swum (スウム) 泳いだ。swim の過去、  
 過去分詞.....257

— T —

table (タイブル) 卓.....95  
 tail (テイル) 尾.....90  
 tai'lor (タイラ) 裁縫師; 洋服屋.....375  
 take (タイク) 取る.....232  
 tall (トール) せいの高い.....189  
 tall'er (トール) もつとせいの高い.....299  
 tall'est (トールレスト) 最も高い.....299  
 taught (トート) 教へた。teach の過去、  
 過去分詞.....231  
 tea (ティー) 茶, おやつ.....203  
 teach (ティーチ) 教へる.....231  
 teach'er (ティーチャ) 教師.....144  
 teeth (ティーズ) 歯。tooth の複数.....108  
 tel'ephone (テリフォウン) 電話.....356  
 tell (タル) 言ふ.....232  
 tem'ple (テンブル) 聖堂; 寺; 神殿.....363  
 ten (テン) 十の; 十.....161

tenth (テンズ) 第十.....161  
 than (ザン) よりも; 更らに.....275  
 thank (ザンク) 感謝する.....277  
 that (ザット) それは.....45  
 the (ジ; ビー; ぎ) あの; その.....79  
 their (ゼア) 彼等の.....122  
 theirs (ゼアズ) 彼等のもの.....310  
 them (ゼム) 彼等を.....128  
 then (ゼン) それから, それなら  
 there (ゼア) あすこに.....81  
 these (ジーズ) これは。this の複数.....101  
 they (ゼイ) 彼等は.....115  
 thick (レック) 厚い.....296  
 thing (レンク) 事; 物.....248  
 think (レンク) 思ふ; 考へる  
 third (サード) 第三.....160  
 thir'teen (サーティーン) 十三の; 十三.....161  
 thir'teenth (サーティーンズ) 第十三.....161  
 thir'tieth (サーティイテス) 第三十.....161  
 thirty (サーティ) 三十の; 三十.....161  
 thir'ty-first (サーティファースト) 第三十一.....161  
 thir'ty-one (サーティワン) 第三十一.....161  
 this (ジス) これは.....41  
 thor'oughfare (サラフェア) 通路; 街路.....371

No thoroughfare 通行禁止

those (ぞウズ) それは。that; it の複数 .....101

thou/snad (さウザンド) 千の; 千 .....151

thou/sandth (さウザンドサ) 第千 .....162

three (サリー) 三の; 三 .....160

threat'en (すレトン) 嚇す .....353

thun'der (さんダ) 雷鳴する .....346

thunder-storm 雷雨 .....350

Thur. = Thursday の略 .....360

Thurs'day (さ一ズデイ) 木曜日 .....343

tick'et (ティキツト) 札; 切符 .....193

ti'ger (タイガ) 虎 .....149

time (タイム) 時 .....211

to (トゥ) すること; をするために .....178; 251

to-day (タデイ) 今日 .....202

toi'let (トイリツト) 洗濯所; 便所 .....372

told (トゥルド) 話した。tell の過去、過去分詞 .....232

to-mor'row (タモロウ) 明日 .....244

too (トゥー) 餘り; 中々; も亦; 又 .....248

took (トゥック) 取つた。take の過去 .....232

tooth (トゥーサ) 齒 .....108

town (タウン) 都會; 町 .....186

train (トレイン) 汽車; 列車 .....371

tree (トリー) 木; 樹 .....134

tres'passing (トレスパッシング) 通行 .....372

troub'le (トラブル) 迷惑; 面倒, 面倒をかける .....523

tru'ly; true'ly (トルーリ) 真に; 眞實に .....361

try (トライ) 試みる .....210

Tues. = Tuesday の略 .....360

Tues'day (ティズデイ) .....343

twelfth (トゥエルフス) 第十二 .....161

twelve (トゥエルヴ) 十二の; 十二 .....161

twen'ty (トゥエンティ) 二十の; 二十 .....161

twen'tieth (トゥエンティイサ) 第二十 .....161

twen'ty-first (トゥエンティファースト) 第二十一 .....161

twen'ty-one (トゥエンティワン) 二十一 .....161

twice (トゥイス) 二度; 再び .....295

two (トゥー) 二つの; 二 .....160

type'-writer (タイプライタ) 印字器 .....578

— U —

umbrel'la (アンブレラ) 蝙蝠傘 .....183

un'cle (アックル) 叔父 .....90

up (アップ) .....の上へ .....230; 287

us (アス) 吾々に; 吾々を .....128

— V —

ver'y (ヴェリ) 眞の; 大層; 中々; 甚ば ..... 82

vis'count (ヴァイカウント) 子爵 .....357  
 ve'hicle (ヴァイクル) 乗物, 車 .....371  
 vis'it (ヴァイジット) 訪問する, 尋ねる .....230

— W —

wait'er (ウェイター) 待つ人, 給仕人 .....321  
 wait'ing (ウェイティング) 待つこと, 待つこと  
 (ある) .....326  
 waiting room 待合室  
 walk (ウォーク) 歩く .....339  
 wall (ウォール) 壁 .....85  
 want (ウォント) 缺く, 欲す .....251  
 war (ワー) 戦争  
 warm (ウォーム) 暖かな .....300  
 warm'er (ウォーマ) もつと暖かな .....300  
 warm'est (ウォーメスト) 最も暖かな .....300  
 was (ウォズ) であつた。Be の過去 .....230  
 wash (ウォッシュ) 洗ふ .....230  
 washed (ウォッシュト) 洗つた。wash の過去  
 watch (ウォッチ) 懐中時計 .....310  
 watch'maker (ウォッチメイカ) 時計師 .....374  
 wa'ter (ウォーター) 水 .....167  
 way (ウェイ) 道; 方法; 仕方 .....305  
 we (ワイ) 吾々は .....114

weath'er (ウェザー) 天気, 空模様 .....271  
 Wed.=Wednesday の略 .....330  
 Wednes'day (ウェンズデイ) 水曜日 .....342  
 week (ウィーク) 週 .....289  
 well (ウェル) 井戸 .....167  
 well (ウェル) よく; そうね .....277  
 went (ウェント) 行つた。go の過去 .....226  
 were (ワー) であつた。Be の複数過去 .....230  
 west (ウェスト) 西の; 西 .....340  
 wet (ウェット) 水気ある; 雨降る .....372  
 wet season 雨季  
 what (ホワット) 何と; 何 .....260  
 what ..... for 何の用事で .....276  
 what time ..... 何時 .....287  
 when (ホエン) 何時に; いつ .....288  
 where (ホエア) 何處に .....270  
 which (ホワッチ) どれ .....269  
 while (ホワイ) 間 .....270  
 who (フー) 誰が .....265  
 whom (フーム) 誰を .....271  
 whose (フーズ) 誰の .....266  
 why (ホワイ) 何故 .....276  
 wide (ワイド) 広い .....296  
 wid'er (ワイダー) 最も広い .....300

wid'est (ワイドスト) 最も広い .....215; 100  
 will (ウィル) だらう .....215  
 Will you please? 何卒  
 win'dow (ウィンドウ) 窓 .....213  
 wine (ワイン) 葡萄酒 .....274  
 wing (ウィング) 翼 .....268  
 win'ter (ウィンタ) 冬 .....244  
 with (ウィズ) と共に .....173  
 with pleasure はい、承知しました。  
 wom'an (ウマン) 婦人、女 .....108  
 wom'en (ウイミン) 同上の複数 .....108  
 won't (ウオント) 欲しない。will not の略 .....318  
 work (ワーク) 働く .....201  
 worse (ワース) 更らに悪い .....302  
 worst (ワースト) 最も悪い .....302  
 write (ライト) 書く .....251  
 write to him 彼に手紙をやる。  
 wri'ter (ライター) 書き手、記者 .....190; 231  
 wri'ting (ライティング) 書くこと; 書きつゝある .....254  
 wrong (ロング) 悪い .....262  
 wrote (ロート) 書いた。write の過去 .....231

yellow (イエロウ) 黄色い .....96

yes (イエス) 然り; 左様 .....138  
 young (ヤング) 若い .....180  
 young'er (ヤンガ) もつと若い .....190  
 young'est (ヤングスト) 最若い  
 youngest brother 末の弟  
 you (ユー) 君は .....65  
 your (ユア) 君の .....98  
 yours (ユアズ) 君のもの .....310

本書に用ひた単語以外の  
 重要単語

ability (アビリティ) 才能  
 act'ive (アクティヴ) 活潑な  
 act'or (アクタ) 男優  
 ac'tress (アクトリス) 女優  
 adven'ture (アドヴェンチャ) 冒険  
 again' (アゲイン) 再び  
 ago'ny (アガニ) 煩悶  
 air'man (エアマン) 飛行家  
 air'-ship (エアシップ) 飛行船  
 all (オール) 全部の; 總數  
 an'archist (アナキスト) 無政府主義者

an'gry (アングリ) 怒つてゐる  
an'swer (アーンサ) 返事; 答辯  
a'pron (エイプラン) 前掛  
arm (アーム) 腕  
art (アート) 藝; 藝術  
art'ist (アーティスト) 藝術家  
a'viator (エイヴィエイタ) 飛行家  
basket (バスケット) バスケツト  
Bolsheviki (ボルシヴィキー) 過激派  
Bol'shevist (ボをシヴィスト) 過激主義者  
boot (ブート) 長靴  
bye-bye' (バイバイ) 左様なら  
cham'pion (チャンピオン) 選手; 勇士  
coat (コート) 上衣  
co'coa (コウコウ) ココア  
ed'itor (エディタ) 記者  
ear (イア) 耳  
France (フランス) 佛蘭西  
French' (フレンチ) 佛の; 佛語  
French'man (フレンチマン) 佛人  
gold (ゴウドル) 金  
hand (ハンド) 手  
hus'band (ハズバンド) 夫  
ki'nema (キイマ) 活動寫眞

mamma' (ママ) かーちゃん [小兒用語]  
may'or (メア) 市長  
mo'tor (モウタ) 發動機  
mo'tor-boat (モウタボウト) 發動機船  
mo'tor-bus (モウタバス) 乗合自動車  
mo'tor-car (モウタカー) 自動車  
mo'tor-cycle (モウタサイクル) 自動自轉車  
mouth (マウス) 口  
mo'vies (ムーヴィズ) 活動寫眞  
nose (ノウズ) 鼻  
papa' (パパー) お父さん [小兒用語]  
parasol' (パラゾル) 婦人用日傘  
sil'ver (スイルヴァ) 銀  
soap (ソウプ) 石鹼  
spar'row (スパロウ) 雀  
swal'low (スワロウ) 燕  
ta'xi (タクシ) 辻自動車  
ta'xi-cub (タクシキヤップ) 辻自動車  
wife (ワイフ) 妻

昭和十一年六月一日 印刷

昭和十一年六月十日 發行

定價 壹圓八十錢

著者 英語研究會

代表者 田中孝治

東京市神田區駿河臺三丁目二番地

發行兼  
印刷者

田中孝治

東京市牛込區船河原町四番地

印刷所

佐久間印刷所

---

東京市牛込區船河原町四番地

發行所 英語研究會

343  
676

終